



MC Catalog+

多言語対応電子配信ツール

McCatalog+ Maker 操作ガイド

モリサワ

はじめに	1
多言語対応電子配信ツールとは	1
多言語対応の制限	2
MCCatalog+ Maker での基本作業	2
MCCatalog+ Maker の画面とメニュー	4
画面構成とパネル	4
ページ編集パネルの表示	5
テキストエディタパネルの表示	7
ページ構成パネルの表示	8
フレーム設定パネルの表示	9
組版ビューパネルの表示	10
リンク情報パネル	11
ツールバー	12
メニュー	16
MCCatalog+ Maker のインストールと削除	20
MCCatalog+ Maker のインストール	20
MCCatalog+ Maker の削除	20
MCCatalog+ Maker の起動と終了	21
MCCatalog+ Maker の起動	21
MCCatalog+ Maker の終了	21
ツール	22
組版ビュー設定	22
ドキュメント変換設定	23
テキストエディタ設定	28
ページ編集設定	29
リンク変換設定	31
イベントデフォルト設定	31
環境設定	32
自動翻訳ツール	33
HTML パッケージ作成	35
InDesign リンク更新ツール	35
InDesign 変換修復ツール	38
プロジェクトの作成と管理	40
プロジェクトとは	40
プロジェクトの作成	41
プロジェクトを開く	42
ファイル、プロジェクトの保存	42
ファイルおよびプロジェクトを閉じる	44
未使用ファイルの削除	44
InDesign、InDesign+PDF、PDF、EPUB のインポート	45
InDesign、PDF のインポートの条件	45
InDesign のインポート	46
InDesign+PDF のインポート	49
PDF のインポート	51
EPUB ファイルのインポート	53
追加のインポート (EPUB ファイル)	54
追加のインポート (InDesign ドキュメント・PDF ファイル)	55

埋め込みフォントについて	57
ページ構成の編集	58
シートの追加、削除	58
シートの複製	60
シートの結合、分割	61
単ページ→見開きシートに変換	62
見開き→単ページシートに変換	62
シートの並べ替え	63
ページ構成パネルの表示の更新	64
ページマスク設定	64
ページ検索用テキストを編集する	66
HTML ファイルをページに設定する	68
ズームの制御を設定	70
シートのエクスポート	71
シートのインポート	72
シートのトリミング	74
『元に戻す』と『やり直し』	75
フレームの編集	76
フレームの新規作成	76
フレームの選択	76
フレームの削除	76
フレームの切り取り、コピー、貼り付け	77
フレームの位置、サイズ	77
フレームの順序	77
フレームの整列	78
ページ編集のロック	78
フレームのマスク	79
テキストフレームの結合	81
テキストフレームのリンク	84
テキストフレームのリンク解除	86
シート画像の設定	87
検索用テキストの設定	88
イベントの指定	89
ファイルの追加	89
イベントの追加	90
イベントの削除	91
イベントの指定	93
イベントの解除	108
イベント内容の確認	109
フレーム設定パネルでのイベント確認、設定	110
文字の編集	111
編集内容の確認表示	111
文字の入力、削除、コピー、移動	111
CID/GID 参照 日本語	112
文字パレットを利用した文字入力 日本語	113
検索と置換	115
字形変換 日本語	116
フォルダを指定して検索	116

フォルダを指定して置換	118
外字画像の利用	120
組版指定コマンド	123
●ルビ設定	123
●圏点設定 日本語	125
●段落設定 日本語	126
●文字属性(文字の書体/サイズ/字送り/回転/色)の設定	127
●行属性(揃え/行間調整/インデント)の設定	129
●文字背景	132
●字形指定	133
●改行	134
●改ページ	134
●改段	137
●上付き文字	137
●下付き文字	138
●下線	139
●行間罫	141
●囲み罫	143
●縦中横 日本語	147
●禁則解除	148
●分離禁止	149
●ページ内配置(行方向の揃え)	149
●スペース	150
●表	151
●コマンドの編集	152
●コマンドの解除	152
●コマンドの削除	152
●組版エラーチェック	153
表組	154
表パレットのツールバー	154
表の新規作成	155
セルの設定	158
行の設定	161
行・列の挿入	163
行・列の削除	164
セルの結合と解除	164
セルへの文字入力	166
テキストの行方向の配置設定	168
行揃えの設定	169
余白の設定	170
組方向の設定	171
キャプション設定	171
表の境界線(表の外枠)	173
セルの罫線	174
セルに斜線を設定する	175
罫線のカラーとスタイル	176
表とセルの塗り	177
ヘッダ	178
段落スタイル、文字スタイル	179

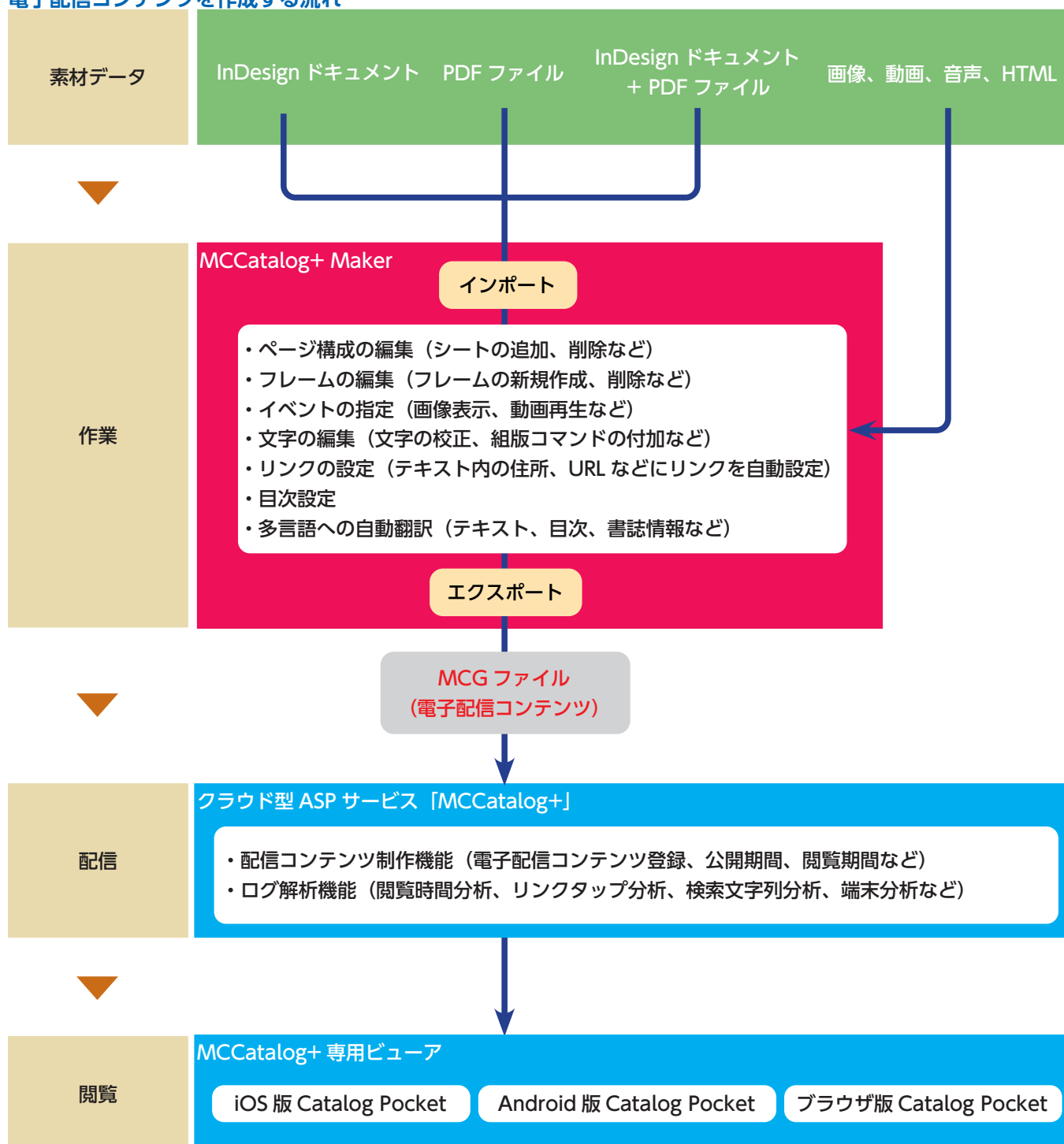
段落スタイルの新規作成	180
文字スタイルの新規作成	183
段落スタイル、文字スタイルの編集	184
段落スタイル、文字スタイルの削除	185
他のプロジェクトの段落、文字スタイルを利用(エクスポート、インポート)	185
リンクの設定	188
URL テンプレート設定	188
リンクの自動設定	190
リンクの編集	191
リンクコマンドの削除	193
目次設定	195
音声合成の利用	197
音声合成の設定	197
辞書の作成	199
読み上げルビ	208
音声合成の再生	209
校正	211
校正箇所のマークアップ	212
校正モードの表示	213
校正と編集の方法	213
校正要素の検索	215
校正画面の印刷プレビュー	216
校正画面の印刷	216
印刷	217
ページ編集の印刷プレビュー	217
印刷	218
電子配信コンテンツのエクスポート	219
表示／組版設定	219
書誌情報設定	221
綴じ方向の設定	222
MCG エクスポート設定	223
MCG ファイルにエクスポート	225
人力翻訳用データのエクスポート、インポート	226
人力翻訳用データのエクスポート	226
人力翻訳用データのインポート	227
【補足】『Catalog Pocket』が対応している表示とイベント	228
【補足】PDF の書き出し設定	229

はじめに

多言語対応電子配信ツールとは

Adobe InDesign データ、PDF データを変換、編集し、電子配信コンテンツを生成するソフトウェア『MCCatalog+ Maker』、電子配信コンテンツの登録・配信するためのクラウド型 ASP サービス『MCCatalog+』、そして電子配信コンテンツを閲覧するためのビューア『Catalog Pocket』によって構成されます。

電子配信コンテンツを作成する流れ



多言語対応の制限

MCCatalog+ Maker は、下記の言語に対応した電子配信コンテンツの作成が可能です。ただし、言語によっては、設定した内容が反映されない機能があります。

各機能の説明で次のマークが表示されている場合は、言語によって制限があることを示しています。

日本語で利用可能な場合： **日本語**

英語で利用可能な場合： **英語**

韓国語で利用可能な場合： **韓国語**

中国語繁体字で利用可能な場合： **繁体字**

中国語簡体字で利用可能な場合： **簡体字**

タイ語で利用可能な場合： **タイ語**

ポルトガル語で利用可能な場合： **ポルトガル語**

スペイン語で利用可能な場合： **スペイン語**

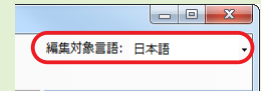
インドネシア語で利用可能な場合： **インドネシア語**

ベトナム語で利用可能な場合： **ベトナム語**

全言語で利用可能な場合： マークなし

注意

メイン画面の右上にある『編集対象言語』で指定している言語で、編集する言語を切り替えます。機能によっては、設定画面内で言語を切り替えられる場合があります。



重要!

日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。また、ブラウザ版ビューアで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

MCCatalog+ Maker での基本作業

電子配信コンテンツを作成する基本的な流れを説明します。

■プロジェクトの新規作成

- 1 MCCatalog+ Maker を起動します。
- 2 『ファイル』メニューの『プロジェクトの新規作成』を実行します。
→ p.41 「プロジェクトの作成」参照

■データをインポート

- 1 『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を選択し、変換の条件を設定します。
→ p.23 「ドキュメント変換設定」参照
- 2 『ファイル』メニューの『インポート』からインポートするファイルを選択し、ファイルをインポートします。
→ p.45 「InDesign、InDesign+PDF、PDF、EPUB のインポート」参照

■データを編集

- 1 テキストフレーム内のテキストの修正が必要であればメイン画面のツールバーの  をクリックし、テキストエディタパネルで編集します。
→ p.111 「編集内容の確認表示」参照
- 2 その他の『テキスト表示』『画像表示』『動画再生』『音声再生』『HTML 表示』の各イベントを指定します。
→ p.93 「イベントの指定」参照
- 3 『編集』メニューの『リンク変換』を実行し、テキストに含まれるリンク情報から自動でリンクを設定します。
→ p.190 「リンクの自動設定」参照

- 4 メイン画面のツールバーの  をクリックするか、または『プロジェクト』メニューの『目次設定』を選択し、目次の設定を行います。

→ p.195「目次設定」参照

■電子配信コンテンツをエクスポート

- 1 メイン画面のツールバーの  をクリックするか、または『ファイル』メニューの『表示／組版設定』を選択し、デバイス上での表示を設定します。

→ p.219「表示／組版設定」参照

- 2 メイン画面のツールバーの  をクリックするか、または『プロジェクト』メニューの『書誌情報設定』を選択し、作成した電子配信コンテンツの情報を入力します。

→ p.221「書誌情報設定」参照

- 3 メイン画面のツールバーの  をクリックするか、または『ファイル』メニューの『エクスポート設定』の『MCG エクスポート設定』を選択し、MCG ファイル（電子配信コンテンツ）のエクスポート設定を行います。

→ p.223「MCG エクスポート設定」参照

- 4 メイン画面のツールバーの  をクリックするか、または『ファイル』メニューの『エクスポート』の『MCG ファイル』を選択し、MCG ファイル（電子配信コンテンツ）をエクスポートします。

→ p.225「MCG ファイルにエクスポート」参照

■クラウド型 ASP サービス「MCCatalog+」でコンテンツを登録

エクスポートされた MCG ファイル(電子配信コンテンツ)を ASP サービスに登録します。

MCCatalog+ Maker の画面とメニュー

MCCatalog+ Maker の画面はページ内のフレームなどを編集するページ編集パネルやプロジェクトパネルなどから構成され、各パネルは『表示』メニューから選択して表示することができます。

画面構成とパネル

プロジェクト名

メニューバー

ツールバー

ページ編集タブ

リンク情報パネル

テキストエディタパネルや設定画面などで編集する言語を切り替えます。

フレームの枠線の色
フレームの枠線の色は設定されているイベントによって異なります。

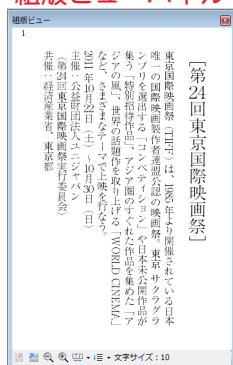
- イベント未設定フレーム
- テキストフレーム
- 画像フレーム
- 動画フレーム
- 音声フレーム
- HTML フレーム
- URL リンクフレーム
- ページジャンプフレーム

ログパネル、スタイルパネル、検索結果パネルなどを切り替えて表示します。

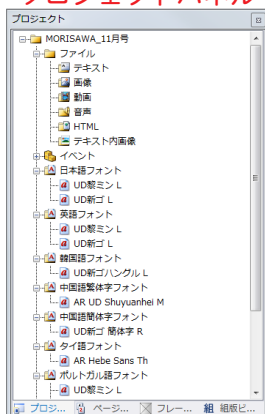
プロジェクトパネル、ページ構成パネル、組版ビューパネル、フレーム設定パネルなどを切り替えて表示します。

スタイルパネルの画面例

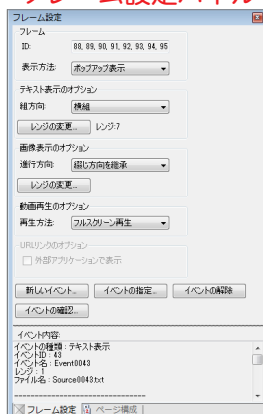
組版ビューパネル



プロジェクトパネル

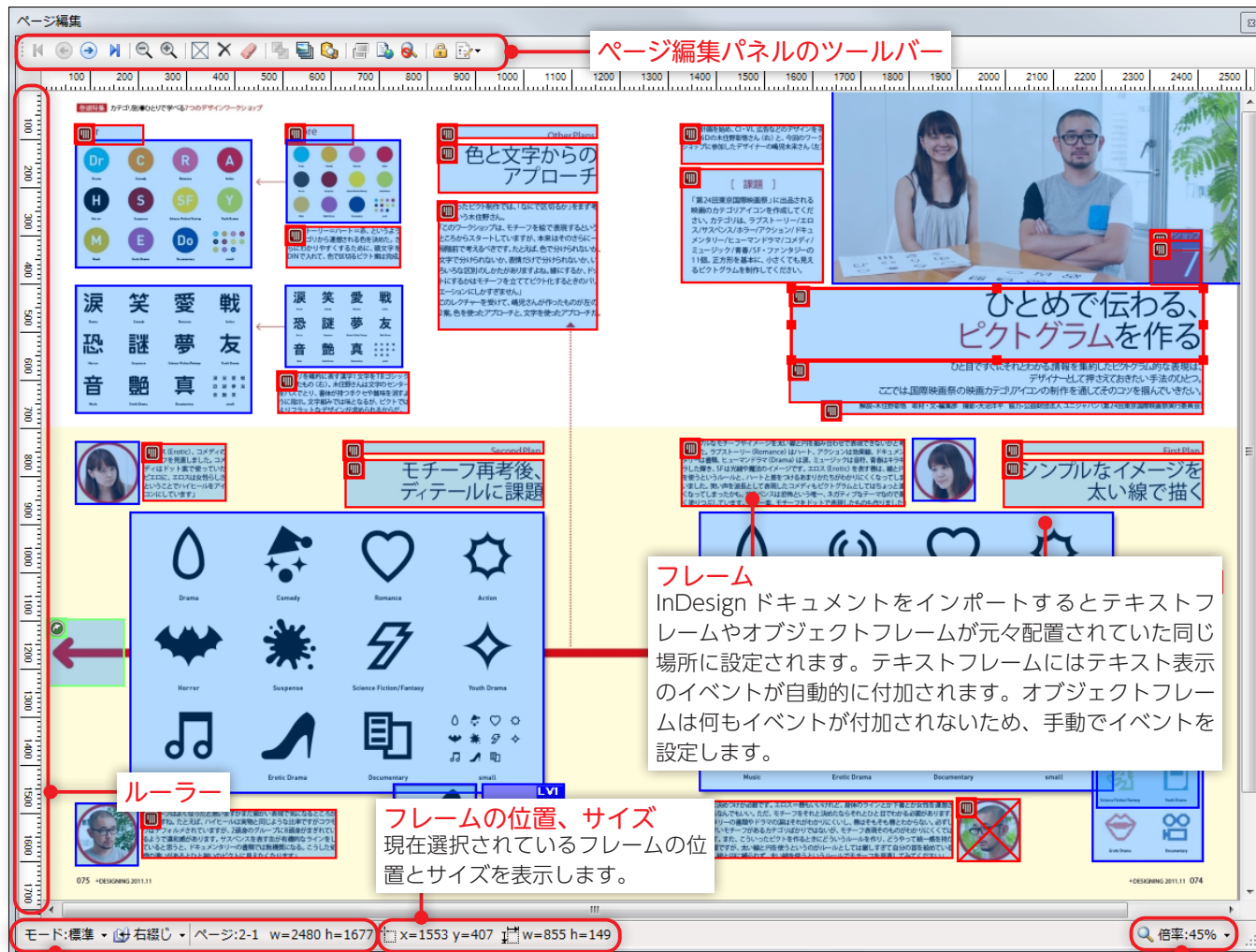


フレーム設定パネル



ページ編集パネルの表示

ページ編集パネルでは InDesign からインポートしたテキスト、オブジェクトフレームの編集などを行います。



モード

現在表示されている表示モードを表示します。

綴じ方向

現在表示されているページの綴じ方向を表示します。

ページ

現在表示されているページ番号を表示します。

シートサイズ

現在表示されているシートのサイズを表示します。

倍率

現在表示されているページの表示倍率を表示します。また、クリックしてリストから表示倍率を変更することができます。

表示の拡大縮小

『Ctrl』 + 『マウスホイール』 またはページ編集パネルのツールバーの 、 でページ編集パネルの表示率を変更することができます。

表示位置の移動

『Shift』 + 『マウスホイール』 で、ページ編集パネルの表示を横スクロールすることができます。
『Space』 + 『ドラッグ』 で、ページ編集パネルの表示をドラッグ方向へ移動することができます。

ページ送り、ページジャンプ

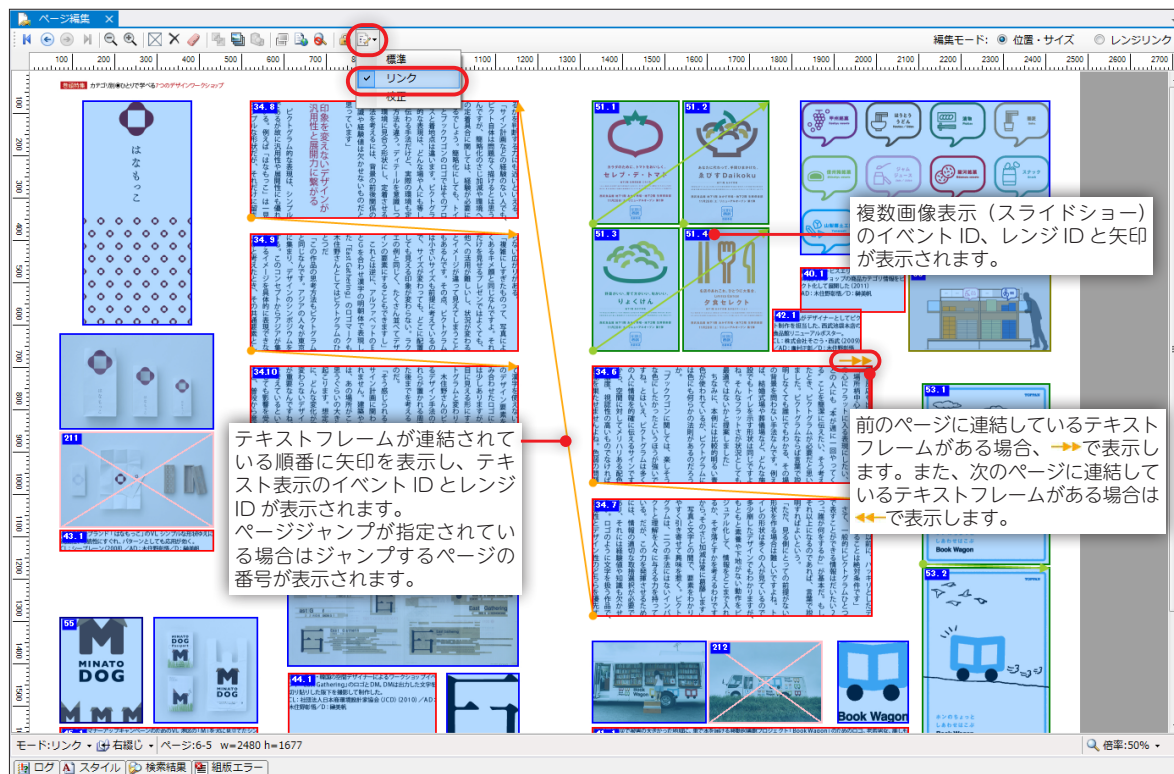
ページ編集パネルで表示しているページから移動する場合は以下のボタンをクリックします。

	前のページ
	次のページ
	最初のページ
	最後のページ

ページ編集パネルの表示の切り替え

リンク

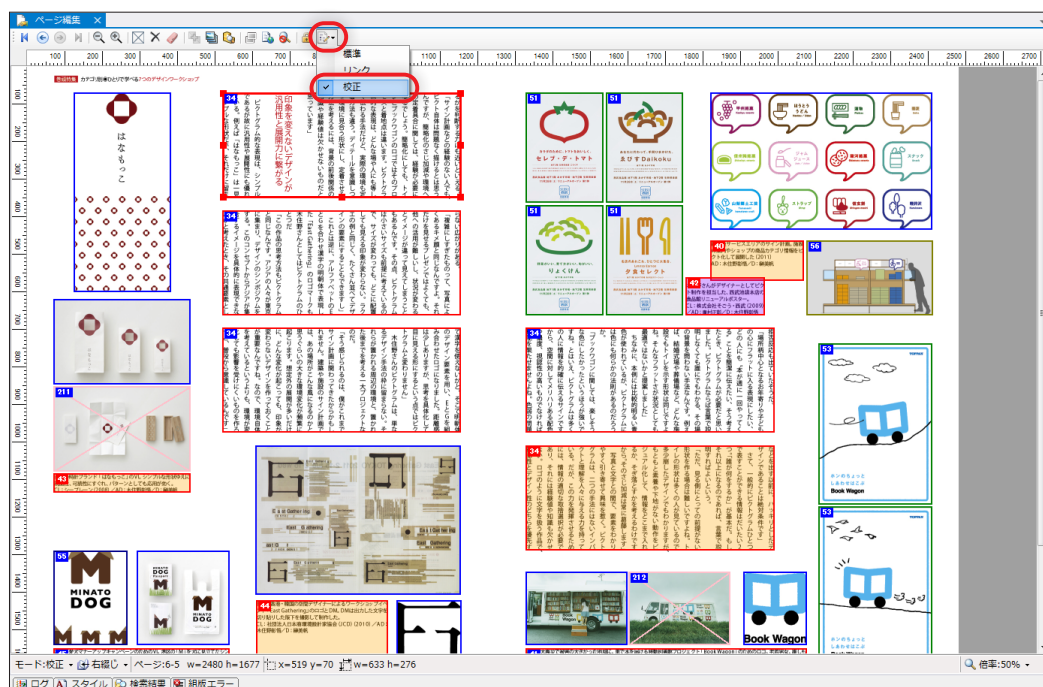
連結されているテキストフレーム、または、複数のフレームに対して初期表示の画像ファイルとは異なる複数画像の表示イベント（スライドショー）を追加している場合、どの順番にフレームが連結されているかをページ編集パネルのツールバー（表示モードの変更）をクリックし、『リンク』を選択して表示させることができます。



校正

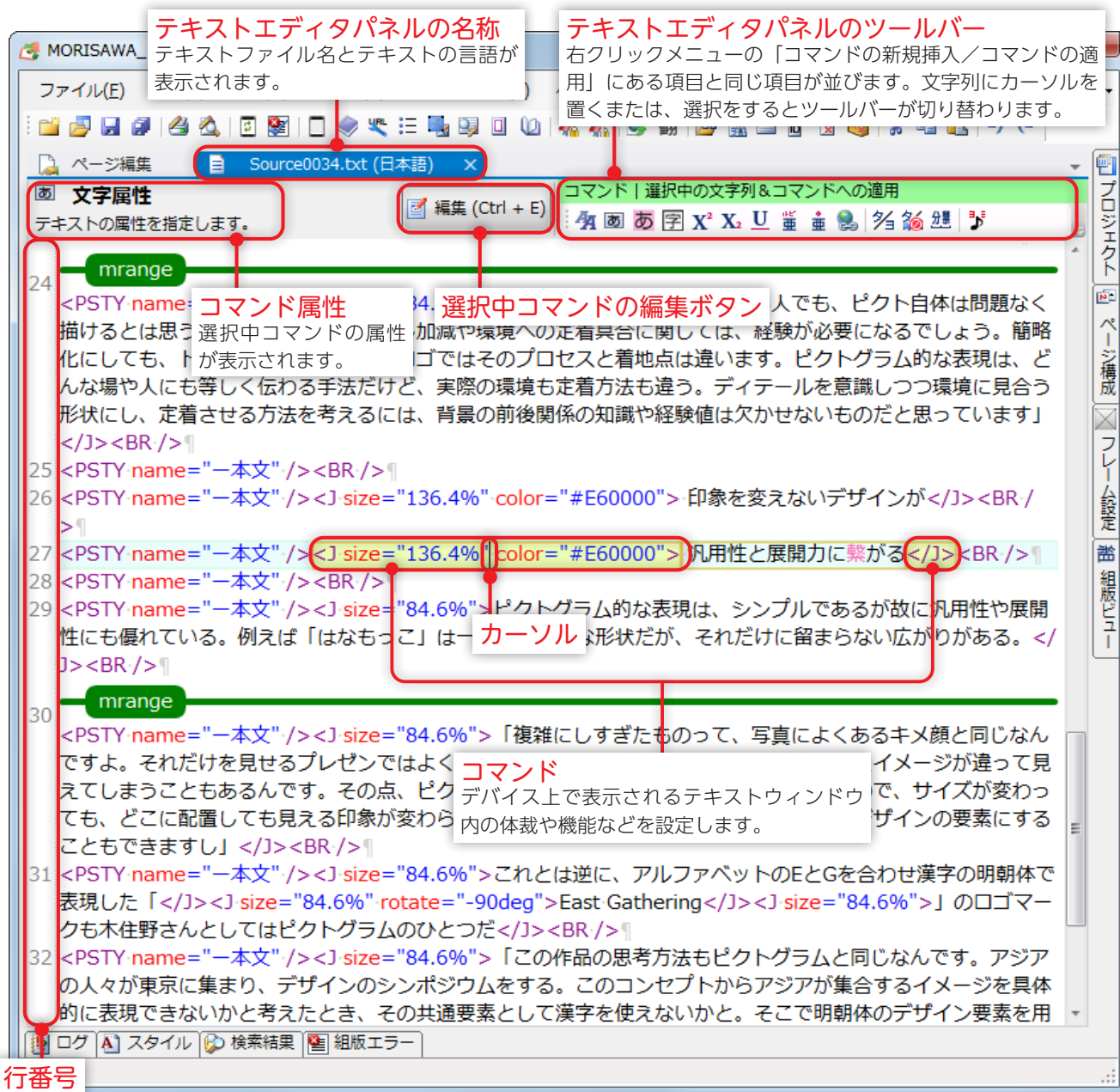
校正要素を表示したい場合、ページ編集パネルのツールバー（表示モードの変更）をクリックし、『校正』を選択します。

※フレームの色については p.30 「ページ編集設定」の「校正」タブを参照



テキストエディタパネルの表示

テキストエディタパネルではテキストフレーム内の文字の編集を行います。



参照元シートに移動

『編集』メニューもしくは右クリックメニューから『参照元シートに移動』をクリックすると、テキストエディタパネルで表示しているテキストフレームがあるページへジャンプし、ページ編集パネルを表示します。

重要!

テキストエディタパネルに表示されるテキストの言語は、テキストエディタパネルの名称に表示されている言語になります。テキストエディタパネルでテキストを開いた後、メイン画面右上の『編集対象言語』を切り替えてもテキストエディタ上の言語は切り替わりません。他の言語のテキストを編集する場合は、再度、テキストエディタパネルを開いてください。テキストエディタパネルに表示されるテキストは、テキストエディタパネルを開くときに、メイン画面右上の『編集対象言語』で指定されている言語になります。

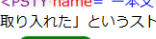
mrangle タグ

mrange タグは、テキストフレームのリンクを行った場合や MCCatalog+ Maker にインポートした InDesign ドキュメント内に、連結されたテキストフレームがあった場合、フレームが分けられている段落の最後に区切りとして挿入されます。

※ mrange タグは削除しないでください。

<PSTY name="本文" /><G okuri="1.55j"/><J size="136.4%" color="#E600">
<PSTY name="本文" />

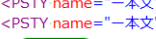
<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">情報やメッセージをひとつのわかりや
<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">「例えば、食品のおいしいような広告を付
テールや情緒を表現する必要があります。すると、仕上がりがいかにもの雰囲気にな
ず、文字ほど直接的ではない。中間的な表現なので使いやすいんです」<J>


<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">この「写真と文字の中間的表現」に、
取り入れた」というストーリーをもとに、企業VIの場合の考え方を照らし合わせて制作

<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">「企業の看板が畑では何になるかと考
た。依頼者の方々から土や味へのこだわりや想いについてもお聞きしたんですが、だか
J><J size="81.8%">（レタス）</J><J size="84.6%">には人の手がかかっている
J>

<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">世の中に多くの饅首なロゴマークが存在
視点での提案も大切だという。</J>

<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">「この案件だと、言うことは農家にと
らいののではないか」というイメージを、自信を持って提案することも重要だと思ってい
<PSTY name="本文" />

<PSTY name="本文" /><J size="136.4%" color="#E60000">ピクトグラムが表
<PSTY name="本文" /><J size="136.4%" color="#E60000">要素の取捨選択
<PSTY name="本文" />

<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">ピクトグラムの表現ひとつが含むべき

<PSTY name="本文" /><J size="84.6%">例えば、具体的なイメージをかたちとし

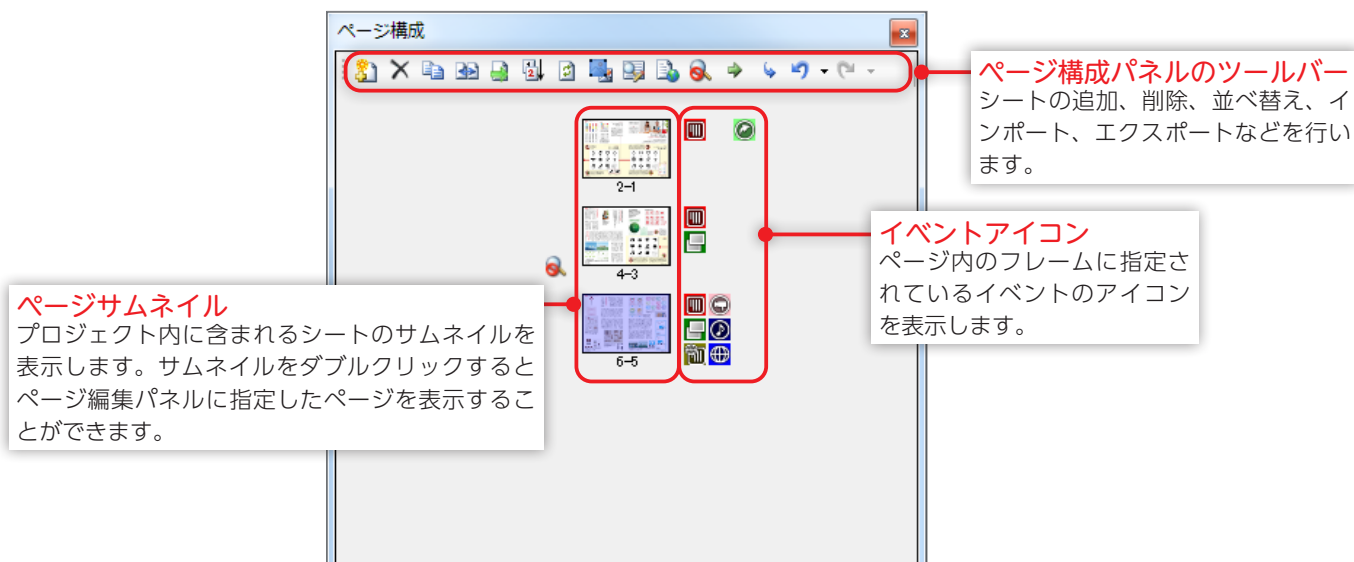
テキストエディタパネル



ページ編集パネル

ページ構成パネルの表示

プロジェクト内のページ構成の編集を行います。



フレーム設定パネルの表示

ページ編集パネルで選択しているフレームの設定を行います。

フレーム

フレームの ID、イベントの表示方法を表示します。

フレームのオプション

選択しているフレームに対してオプションの設定を行うことができます。

イベント

フレームに設定する、イベントの設定や、確認などを行うことができます。

フレーム設定

フレーム

ID: 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95

表示方法: ポップアップ表示

テキスト表示のオプション

組方向: 横組

レンジの変更... レンジ:7

画像表示のオプション

進行方向: 継ぎ方向を継承

レンジの変更...

動画再生のオプション

再生方法: フルスクリーン再生

URLリンクのオプション

☐ 外部アプリケーションで表示

新しいイベント... イベントの指定... イベントの解除

イベントの確認...

イベント内容:

イベントの種類: テキスト表示
イベントID: 43
イベント名: Event0043
レンジ: 1
ファイル名: Source0043.txt

フレーム設定 | ページ構成

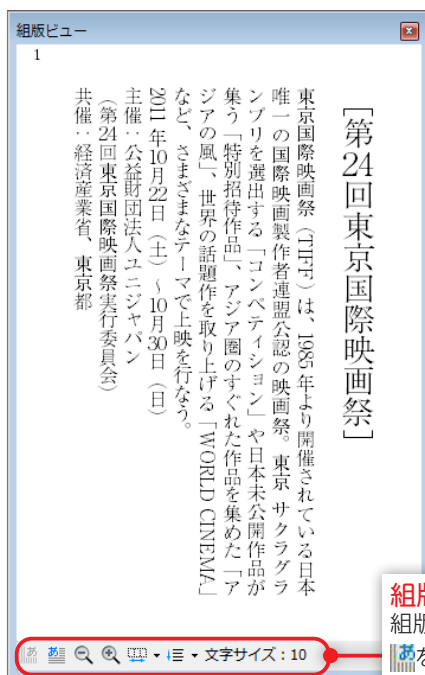
組版ビューパネルの表示

ページ編集パネルでテキストフレームをダブルクリックした場合やテキストフレームを選択してツールバーの  をクリックした場合、指定されている組版コマンドを反映してテキストフレームの内容を表示します。

テキストエディタパネルでテキストフレームの内容を変更した場合、 をクリックして組版ビューパネルの表示を更新します。

また、組版ビューパネル内で『Shift』 + 『クリック』 すると表示されているテキストフレームの内容をテキストエディタパネルで表示します。

※組版ビューパネルを表示した状態で、テキストフレームをクリックした場合、組版ビューパネルの表示を更新します。



注意

メイン画面の右上にある『編集対象言語』で指定している言語が組版ビューパネルに表示されます。また、テキストエディタパネルを表示している場合は、テキストエディタパネルの名称に表示されている言語で表示されます。

重要!

日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。また、ブラウザ版ビューアで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

組版ビューパネルの表示設定

組版ビューパネルの表示を変更することができます。

 をクリックすると縦組、 をクリックすると横組で表示します。

 をクリックすると文字サイズを小さく、 をクリックすると文字サイズを大きくします。

 をクリックして字送りを選択します。

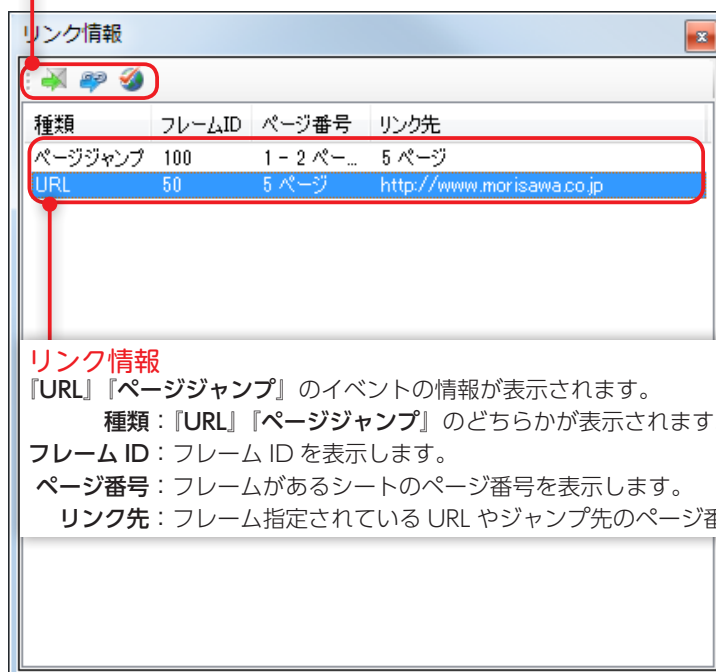
 をクリックして行送りを選択します。

リンク情報パネル

『URL』『ページジャンプ』のイベントが指定されているフレームのリンク情報を表示します。

リンク情報パネルのツールバー

- をクリックするとリンクが設定されているフレームにジャンプします。
- をクリックするとリンク先にジャンプします。
- をクリックすると URL のリンク先をチェックします。



リンク情報

『URL』『ページジャンプ』のイベントの情報が表示されます。

種類：『URL』『ページジャンプ』のどちらかが表示されます。

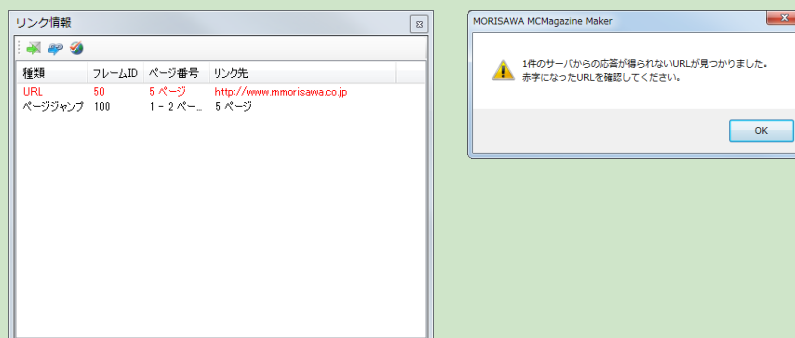
フレームID：フレームIDを表示します。

ページ番号：フレームがあるシートのページ番号を表示します。

リンク先：フレーム指定されているURLやジャンプ先のページ番号が表示されます。

URLのリンク先をチェック

をクリックすると、サーバから応答のないURLがないかを確認することができます。問題のあるURLがあった場合、該当のイベントが赤い文字になりアラートが表示されます。



ツールバー

ツールバーは常にメイン画面に表示されているものと、ページ編集パネル、テキストエディタパネル、ページ構成パネル、リンク情報パネルそれぞれのパネルに付属しているものがあります。

メイン画面に常に表示されているツールバー



■ ツールバーの項目

	プロジェクトの新規作成	p.41
	プロジェクトを開く	p.42
	保存	p.42
	すべてを保存	p.43
	ページ編集の印刷	p.217
	ページ編集の印刷プレビュー	p.217
	組版ビューの表示を更新	p.10
	組版エラーチェック	p.153
	表示／組版設定	p.219
	書誌情報設定	p.221
	URL テンプレート設定	p.188
	目次設定	p.195
	ページマスク設定	p.64
	ページ検索用テキストの編集	p.66
	トリミング設定	p.74
	綴じ方向の設定	p.222
	MCG ファイルにエクスポート	p.225
	MCG エクスポート設定	p.223
	HTML パッケージ作成	p.35
	自動翻訳ツール	p.33
	フォルダを指定して検索	p.116
	検索と置換	p.115
	テキスト編集	p.111
	イベント ID を指定して関連ファイルを開く	p.214
	未使用ファイルの削除	p.44
	未使用イベントの削除	p.91
	切り取り	p.112
	コピー	p.112

	貼り付け	p.112
	元に戻す	p.112
	やり直し	p.112

ページ編集パネルのツールバー



■ツールバーの項目

	最初のページ	p.5
	前のページ	p.5
	次のページ	p.5
	最後のページ	p.5
	縮小	p.5
	拡大	p.5
	フレームの新規作成	p.76
	削除	p.76
	クリア	p.76
	結合	p.81
	スライドショー作成	p.99
	イベント内容の確認	p.109
	シート画像の設定	p.87
	HTML パッケージを設定	p.68
	ズームの制御を設定	p.70
	ズームの制御を解除	p.71
	オールロック	p.78
	オールロックの解除	p.78
	表示モードの変更	p.6

テキストエディタパネルのツールバー

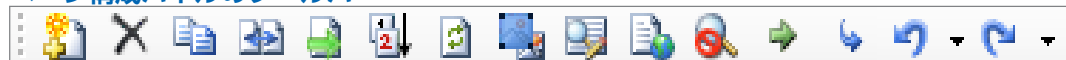


■ツールバーの項目

	ページ内配置	p.149
	段落スタイル	p.180

	段落設定	日本語	p.126
	囲み罫		p.143
	行属性		p.129
	行間罫		p.141
	文字属性		p.127
	改ページ		p.134
	改段		p.137
	改行		p.134
	CID/GID 参照	日本語	p.112
	外字		p.121
	スペース		p.150
	表		p.151
	禁則解除		p.148
	文字スタイル		p.183
	文字属性		p.127
	文字背景		p.132
	字形指定		p.133
	上付き文字		p.137
	下付き文字		p.138
	下線		p.139
	ルビ		p.123
	圏点	日本語	p.125
	リンク		p.191
	縦中横	日本語	p.147
	自動縦中横禁止	日本語	p.147
	分離禁止		p.149
	読み上げルビ	日本語	p.208

ページ構成パネルのツールバー



■ ツールバーの項目

	シートの追加	p.58
	シートの削除	p.60
	シートの複製	p.60
	シートの分割	p.61
	シートの結合	p.61
	単ページ→見開きシートに変換	p.62
	見開き→単ページシートに変換	p.62
	シートの並べ替えと削除	p.63
	表示の更新	p.64
	ページマスク設定	p.64
	ページ検索用テキストの編集	p.66
	HTML パッケージを設定	p.68
	HTML パッケージを解除	p.69
	ズームの制御を設定	p.70
	ズームの制御の解除	p.71
	シートのエクスポート	p.71
	シートのインポート	p.72
	元に戻す	p.75
	やり直し	p.75

リンク情報パネル



■ ツールバーの項目

	リンクが設定されているフレームにジャンプ	p.11
	リンク先にジャンプ	p.11
	URL のリンク先をチェック	p.11

メニュー

メニューはページ編集パネルとテキストエディタパネルどちらのパネルが操作可能になっているかで表示される内容が異なります。

どちらのパネルで表示されるかを以下のマークで表します。

ページ編集パネルが操作可能な場合： **ペ**

テキストエディタパネルが操作可能な場合： **テ**

常に表示されている場合：マークなし

ファイルメニュー

プロジェクトの新規作成		新しいプロジェクトを作成します。
プロジェクトを開く		保存されているプロジェクトを開きます。
ページ編集画面を閉じる	ペ	ページ編集パネルを閉じます。
閉じる	テ	選択されているテキストエディタパネルを閉じます。
プロジェクトを閉じる		プロジェクトを閉じます。
ページ編集結果の保存	ペ	現在表示されているページの内容で上書きして保存します。
<テキストファイル名.txt> の保存	テ	テキストファイルを上書きして保存します。
名前を付けて保存	ペ	プロジェクトファイルを別名で保存します。
<テキストファイル名.txt> をエクスポート	テ	テキストファイルを別名で保存します。
すべてを保存		プロジェクトのすべてを保存します。
ページ編集の印刷		ページ編集パネルを印刷します。
ページ編集の印刷プレビュー		ページ編集パネルの印刷する内容を画面に表示します。
表示／組版設定		表示／組版設定ダイアログを表示します。
URL テンプレート設定		URL テンプレート設定ダイアログを表示します。
未使用ファイルの削除		未使用ファイルの削除ダイアログを表示します。
未使用イベントの削除		未使用イベントの削除ダイアログを表示します。
インポート	InDesign ドキュメント	InDesign ドキュメントのインポートダイアログが表示されます。
	InDesign ドキュメント + PDF ファイル	InDesign ドキュメントと PDF ファイルのインポートダイアログが表示されます。
	PDF ファイル	PDF ファイルのインポートダイアログを表示します。
	EPUB ファイル	EPUB ファイルのインポートダイアログを表示します。
	人力翻訳用データ	人力翻訳用データのインポートダイアログを表示します。
エクスポート設定	MCG エクスポート設定	MCG エクスポート設定ダイアログを表示します。
エクスポート	MCG ファイル	MCG ファイルをエクスポートします
	人力翻訳用データ	翻訳用のテキストファイルをエクスポートします。
最近使用したプロジェクト		最近使ったプロジェクトを表示します。
終了		MCCatalog+ Maker を終了します。

編集メニュー

元に戻す	直前の動作を取り消し、前の状態に戻します。
やり直し	『元に戻す』を行う前の状態に戻します。
切り取り	選択した文字列を切り取ります。
コピー	選択した文字列をコピーします。
貼り付け	『切り取り』または『コピー』した文字列を貼り付けます。
削除	選択した文字列を削除します。

編集メニュー

すべて選択		ページ編集パネルでは表示中のページ内に含まれるすべてのフレームを選択します。テキストエディタパネルでは表示中のテキストファイル内のすべての文字列を選択します。
クリア	ペ	ページ編集パネルで表示中のページ内に含まれるすべてのフレームを削除します。
改行コマンドの自動挿入	テ	テキストエディタパネルで表示中のテキストファイル内のすべての改行位置に改行コマンドタグを挿入します。
検索と置換	テ	文字列や字形、正規表現を指定して検索または置換を行います。
字形変換	日本語 テ	字形変換対象文字の字形を変換します。
指定行へのジャンプ	テ	カーソルを指定した行番号にジャンプさせ、テキストエディタパネルの表示を更新します。
参照元シートに移動	テ	テキストエディタパネルで表示しているフレームがあるシートにジャンプし、ページ編集パネルを表示します。
フォルダを指定して検索		プロジェクト内のテキストファイル、フォルダを指定して文字列を検索します。
フォルダを指定して置換		プロジェクト内のテキストファイル、フォルダを指定して文字列の置換を行います。
リンク変換	すべて	プロジェクト内のテキストファイルから自動的に「住所」「URL」「電話」「メールアドレス」と判断した文字列を検出し、リンクの変換の設定を行います。
	住所	日本語 プロジェクト内のテキストファイルから自動的に「住所」と判断した文字列を検出し、リンクの変換の設定を行います。
	URL	プロジェクト内のテキストファイルから自動的に「URL」と判断した文字列を検出し、リンクの変換の設定を行います。
	電話番号	日本語 プロジェクト内のテキストファイルから自動的に「電話番号」と判断した文字列を検出し、リンクの変換の設定を行います。
	メールアドレス	プロジェクト内のテキストファイルから自動的に「メールアドレス」と判断した文字列を検出し、リンクの変換の設定を行います。
	リンクコマンドの削除	リンクの削除ダイアログを表示します。
組版エラーチェック		組版エラーがないかテキスト内をチェックし、エラー箇所があった場合、組版エラーパネルに詳細を表示します。
フレームの新規作成	ペ	フレームを新規に作成します。
指定ページへのジャンプ	ペ	指定したページにジャンプさせ、ページ編集パネルの表示を更新します。
スライドショー作成	ペ	スライドショー作成ダイアログを表示し、スライドショーを作成します。
シート画像の設定	ペ	新たに画像を選択し、シート画像を差し替えます。
HTML パッケージを設定	ペ	HTML パッケージの設定を行います。
HTML パッケージを解除	ペ	HTML パッケージの解除を行います。
ズームの制御を設定	ペ	ページ編集パネルに表示しているページをズーム制御シートに設定します。
ズームの制御を解除	ペ	ズーム制御したページの解除を行います。
オールロック	ペ	プロジェクト内のフレームをすべてロック（編集不可）します。
オールロックの解除	ペ	プロジェクト内のフレームのすべてのロックを解除します。

表示メニュー

文字パレット	文字パレットを表示します。
表パレット	表パレットを表示します。
プロジェクト	プロジェクトパネルを表示します。
ログ	ログパネルを表示します。
検索結果	検索結果パネルを表示します。『フォルダを指定して検索』を実行した際の結果を表示します。

表示メニュー

スタイル	スタイルパネルを表示します。
ページ構成	ページ構成パネルを表示します。
ページ編集	ページ編集パネルを表示します。
フレーム設定	フレーム設定パネルを表示します。
リンク情報	リンク情報パネルを表示します。
組版ビュー	組版ビューパネルを表示します。
組版エラー	組版エラーパネルを表示します。
組版表示を更新	テ 組版ビューパネルの表示内容を更新します。

ツールメニュー

組版ビュー設定	組版ビューの設定を行います。
ドキュメント変換設定	InDesign、InDesign + PDF、PDF の変換設定を行います。
テキストエディタ設定	テキストエディタの表示の設定を行います。
ページ編集設定	ページ編集パネルの設定を行います。
リンク変換設定	リンク変換を行う際の変換設定を行います。
イベントデフォルト設定	新規作成するイベントの初期値を設定します。
環境設定	ファイル編集時の自動保存やダイアログ表示などの設定を行います。
自動翻訳ツール	日本語のテキストから多言語に自動翻訳したテキストを作成します。
HTML パッケージ作成	HTML パッケージファイルを作成します。
InDesign リンク更新ツール	InDesign ドキュメントのリンク更新（修復）を実行するツールです。
InDesign 変換修復ツール	InDesign ドキュメントの変換で ActiveX エラーが発生する場合に修復を実行するツールです。

プロジェクトメニュー

書誌情報設定	書誌情報設定ダイアログを設定します。
目次設定	目次設定ダイアログを表示します。
ページマスク設定	ページマスク設定ダイアログを表示します。
ページ検索用テキストの編集	ページ検索用テキストの編集ダイアログを表示します。
トリミング設定	シートのトリミングダイアログを表示します。
綴じ方向の設定	綴じ方向の設定ダイアログを表示します。
音声合成設定	音声合成設定ダイアログを表示します。

ヘルプメニュー

マニュアルを開く	MCCatalog+ Maker のマニュアルを表示します。（※ 1）
FAQ を開く	MCCatalog+ Maker の FAQ を表示します。（※ 1）
バージョン情報	MCCatalog+ Maker のバージョン情報を表示します。
ライセンスについて	MCCatalog+ Maker で利用しているライセンスについて表示します。

（※1）閲覧するにはネットワークに接続されている必要があります。

テキストエディタの右クリックメニュー

右クリックメニューは、テキストエディタパネルが操作可能な状態で、右クリックした際に表示されるメニューです。

右クリックメニュー

元に戻す	直前の動作を取り消し、前の状態に戻します。
やり直し	『元に戻す』を行う前の状態に戻します。
切り取り	選択した文字列を切り取ります。
コピー	選択した文字列をコピーします。
貼り付け	『切り取り』または『コピー』した文字列を貼り付けます。

右クリックメニュー テ

削除		選択した文字列を削除します。
すべて選択		テキストエディタパネルで表示中のテキストファイル内のすべての文字列を選択します。
選択中コマンドの編集		カーソル位置のコマンドの設定ダイアログを表示します。
選択中コマンドをすべて解除		カーソル位置、もしくは選択している文字列内のコマンドタグをすべて解除します。
選択中コマンドをすべて削除		カーソル位置、もしくは選択している文字列内のコマンドタグを、タグの中身も含めてすべて削除します。
コマンドの新規挿入	ページ内配置	ページ内での文字の表示位置を指定します。
	段落スタイル	段落スタイルパネルを表示します。
	段落設定 日本語	段落に対して自動縦中横、欧文自動回転の設定を行います。
	囲み罫	囲み罫の設定ダイアログを表示します。
	行属性	行の揃え／行送り／インデントを指定します。
	行間罫	行間罫の設定ダイアログを表示します。
	改ページ	改ページを挿入します。
	改段	改段を挿入します。
	改行	改行を挿入します。
	文字属性	文字の書体／サイズ／字送り／回転角度／色を指定します。
	CID/GID 参照 日本語	文字コードを指定して文字を入力します。
	外字	外字画像を挿入します。
	スペース	スペースを挿入します。
	表	表を挿入します。
	禁則解除	カーソル位置に禁則解除を挿入します。
コマンドの適用	文字スタイル	文字スタイルパネルを表示します。
	文字属性	文字の書体／サイズ／字送り／回転角度／色を指定します。
	文字背景	文字の背景の色を指定します。
	字形指定	字形を指定します。
	上付き文字	上付き文字の設定ダイアログを表示します。
	下付き文字	下付き文字の設定ダイアログを表示します。
	下線	下線の設定ダイアログを表示します。
	ルビ	ルビ（ふりがな）を付けます。
	圏点 日本語	圏点（傍点）を付けます。
	リンク	ハイパーリンクを設定します。
	縦中横 日本語	縦組の文中で、選択した英字、数字を横組にします。
	自動縦中横禁止 日本語	自動縦中横機能を強制的に無効にする箇所を指定します。
	分離禁止	分離禁止を設定します。
	読み上げルビ 日本語	音声合成の読みの設定ダイアログを表示します。
Unicode から文字を挿入 日本語		文字コードを指定して文字を入力します。
改行コマンドの自動挿入		テキストエディタパネルで表示中のテキストファイル内のすべての改行位置に改行コマンドタグを挿入します。
参照元シートに移動		テキストエディタパネルで表示しているフレームがあるシートにジャンプし、ページ編集パネルを表示します。
音声合成	再生開始	カーソル位置、もしくは選択している文字列のある文章の先頭から音声を再生します。
	設定を開く	音声合成設定ダイアログを表示します。
	選択範囲を辞書単語に追加	選択範囲を辞書に登録します。

MCCatalog+ Maker のインストールと削除

MCCatalog+ Maker のインストール

MCCatalog+ Maker のインストーラに付属している『MCCatalogPlus のインストール手順 .pdf』に記載の内容にしたがって MCCatalog+ Maker を Windows パソコンにインストールしてください。

MCCatalog+ Maker の削除

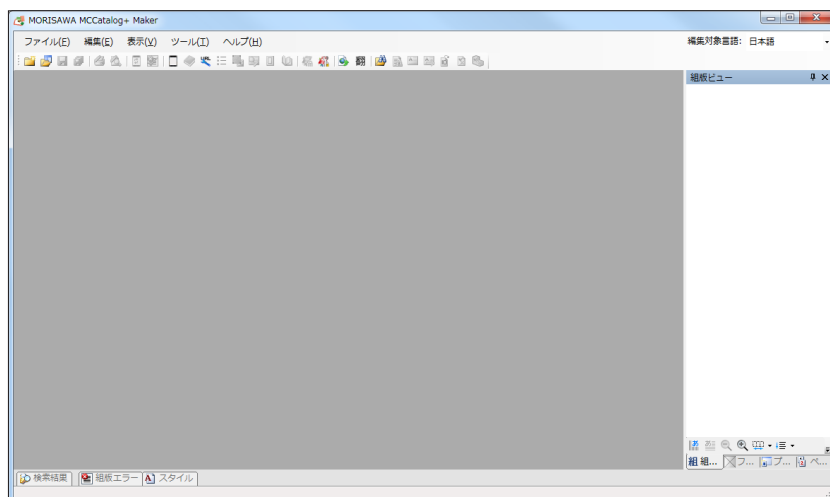
MCCatalog+ Maker を削除する場合は、以下の手順でアンインストールします。

- 1 『スタート』をクリックし、『コントロールパネル』よりコントロールパネルを開きます。
- 2 『プログラムと機能』をクリックして起動します。
- 3 『MORISAWA MCCatalog+ Maker』を選択して [アンインストール] をクリックします。

MCCatalog+ Maker の起動と終了

MCCatalog+ Maker の起動

- 1 『スタート』 をクリックし、『すべてのプログラム』 → 『MORISAWA』 → 『MCCatalog+ Maker』 → 『MCCatalog+ Maker』 をクリックします。
- 2 MCCatalog+ Maker の画面が表示されます。



MCCatalog+ Maker の終了

- 1 『ファイル』 → 『終了』 を選択します。

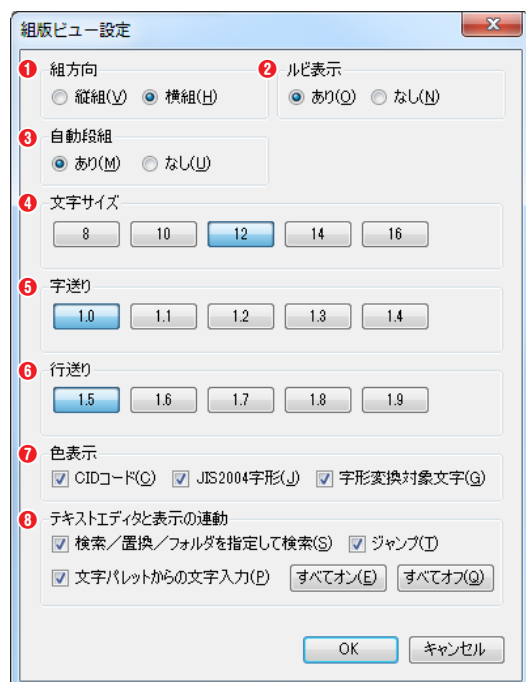
ツール

MCCatalog+ Maker での利用環境を変更するのが『ツール』メニューにある各設定ダイアログです。これらの設定は MCCatalog+ Maker の起動中、常に変更が可能です。また、変更した設定は次に起動した時や別のプロジェクトを表示した場合でも有効です。

組版ビュー設定

『組版ビュー設定』では組版ビューパネルの表示設定を行います。

『ツール』メニューの『組版ビュー設定』を選択し、表示します。



① 組方向

組版ビューパネルの文字列の組方向を『縦組』『横組』から指定します。

② ルビ表示

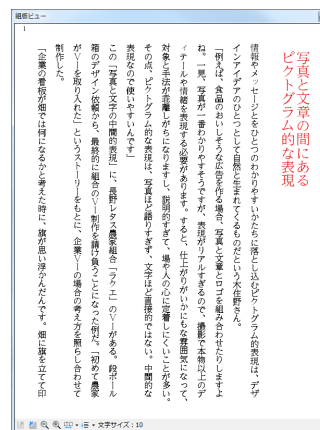
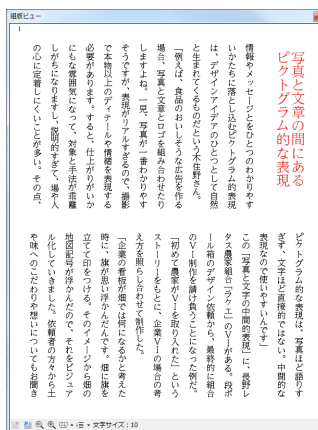
組版ビューパネルでルビを表示する『あり』か、表示しない『なし』を選択します。

③ 自動段組

組版ビューパネルでの 1 行の表示文字数が多い時に、自動的に段組して表示する『あり』か、表示しない『なし』を選択します。

自動段組『あり』

自動段組『なし』



④ 文字サイズ

文字のサイズを選択します。単位は pt となります。

⑤ 字送り

字送りを選択します。単位は文字のサイズとの比率（倍数）となります。

⑥ 行送り

行送りを選択します。単位は文字のサイズとの比率（倍数）となります。

⑦ 色表示

☒ の文字属性に色をつけて表示します。

※カラーの変更はできません。

⑧ テキストエディタと表示の連動

☒ の場合、テキストエディタパネル上で『検索／置換／フォルダを指定して検索』『ジャンプ』『文字パレットからの文字入力』の操作を行った時に、組版ビューパネルの表示を自動的に更新します。

[すべてオン] [すべてオフ] をクリックすると、すべてを ☒、または ☐ にすることができます。

CID コードとは

アドビシステムズ社の固有文字コードで指定された文字。

JIS コードや Unicode にない文字でも CID コードが割り振られた文字が多数あります。

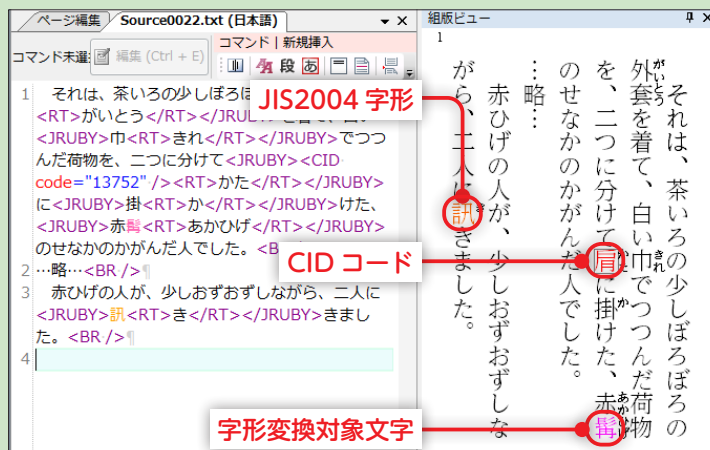
MCCatalog+ Maker のエディタでは『<CID code="5桁の数字" />』で指定します。

JIS2004 字形とは

印刷標準字体に準拠すべく、それまでの JIS の例示字形を変更した 168 文字。

字形変換対象文字とは

JIS83 で第 1 と第 2 水準を入れ替えた文字、簡易慣用文字など。



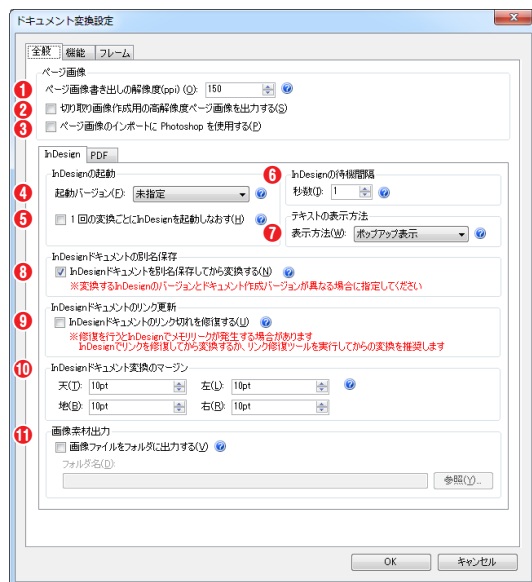
ドキュメント変換設定

InDesign ドキュメント、InDesign+PDF ドキュメント、PDF ドキュメントをインポートする際の変換設定を行います。

データをインポートする前に変換設定を行ってください。

『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を選択し、表示します。

全般タブ (InDesign)



InDesign の起動

④ 起動バージョン

InDesign ドキュメントの作成バージョンに応じて、インポート時に起動する InDesign のバージョンを指定することができます。

⑤ 1 回の交換ごとに InDesign を起動しなおす

☒ の場合、1 回の交換処理ごとに InDesign を起動しなおします。

⑥ InDesign の待機間隔

InDesign で連続して変換処理を行う場合の間隔を秒数で指定することができます。

① ページ画像書き出しの解像度

InDesign ドキュメントまたは PDF ファイルのページ画像をシート画像に変換する際の解像度を指定します。

② 切り取り画像作成用の高解像度ページ画像を出力する

☒ の場合、出力された高解像度ページ画像を『スライドショー作成』または『スライドショー一括作成』を行う際に利用します。

※高解像度ページ画像を作成しない場合は①解像度で指定した解像度で作成されたページ画像を『スライドショー作成』または『スライドショー一括作成』で利用します。

③ ページ画像のインポートに Photoshop を使用する

☒ の場合、PDF ファイルからページ画像をインポートする処理に Photoshop を使用します。

注意

PDF ファイルをインポートする際、Photoshop を使用する場合と使用しない場合で、ページ画像のインポート結果が変わる場合があります。意図した表示にならない場合は、Photoshop を使用する／しないの設定を変更してお試しください。

テキストの表示方法

⑦表示方法

電子配信コンテンツ上で表示されるテキストボックスの初期表示の方法を『ポップアップ表示』『領域内に表示』『画面中央に表示』『画面左に表示』『画面右に表示』『画面上に表示』『画面下に表示』から選択します。

InDesign ドキュメントの別名保存

⑧ InDesign ドキュメントを別名保存してから変換する

InDesign ドキュメントを作成したバージョンと変換を行う InDesign のバージョンが異なる場合、☒にします。☒の場合、InDesign ドキュメントの変換を行う InDesign のバージョンで別名保存し、変換します。

InDesign ドキュメントのリンク更新

⑨ InDesign ドキュメントのリンク切れを修復する

☒の場合、インポート前に InDesign ドキュメントのリンク切れを修復します。

⑩ InDesign ドキュメント変換のマージン

『天、地、左、右』に InDesign ドキュメントのページ端からのマージンを指定します。マージンより外側にのみ位置するオブジェクトはインポートしません。単位は pt が指定可能です。

画像素材出力

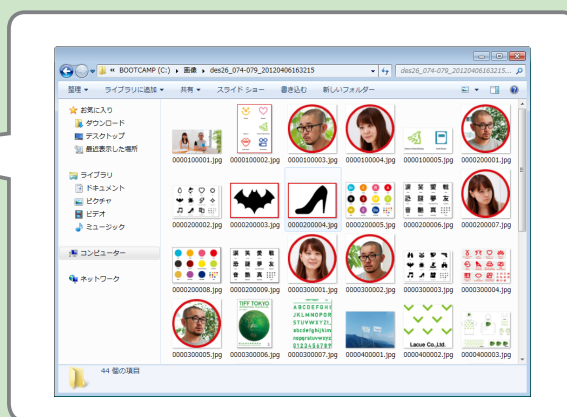
⑪画像ファイルをフォルダに出力する

InDesign 上でオブジェクトフレームに指定されている画像ファイルを **参照(Y)...** から指定した『フォルダ名』の場所に出力します。Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上でタップすると画像が別ウィンドウで開く『画像表示イベント』を指定する際に利用できます。

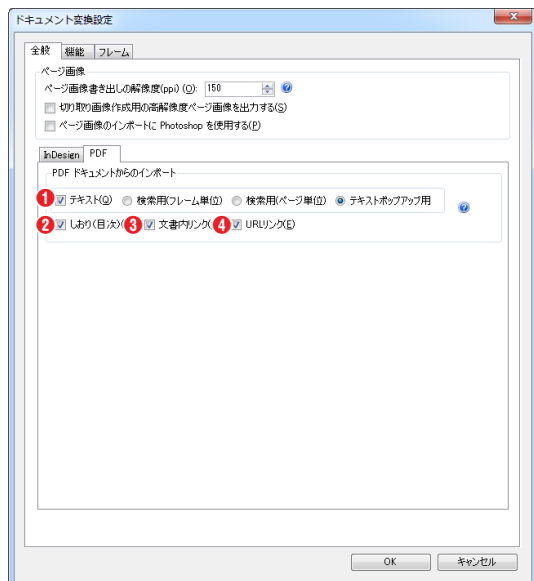
画像素材出力のフォルダ名、ファイル名

指定したフォルダ内に『InDesign データ名_作成日時』フォルダを作成し、『ページ番号ファイル番号.jpg』の名前で画像ファイルを保存します。

des26_074-079_20120406163215



全般タブ (PDF)



PDF ドキュメントからのインポート

☒の場合 PDF ファイルから下記の項目をインポートすることができます。

①テキスト

『検索用 (フレーム単位)』

フレームごとに検索用テキストを抽出します。

『検索用 (ページ単位)』

ページごとに検索用テキストを抽出します。

『テキストポップアップ用』

フレームごとにポップアップ用テキストを抽出します。

②しおり (目次)

しおり情報をインポートして目次を自動作成します。

※階層化されたしおりは読み込まれません。(階層の一番上のしおりのみ読み込まれます)

③文書内リンク

文書内リンク情報をインポートして、ページジャンプフレームを自動作成します。

④ URL リンク

URL リンク情報をインポートして、URL リンクフレームを自動作成します。

※ PDF ファイルのテキストがアウトライン化されている場合、抽出できませんのでご注意ください。

機能タブ



スタイル

①段落スタイルをインポートする

☒の場合、InDesign ドキュメント内の段落スタイルをインポートします。『文字サイズ』『カラー』『回転角度』『揃え』『インデント』『自動縦中横』『縦組み中の欧文回転』から変換する項目を選択します。

②文字スタイルをインポートする

☒の場合、InDesign ドキュメント内の文字スタイルをインポートします。『文字サイズ』『カラー』『回転角度』から変換する項目を選択します。

文字属性/行属性

③文字属性を変換する

☒の場合、InDesign ドキュメント内の文字属性をインポートします。『フォント』『文字サイズ』『カラー』『回転角度』から変換する項目を選択します。

④行属性を変換する

☒の場合、InDesign ドキュメント内の行属性をインポートします。『揃え』『行送り』『インデント』から変換する項目を選択します。

⑤段落設定 日本語

InDesign ドキュメント内の段落設定をインポートします。『自動縦中横』『縦組み中の欧文回転』から変換する項目を選択します。

相対サイズ変換の基準サイズ

⑥基本段落

InDesign ドキュメント内の段落スタイルで『基本段落』に指定されている文字サイズを基準文字サイズとして変換します。

7 サイズ指定

指定した文字サイズを基準文字サイズとして変換します。単位は pt、inch、cm、mm、px が指定可能です。

8 コマンド

InDesign ドキュメント内で設定されている『ルビ』『圏点』『下線』『取り消し線』『上付き文字』『下付き文字』『縦中横』『ハイパーリンク』『表組』をインポートします。変換する項目を選択します。

フレームタブ (InDesign)



フレームの除外

1 指定のサイズ以下のフレームを除外する

☒ の場合、『AND 条件 (すべて一致)』を選択すると『幅』『高さ』に指定した条件を両方とも満たすフレーム、『OR 条件 (いずれかが一致)』を選択すると『幅』『高さ』に指定した条件のどちらかにあてはまるフレームはインポートしません。

2 指定の文字数以下のテキストフレームを除外する

☒ の場合、設定された文字数以下のテキストフレームはインポートしません。

※表組のみのフレームで表組の変換が指定されていない場合は、文字数が「0」になります。

3 非テキストフレームを除外する

☒ の場合、テキストフレームのみをインポートの対象とします。

4 ページサイズ以上の大きさの非テキストフレームを除外する

☒ の場合、InDesign ドキュメントのページサイズより大きいオブジェクトフレームはインポートしません。

画像のマスク

5 画像を指定してマスク処理を実行する

☒ の場合、InDesign ドキュメントをインポートする時に InDesign ドキュメント内にある画像ファイルからマスク処理を行う画像ファイルを選択し、画像ファイルにマスク処理を行います。

マスク種別

6 色指定

『色の設定』をクリックして、塗りつぶす色を選択します。

7 画像指定

『画像ファイル名』にフレームを隠す画像ファイル名を『参照』をクリックして指定します。また、『マスク方法』を『通常』『中央』『ズーム』の中から選択します。



マスク画像の選択

『画像を指定してマスク処理を実行する』が ☒ の時に、InDesign ドキュメントをインポートした場合、『マスク画像の選択』ダイアログが表示されます。インポートした InDesign ドキュメント内で使用されている画像の一覧が表示されます。マスク処理を行う画像に ☒ を入れて選択し、[OK] をクリックすると指定した画像にマスク処理が行われてインポートされます。



フレームタブ (PDF)



フレームの除外

① 指定の文字数以下の、英数字のみのテキストフレームを除外する

☒ の場合、設定された文字数以下の、英数字のみのテキストフレームはインポートしません。

※表組のみのフレームで表組の変換が指定されていない場合は、文字数が「0」になります。

高度な設定

② テキストフレームの結合行間幅を変更する

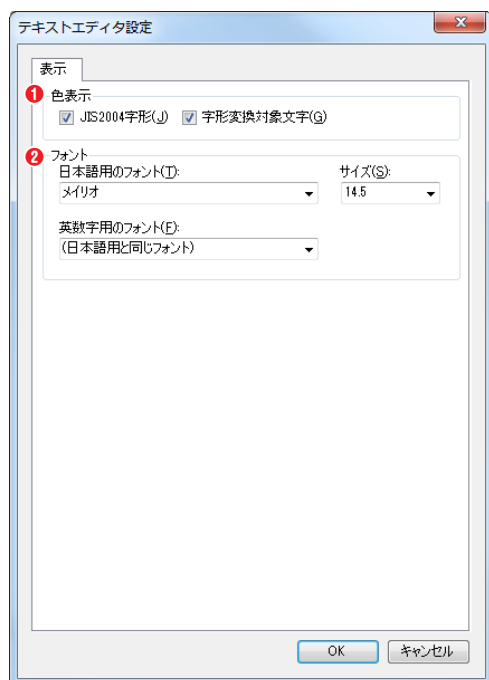
☒ の場合、テキストフレームの結合／分離の判定に関わるしきい値を変更できます。

※テキストデータの行間が広い PDF をインポートしたときにフレームが適切に結合されなかった場合、この値を大きくしてください。

テキストエディタ設定

『テキストエディタ設定』ではテキストエディタパネルの表示設定を行います。

『ツール』メニューの『テキストエディタ設定』を選択し、表示します。



表示タブ

①色表示 日本語 英語

『JIS2004 字形』、『字形変換対象文字』

該当する字形を選択します。☑の場合、文字はカラー表示されます。

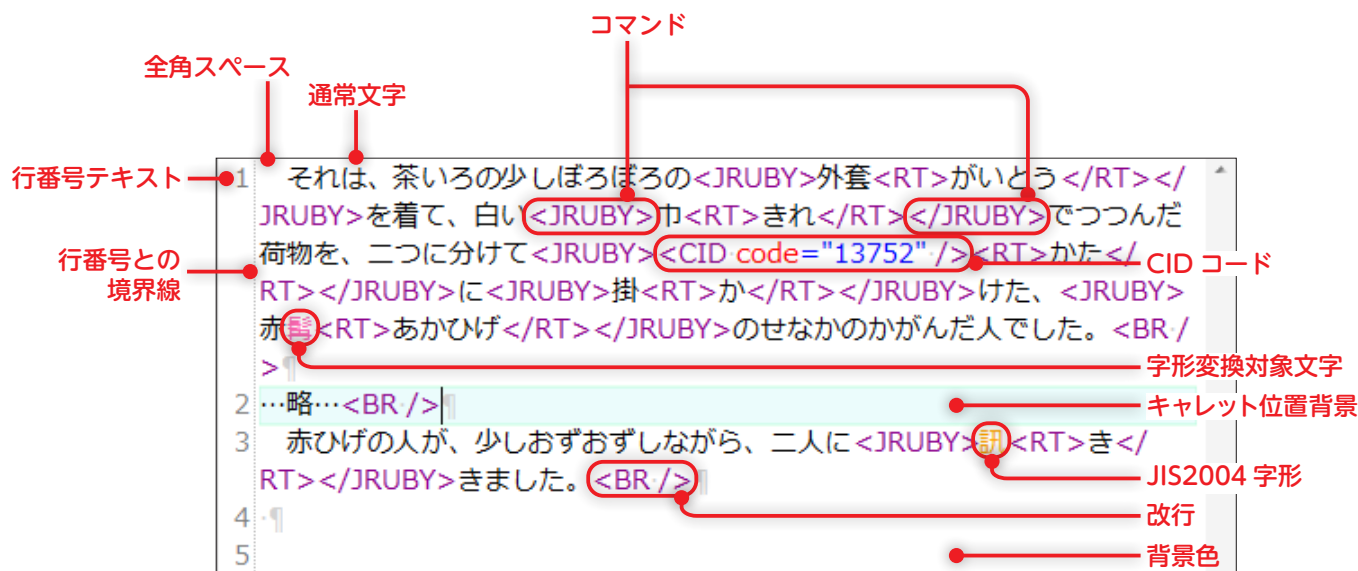
②フォント

『日本語用のフォント』、『英数字用のフォント』

テキストエディタパネル上で表示するフォントを選択します。

サイズ

テキストエディタパネル上で表示するフォントの文字サイズを指定します。

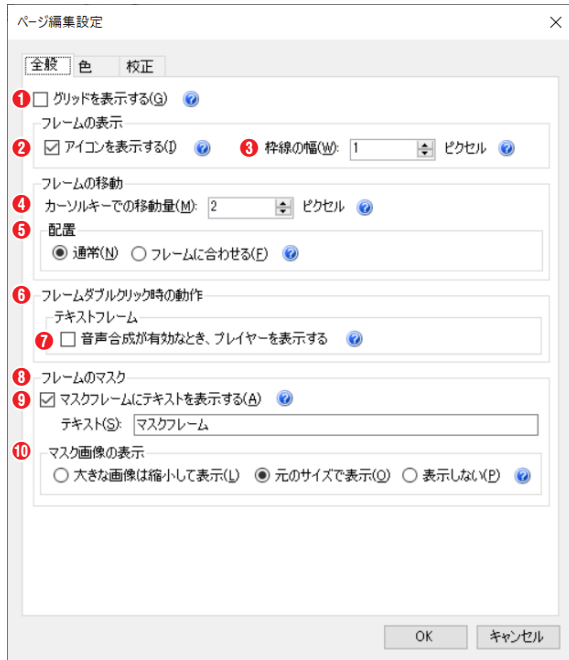


ページ編集設定

『ページ編集設定』ではページ編集パネルの表示設定を行います。
『ツール』メニューの『ページ編集設定』を選択し、表示します。

注意

ページ編集パネルでの表示は、操作の便宜上のもので、実際の電子配信コンテンツには影響しません。



全般タブ

①グリッドを表示する

ページ編集パネル上にグリッドを表示させるかを設定します。

②アイコンを表示する

ページ編集パネル上で各フレームに割り当てられているイベントのアイコンを表示するかを設定します。

③枠線の幅

プロジェクト内のフレームの枠線の線幅を設定します。

④カーソルキーでの移動量

ページ編集パネルで選択されているフレームのカーソルキーでの移動量をピクセルで設定します。

⑤配置

フレームを配置する場合などに他のフレームと位置を合わせるガイドラインを表示するかを設定します。

通常：ガイドラインは表示しません。

フレームに合わせる：他のフレームと位置を合わせることができるガイドラインを表示します。

⑥フレームダブルクリック時の動作

フレームをダブルクリックしたときの動作を設定します。

⑦音声合成が有効なとき、プレイヤーを表示する

テキストフレームをダブルクリックしたとき、組版表示だけでなく音声合成の再生ダイアログの表示も行います。

※この設定は、音声合成が有効なときのみ有効です。

⑧フレームのマスク

ページ編集パネル上でマスクフレームにテキストを表示するかを設定します。

⑨マスクフレームにテキストを表示する

マスクフレームに表示するテキストを設定します。

⑩マスク画像の表示

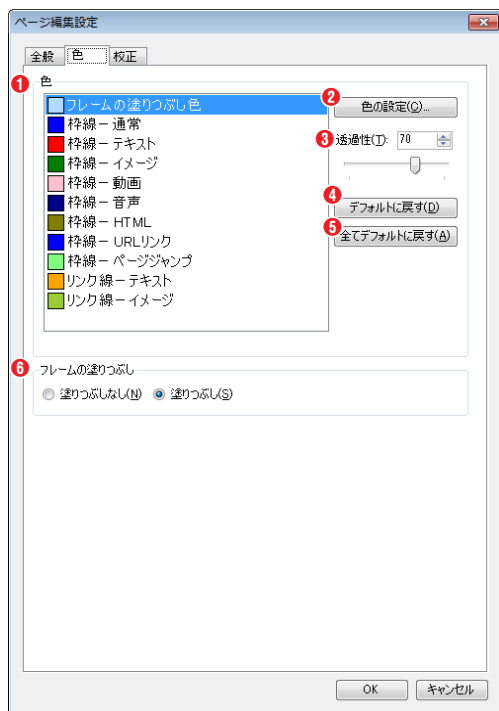
大きな画像は縮小して表示：マスク画像が 256 ピクセルよりも大きい場合、マスク画像を 256 ピクセルに縮小してページ編集パネル上に表示します。

※マスク画像のサイズによっては表示が粗くなる場合があります。

元のサイズで表示：マスク画像を元のサイズのままページ編集パネル上に表示します。

※マスク画像のサイズによってはメモリを多く消費する場合があります。

表示しない：マスク画像をページ編集パネル上に表示しません。



色タブ

1 色

ダイアログ左の一覧から色を変更したいフレームを選択し、[色の設定] をクリックして表示されるダイアログで色を指定します。

2 色の設定

[色の設定] をクリックすると、『色の設定』ダイアログを表示します。



3 透過性

設定した色の透過性を数値で入力するか、バーを動かして設定します。

4 デフォルトに戻す

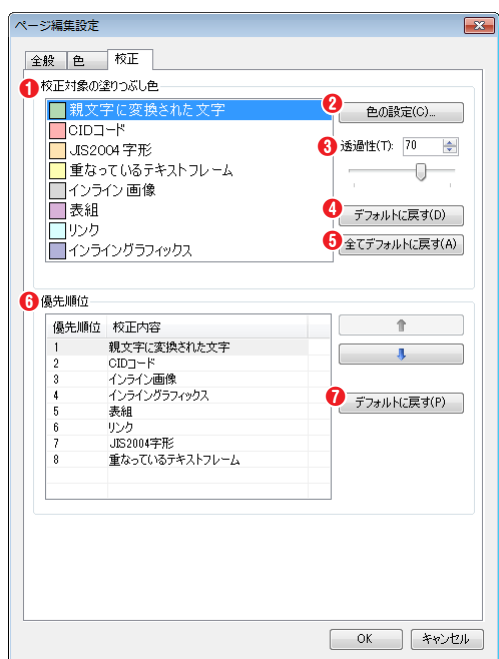
[デフォルトに戻す] をクリックすると選択している色の設定をアプリケーションの初期値に戻します。

5 全てデフォルトに戻す

[全てデフォルトに戻す] をクリックするとすべての色の設定をアプリケーションの初期値に戻します。

6 フレームの塗りつぶし

フレーム内を塗りつぶすかを設定します。



校正タブ

1 校正対象の塗りつぶし色

ダイアログ左の一覧から校正対象の色を変更したいフレームを選択し、[色の設定] をクリックして表示されるダイアログで色を指定します。

2 色の設定

[色の設定] をクリックすると、『色の設定』ダイアログを表示します。

3 透過性

設定した色の透過性を数値で入力するか、バーを動かして設定します。

4 デフォルトに戻す

[デフォルトに戻す] をクリックすると選択している色の設定をアプリケーションの初期値に戻します。

5 全てデフォルトに戻す

[全てデフォルトに戻す] をクリックするとすべての色の設定をアプリケーションの初期値に戻します。



6 優先順位

ダイアログ左の一覧から順序変更したい校正要素を 、 で変更します。

7 デフォルトに戻す

[デフォルトに戻す] をクリックすると優先順位をアプリケーションの初期値に戻します。

リンク変換設定

『リンク変換設定』ではリンク変換の設定を行います。

『ツール』メニューの『リンク変換設定』を選択し、表示します。

住所 日本語

①町名・番地を含む住所のみを検索対象とする

☒の場合、住所として自動的に検出する文字列で「町名・番地」を含むもののみに検出します。また『住所抽出範囲』を『すべて』か『市区町村まで』のどちらか選択します。

②以下の文字数以下の住所は検索対象としない

☒の場合、指定した文字数以下のものは住所として自動的に検出しません。

③URL

URLとして検出する文字を検索するための正規表現を『検索正規表現』に入力します。

④デフォルト

『デフォルト』をクリックすると『検索正規表現』に表示されている内容を初期値の設定に戻します。

⑤抽出されたURLにスキームがない場合にスキームを付加する

☒の場合、URLとして検出された文字列にスキームがない場合、『スキーム』に指定したスキームを付加します。

⑥電話番号 日本語

電話番号として検出する文字を検索するための正規表現を『通常の検索正規表現』（フリーダイヤル以外の電話番号の場合）や『フリーダイヤルの検索正規表現』（フリーダイヤルの場合）に入力します。

イベントデフォルト設定

『イベントデフォルト設定』ではテキスト表示や画像表示などのイベントを新規作成した場合の初期値設定を行います。

『ツール』メニューの『イベントデフォルト設定』を選択し、表示します。

①ウィンドウ表示のオプション

ウィンドウの表示方法を『ポップアップ表示』『領域内に表示』『画面中央に表示』『画面左に表示』『画面右に表示』『画面上に表示』『画面下に表示』から選択します。

②テキスト表示のオプション

テキストの組方向を『横組』『縦組』から選択します。

③画像表示のオプション

画像表示の進行方向を『縦じ方向を継承』『左』『右』から選択します。

④URLリンクのオプション

URLリンクで指定されているリンク先を Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) ではなく外部のアプリケーションを利用して表示するか選択します。

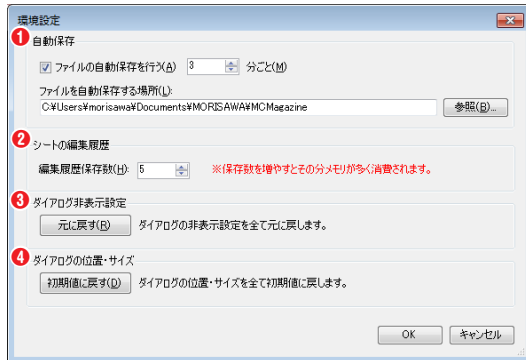
⑤動画再生のオプション

動画再生の表示方法を『フルスクリーン再生』『誌面内再生』から選択します。

環境設定

『環境設定』では、MCCatalog+ Maker で作成中のドキュメントの自動保存やダイアログ表示などの設定を行います。

『ツール』メニューの『環境設定』を選択し、表示します。



①自動保存

ファイルの自動保存を行う

☒の場合、右横のボックスに指定した時間ごとにバックアップを作成します。

ファイルを自動保存する場所

バックアップファイルを保存する場所を指定します。

②シートの編集履歴

編集履歴保存数

ページ構成パネルで『元に戻す／やり直し』の対象となる編集履歴の保存数を入力します。

※保存数を増やすとその分メモリが多く消費されます。

③ダイアログ非表示設定

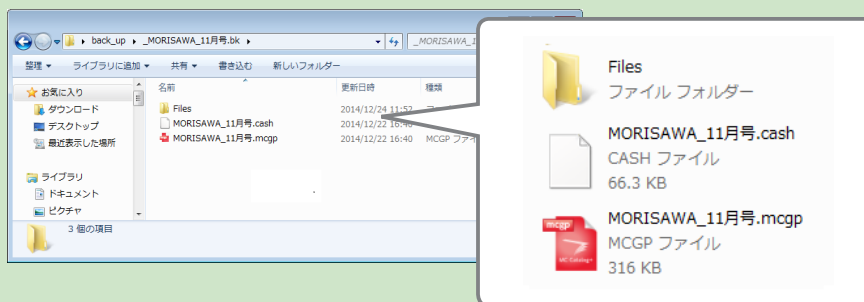
「元に戻す」をクリックするとダイアログの非表示設定を全て元に戻します。

④ダイアログの位置・サイズ

「初期値に戻す」をクリックするとダイアログの位置・サイズを全て初期値に戻します。

MCCatalog+ Maker のバックアップ

プロジェクトファイル (.mcgp) とキャッシュファイル (.cash) がバックアップ保存されます。「Files」フォルダ内のデータは保存されません。ただし、テキストエディタパネルを開いているテキストが未保存の場合のみ、自動保存のタイミングで「Files」フォルダ内の「Text」フォルダに未保存のテキストファイル (SourceXXXX.txt) が保存されます。



自動翻訳ツール

『自動翻訳ツール』では、日本語のテキスト、検索用テキスト、書誌情報設定、目次設定、画像キャプションを多言語に自動翻訳します。

- 1 メイン画面のツールバーの **翻** をクリックするか、『ツール』メニューの『自動翻訳ツール』を選択します。

フレーム単位での自動翻訳

テキストフレームおよび、画像フレームを右クリックし、「テキストの自動翻訳」を選択することで、選択したフレームに限定した自動翻訳を行うことができます。

自動翻訳ツール

※このツールの使用にはインターネット環境が必要です。

① 翻訳エンジンID

② 翻訳箇所
☒ テキスト ☐ 検索用テキスト
☒ 書誌情報設定 ☐ 目次設定
☐ 画像キャプション

③ 言語
 翻訳前: 日本語
 翻訳後: ☒ 英語 ☐ 韓国語
☐ 中国語繁体字 ☐ 中国語簡体字
☐ タイ語 ☐ ポルトガル語
☐ スペイン語 ☐ インドネシア語
☐ ベトナム語
☐ すべて選択

④ 翻訳テスト... ⑤ 実行 閉じる

① 翻訳エンジン ID

自動翻訳ツールの翻訳エンジン ID を指定します。

※自動翻訳ツールの翻訳エンジン ID は、クラウド型 ASP サービス「MCCatalog+」でご確認頂けます。

② 翻訳箇所

『テキスト』『検索用テキスト』『書誌情報設定』『目次設定』『画像キャプション』から指定します。

※日本語が設定されていない箇所は翻訳できません。(選択できません)

※フレームから自動翻訳ツールを呼び出した場合、翻訳箇所は選択中のフレームで固定されます。

③ 言語

『すべて選択』チェックボックスをクリックすると、すべての言語のチェックボックスが切り替わります。

④ 翻訳テスト

『翻訳テスト』画面を開きます。

⑤ 実行

翻訳処理を実行します。

翻訳テスト

任意の日本語テキストから指定した言語へ翻訳することができます。各言語への翻訳結果の確認や、翻訳処理の動作に問題がないかなどの確認にご利用ください。

翻訳テスト

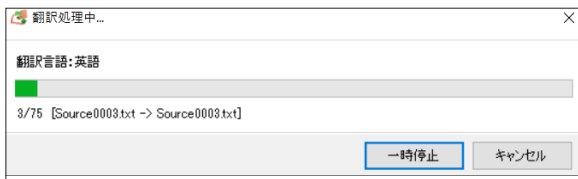
翻訳前: 日本語 翻訳後: 英語

翻訳開始

『翻訳前』に日本語テキストを入力し、『翻訳後』のコンボボックスから翻訳したい言語を指定します。

[翻訳開始] ボタンをクリックすると、翻訳処理が実行され、『翻訳後』に翻訳結果が表示されます。

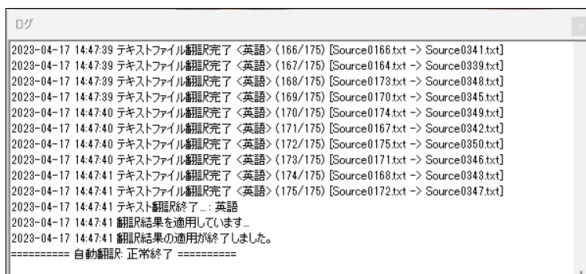
- 2 翻訳エンジン ID と翻訳箇所、言語を指定して、[実行] をクリックすると、『翻訳処理中』ダイアログが表示されます。



翻訳処理の一時停止

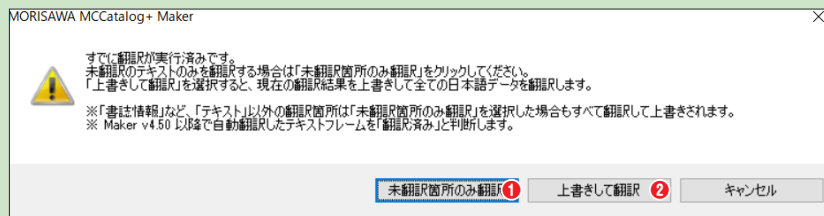
翻訳処理の実行中に『翻訳処理中』ダイアログの [一時停止] をクリックして翻訳処理を一時停止することができます。『自動翻訳ツール』ダイアログの『翻訳箇所』の『テキスト』にチェックが入っている場合、または、テキストフレームを右クリックして翻訳した場合、『翻訳処理中』ダイアログに [一時停止] と [キャンセル] が表示されます。翻訳処理を一時停止すると、翻訳済みのデータは保存されます。

- 3 ログパネルに翻訳処理の経過が表示されます。



未翻訳箇所のみを翻訳

『自動翻訳ツール』ダイアログの『翻訳箇所』の『テキスト』にチェックを入れて、一度でも翻訳を行った場合、再度自動翻訳を行った際に次のメッセージが表示されます。



① 未翻訳箇所のみ翻訳

翻訳箇所の『テキスト』については、未翻訳箇所のみ翻訳が行われます。『テキスト』以外の翻訳箇所については、すべて翻訳して上書きされます。

② 上書きして翻訳

翻訳処理をやり直して実行します。翻訳済みのデータは上書きされます。

注意

「未翻訳箇所のみ翻訳」は MCCatalog+ Maker v4.50 からの機能です。MCCatalog+ Maker v4.50 以降で自動翻訳したテキストフレームを「翻訳済み」と判断します。MCCatalog+ Maker v4.40 以下で作成したプロジェクトファイルを開いて自動翻訳をする際は、すべての翻訳対象が上書きで翻訳されますので、ご注意ください。「人力翻訳用データ」のインポートやエクスポートでは、翻訳状況の判断は変わりませんので、ご注意ください。

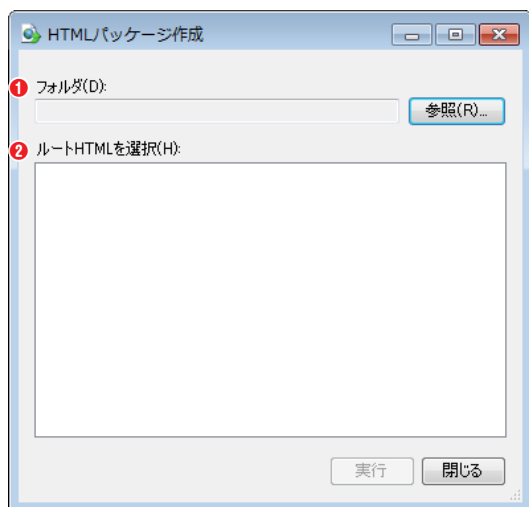
注意

自動翻訳ツール、翻訳テストを利用する際、ネットワークに接続されている必要があります。

HTML パッケージ作成

HTML ファイルをパッケージ化し、HTML パッケージファイル(.pkg)を出力します。出力された HTML パッケージファイルはページの『HTML シート設定』やフレームの『HTML 表示』に使用できます。

- 1 メイン画面ツールバーのをクリックするか、『ツール』メニューの『HTML パッケージ作成』を選択します。
- 2 『ルート HTML を選択』に HTML ファイル (*.html/*.htm) をドラッグ&ドロップするか、[参照] をクリックして HTML ファイルがあるフォルダを指定します。
- 3 [実行] をクリックし、HTML パッケージファイルの保存先を指定します。



①フォルダ

HTML ファイルが含まれるフォルダを指定します。

②ルート HTML を選択

『フォルダ』に表示されているフォルダ内にある HTML ファイルを表示します。

※『フォルダ』『ルート HTML を選択』どちらの操作においても、同じ階層に含まれる HTML ファイルをすべて読み込みパッケージ化します。

HTML パッケージ作成 (HTMLPackageMaker)

HTML パッケージ作成は MCCatalog+ Maker のインストールフォルダ内にある『HTMLPackageMaker.exe』をダブルクリックして単独のソフトウェアとして使用することができます。

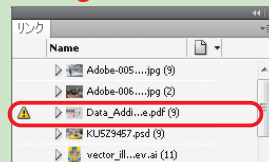
InDesign リンク更新ツール

InDesign ドキュメントの変更されたリンクの更新を行うことができます。

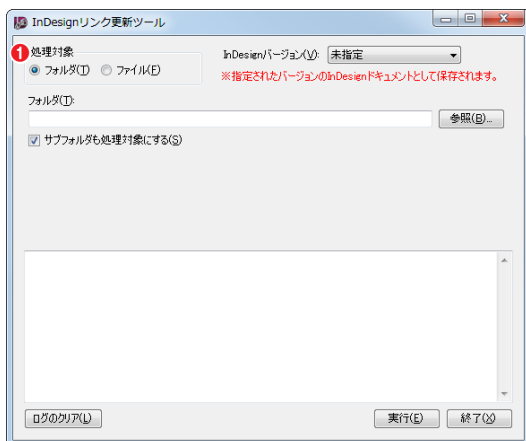
※ InDesign 上で、変更されたリンクの更新がされていなかった場合、古いリンクのままインポートされます。

変更されたファイルとは、InDesign のリンクパネルに  アイコンが表示されており、ディスク上にあるリンク元ファイルのバージョンが、ドキュメント内のバージョンより新しいファイルのことです。

InDesign のリンクパネル



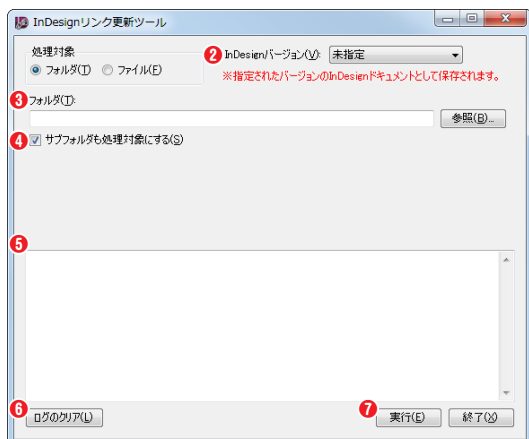
1 『ツール』メニューの『InDesign リンク更新ツール』を選択し、表示します。



- ① 処理対象を『フォルダ』か『ファイル』から選択します。処理対象を選択するとダイアログ表示が変わります。

2 ダイアログ内を指定します。

処理対象が『フォルダ』の場合



② InDesign バージョン

InDesign ドキュメントのバージョンを指定します。

③ フォルダ

〔参照〕をクリックするか、またはドラッグ&ドロップでフォルダの保存場所を指定します。

④ サブフォルダも処理対象にする

サブフォルダもリンク更新処理の対象にしたい場合、☒ にします。☒ の場合、フォルダ内のサブフォルダに存在する全ての InDesign ドキュメントが処理対象になります。

⑤ ログ表示ウィンドウ

処理のログが表示されます。

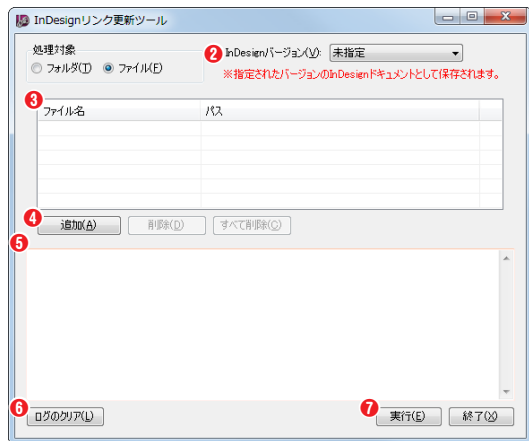
⑥ ログのクリア

過去のログを削除したい場合、〔ログのクリア〕をクリックします。

⑦ 実行

すべての項目を設定したら、〔実行〕をクリックします。

処理対象が『ファイル』の場合



② InDesign バージョン

InDesign ドキュメントのバージョンを指定します。

③ ファイル名表示ウィンドウ

ファイル名と保存場所のパスを表示します。

④ [追加]

[追加] をクリックするか、またはドラッグ&ドロップでリンク更新処理をするファイルを選択します。

⑤ ログ表示ウィンドウ

処理のログが表示されます。

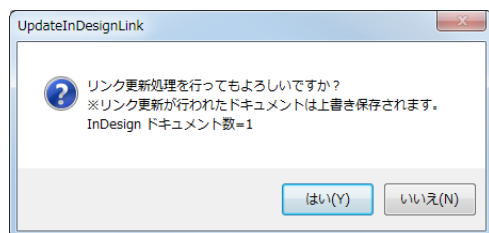
⑥ ログのクリア

過去のログを削除したい場合、[ログのクリア] をクリックします。

⑦ 実行

すべての項目を設定したら、[実行] をクリックします。

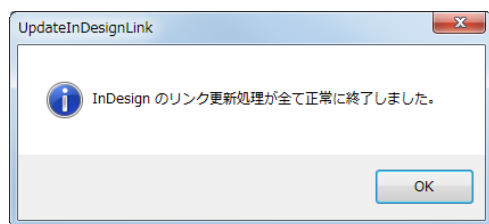
3 [実行] をクリックすると、確認ダイアログが表示されますので [はい] をクリックします。



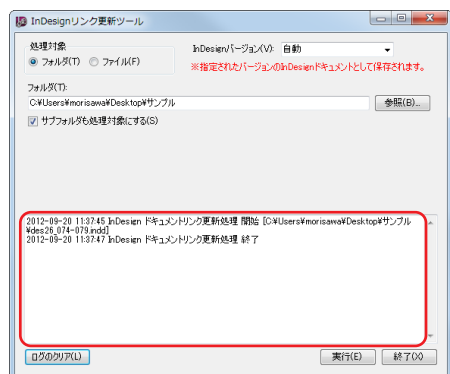
注意

InDesign でドキュメントを開いている場合は、リンク更新ができませんので、ご注意ください。

4 終了ダイアログが表示されますので [OK] をクリックします。



5 ログが表示されます。



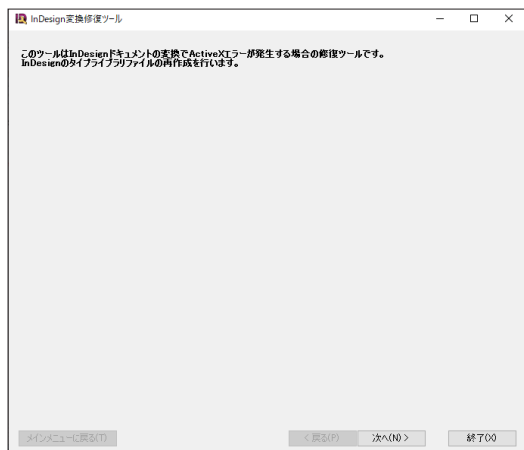
注意

- ・「InDesign バージョン」で指定されたバージョンの InDesign ドキュメントとして上書き保存されます。
- ・処理終了後自動的に InDesign は終了します。

InDesign 変換修復ツール

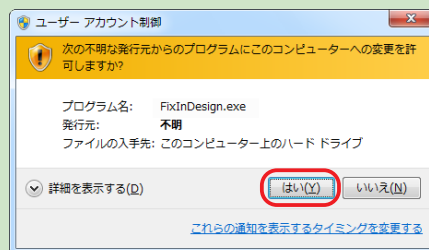
InDesign ドキュメントのインポート時に、ActiveX エラーが発生して変換ができないファイルをウィザード形式で修復を実行するツールです。タイプライブラリファイルの再作成が行えます。

- 1 『ツール』メニューの『InDesign 変換修復ツール』を選択します。『InDesign 変換修復ツール』ダイアログが表示されますので、[次へ] をクリックします。

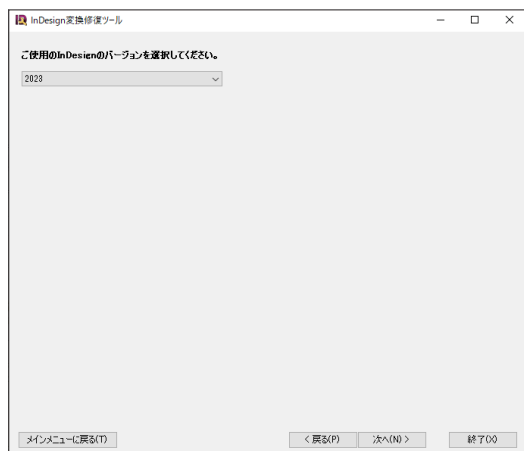


『InDesign 変換修復ツール』選択時のメッセージ

『ツール』メニューから『InDesign 変換修復ツール』を選択した際、下記メッセージが表示される場合があります。表示された場合は[はい] をクリックしてください。

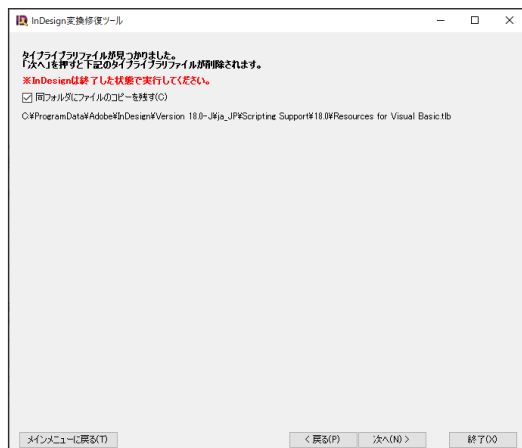


- 2 InDesign のバージョンを選択して、[次へ] をクリックします。

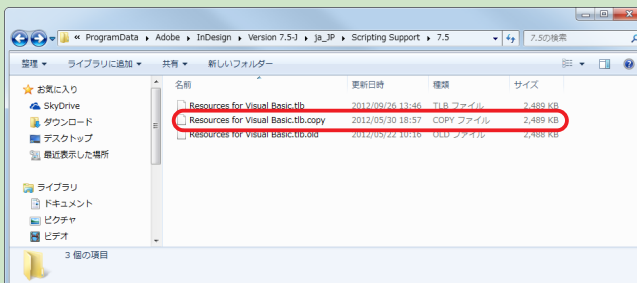


3 タイプライブラリファイルが見つかった場合、削除確認画面が表示されます。[次へ] をクリックするとタイプライブラリファイルが削除されます。

※ InDesign は終了した状態で実行してください。

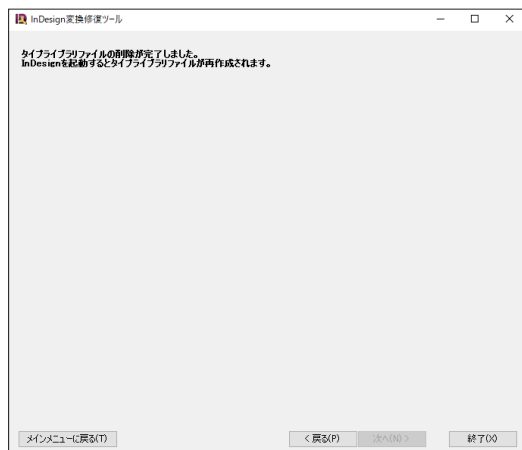


『同フォルダにファイルのコピーを残す』の ☐ を ☒ にすると、削除実行直前のタイプライブラリファイルが保存されます。



4 削除完了メッセージが表示されますので、[終了] をクリックしてダイアログを終了します。

※削除完了後、InDesign を起動すると、タイプライブラリファイルが再作成されます。



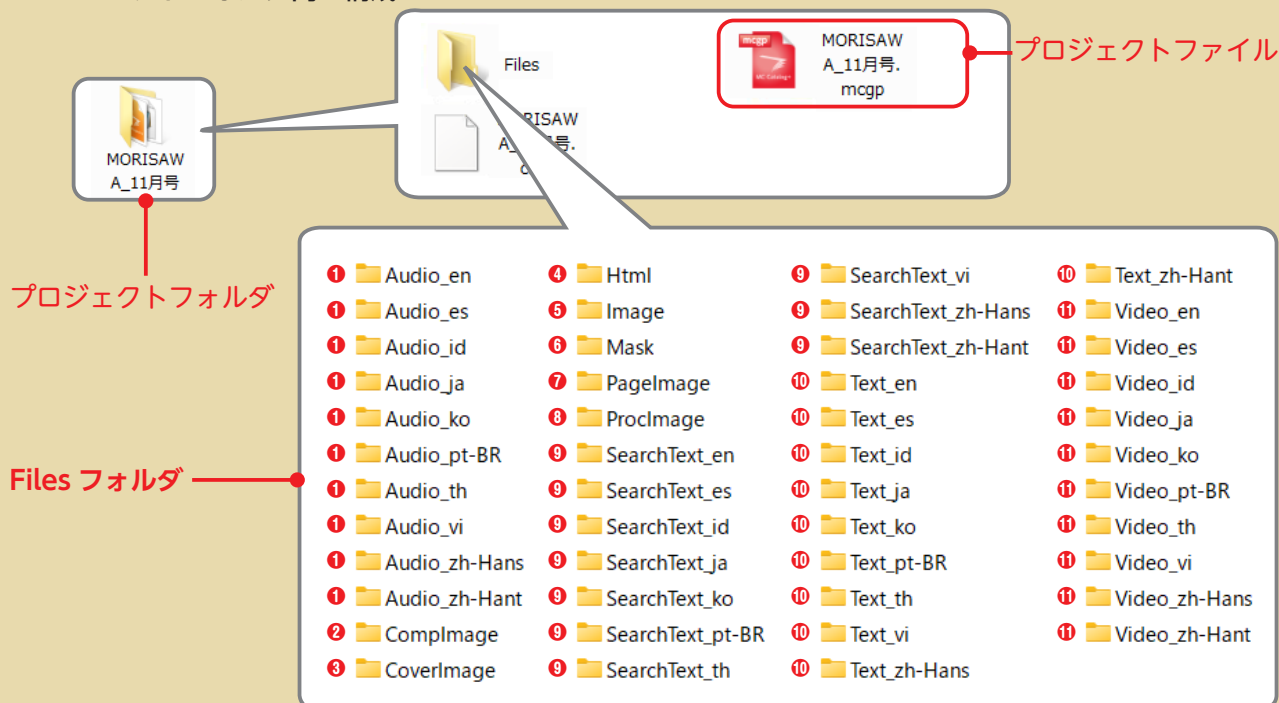
プロジェクトの作成と管理

MCCatalog+ Maker では、1 つの電子配信コンテンツを作成する際『プロジェクト』として管理します。1 つのプロジェクトからは 1 つの電子配信コンテンツが作成できます。

プロジェクトとは

電子配信コンテンツを作成するために、プロジェクトを作成します。プロジェクトを作成するとプロジェクト用のフォルダが自動的に生成されます。プロジェクトフォルダには 1 つのプロジェクトファイル (.mcgp) と Files フォルダが含まれます。Files フォルダの中にはシート画像や各イベントに使用するファイルを格納するフォルダが含まれます。

プロジェクトフォルダ内の構成



- ① **Audio フォルダ**：イベントに利用する音声ファイルを保存します。
- ② **ComplImage フォルダ**：テキスト内で使用する画像ファイルを保存します。
- ③ **CoverImage フォルダ**：電子配信コンテンツの表紙に利用する画像ファイルを保存します。
- ④ **Html フォルダ**：イベントに利用する HTML パッケージファイルを保存します。
- ⑤ **Image フォルダ**：イベントに利用する画像ファイルを保存します。
- ⑥ **Mask フォルダ**：ページマスク、フレームの塗りつぶしに指定した画像ファイルを保存します。
- ⑦ **PageImage フォルダ**：シート画像に利用する画像ファイルを保存します。
- ⑧ **ProclImage フォルダ**：切り取り画像作成用に出力された高解像度ページ画像ファイルを保存します。
- ⑨ **SearchText フォルダ**：検索用テキストファイルを保存します。
- ⑩ **Text フォルダ**：イベントに利用するテキストファイルを保存します。
- ⑪ **Video フォルダ**：イベントに利用する動画ファイルを保存します。

※ Audio / Image / Text / SearchText / Video フォルダは、言語ごとに分かれています。言語ごとのフォルダに格納されているファイル名は、同じである必要があります。

(例：日本語テキスト「Text_ja\Source0001.txt」に対応する英語テキストは、「Text_en\Source0001.txt」になります)

プロジェクトの作成

- 1 プロジェクトを作成するにはメイン画面ツールバーのをクリックします。または、『ファイル』メニューの『プロジェクトの新規作成』を選びます。
- 2 プロジェクト名、保存場所を入力して [OK] をクリックします。



①プロジェクト名

作成する電子配信コンテンツの管理名として、プロジェクトの名前を入力します。

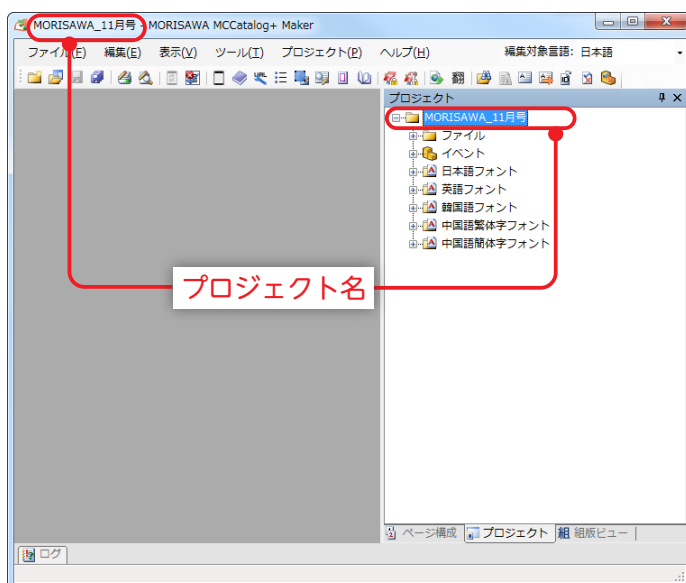
②場所

[参照] をクリックして、プロジェクトデータを保管するフォルダを指定します。

③綴じ方向

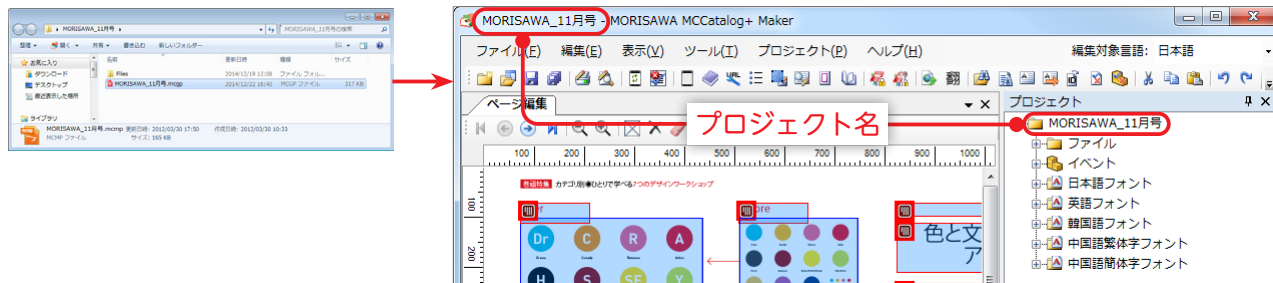
綴じ方向を選択します。

- 3 保存場所にプロジェクトと Files フォルダが作成され、プロジェクトパネルにプロジェクト、ファイル、イベント、フォントフォルダが表示されます。



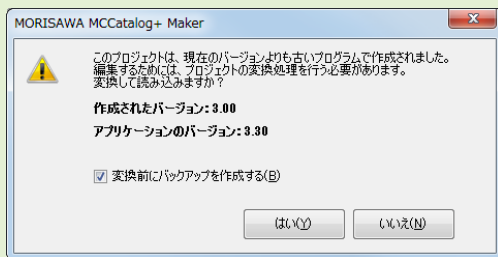
プロジェクトを開く

- 1 既存のプロジェクトを開くにはメイン画面のツールバーのをクリックするか、『ファイル』メニューの『プロジェクトを開く』を選びます。
- 2 プロジェクトファイル (.mcgp) を選択し、[開く] をクリックします。



注意

MCCatalog+ Maker Ver. 3.20 以下のバージョンで作成されたプロジェクトを開いた場合、次のメッセージが表示されます。



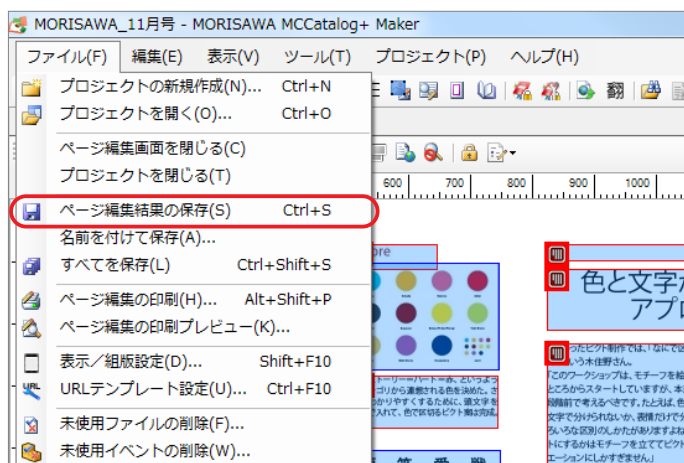
[はい] を選択した際、画像表示イベントで言語ごとに異なる画像を指定している場合に、全言語共通の画像に変更されますので、ご注意ください。
『変換前にバックアップを作成する』にチェックを入れた場合、設定されていた画像は、プロジェクトフォルダ内の『Files_Backup』フォルダに保存されます。

ファイル、プロジェクトの保存

作成、編集したファイルとプロジェクトの保存を行います。

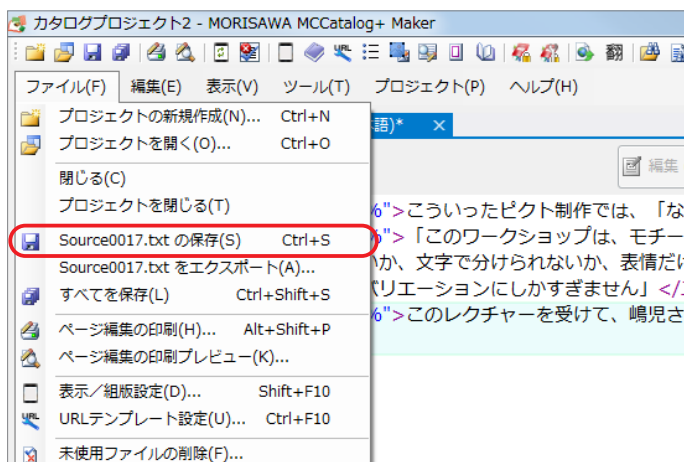
ページ編集タブでの編集のみを保存

ページ編集パネルを表示した状態で、メイン画面のツールバーのをクリックするか、『ファイル』メニューの『ページ編集結果の保存』を選択します。



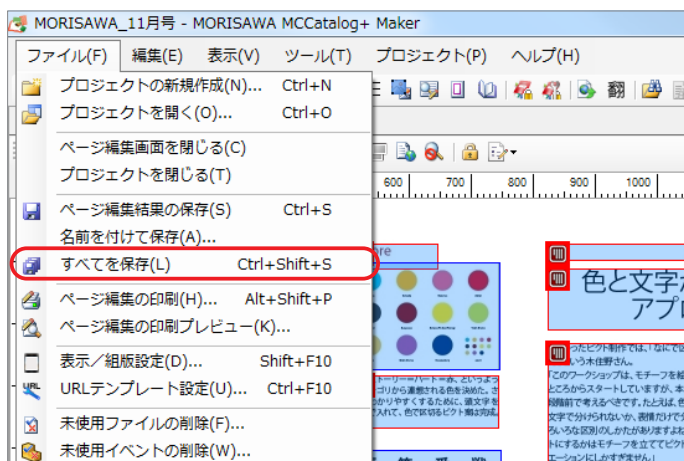
テキストエディタタブでの編集のみを保存

テキストエディタパネルを表示した状態で、メイン画面のツールバーのをクリックするか、『ファイル』メニューの『<テキストファイル名.txt>の保存』を選択します。別名で保存する場合は『ファイル』メニューの『<テキストファイル名.txt>をエクスポート』を選択します。



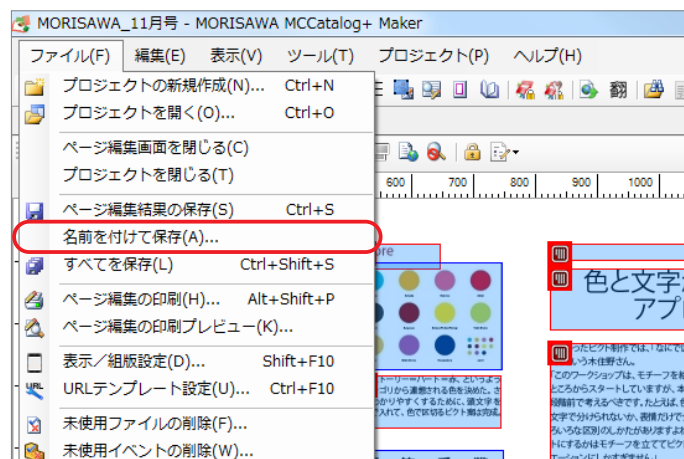
編集中のプロジェクト、ページ編集およびテキストエディタでの編集全てを保存

メイン画面のツールバーのをクリックするか『ファイル』メニューの『すべてを保存』を選択します。



プロジェクトファイルを別名で保存

『ファイル』メニューの『名前を付けて保存』を選択します。

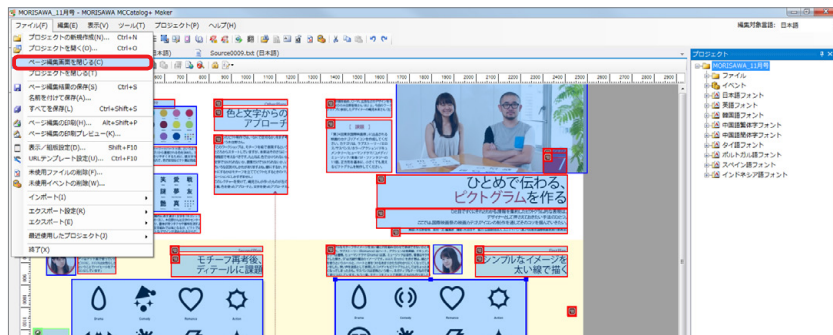


ファイルおよびプロジェクトを閉じる

作成、編集したファイルとプロジェクトを閉じます。

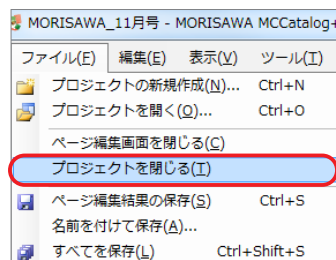
編集中のページ編集タブ、テキストエディタタブを閉じる

それぞれのパネルの  をクリックするか、『ファイル』メニューの『ページ編集画面を閉じる』または『閉じる』を選択します。



編集中のプロジェクトを閉じる

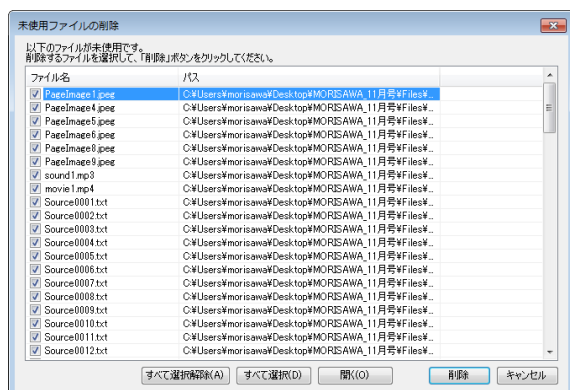
『ファイル』メニューの『プロジェクトを閉じる』を選択します。



未使用ファイルの削除

プロジェクトに登録されているファイルの中で、使用されていないファイルをすべて削除します。

- 1 『ファイル』メニュー『未使用ファイルの削除』を選択するか、メイン画面のツールバーの  をクリックします。
- 2 『未使用ファイルの削除』ダイアログに現在、使用されていないファイルの一覧が表示されますので、削除するファイルを  にし、[削除] をクリックして削除します。



重要!

未使用ファイル

プロジェクト内で使用されていないファイルを削除せずに MCG ファイルをエクスポートしても使用されていないファイルが含まれることはありません。

InDesign、InDesign+PDF、PDF、EPUB のインポート

MCCatalog+ Maker では、InDesign ドキュメント・PDF ファイル・EPUB ファイルのインポートを行うことができます。また、インポートするデータは以下の3つのパターンがあります。

※インポートする際、言語を指定できます。日本語のテキストとしてインポートした場合は、日本語のテキストから自動翻訳ツールを利用して、多言語（日本語以外の言語）のデータを作成することができます。自動翻訳ツールは、多言語から日本語への翻訳はできません。

※人力翻訳用データのインポートについては、p.227 をご参照ください。

InDesign ドキュメントのみ

InDesign ドキュメントのみをインポートした場合は、インポートされた InDesign ドキュメントのページ画像からシート画像を自動的に作成します。

重要!

InDesign データの使用フォントが PC にインストールされていない場合、そのフォントは InDesign で初期値に指定されているフォントに置換して画像化します。

InDesign ドキュメント+ PDF ファイル

インポートを実行する PC に InDesign ドキュメントで使用しているフォントがインストールされていない場合でも、PDF ファイルを利用してシート画像の生成を行うことで誌面を再現することができます。InDesign ドキュメントと一緒に PDF ファイルをインポートすることで、PDF ファイルのページ画像をシート画像として取り込むことができます。

PDF ファイルのみ

PDF ファイルのみをインポートした場合は、PDF ファイルのページ画像をシート画像として取り込みます。ドキュメント変換設定を変更することで、テキスト表示イベントの自動生成を行うことも可能です。

注意

PDF ファイルのインポートでテキストを取り込む場合は、取り込み後のテキストに問題がないか、確認することをお勧めします。テキストの順番など、意図しない取り込み結果となっている場合があります。

EPUB ファイル

固定型 EPUB ファイルをインポートします。

InDesign、PDF のインポートの条件

InDesign ドキュメント、PDF ファイルのインポートには下記のシステムが必要です。

InDesign

- ・インポート可能なドキュメントバージョンは、CS2 ～ 2025 です。
- ・インポート時には、インポートを実行する Windows PC に InDesign 2023 または、2024、2025 と、メイリオフォントがインストールされている必要があります。
- ・MCCatalog+ Maker のインストール時に PC にインストールされている InDesign と同じバージョンのプラグインをインストールする必要があります。

注意

インポート条件

PC にインストールされている InDesign より上位のバージョンで作成されたドキュメントは、インポートできません。その他、最新のインポート条件はモリサワホームページでご確認ください。

InDesign および、PDF

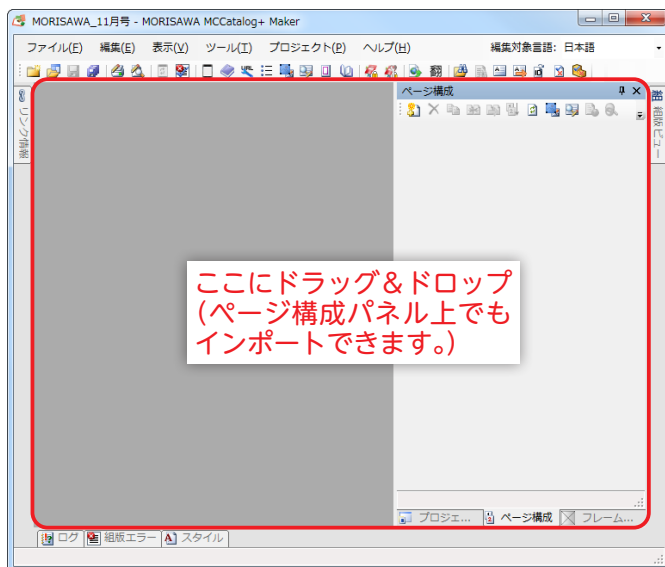
- ・ InDesign および、InDesign+PDF、PDF ファイルのインポートに Photoshop を使用する場合は、インポートを実行する Windows PC に Adobe Photoshop 2023 または、2024、2025 がインストールされている必要があります。
- ・ Photoshop を使用しない場合は、Adobe Photoshop のインストールは不要です。

注意

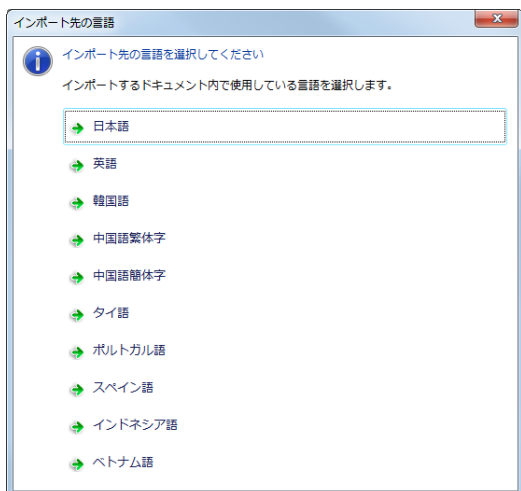
インポートを実行する PC にはメイリオフォントをインストールしてください。InDesign ドキュメントに使用されているフォントがインポートを実行する PC にインストールされておらず、メイリオフォントもインストールされていない状態で校正機能を利用した場合、正常に校正要素を検出できないことがありますのでご注意ください。

InDesign のインポート

- 1 変換する InDesign ドキュメントに配置画像のリンク切れがないか確認します。
- 2 すべての InDesign ドキュメントを閉じておきます。
- 3 MCCatalog+ Maker にプロジェクトを作成し、ページ編集パネル、テキストエディタパネルのタブがすべて閉じられていることを確認します。また、『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を設定しておきます。
- 4 インポートする InDesign ドキュメント、または InDesign ドキュメントを含むフォルダを選択して、画面にドラッグ&ドロップします。
または、『ファイル』メニューの『インポート』で『InDesign ドキュメント』を選択し、ファイルを選択して、[開く] をクリックします。



- 5 『インポート先の言語』ダイアログが表示されますので、InDesign ドキュメント内の文章に使われている言語を選択します。



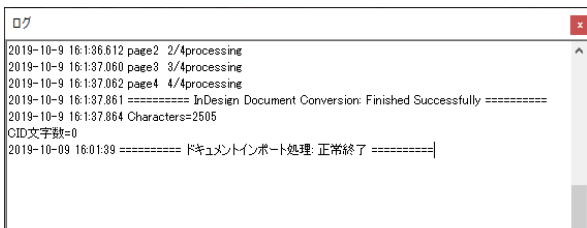
- 6 InDesign ドキュメント以外に PDF ファイルが含まれている場合、『インポート対象の指定』ダイアログが表示されますので『InDesign ドキュメントのみ』を選択してください。



注意

InDesign ドキュメントのみ、または、PDF ファイルのみの場合、『インポート対象の指定』ダイアログは表示されません。

- 7 ログパネルにインポートの経過が表示されます。



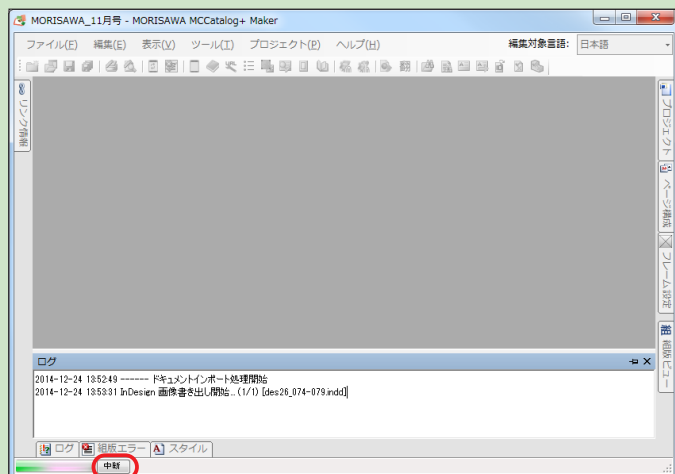
インポート時のメッセージ

InDesign ドキュメントをインポートする際、下記メッセージが表示される場合があります。下記メッセージが表示された場合は、InDesign で開いているドキュメントをすべて閉じてから、再度インポート処理を行ってください。



インポートの中断

InDesign ドキュメントのインポートで、画像書き出し処理中に「中断」をクリックすると、インポートを中断することができます。



注意

文字色の輝度補正

MCCatalog+ Maker Ver. 2.50 以降で作成したプロジェクトにインポートする場合、文字色の輝度補正を行います。

視認性を上げるため、白色に近い文字色は輝度を下げてインポートされます。

注意

変換後の字形

MCCatalog+ Maker では Adobe-Japan1-6N (JIS2004) 仕様字形で表示します。ドキュメントデータとは異なる字形で表示される場合がありますので、JIS2004 字形、CID コード、字形変換対象文字についてはテキストエディタ、組版パネルの色表示文字を確認してください。

注意

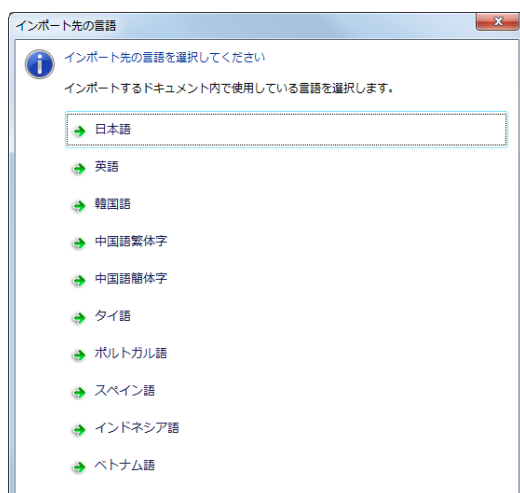
テキストの取り込みについて

InDesign ドキュメントにオーバーセットテキストがある場合、表示されていない文字はインポートされませんのでご注意ください。使用フォントがインストールされていない場合にフォントが置換されて、オーバーセットテキストとなる場合があります。

また、非表示のレイヤーに含まれているテキストはインポートされません。ただし、連結しているフレームの一部が非表示になっている場合で、かつ、テキストが表示フレームと非表示フレームをまたいでいる場合、フレームをまたいでいるテキストは、段落開始位置のフレームの表示状態にしたがってインポートされます。(連結しているフレームすべてを非表示にしている場合や、すべてを表示している場合は、問題ありません。)

InDesign+PDF のインポート

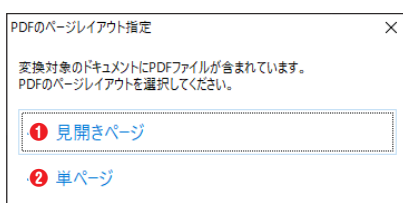
- 1 変換する InDesign ドキュメントに配置画像のリンク切れがないか確認します。
- 2 すべての InDesign ドキュメントを閉じておきます。
- 3 MCCatalog+ Maker にプロジェクトを作成し、ページ編集パネル、テキストエディタパネルのタブがすべて閉じられていることを確認します。また、『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を設定しておきます。
- 4 インポートする InDesign ドキュメント、PDF ファイルが含まれているフォルダまたは、インポートする InDesign ドキュメントと PDF ファイルの両方を選択して、画面にドラッグ&ドロップします。
または、『ファイル』メニューの『インポート』で『InDesign ドキュメント + PDF ファイル』を選択し、ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
- 5 『インポート先の言語』ダイアログが表示されますので、InDesign ドキュメントおよび PDF ファイル内の文章に使われている言語を選択します。



- 6 『インポート対象の指定』ダイアログが表示されますので『InDesign ドキュメントと PDF ファイル』を選択してください。



- 7 『PDF のページレイアウト指定』ダイアログが表示されますので、PDF ファイルの種類を選択します。



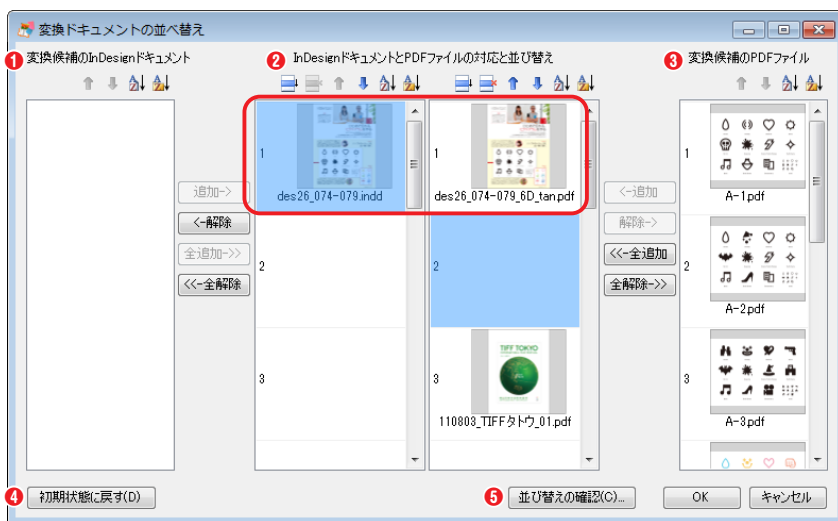
①見開きページ

PDF ファイルが見開きページで作成されている場合に選択します。

②単ページ

PDF ファイルが単ページで作成されている場合に選択します。

- 8 『変換ドキュメントの並び替え』ダイアログが表示されますので、『InDesign ドキュメントと PDF ファイルの対応と並び替え』画面を見ながら、インポートしたい InDesign ドキュメントと PDF ファイルを取捨選択し、表示順番を一致させます。[<- 追加] [解除->] [<<- 全追加] [全解除->>] で、変換するドキュメントを選択します。[] ボタンで、選択したドキュメントを並び替えます。



① 変換候補の InDesign ドキュメント

このウィンドウから、変換する InDesign ドキュメントを選択します。このウィンドウにあるドキュメントはインポートされません。

② InDesign ドキュメントと PDF ファイルの対応と並び替え

左側のウィンドウに変換される InDesign ドキュメントが表示されます。右側のウィンドウに変換される PDF ファイルが表示されます。

③ 変換候補の PDF ファイル

このウィンドウから、変換する PDF ファイルを選択します。このウィンドウにあるファイルはインポートされません。

④ 初期状態に戻す

インポートした最初の状態に戻ります。

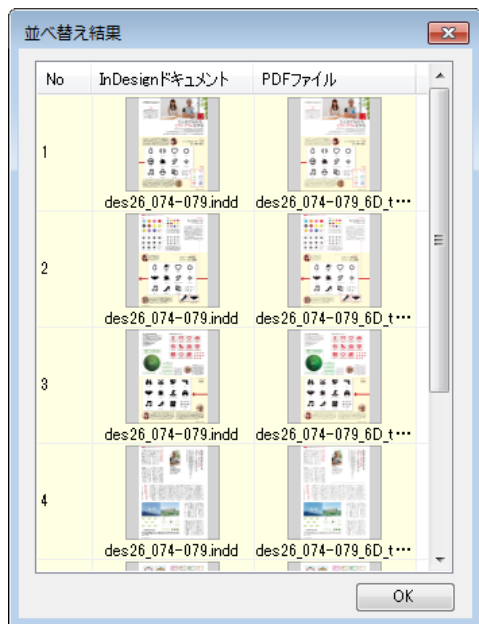
⑤ 並び替えの確認

設定した InDesign ドキュメントと PDF ファイルの並び順を確認することができます。

並び替えに使用するボタン

	空白行の挿入
	空白行の削除
	上に移動
	下に移動
	ファイル名でソート
	フォルダ名でソート
	追加
	解除
	全追加
	全解除

- 9 [並び替えの確認] をクリックすると『並べ替え結果』ダイアログが表示されますので、ページの順番を確認します。[OK] をクリックすると、『変換ドキュメントの並び替え』ダイアログに戻ります。



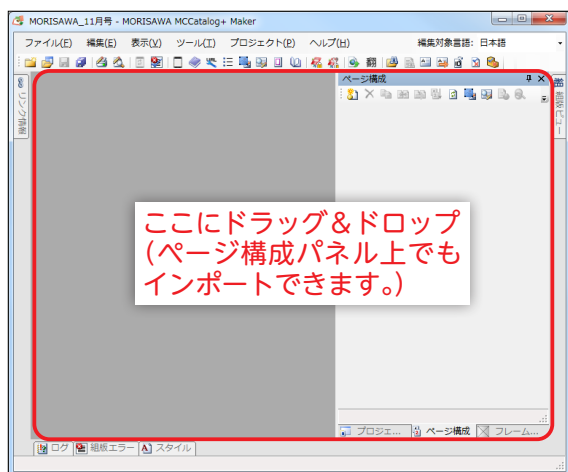
重要!

PDF ファイルが『単ページ』の場合、InDesign ドキュメントも単ページで並び替え結果を表示します。ただし、InDesign ドキュメントが『見開き』で作成されている場合、インポート後は見開きの状態となります。

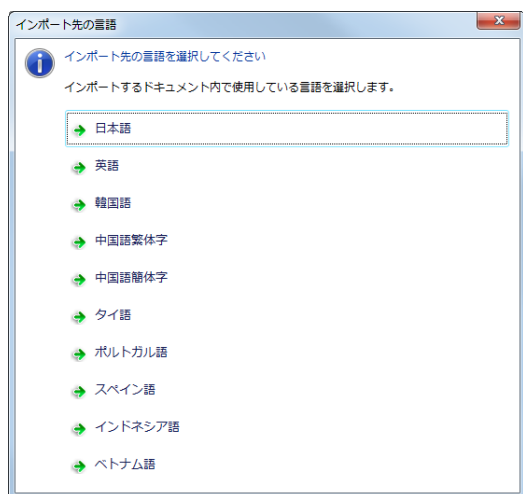
- 10 [OK] をクリックすると、インポートされます。

PDF のインポート

- 1 MCCatalog+ Maker にプロジェクトを作成し、ページ編集パネル、テキストエディタパネルのタブがすべて閉じられていることを確認します。また、『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を設定しておきます。
- 2 インポートする PDF ファイルが含まれているフォルダまたは、インポートする PDF ファイルを選択して、画面にドラッグ&ドロップします。または、『ファイル』メニューの『インポート』で『PDF ファイル』を選択し、ファイルを選択して、[開く] をクリックします。



- 3 『インポート先の言語』 ダイアログが表示されますので、PDF ファイル内の文章に使われている言語を選択します。

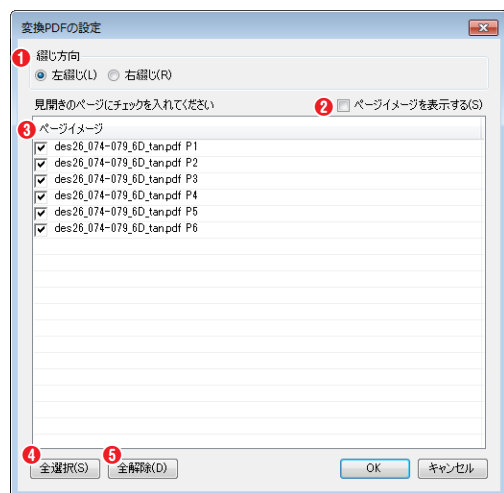


- 4 PDF ファイル以外に InDesign ドキュメントが含まれている場合、『インポート対象の指定』 ダイアログが表示されますので、『PDF ファイルのみ』を選択してください。



- 5 『変換 PDF の設定』 ダイアログが表示されます。

※複数の PDF ファイルをインポートした場合は先に『変換ドキュメントの並べ替え』ダイアログが表示されます。



1 綴じ方向

綴じ方向を『左綴じ』『右綴じ』から選択します。

2 ページイメージを表示する

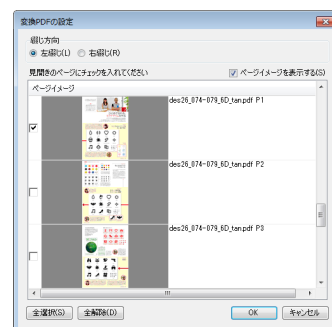
☒の場合、「ページイメージ」ウィンドウに見開き、または単ページに設定するページ画像を表示します。

3 ページイメージ

インポートした PDF ファイルのページ一覧を表示します。また、見開きのページに☒を入れます。

4 全選択

『ページイメージ』のすべてのページのチェックを☒にします。



5 全解除

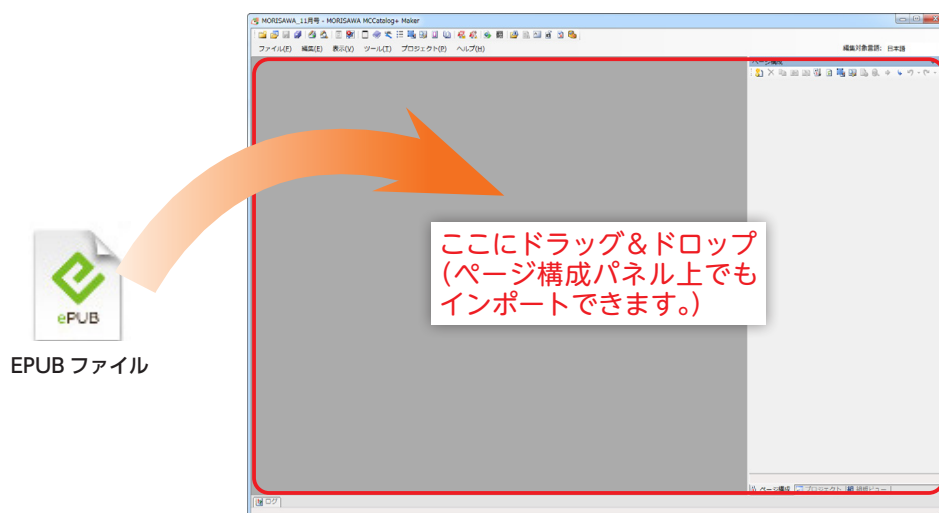
『ページイメージ』のすべてのページのチェックを☐にします。

- 6 [OK] をクリックすると、インポートされます。

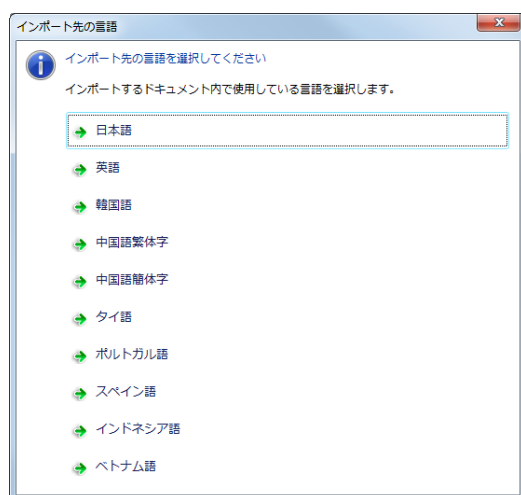
EPUB ファイルのインポート

ページを画像で表現した固定レイアウトの EPUB ファイルをインポートすることができます。

- 1 『ファイル』メニューの『プロジェクトの新規作成』を選択し、プロジェクトを作成します。ページ編集パネルのタブが閉じられていることを確認します。
- 2 『ファイル』メニューの『インポート』で『EPUB ファイル』を選択し、インポートするファイルを選択します。または、インポートする EPUB ファイルを選択して、画面にドラッグ&ドロップします。



- 3 『インポート先の言語』ダイアログが表示されますので、EPUB ファイル内の文章に使われている言語を選択します。

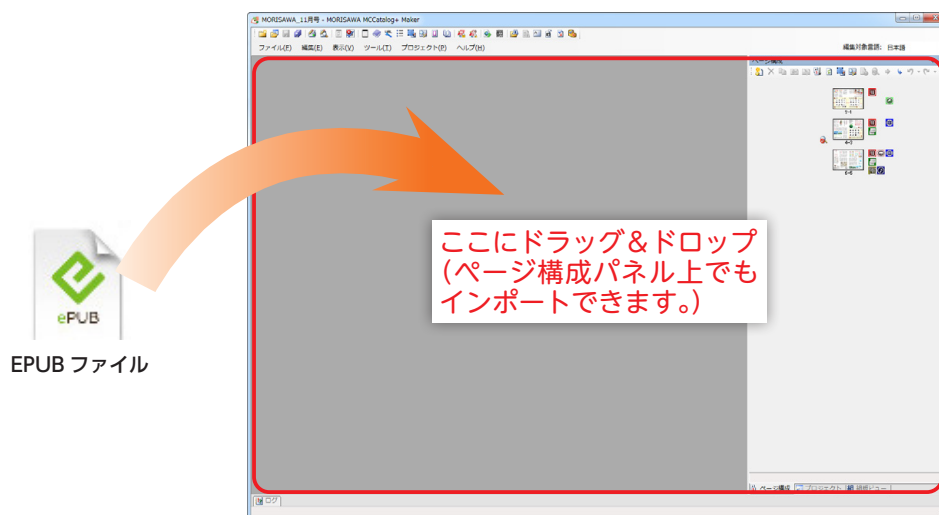


- 4 [はい] をクリックすると、インポートされます。

追加のインポート（EPUB ファイル）

MCCatalog+ Maker ですでにインポートしたデータがあるプロジェクトに EPUB ファイルを追加します。

- 1 インポート済みのプロジェクトを開きます。
- 2 『ファイル』メニューの『インポート』で『EPUB ファイル』を選択し、インポートするファイルを指定して、[開く] をクリックします。または、追加したい EPUB ファイルをドラッグ&ドロップします。



- 3 ページの最後に、追加したファイルがインポートされます。

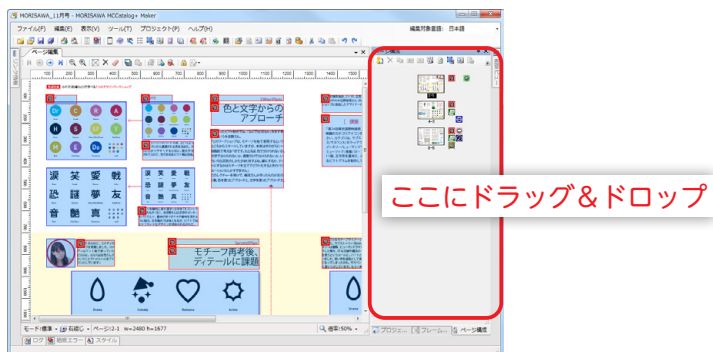
EPUB ファイルからインポートする要素

- ページ画像…JPEG ファイルとしてインポートします。見開きページは左右のページを結合して一枚の画像に変換します。
- クリックブルマップ…URL リンク・ページリンク情報をインポートします。
- 書誌情報…書誌名・書誌名かな・出版社名・出版社名かな・著者名・著者名かなをインポートします。仮名のカタカナはひらがなに変換されます。
- 綴じ方向…EPUB に設定されている綴じ方向をインポートします。
- 目次…OPF ファイルに目次ファイル (nav) が指定されている場合に目次情報をインポートします。
- 表紙画像…OPF ファイルに表紙画像 (cover-image) が指定されている場合に表紙画像をインポートします。

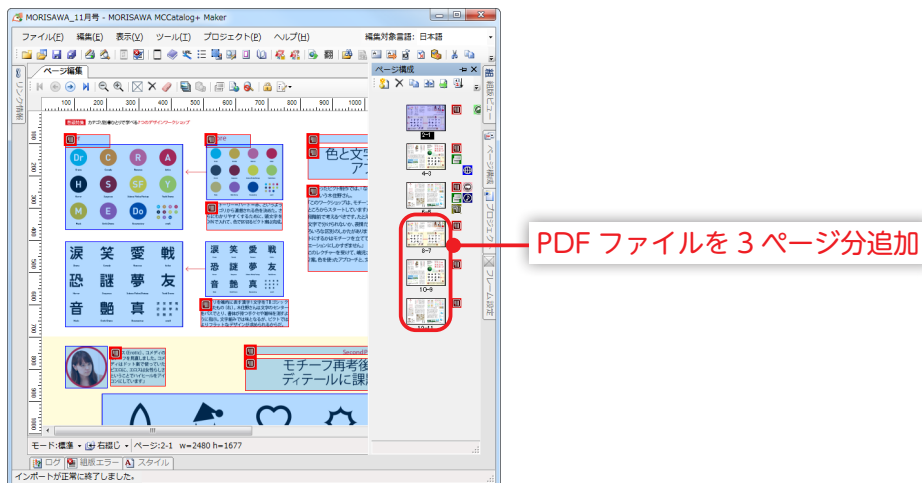
追加のインポート (InDesign ドキュメント・PDF ファイル)

すでに InDesign ドキュメントや PDF ファイルがインポートされているプロジェクトにファイルを追加します。

- 1 すべての InDesign ドキュメントを閉じておきます。
- 2 変換する InDesign ドキュメントに配置画像のリンク切れがないか確認します。
- 3 MCCatalog+ Makerですでにインポートしたデータがあるプロジェクトを開き、『ツール』メニューの『ドキュメント変換設定』を設定しておきます。
- 4 インポートする InDesign ドキュメント、PDF ファイルを含むフォルダまたは、インポートする InDesign ドキュメント、PDF ファイルまたは InDesign ドキュメントと PDF ファイルの両方を選択して、『ページ構成』パネルにドラッグ&ドロップします。
または、『ファイル』メニューの『インポート』で『InDesign ドキュメント』か『PDF ファイル』または『InDesign ドキュメント+ PDF ファイル』を選択し、ファイルを選択して、[開く] をクリックします。



- 5 インポートしたファイルに合わせて、『InDesign のインポート』の手順 5～6、『InDesign+PDF のインポート』の手順 5～9 または『PDF のインポート』の手順 3～5 を行います。
- 6 すでにあるページの後に、インポートしたファイルが追加されます。



InDesign ドキュメントからインポートする要素

『ツール』メニュー『ドキュメント変換設定』の設定内容によってインポートする要素は変わります。

- テキスト、オブジェクトの各フレーム（配置、サイズ）
- ページ画像…1 ページ全体の内容（テキスト、オブジェクトフレーム）を1枚の画像とし、JPEGに変換します。
- テキストフレーム（ボックス）内の文字…文字コードはUnicodeテキスト（UTF-16 LE）。
- ルビ…InDesignのモノルビは熟語ルビとしてインポートします。InDesignのグループルビはそのままの指定でインポートします。
- 異体字…CIDコード（<CID code = "5桁の数字"/>）で表現します。
- 縦中横指定（自動縦中横、縦組み中の欧文回転）
- 文字属性（文字サイズ、カラー）、行属性（揃え、インデント、行送り）
- 改行、改段、改ページ指定
- 段落スタイル、文字スタイル
- アンダーライン、上付き、下付き設定
- 表組

- × InDesignの字送り、分離禁止はインポートしません。
- × InDesignのマスタアイテムはインポートしません。
- × InDesignのベジェラインオブジェクトはインポートしません。
- × InDesignのオーバーセットテキスト（表示されていない文字）はインポートしません。

重要!

InDesign ドキュメントの表組のインポートについて

『ツール』メニューから『ドキュメント変換設定』を選択し『機能』タブの『コマンド』で表組のインポートの指定でインポートされる内容が変わります。

- ・  指定された場合…表組コマンド <TABLE> に変換されます。
- ・  指定されない場合…表組コメント <!-- idtable -->（表組が存在したというマーク）に変換されます。

※表組のみのテキストフレームは、『ドキュメント変換設定』の『フレーム』タブで『指定の文字数以下のテキストフレームを除外する』が ☒ の場合、表組コメント <!-- idtable --> は表示されません。

表組コマンド <TABLE>・表組コメント <!-- idtable --> は、『編集』メニューから『フォルダを指定して検索』で検索を行うことができます。

※校正機能では表組コマンドか表組コメントのいずれかが存在すれば表組フレームとしてハイライトされます。

埋め込みフォントについて

MCCatalog+ Maker では、以下の画像の通り、言語ごとに1～3書体のフォントが利用できます。

電子配信コンテンツをエクスポートする際、出力指定した言語のフォントのみ、電子配信コンテンツに埋め込まれます。

※テキスト中で太字を指定している場合は、その言語の太字用フォントも埋め込まれます。



重要!

各言語のフォントを変更することはできません。

ページ構成の編集

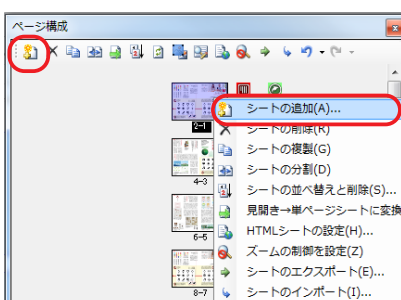
プロジェクトにシートの追加、削除などページ構成の編集を行います。

シートの追加、削除

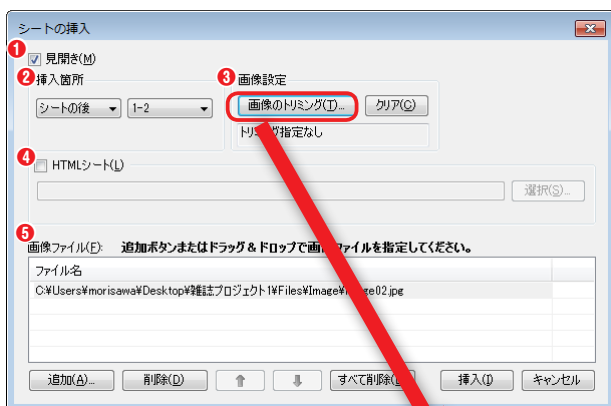
プロジェクトにシートを追加、またプロジェクトからシートを削除します。

シートの追加

- 1 ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの追加』を選択します。



- 2 表示された『シートの挿入』ダイアログで追加するファイル、挿入箇所などを指定し、挿入します。



1 見開き

☒の場合、見開きのページシートを追加します。

2 挿入箇所

シートを挿入する位置を指定します。

3 画像設定

『画像のトリミング』をクリックすると、画像のトリミング設定画面が開きます。

『クリア』をクリックすると設定を解除します。

4 HTML シート

ページを HTML ファイルで表示したい場合は、☒にし、HTML パッケージファイルを選択します。

※見開きページに HTML パッケージを設定することはできません。

5 画像ファイル

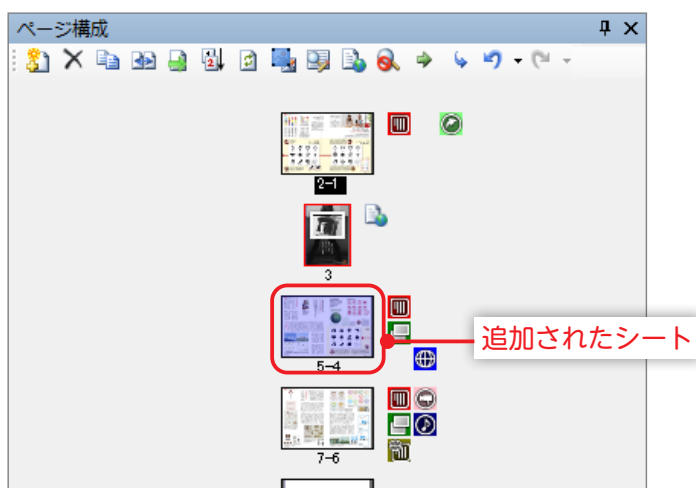
『追加』をクリックまたはファイルをドラッグ&ドロップして『画像ファイル』を指定します。

※対応している画像ファイル形式は JPEG、PNG、ビットマップです。



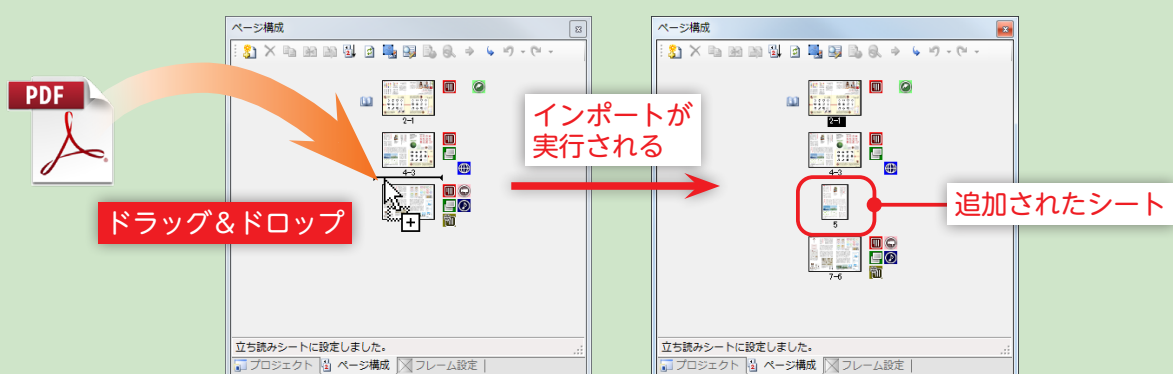
HTML シートを指定した場合、『画像ファイル名』に指定したファイルはサムネイル画像としてのみ使用します。

3 指定した場所に、シートが追加されていることを確認します。



ページ構成パネルにファイルをドラッグ&ドロップで、挿入箇所を指定して挿入することができます。

■ InDesign・PDF ファイルもしくは、InDesign・PDF ファイルを含むフォルダの場合



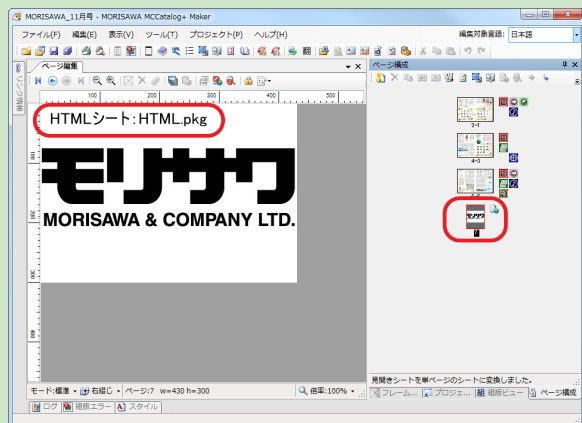
■ 画像ファイルの場合



※複数の画像を選択して、ドラッグ&ドロップすることもできます。

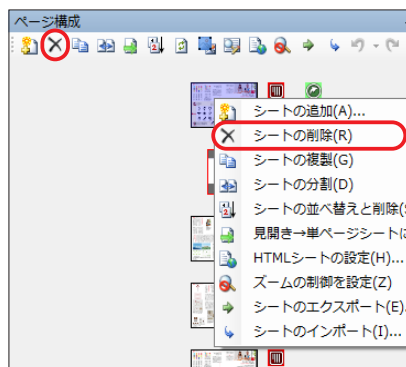
HTML シートを指定して追加

HTML シートを指定してシートを追加した場合、ページ構成パネルで追加されたシートが赤枠で囲まれ、シートの横に  が表示されます。また、ページ編集パネル上の左上に指定した HTML パッケージファイル名が表示されます。



シートの削除

- 1 削除したいシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーの  をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの削除』を選択し、シートを削除します。



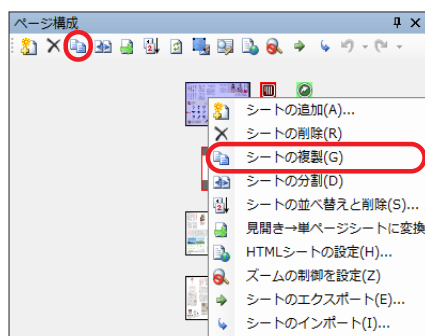
シートの複製

プロジェクトのシートを複製します。

シートの複製

- 1 複製したいシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーの  をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの複製』を選択するとシートをコピーし、元のシートの直後に追加します。

※同時に複数のシートを複製することが可能です。

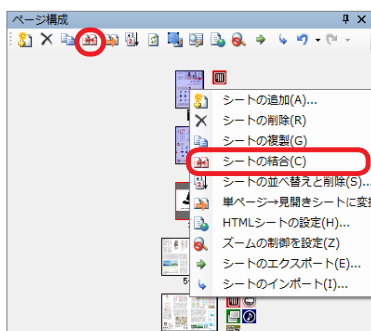


シートの結合、分割

2つの単ページシートを結合して見開きシートに設定、または、見開きシートを2つの単ページシートに分割します。

シートの結合

- 1 見開きシートとして結合したい連続した2つの単ページシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの結合』を選択します。



注意

HTML パッケージを設定しているページを含んで結合することはできません。

注意

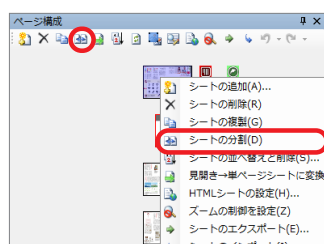
『HTML パッケージ』は、編集対象言語が「日本語」の場合のみ対応しています。

- 2 シートが結合されます。

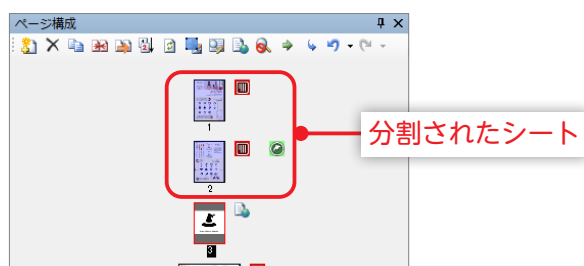


シートの分割

- 1 分割したいページのシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの分割』を選択します。

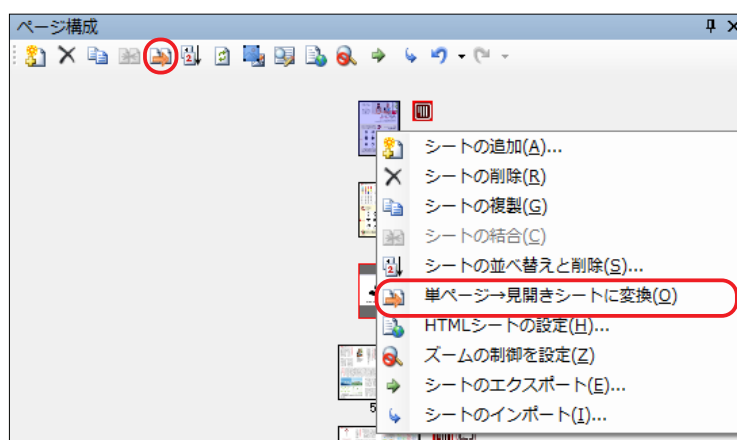


- 2 シートが分割されます。

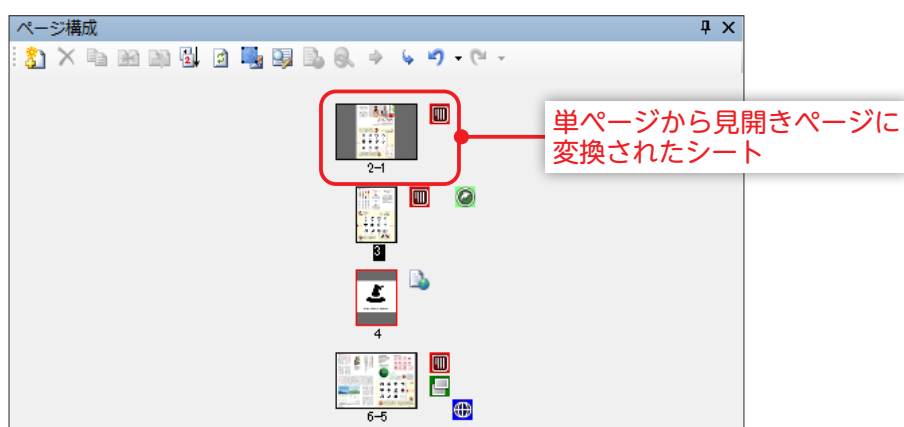


単ページ→見開きシートに変換

- 1 見開きページにしたい単ページのシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーのをクリックするかページ構成パネル内で右クリックし、『単ページ→見開きシートに変換』を選択します。

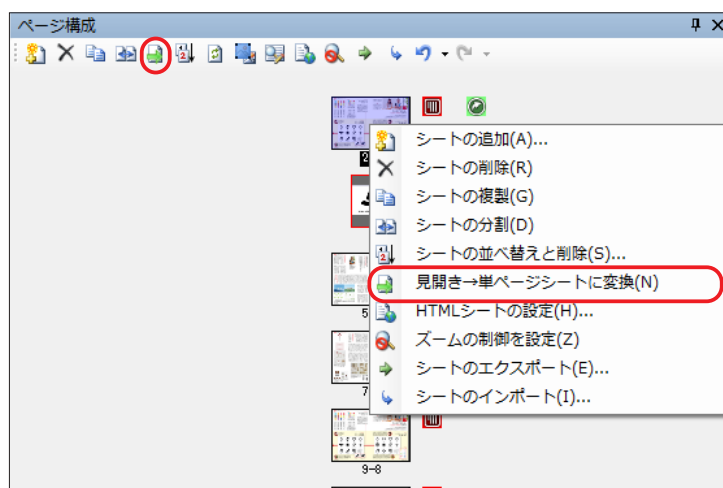


- 2 単ページが見開きページに変換されます。



見開き→単ページシートに変換

- 1 単ページにしたい見開きページのシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーのをクリックするかページ構成パネル内で右クリックし、『見開き→単ページシートに変換』を選択します。

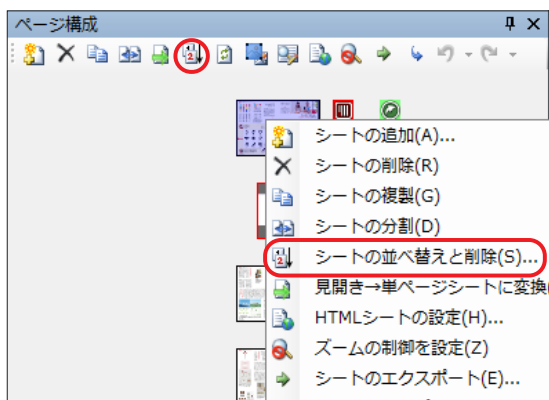


2 見開きページが単ページに変換されます。



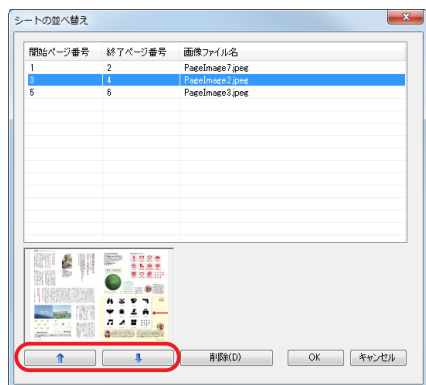
シートの並べ替え

1 ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートの並べ替えと削除』を選択します。

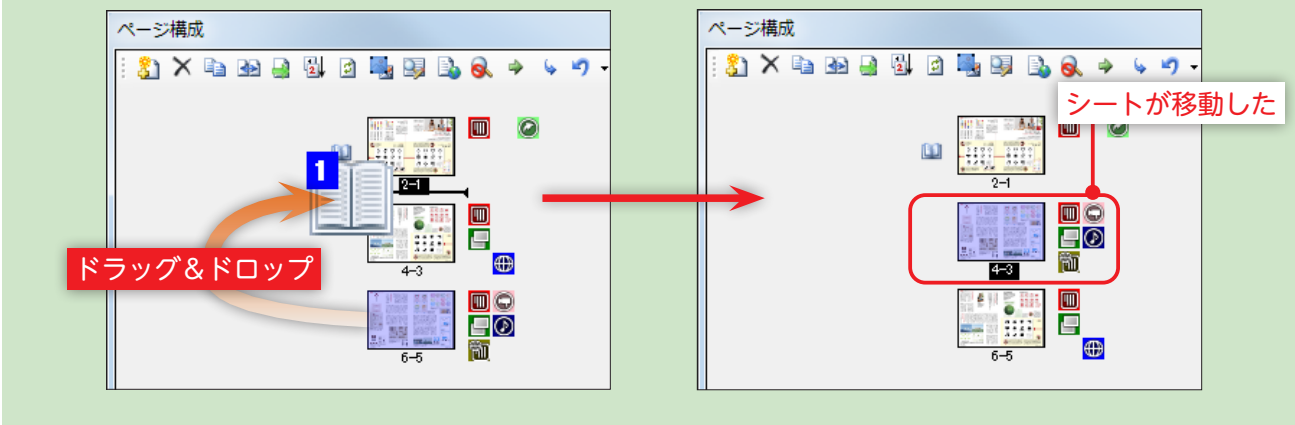


2 『シートの並べ替え』ダイアログが表示されますので、移動させたいシートを選択します。ドラッグ&ドロップ、または、 で移動します。

また、[削除] をクリックすることでシートを削除することもできます。



ページ構成パネルのシートをドラッグ&ドロップで移動することができます。



ページ構成パネルの表示の更新

ページ構成パネルでシートの追加、削除、並べ替え等の操作を行った時にすぐにパネルに反映されない場合、ページ構成パネルの表示を最新の情報に更新します。

- 1 ページ構成パネルのツールバーをクリックするとページ構成パネルの表示を更新します。

ページマスク設定

広告ページや電子配信コンテンツ化する際に表示できないページに対し、上から画像を被せて隠します。

- 1 ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、『プロジェクト』メニューの『ページマスク設定』を選択、または、ページ編集パネル内で右クリックして『ページマスク設定』を選択し、『ページマスク設定』ダイアログを表示します。



マスク画像

①画像ファイル名

ページを隠す画像ファイル名を「参照」をクリック、またはファイルを画面内にドラッグ&ドロップして指定した画像ファイルが右横に表示されます。

②マスク方法

ページのマスク方法を『通常』『中央』『ズーム』の中から選択します。

③選択ページに適用

設定した内容で選択しているページにマスク処理を行います。

④解除

ページマスク設定を適用したページの設定を解除します。

⑤選択ページのマスク画像読み込み

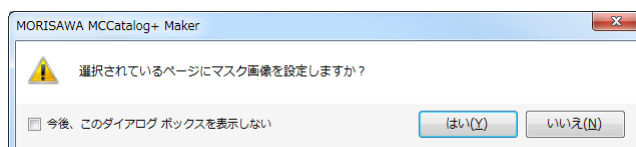
選択ページに設定されているマスク画像の情報を読み込みます。

⑥スライダー、コンボボックス、

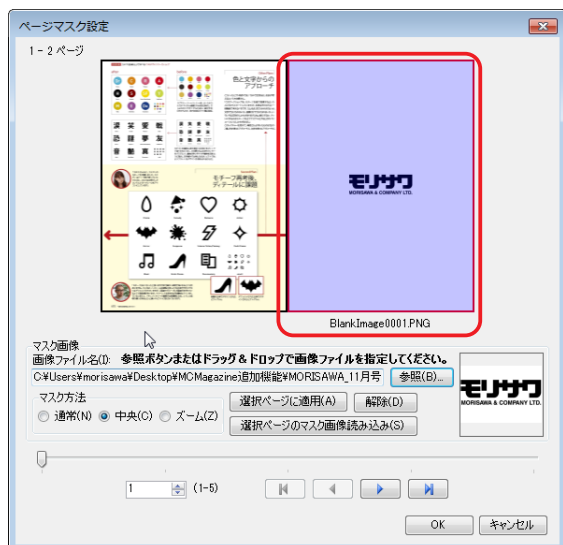
シートの移動に使用します。

- 2 スライダーを動かすか、をクリック、または、ページ番号をコンボボックスに直接入力し、マスク設定を行うシートを選択します。見開きページの場合には、表示されているシートから左右どちらかのページを選択します。

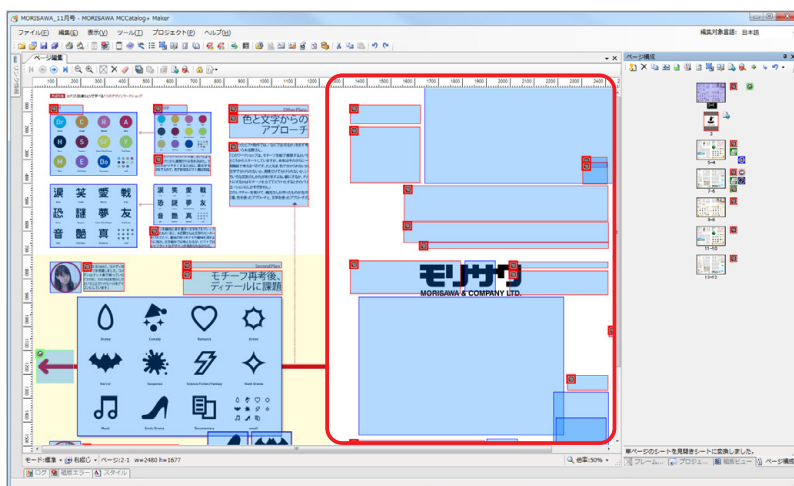
- 3 マスク画像の「参照」をクリックして『画像ファイル名』に指定します。メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



- 4 マスク方法を『通常』『中央』『ズーム』から選択し、[選択ページに適用] をクリックします。設定が終わりましたら [OK] をクリックします。



- 5 ページ編集パネルに設定が反映されていることを確認します。



注意

ページ構成パネル内のページサムネイルの表示にはページマスクの設定は反映されません。

重要!

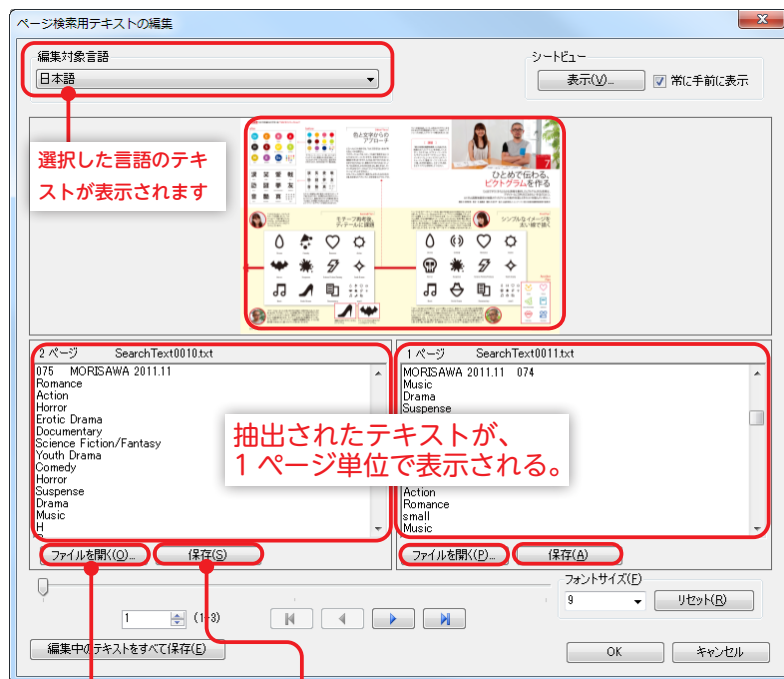
ページ編集パネルではページマスクを設定したページにあるテキストフレームやオブジェクトフレームの編集は可能です。ただし、MCG ファイルをエクスポートした際にはフレームの情報は削除されます。

ページ検索用テキストを編集する

PDF からインポートした検索用テキストの編集を行います。

※ PDF ファイルのテキストがアウトライン化されている場合、誌面検索テキストを抽出できませんのでご注意ください。

- 1 ページ構成パネルのツールバーの をクリックするか、『プロジェクト』→『ページ検索用テキストの編集』から『ページ検索用テキストの編集』ダイアログを表示します。



重要!

検索用テキストはプロジェクトの SearchText フォルダにテキストファイルとして保存されています。

『ページ検索用テキストの編集』ダイアログまたはテキストファイルに関連付けられたソフトで編集することが可能です。

注意

日本語の検索用テキストを設定した後、他の言語の検索テキストを自動翻訳ツールで翻訳することができます。翻訳結果については、必要に応じて修正してください。

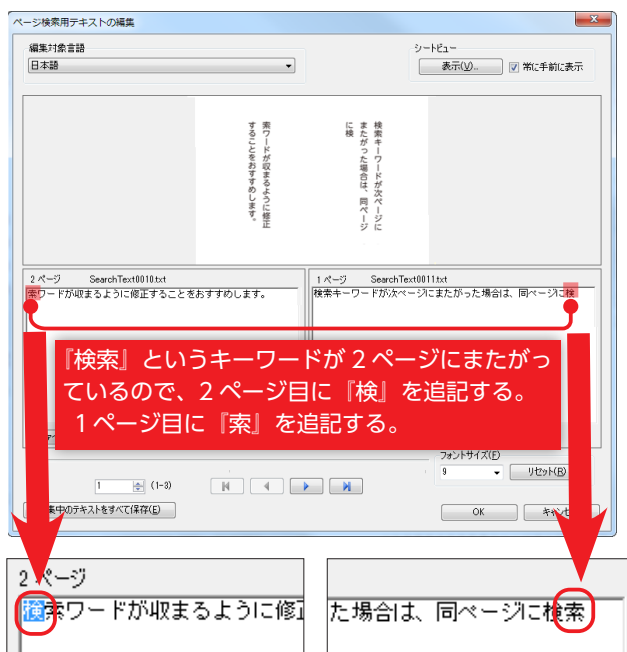
※自動翻訳ツールについては、p.33 をご参照ください。

- 2 1 ページ単位で抽出された検索用テキストに追記、削除等の編集をします。

※改行が PDF からインポートしたテキストの区切りになっています。

※エクスポート時に改行は削除されます。

『ファイルを開く』：テキストファイルに関連付けられたソフトを起動し、検索用テキストを編集します。



注意

PDF ファイルは InDesign ドキュメントのように詳細なテキストレイアウト情報を持っていません。そのため PDF からインポートしたテキストには下記のような制限があります。

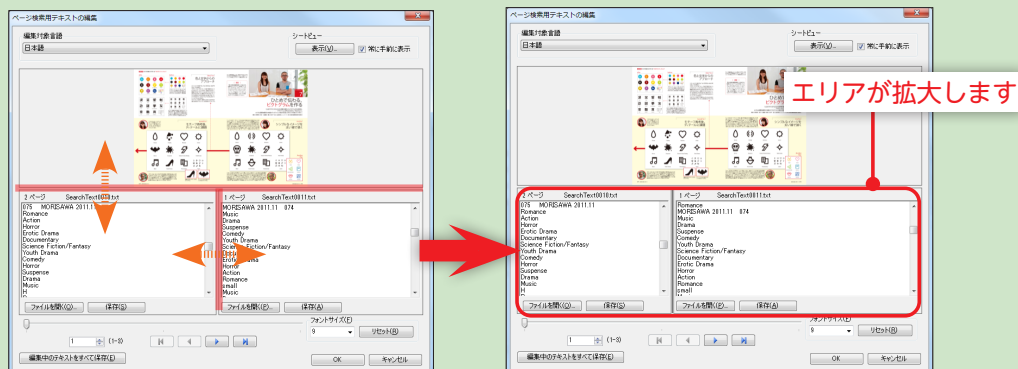
- ルビは通常のテキストとして認識されます。
- テキストが意図しない順番になる場合があります。
- ページの区切りで単語が途切れる場合があります。
- フチ文字などの文字が重複している場合があります。

必要に応じて修正してください。

- 3 編集が終わったら [OK] をクリックしてダイアログを終了します。

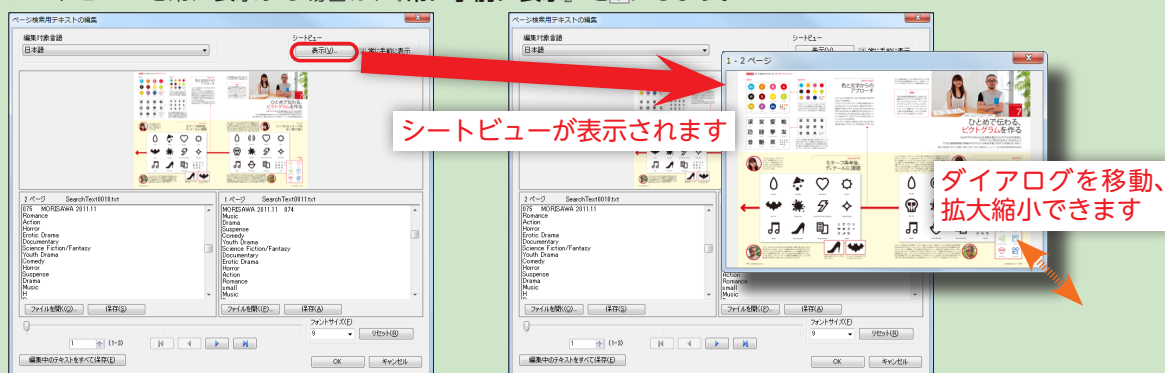
エリアサイズの変更

下記の箇所を上下、左右にドラッグすることによりエリアサイズを変更することができます。



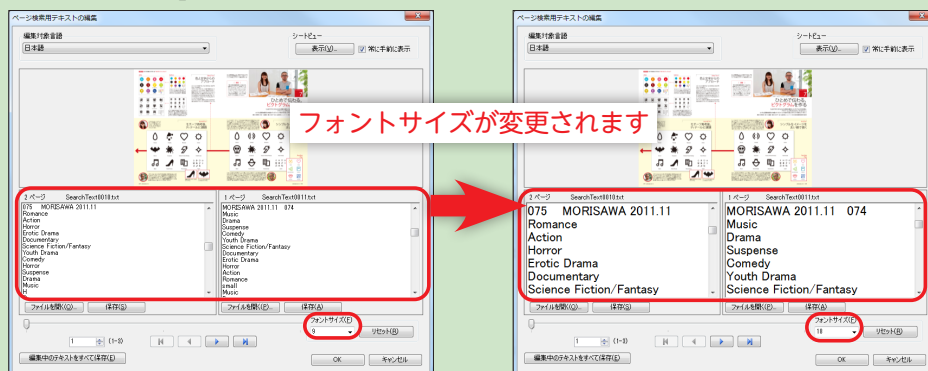
シート画像の表示

「表示」をクリックするとシート画像を拡大表示し、画像を確認しながらテキストの編集を行うことができます。シートビューを常に表示する場合は、『常に手前に表示』を☒にします。



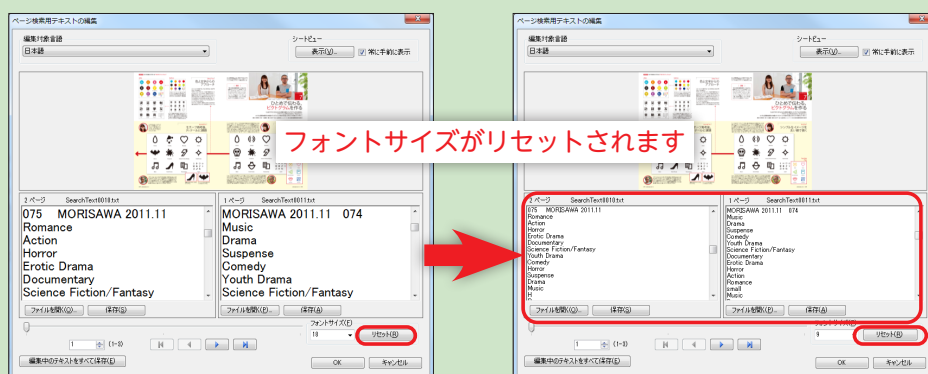
フォントサイズの変更

『フォントサイズ』の数値を変更することにより、テキストボックスのフォントサイズを変更することができます。



フォントサイズをリセット

『フォントサイズ』をアプリケーションの初期値に戻します。テキストボックスの文字の表示倍率もリセットされます。

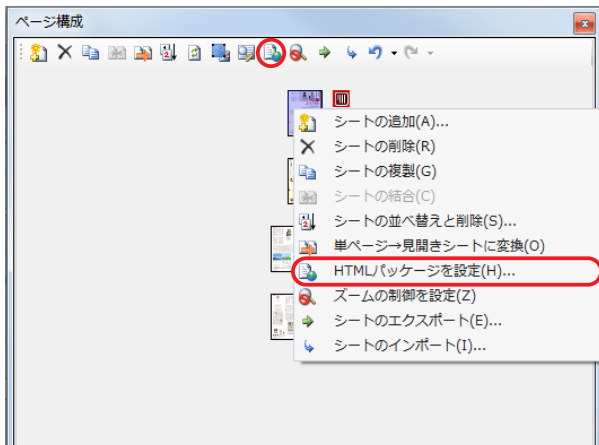


HTML ファイルをページに設定する

HTML 形式でページを表現する設定を行います。

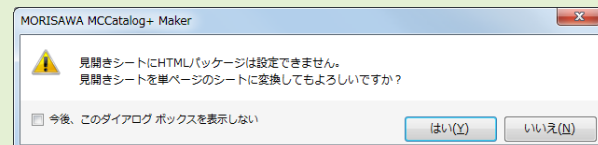
HTML パッケージを設定

- 1 HTML パッケージを設定したい単ページのシートを選択し、ページ構成パネルのツールバーのをクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし『HTML パッケージを設定』を選択します。



注意

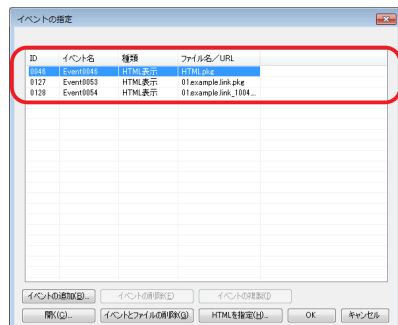
HTML パッケージの設定は単ページのシートのみとなります。見開きページのシートを選択し、『HTML パッケージを設定』を選択した場合、見開きページのシートを単ページのシートに変換する確認メッセージが表示されます。



- 2 HTML パッケージファイルを指定し、設定を行います。

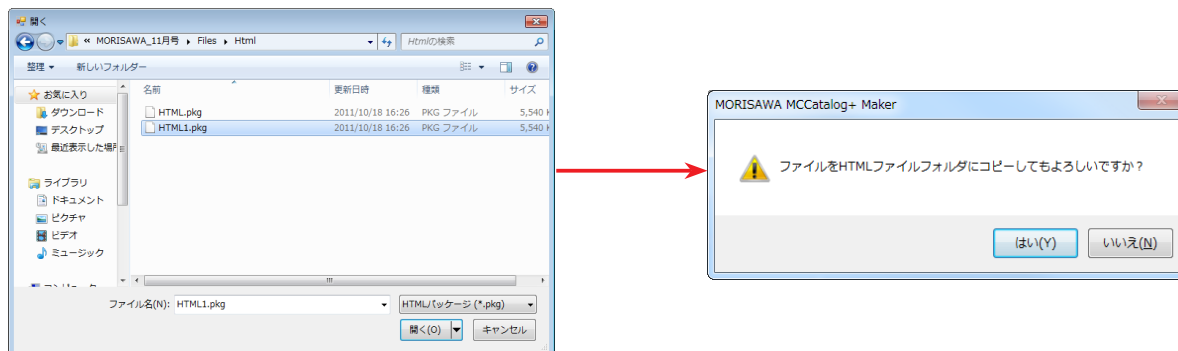
プロジェクトに HTML パッケージファイル登録済みの場合

すでにプロジェクト内に HTML パッケージファイルが登録されている場合は『イベントの指定』ダイアログが表示されます。イベントを選択して [OK] をクリックします。

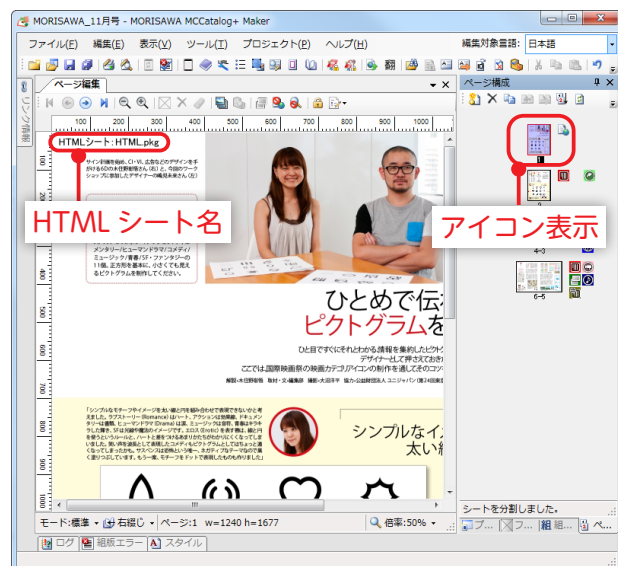


新規で HTML パッケージファイルを登録する場合

HTML パッケージファイルがプロジェクトに登録されていない場合は HTML パッケージファイルを指定する『**ファイルを開く**』ダイアログが表示されますので HTML パッケージファイルを選択します。確認メッセージが表示されますので **【はい】** を選択します。



- 3** HTML パッケージファイルを指定したページに HTML シートが設定されると、ページ編集パネルのフレームが非表示になり、左上に指定した HTML シート名が表示されます。ページ構成パネルでは HTML パッケージが設定されたシートは赤枠で囲まれ、右横にアイコンが表示されます。



注意

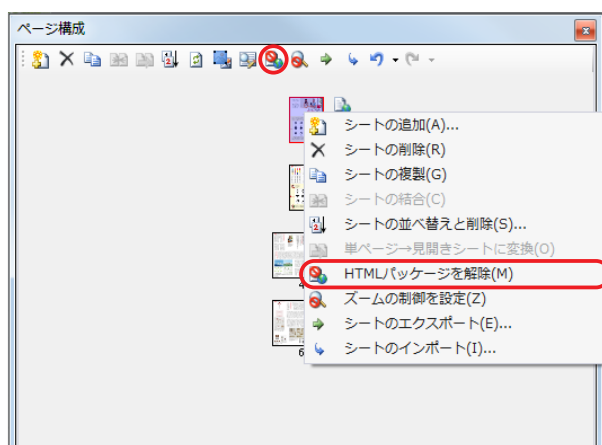
HTML パッケージの設定が行われたページではページ内にあったすべてのテキストフレーム、オブジェクトフレームは非表示となります。HTML パッケージの解除を行うと、再度フレームが表示されます。

重要!

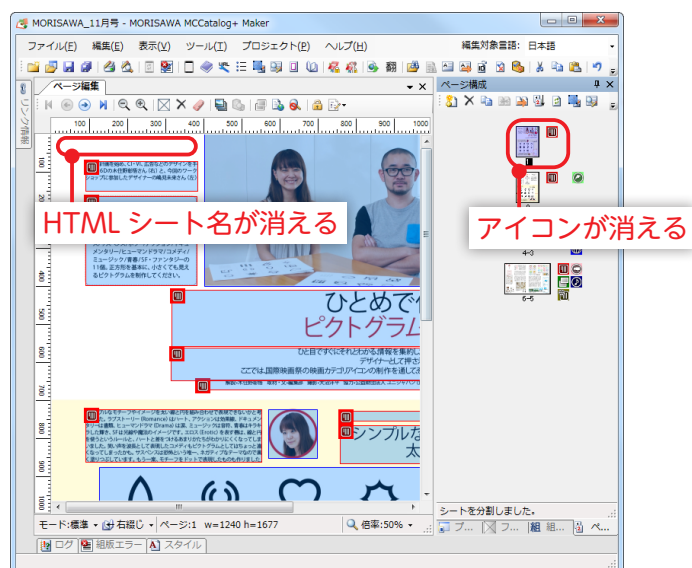
HTML パッケージを指定した場合、シートのシート画像はサムネイル画像としてのみ使用します。

HTML パッケージを解除

- 1** HTML パッケージが設定されているシートを選択し、 をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『HTML パッケージを解除』を選択します。



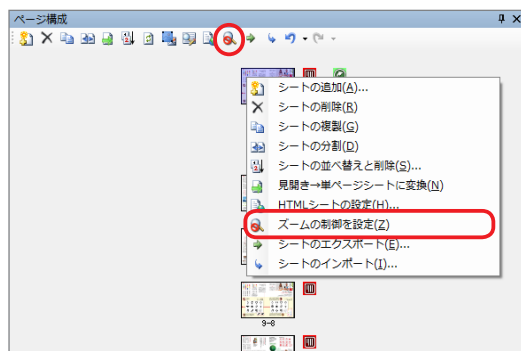
2 ページに設定されていた HTML パッケージが解除されていることを確認します。



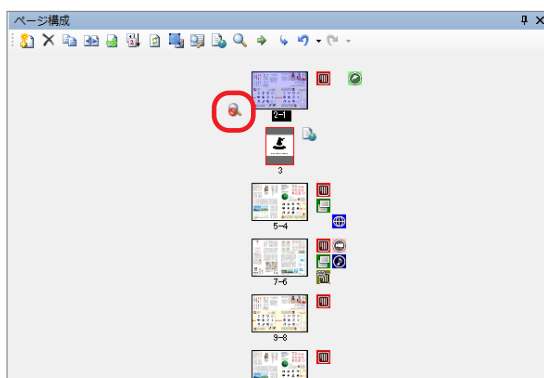
ズームの制御を設定

シートをズーム (拡大) した際、原紙データのサイズまでに制御します。

1 ズーム制御したいシートを選択し、🔍をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『ズームの制御を設定』を選択します。

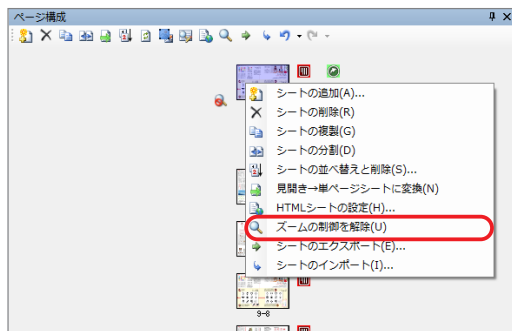


2 ページ構成パネルでズーム制御シートに設定されたシートの左横にアイコンが表示されます。



ズーム制御シートの解除

- 1 ズーム制御が設定されているシートを選択し、🔍をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『ズームの制御を解除』を選択します。

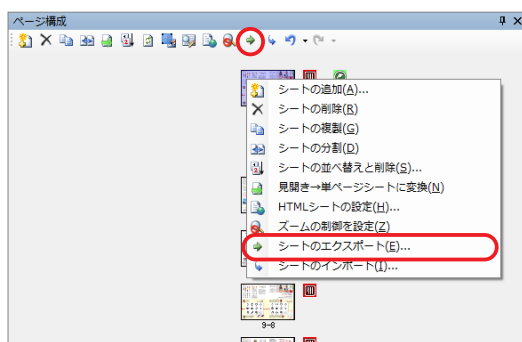


- 2 ズーム制御が解除されます。

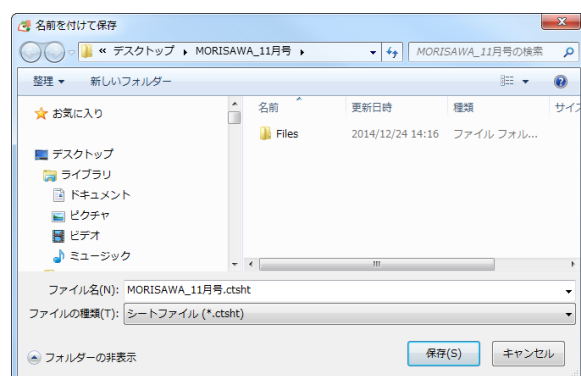
シートのエクスポート

選択したシートをシートファイル (*.ctsht) としてエクスポートします。

- 1 エクスポートしたいシートを選択し、📤をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートのエクスポート』を選択します。



- 2 シートファイルの出力先とファイル名を指定して、『保存』をクリックします。

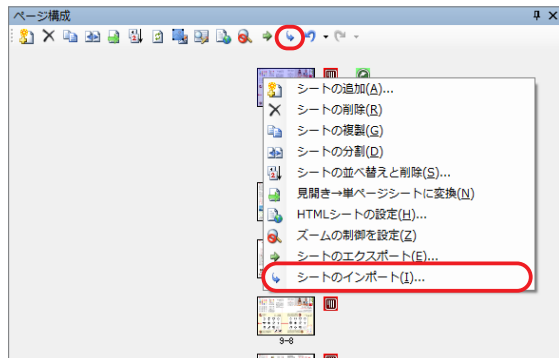


- 3 選択したシートがシートファイルとして指定した場所にエクスポートされます。

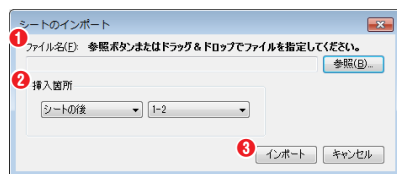
シートのインポート

シートファイル(*.ctsht)をプロジェクトにインポートします。

- 1  をクリックするか、ページ構成パネル内で右クリックし、『シートのインポート』を選択します。



- 2 『シートのインポート』ダイアログが表示されますので、インポートするシート名と位置を指定し、[インポート] をクリックします。



① **ファイル名**

インポートするシートファイルを[参照]をクリックまたはファイルをドラッグ&ドロップして指定します。

② **挿入箇所**

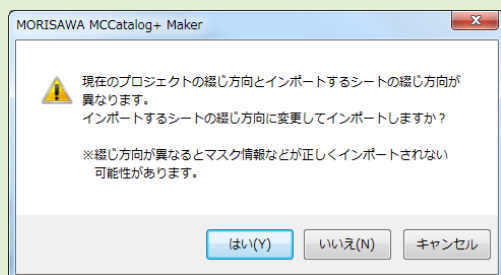
シートファイルを挿入する位置を『シートの後』『シートの前』『シートの先頭』『シートの最後』から選択します。『シートの後』『シートの前』を選択した場合は右横のボックスでシート番号を指定してください。

③ **インポート**

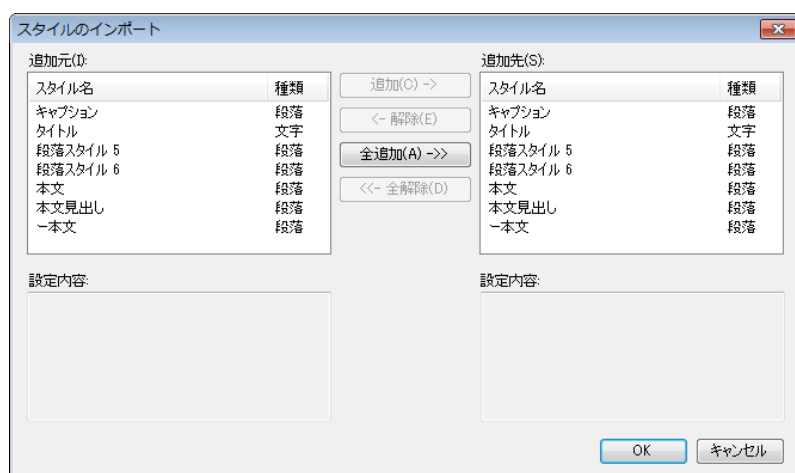
指定した内容でシートファイルをインポートします。

注意

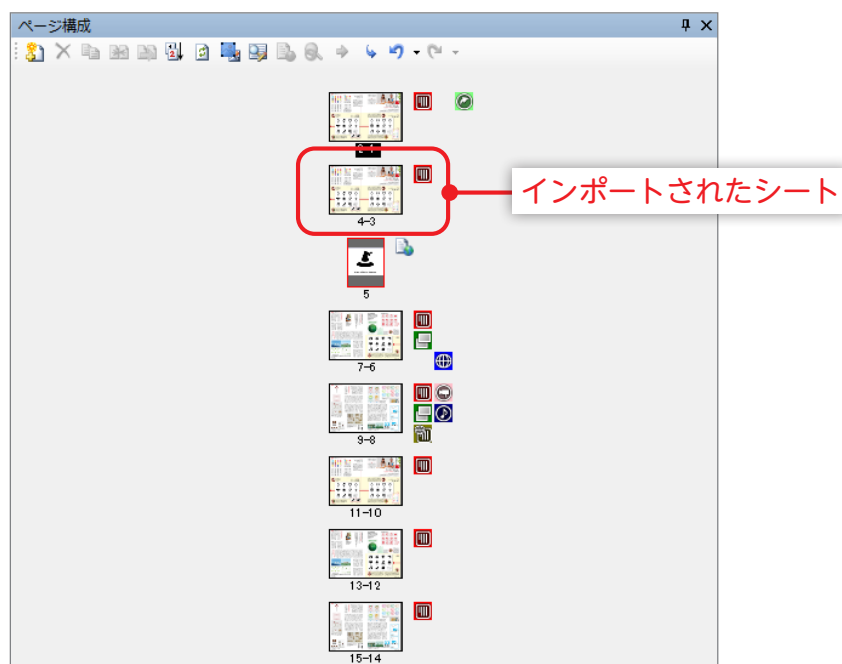
プロジェクトファイルの綴じ方向とシートの綴じ方向が異なる場合、インポートの確認メッセージが表示されます。



- 3 スタイル情報を選択するメッセージが表示されます。[OK] を選択した場合、インポート先のプロジェクト内に同名のスタイルが存在するときはインポートするシートファイルのスタイル情報で上書きします。



- 4 指定した場所にシートがインポートされます。



シートのトリミング

シートを指定したサイズでトリミングします。

- 1  をクリックするか、『プロジェクト』メニューの『トリミング設定』を選択し、『シートのトリミング』ダイアログを表示します。



トリミング量

① トリミングの単位

トリミングの単位を『ピクセル』『パーセント』から選択します。

② 上下左右を同じ値にする

☒ にすると『上』『下』『左』『右』どれか一つの値を入力するとすべてに同じ値が入力されます。

③ 上下左右

トリミングするサイズを指定します。

④ 色

ダイアログの画面右上に表示されているシート画像でトリミングされる範囲を表す線の色を指定します。

⑤ プレビュー

『トリミング量』で指定した範囲を野線で表示します。

⑥ シート範囲

トリミングするシートを『すべて』『現在のシート』『シート指定』から選択します。

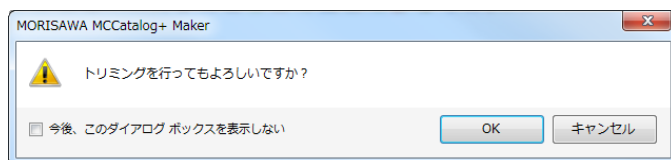
⑦ スライダー、ページ指定、

シートの移動に使用します。

⑧ トリミング

トリミングを実行します。

- 2 [トリミング] をクリックします。



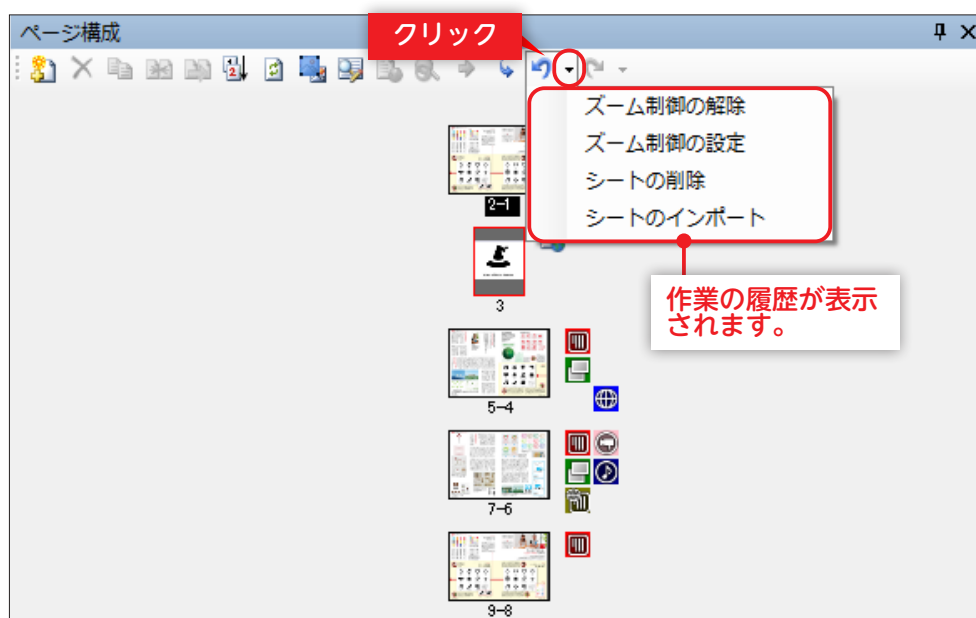
- 3 [OK] をクリックすると、トリミングされます。

『元に戻す』と『やり直し』

ページ構成パネルのツールの編集で、直前の作業を取り消して元に戻すには、をクリックします。また、『元に戻す』メニューの実行を取り消したい場合には、をクリックします。

『ツール』→『環境設定』から『シートの編集履歴』の数を変更することができます。

→詳しくは p.32 「環境設定」の頁を参照してください。

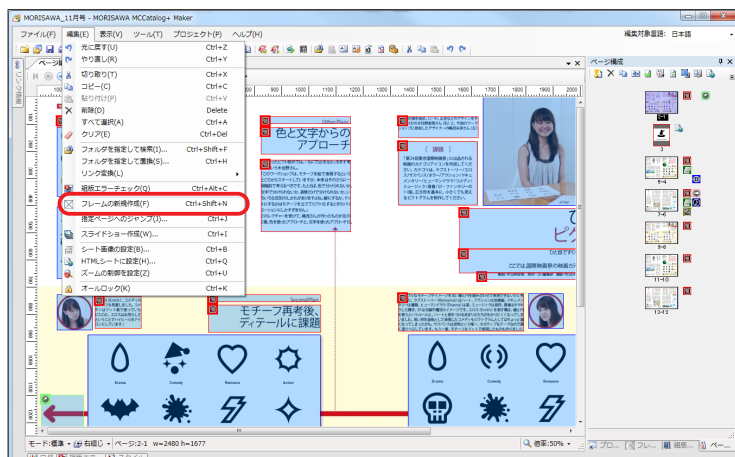


フレームの編集

ページ内のフレームの配置やフレームに対してイベントの追加などの編集を行います。

フレームの新規作成

- 1 ページ編集パネルのツールバーの  をクリックするか、『編集』メニューの『フレームの新規作成』を選択します。

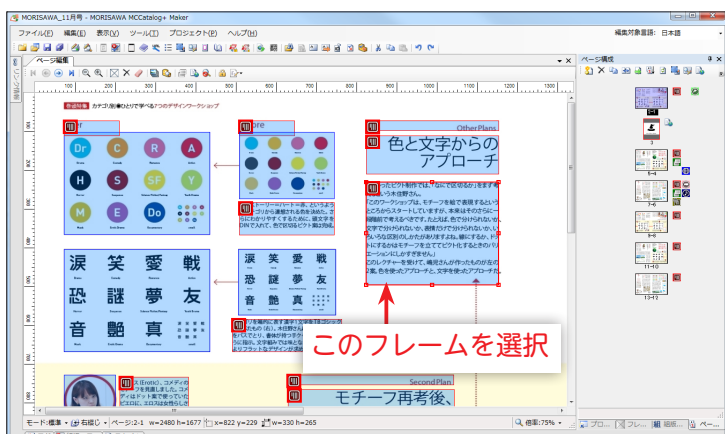


- 2 十でページ編集パネルのフレームを作成したい場所でドラッグし、フレームを作成します。



フレームの選択

- 1 フレーム内でクリックし選択します。



複数フレームの選択

複数フレームを選択する場合は、『Ctrl』 + 『マウスクリック』、『Shift』 + 『マウスクリック』またはドラッグで選択したいフレームをすべて囲んでください。

フレームの削除

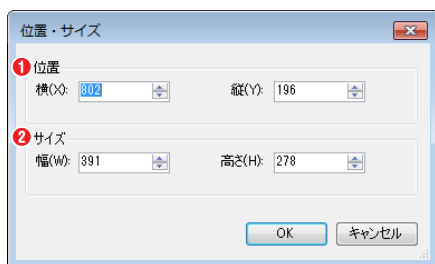
- 1 削除したいフレームを選択し、 をクリックするか、『編集』メニューの『削除』を選択します。また、ページ内のすべてのフレームを削除する場合は  をクリックします。

フレームの切り取り、コピー、貼り付け

- 1 切り取り、またはコピーしたいフレームを選択し、『編集』メニューの『切り取り』または『コピー』を選択します。また、貼り付けを行う場合は『編集』メニューの『貼り付け』を選択します。

フレームの位置、サイズ

- 1 選択したフレームの位置を変更する場合はフレーム内にマウスオーバーし、でドラッグします。サイズを変更する場合は、選択枠線上のにマウスオーバーし、でドラッグして調整します。また、フレームを選択し、右クリックして『位置・サイズ』ダイアログに数値を入力して変更します。



①位置

ページ編集パネルの左上から選択しているフレームの左上までの距離を表示します。

②サイズ

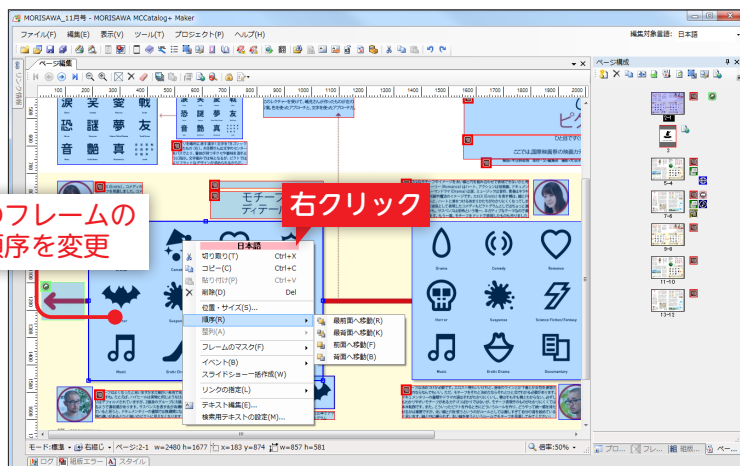
選択しているフレームの『幅』『高さ』を表示します。

重要!

フレームを移動させる場合、ドラッグ中に『Esc』キーで移動をキャンセルすることができます。

フレームの順序

- 1 重なっているフレームの順序を変更するには、フレームを選択し、右クリックし、『順序』の『最前面へ移動』『最背面へ移動』『前面へ移動』『背面へ移動』の中から選択します。



重要!

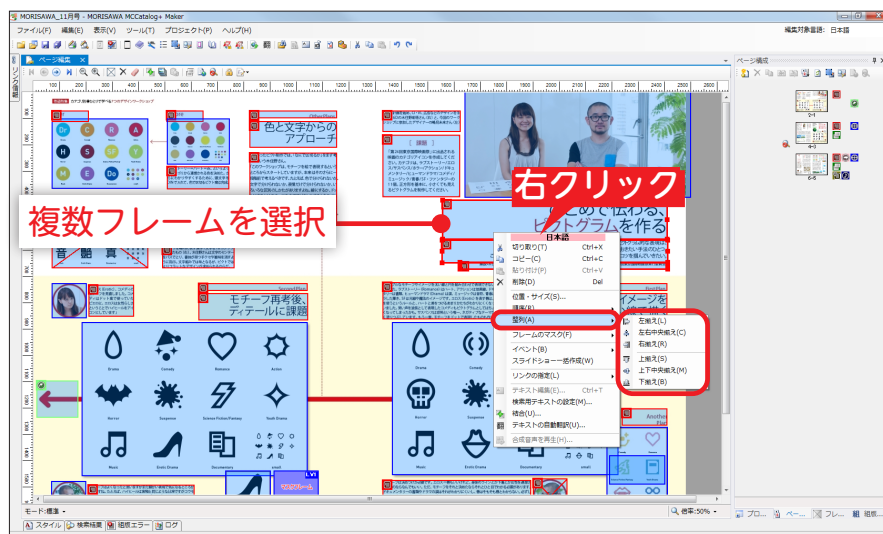
マウスカーソルをフレーム上に合わせて、そのフレームの塗りつぶし色が点滅した場合、点滅しているフレームが最前面に配置されていることになります。デバイス上でフレームが重なっている位置をタップした場合は前面にあるフレームイベントを実行します。

重要!

右クリックで表示されるコンテキストメニューの上に「日本語」や「英語」などの編集対象言語が表示されます。表示されている言語に対する設定ができる場合に表示されます。編集対象言語は、メイン画面右上のコンボボックスで指定できます。

フレームの整列

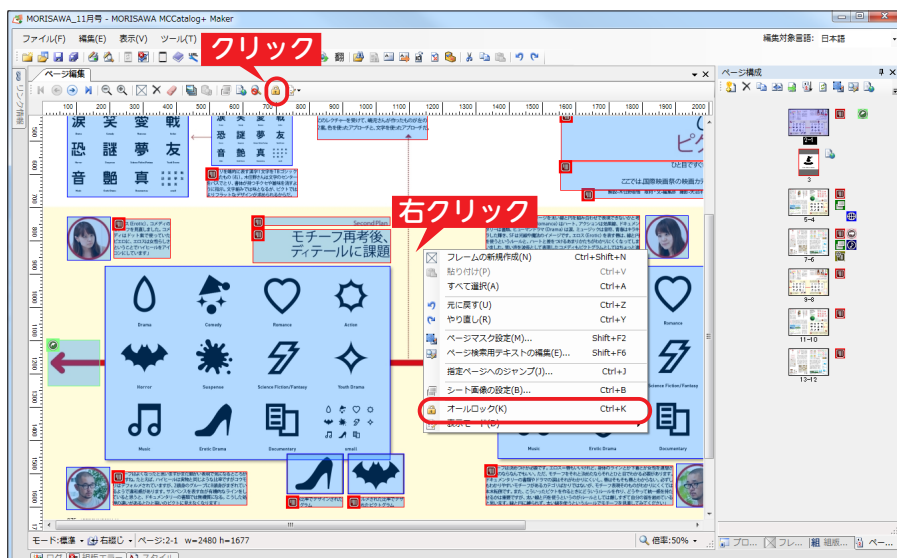
- 1 整列させたい複数のフレームを選択して、右クリックし、『整列』の『左揃え』『左右中央揃え』『右揃え』『上揃え』『上下中央揃え』『下揃え』から選択し整列させます。



ページ編集のロック

ページ編集パネルの画面をロックして編集できない様にするにはページ編集パネル内で右クリックし、『オールロック』を選択するか、🔒をクリックします。

『オールロック』を解除するには再度、ページ編集パネル内で右クリックし、『オールロックの解除』を選択するか、🔓をクリックします。

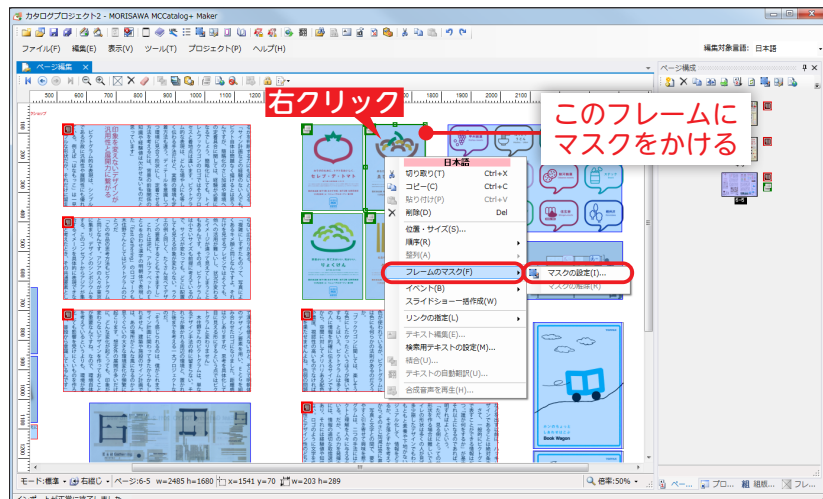


フレームのマスク

電子配信コンテンツ化する際に表示できないフレームに対し、色を指定して塗りつぶすか、上から画像を被せて隠します。

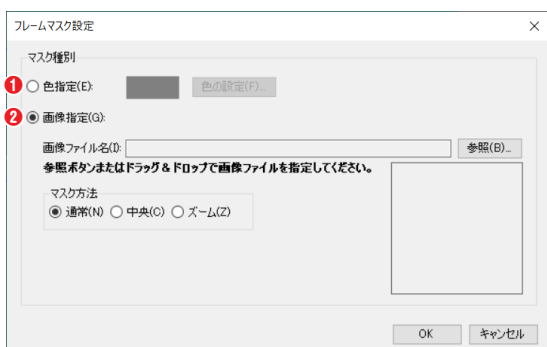
フレームにマスクをかける

- 1 マスクをかけたいフレームを選択して、右クリックし、『フレームのマスク』から『マスクの設定』を選択します。



- 2 『フレームマスク設定』ダイアログが表示されますので、マスクの色、または画像ファイルを指定します。

マスク種別



①色指定

『色の設定』をクリックして、フレームを隠す色を選択します。

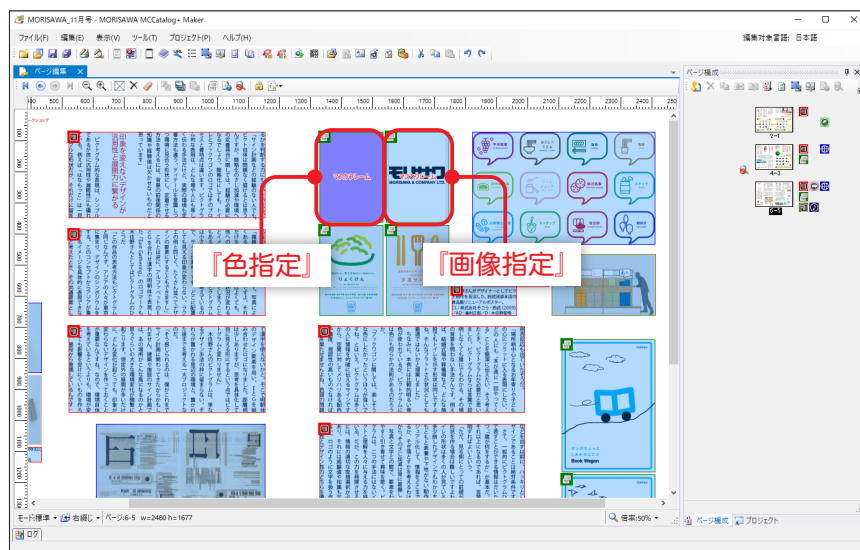
②画像指定

『画像ファイル名』にフレームを隠す画像ファイル名を『参照』をクリック、またはファイルを画面内にドラッグ&ドロップして指定します。

また、『マスク方法』を『通常』『中央』『ズーム』の中から選択します。

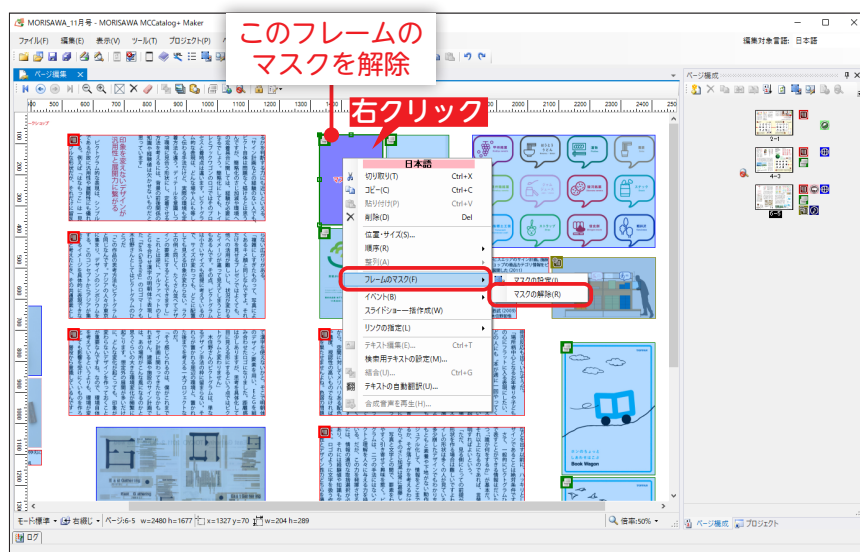


3 指定したフレームにマスクがかけていることを確認します。



フレームのマスクを解除

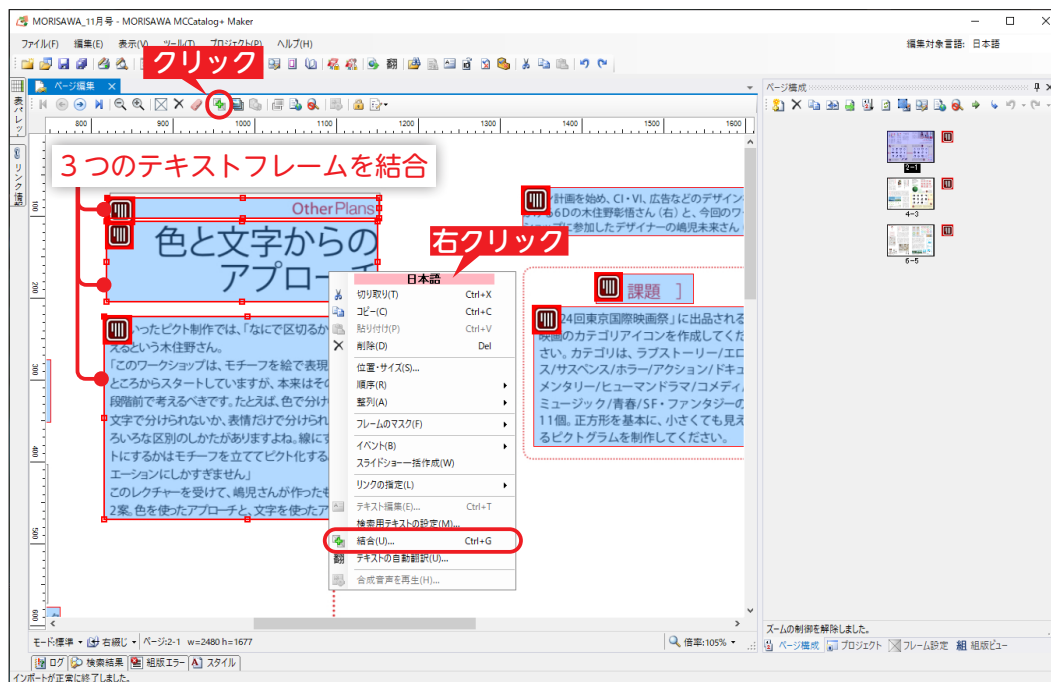
- 1 マスクがかけているフレームを右クリックし、『フレームのマスク』から『マスクの解除』を選択します。



テキストフレームの結合

InDesign ドキュメントで、関連するテキスト内容を複数のテキストフレームで作成している場合、MCCatalog+ Maker でも、そのまま複数のテキストフレームに分かれてインポートされます。このように、複数に分かれているテキストフレームは、Catalog Pocket 上で別々のテキストウィンドウで表示されてしまいます。『テキストフレームの結合』ではこのような複数のテキストフレームを1つにまとめることができます。

- 1 複数のテキストフレームを1つのテキストフレームにまとめたい場合は、まとめたいフレームを選択して、をクリックするか、右クリックし『結合』を選択、または『Ctrl』+『G』もしくは『F2』キーを押します。

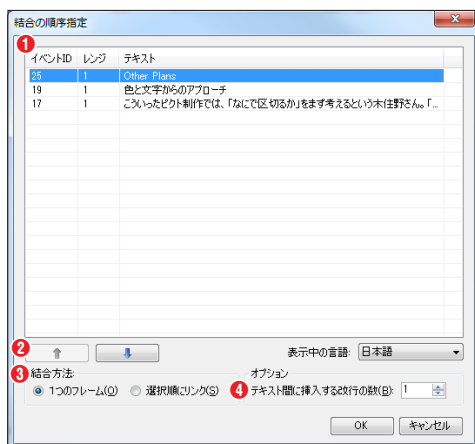


注意

選択したフレームが、以下の条件に当てはまる場合、テキストフレームの『結合』は使用できません。

- ・テキストフレームではないとき
- ・テキストフレーム間で各言語のテキストの有無が異なっているとき
(例：自動翻訳したテキストフレームと、自動翻訳していないテキストフレームでは、各言語のテキストの有無が異なるため、結合することができません。)

2 『結合の順序指定』 ダイアログが表示されますので、順序と結合方法を指定します。



① 結合テキストフレーム一覧

選択したテキストフレームの一覧を表示します。

②

『結合テキストフレーム一覧』で選択している項目の順序を変更します。

③ 結合方法

テキストフレームの結合を『1つのフレーム』『選択順にリンク』から選択します。

1つのフレーム：テキストフレームを1つのテキストフレームに結合します。

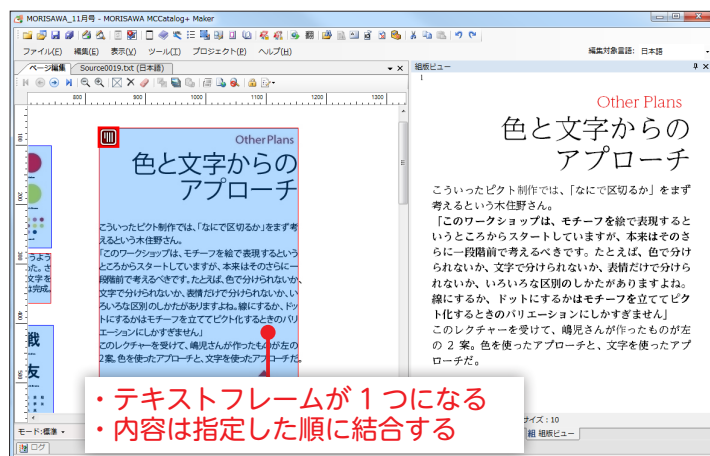
選択順にリンク：テキストフレームの内容を結合します。ただし、テキストフレーム自体は結合しません。

④ テキスト間に挿入する改行の数

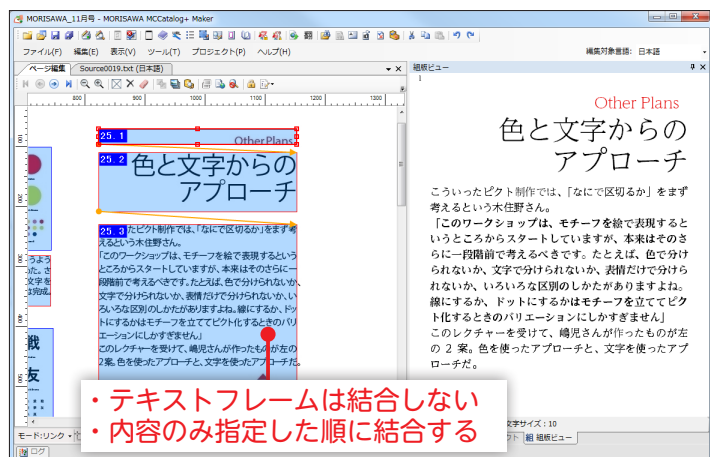
結合するフレームとフレームの間に挿入する、改行の数を指定します。

3 選択したテキストフレームが結合されます。

『1つのフレーム』を選択した場合



『選択順にリンク』を選択した場合



色と文字からのアプローチ

このレクチャーを受けて、織見さんが作ったものが左

・テキストフレームが1つになる

・内容は指定した順に結合する

[illegible]

連結が設定されているテキストフレームの一部のフレームを結合しようとするすると以下のメッセージが表示され、連結されているフレーム全てが結合の対象となります。



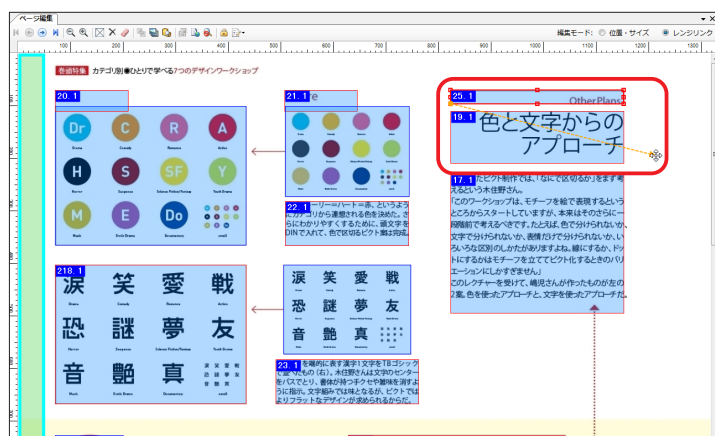
テキストフレームのリンク

リンクさせたいテキストフレームが大量に存在する場合、下記の操作を行うことで『結合の順序指定』ダイアログを使用するよりも簡単にテキストフレームのリンクを行うことができます。

- 1 ボタンをクリックし、『リンク』を選択します。
『編集モード』が表示されますので、『レンジリンク』を選択します。



- 2 リンク元にしたテキストフレームを1つ選択して、リンク先にしたいフレームまでドラッグ&ドロップします。



重要!

ページをまたいだレンジリンク

隣のページにあるフレームにリンクさせたい場合、編集ウインドウの端に現れる領域に一定時間マウスオーバーし続けることで、隣のページへ移動することができます。

注意

正常にリンクできるフレームにドラッグしているときは、矢印の点線部分がアニメーションします。

以下の条件が当てはまる場合、正常にリンクできないフレームのため、矢印の点線部分はアニメーションされません。

- ・テキストフレームではないとき
- ・テキストフレーム間で各言語のテキストの有無が異なっているとき
(例：自動翻訳したテキストフレームと、自動翻訳していないテキストフレームでは、各言語のテキストの有無が異なるため、リンクすることができません。)
- ・リンク元とリンク先で、既にリンク関係が成り立っているとき
- ・リンク元フレームが、既にリンクされていて、末尾ではないとき
- ・リンク先フレームが、既にリンクされていて、先頭ではないとき

- 3 対象のテキストフレームがリンクされます。
Shift キーを押しながらドラッグを離すと改行を挿入します。



mrangle タグとレンジ ID について

複数のテキストフレームをリンクさせると、各フレーム間に mrangle タグ（フレームの区切り）が自動で挿入されます。リンクさせたフレームには、リンク順にリンク ID が付けられます。

例えばテキストフレーム A とテキストフレーム B をリンクさせた場合、テキストフレーム A とテキストフレーム B の間に、mrangle タグが挿入されます。

テキストフレームに 1 つの mrangle タグが挿入されることにより、mrangle タグより前のテキストが「レンジ：1」、mrangle タグより後のテキストが「レンジ：2」という扱いになります。

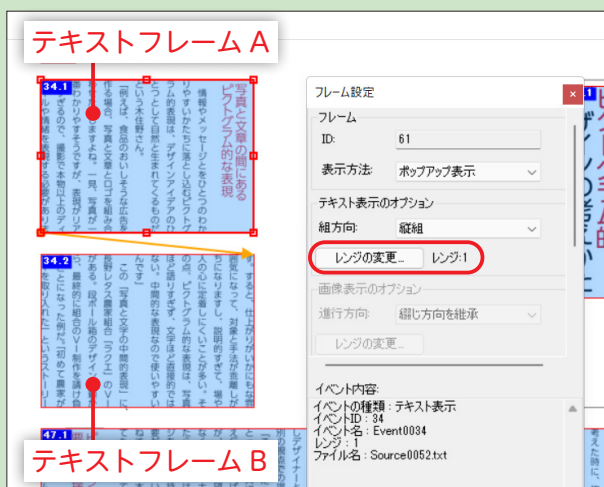
このとき、テキストフレーム A を選択した場合のフレーム設定パネルでは、「レンジ」の設定が「1」、テキストフレーム B を選択した場合のフレーム設定パネルでは、「レンジ」の設定が「2」となります。

ビューア上で、テキストフレーム A をタップしたとき、「レンジ：1」に該当するテキストをポップアップ表示または音声で読み上げます。テキストフレーム B をタップしたとき、「レンジ：2」に該当するテキストをポップアップ表示または音声で読み上げます。

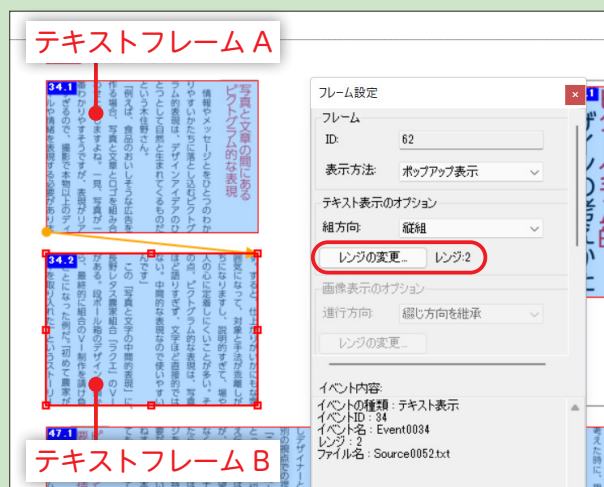
フレームに設定されたレンジは、フレーム設定パネルから変更することができます。

仮に、テキストフレーム A を選択し、フレーム設定パネルから「レンジ」を「2」に変更すると、ビューア上で、テキストフレーム A をタップしたとき、「レンジ：2」に該当するテキストをポップアップ表示または音声で読み上げます。テキストフレーム B をタップしたときも、「レンジ：2」に該当するテキストをポップアップ表示または音声で読み上げます。

テキストフレーム A を選択した場合



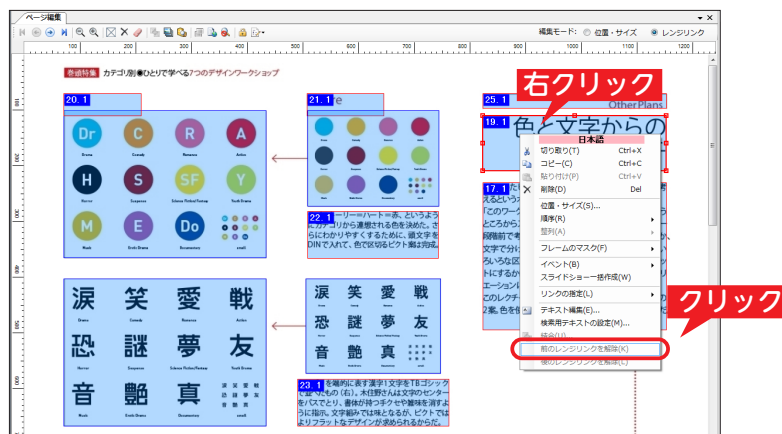
テキストフレーム B を選択した場合



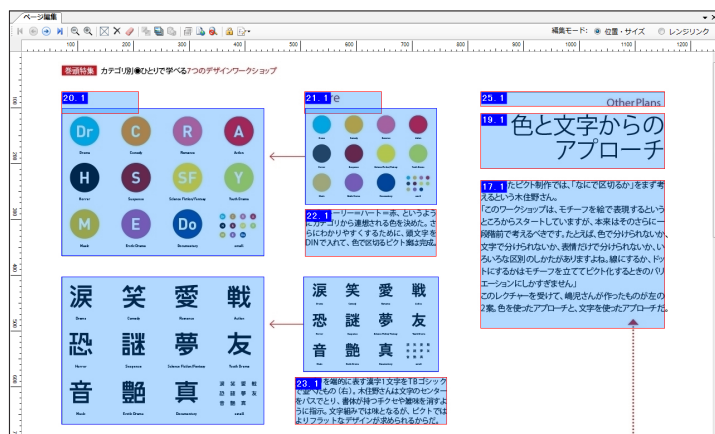
テキストフレームのリンク解除

一度リンクさせたテキストフレームは、『編集モード』が『レンジリンク』になっているときに、下記の操作で解除することができます。

- 1 リンクを解除したいテキストフレームを選択して右クリックし、『前のレンジリンクを解除』もしくは『後のレンジリンクを解除』をクリックします。



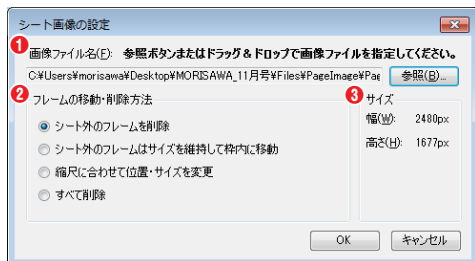
- 2 リンクが解除されます。



シート画像の設定

- 1** シート画像を変更したい場合は  をクリックし、『シート画像の設定』ダイアログで画像ファイルを選択し、設定を行います。

※シート画像に指定した画像ファイルのサイズに合わせて、シートのサイズも同じサイズに変更されます。



①画像ファイル名

〔参照〕をクリックまたはファイルを画面内にドラッグ&ドロップして、シート画像に指定する画像ファイルを選択します。

②フレームの移動・削除方法

変更前のシートに設定されていたフレームを変更後のシートでどのように設定するかを選択します。

『シート外のフレームを削除』

指定したシート画像ファイルのサイズよりも外にフレームがあった場合、そのフレームをすべて削除します。

『シート外のフレームはサイズを維持して枠内に移動』

指定したシート画像ファイルのサイズよりも外にフレームがあった場合、そのフレームのサイズを維持したまま、シート内に収めます。

『縮尺に合わせて位置・サイズを変更』

指定したシート画像ファイルのサイズに合わせて、フレームのレイアウトはそのままに位置、サイズを変更してシート内に収めます。

『すべて削除』

変更前のシートに設定されていたフレームをすべて削除します。

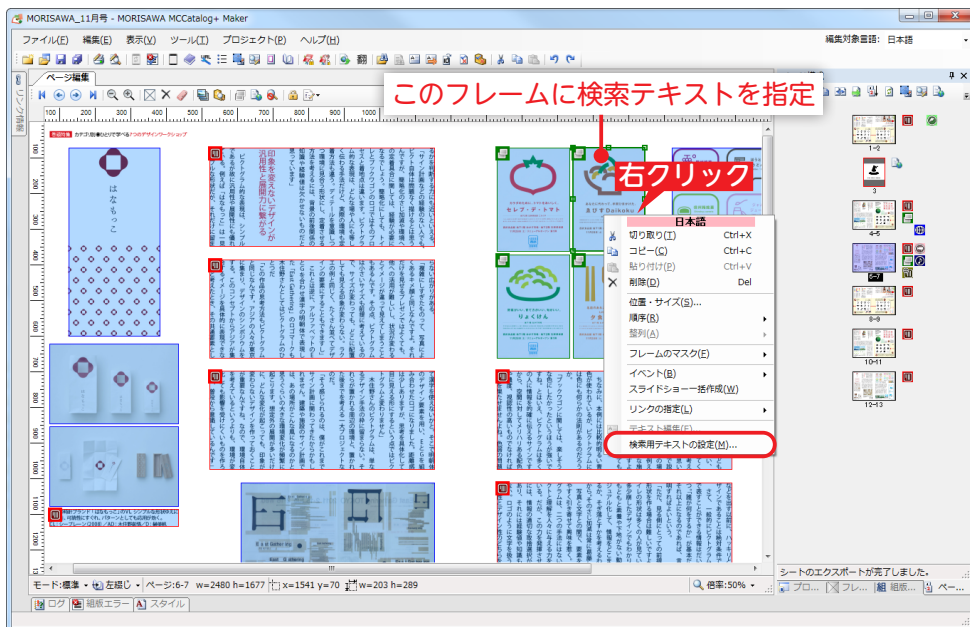
③サイズ

『画像ファイル名』に指定したシート画像ファイルの『幅』『高さ』を表示します。

検索用テキストの設定

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) でテキスト検索を行った場合、ヒットするようにフレームに対して任意の文字列を指定することができます。

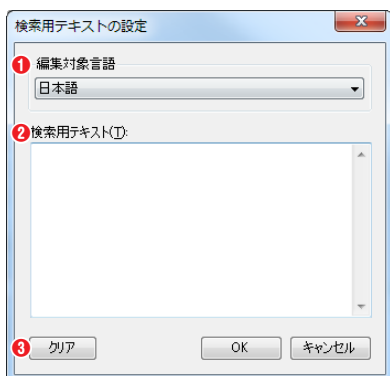
- 1 検索用テキストを指定したいフレームを選択して、右クリックし、『検索用テキストの設定』を選択します。



重要!

右クリックで表示されるコンテキストメニューの上に「日本語」や「英語」などの編集対象言語が表示されます。表示されている言語に対する設定ができる場合にのみ表示されます。編集対象言語は、メイン画面右上のコンボボックスで指定できます。

- 2 『検索用テキストの設定』ダイアログが表示されますので、検索用テキストを入力します。



① 編集対象言語

検索用テキストを設定する言語を指定します。
※検索用テキストは言語ごとに設定します。

② 検索用テキスト

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) でテキスト検索した場合にヒットさせたい文字列を入力します。

③ クリア

『検索用テキスト』に入力した文字列を削除します。

イベントの指定

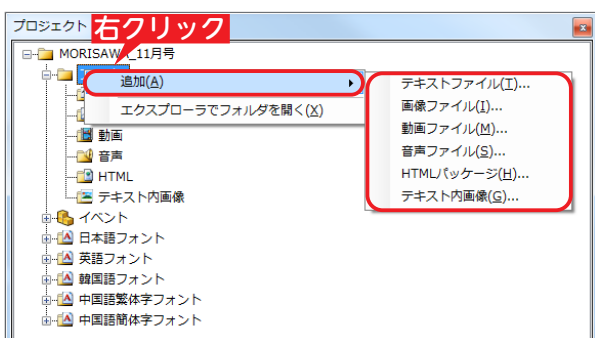
フレームに対して画像表示や動画再生などのイベントを設定します。

ファイルの追加

各フレームに関連付けられるイベントなどに必要なファイルをプロジェクトに追加します。

ファイルをコンテキストメニューから追加する

- 1 プロジェクトパネルで『ファイル』フォルダを右クリックし『追加』の『テキストファイル』『画像ファイル』『動画ファイル』『音声ファイル』『HTML パッケージ』『テキスト内画像』から選択するか、各フォルダを右クリックし『追加』を選択して表示される『ファイルを開く』ダイアログから追加したいファイルを選択します。

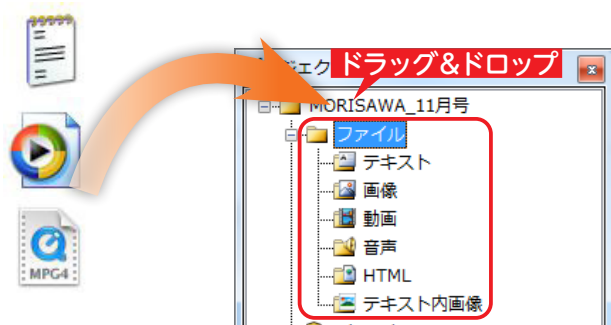


注意

『HTML パッケージ』は、編集対象言語が「日本語」の場合のみ対応しています。

ファイルをドラッグ&ドロップで追加する

- 1 ファイルフォルダまたは、各ファイルのフォルダに直接、追加するファイルをドラッグ&ドロップします。

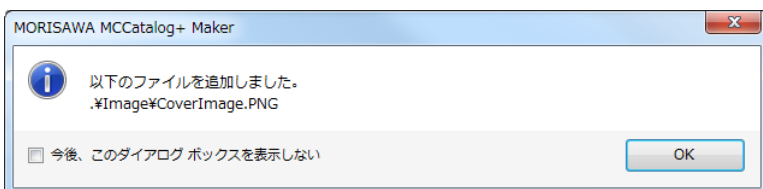


注意

ファイルの追加先は、ウインドウ右上の『編集対象言語』で選択している言語になります。

編集対象言語: 日本語

- 2 ファイルをフォルダに追加した確認メッセージが表示されます。



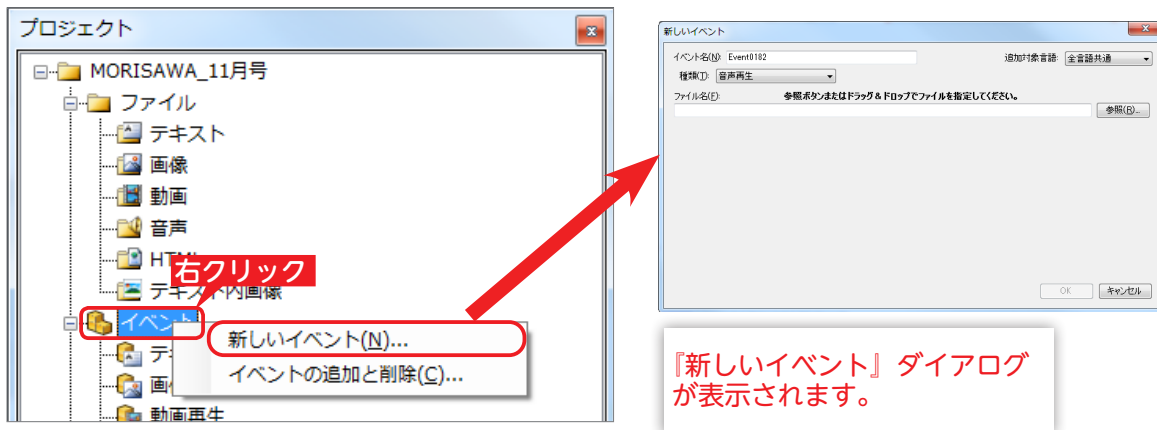
『テキスト内画像』に追加したファイルはテキスト内で外字画像として使用します。画像ファイルをファイルフォルダにドラッグ&ドロップした場合、『画像』フォルダと『テキスト内画像』フォルダのどちらに追加するかを選択します。『テキスト内画像』フォルダに直接ドラッグ&ドロップして追加することもできます。

イベントの追加

フレームを Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上でタップした場合に発生するイベントをプロジェクトに追加します。

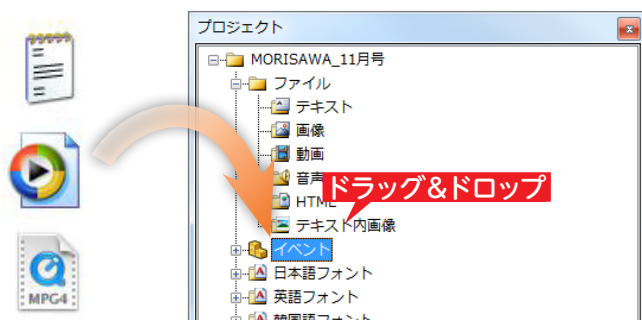
ファイルをコンテキストメニューから追加する

- 1 プロジェクトパネルで『イベント』フォルダを右クリックします。
- 2 個別のイベントを指定したい場合は、各フォルダを右クリックして『新しいイベント』から作成します。



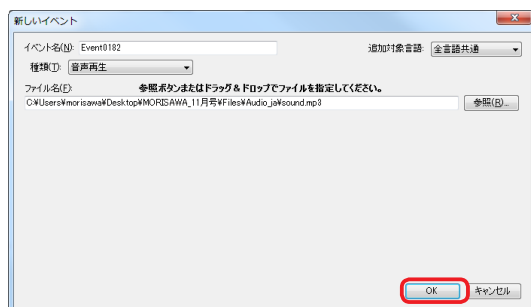
ファイルをドラッグ&ドロップで追加する

- 1 プロジェクトパネルの『イベント』フォルダに直接、ファイルをドラッグ&ドロップします。



- 2 『新しいイベント』ダイアログが表示されます。
ファイル名を確認し、設定が終わったら [OK] をクリックします。

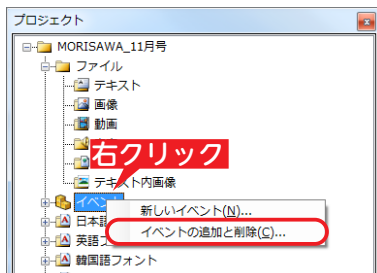
※新しいイベントダイアログの詳細は、p.95 をご参照ください。



イベントの削除

プロジェクトに登録したイベントを削除します。

- 1 プロジェクトパネルで『イベント』フォルダを右クリックします。
- 2 『イベントの追加と削除』を選択し、表示される『イベントの追加と削除』ダイアログで削除したいファイルを選択し『イベントの削除』を選択します。また、同時にイベントに使用するファイルも削除したい場合は『イベントとファイルの削除』を選択します。



利用ファイルのファイル名の変更、削除

フレームに指定されたイベントで使用されているファイルの『名前の変更』や『削除』を行った場合、フレーム上に『×』が表示されます。

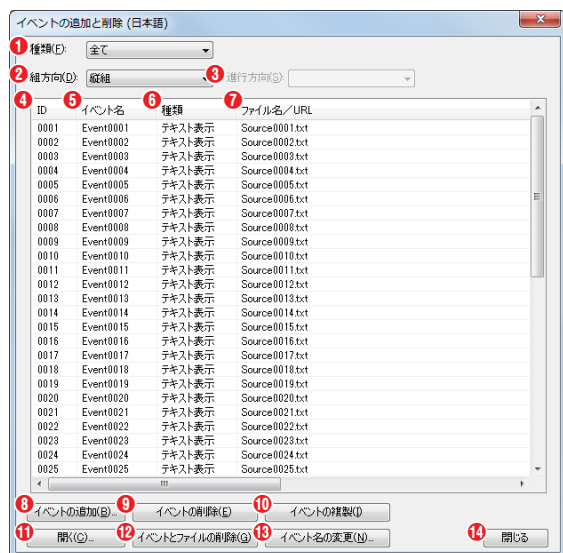


重要!

未使用イベントの削除

プロジェクト内にある未使用のイベントを削除する場合は、🗑️をクリックするか、『ファイル』メニュー『未使用イベントの削除』を選択します。

イベントの追加と削除ダイアログ（編集対象言語が「日本語」の場合）



イベント一覧

①種類

イベントの種類を指定します。

②組方向

イベント種類がテキスト表示の場合、文字の組方向を表示します。

③進行方向

イベントの種類が画像表示の場合、進行方向を指定します。

④ID

イベントのIDが表示されます。

⑤イベント名

イベントの名称が表示されます。『イベント名の変更』でイベント名を変更することができます。

⑥種類

イベントの種類が表示されます。イベントの種類は『テキスト表示』『画像表示』『音声再生』『動画再生』『HTML 表示』の内、いずれかが表示されます。

⑦ファイル名／URL

イベントに使用されるファイル名／URLが表示されます。

⑧イベントの追加

選択すると『新しいイベント』ダイアログを表示します。

⑨ イベントの削除

イベント一覧で選択されているイベントを削除します。

⑩ イベントの複製

イベント一覧で選択されているイベントを複製します。

⑪ 開く

イベント一覧で選択しているイベントに指定されているファイルを開きます。

また、イベント一覧の行をダブルクリックしてもファイルを開くことができます。

⑫ イベントとファイルの削除

イベント一覧で選択されているイベントとイベント内で指定されているファイルを削除します。

⑬ イベント名の変更

イベント一覧で選択されているイベント名を変更します。

⑭ 閉じる

イベントの追加と削除のダイアログを閉じます。

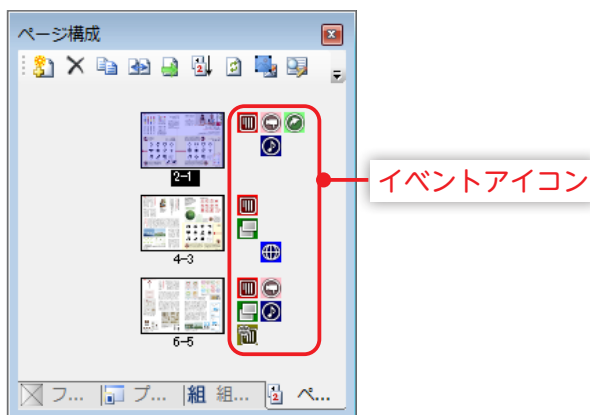
新しいイベントダイアログ

『イベントの追加と削除』ダイアログで [イベントの追加] をクリックした場合に表示されます。

※ダイアログの詳細は p.95 を参照してください。

イベントの指定

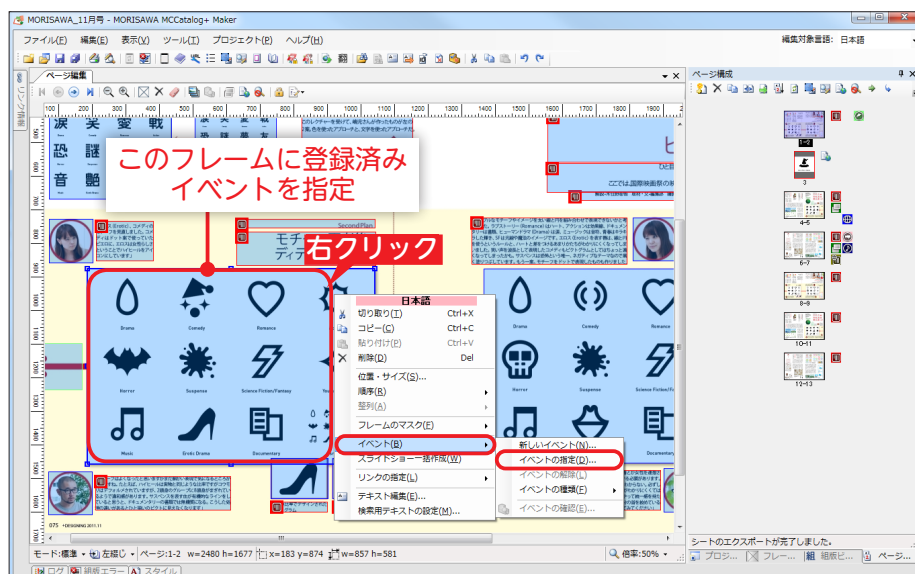
デバイス上でフレームをタップした場合に発生させるイベントの設定を行います。
ページ構成パネルではページ内のフレームに指定されているイベントのアイコンが表示されます。



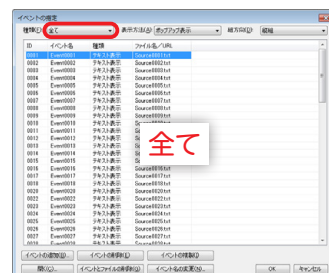
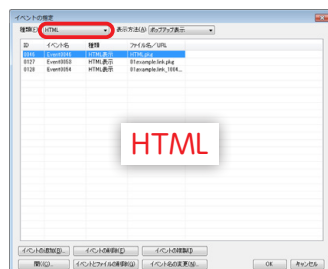
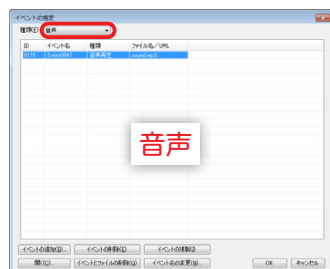
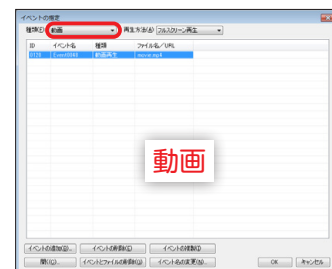
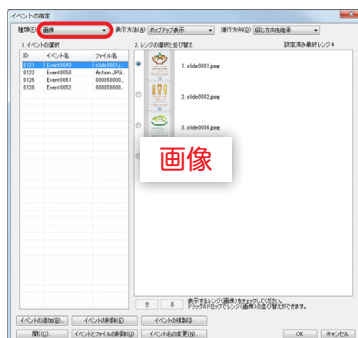
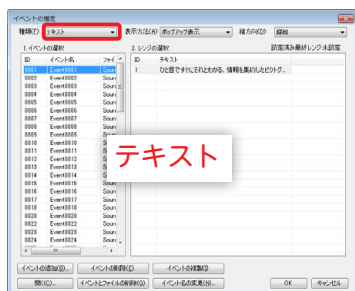
登録されたイベントを指定する

プロジェクトにすでに登録されているイベントをフレームに指定します。

- 1 フレームを右クリックし『イベント』の『イベントの指定』を選択します。『テキスト』『画像』『動画』『音声』『HTML』『全て』から追加したいイベントを選択します。

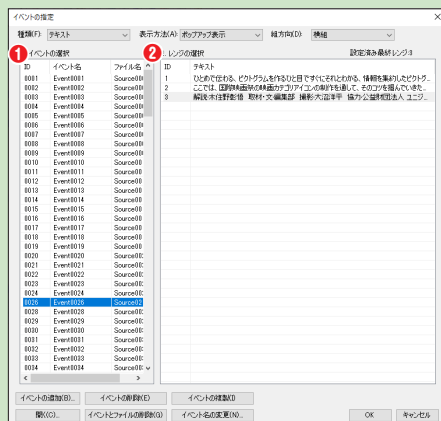


2 各『イベントの指定』ダイアログにプロジェクトに登録されているイベント一覧が表示されますので、目的のイベントを選択し、指定します。



登録済みのテキスト表示、画像表示イベントの指定

『イベントの指定』から『テキスト』または『画像』を選択した場合、フレーム連結されているテキスト表示イベントや、スライドショーなど複数の画像ファイルがある画像表示イベントの設定を行うことができます。

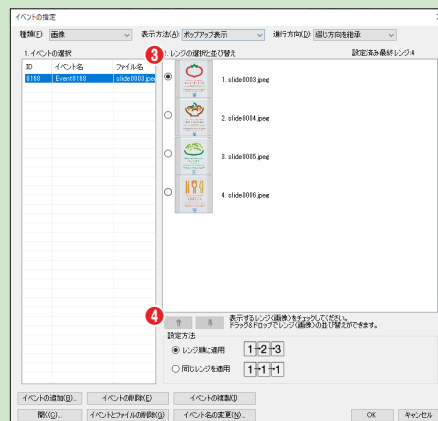


1 イベントの選択

イベントの選択をします。

2 レンジの選択

選択したイベントのレンジを表示します。
フレームに設定するレンジを指定します。



3 レンジの選択と並び替え

選択したイベントのデフォルト表示画像の選択と画像の表示順を設定します。

4 並び替え

レンジの並び替えを行います。

レンジについて

イベント『テキスト』では mrange タグで区切られているテキスト内容のことをいいます。mrange タグについては p.85 を参照ください。イベント『画像』ではスライドショーで表示される各画像のことをいいます。

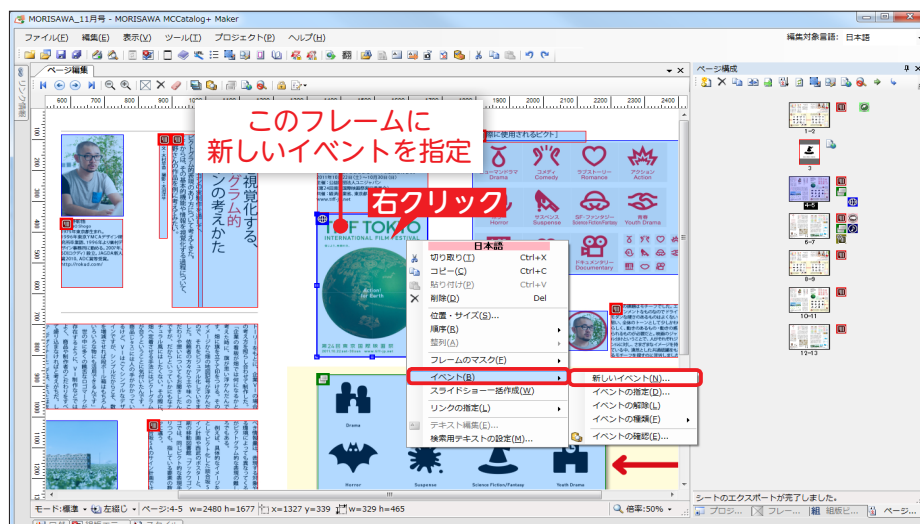
新規のイベントを指定する

プロジェクトに登録されていないイベントを新たに指定します。

プロジェクトパネルから新規のイベントを指定する方法については、p.90「イベントの追加」を参照してください。

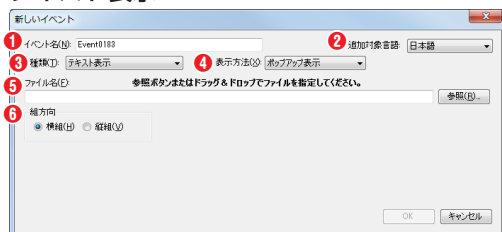
1 イベントを指定したいフレームを右クリックし、『イベント』の『新しいイベント』を選択します。

2 『新しいイベント』ダイアログが表示されますので、『種類』を選択し、ファイルを指定します。

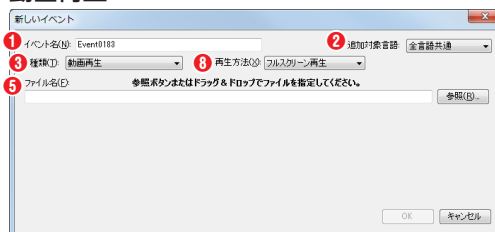


※『テキスト表示』は『組方向』、『画像表示』は『進行方向』も選択してください。

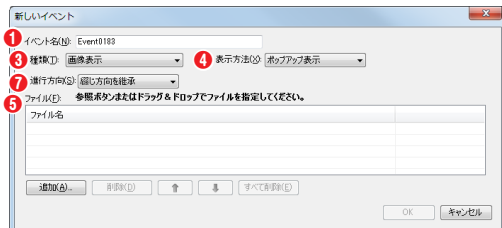
テキスト表示



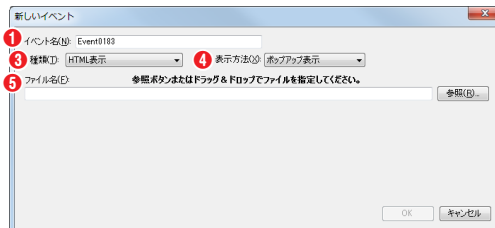
動画再生



画像表示



HTML 表示



音声再生



① イベント名

イベント名を入力します。イベント名には、デフォルトで通し番号が設定されますが、変更可能です。

② 追加対象言語

イベントに使用するファイルの追加先となる言語を選択します。

『全言語共通』の場合は、指定したファイルがすべての言語で使用されます。

言語ごとに使用するファイルを変えたい場合は、各言語を選択し、ファイルを指定します。

③ 種類

イベントの種類を『テキスト表示』『画像表示』『音声再生』『動画再生』『HTML 表示』から選択します。

④ 表示方法

イベントの種類で『テキスト表示』『画像表示』『HTML 表示』を選択した場合、デバイス上での表示方法を『ポップアップ表示』『領域内に表示』『画面中央に表示』『画面左に表示』『画面右に表示』『画面上に表示』『画面下に表示』の中から指定します。

⑤ ファイル名

イベントに使用するファイルを表示します。種類で『画像表示』を選択した場合は複数ファイルを指定することができ、画像のスライドショーのイベントが設定できます。

⑥ 組方向

イベントの種類で『テキスト表示』を選択した場合、テキストの組方向を『横組』『縦組』から指定します。

⑦ 進行方向

イベントの種類で『画像表示』を選択した場合、画像表示の進行方向を『継ぎ方向を継承』『左』『右』から指定します。

⑧ 再生方法

イベントの種類で『動画再生』を選択した場合、動画の再生方法を『フルスクリーン再生』『誌面内再生』から指定します。

注意

『表示方法』『組方向』『進行方向』『再生方法』の項目については、フレームに紐づく設定項目となりますので、プロジェクトパネルの『イベント』（『新しいイベント』や『イベントの追加と削除』）から表示したダイアログには、表示されません。

テキスト表示イベントの指定

デバイス上でフレームをタップするとテキストボックスを表示するように設定します。

■使用可能なファイルのフォーマット

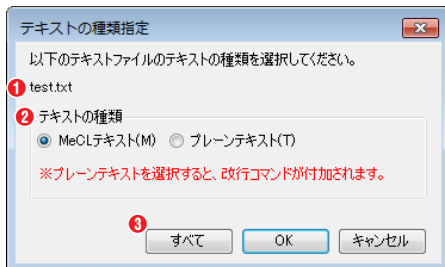
テキストファイル (*.txt)

■指定方法

- 1 フレームに『テキスト表示』のイベントを指定する場合は、指定したいフレームを右クリックし、テキストファイルを指定します。

※ p.93「イベントの指定」の手順で指定します。

- 2 『テキストの種類指定』ダイアログが表示されますので、追加するテキストの種類を選択してください。



① ファイル名

指定したテキストファイル名が表示されます。

② テキストの種類

『MeCL テキスト』『プレーンテキスト』から選択します。『プレーンテキスト』を選択した場合、改行箇所に改行コマンドを付加します。

MeCL テキスト：MCCatalog+ Maker で使用する組版コマンドが付加されているテキストファイル

プレーンテキスト：組版コマンドの付加されていないプレーンなテキストファイル

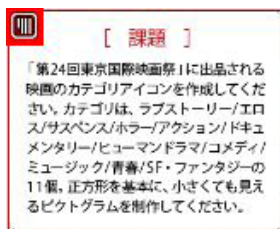
重要!

テキストの種類で「プレーンテキスト」を選択した場合は、テキストの改行箇所に改行コマンドが自動的に付加されます。改行コマンドの詳細については、p.134 をご参照ください。

③ すべて

複数のテキストファイルを指定した場合、選択した『テキストの種類』をすべてのテキストに適用します。

- 3 テキスト表示イベントを指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



画像表示イベントの指定

デバイス上でフレームをタップすると画像を表示するように設定します。

■使用可能なファイルのフォーマット

ビットマップ (*.bmp)

JPEG ファイル (*.jpg; *.jpeg; *.jpe)

PNG ファイル (*.png)

■画像のカラー

- ・ RGB
- ・ インデックスカラー
- ・ グレースケール

■指定方法

- 1 フレームに『画像表示』のイベントを指定する場合は、指定したいフレームを右クリックし、画像ファイルを指定します。

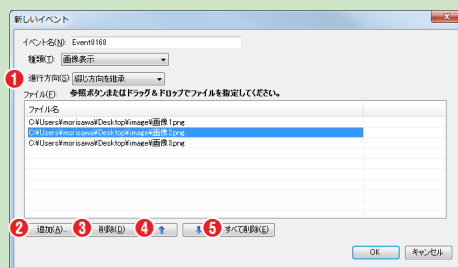
※ p.93「イベントの指定」の手順で指定します。

- 2 画像表示イベントを指定したフレームにアイコン表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



複数画像の表示

『種類』で『画像表示』を選択した場合、複数のファイルを指定することができます。複数の画像ファイルを指定することでスライドショー表示を行うことができます。



① 進行方向

画像表示の矢印の方向を設定します。

② 追加

『ファイル選択』ダイアログを表示し、選択されたファイルを『ファイル』に追加します。

③ 削除

『ファイル』で選択されているファイルを削除します。

④ ↑ ↓

『ファイル』で選択されているファイルの順序を変更します。

⑤ すべて削除

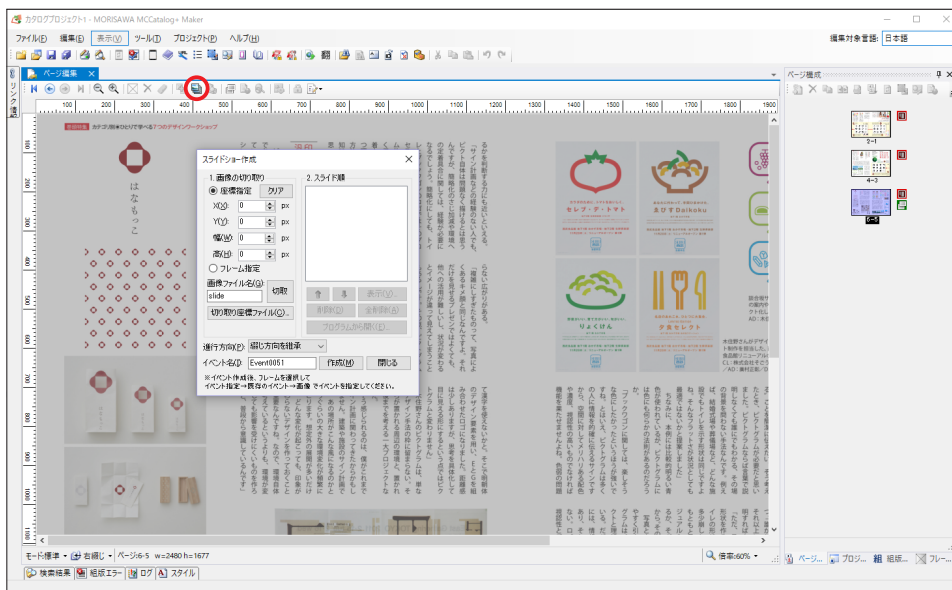
『ファイル』に登録されているファイルをすべて削除します。

スライドショーイベントの指定

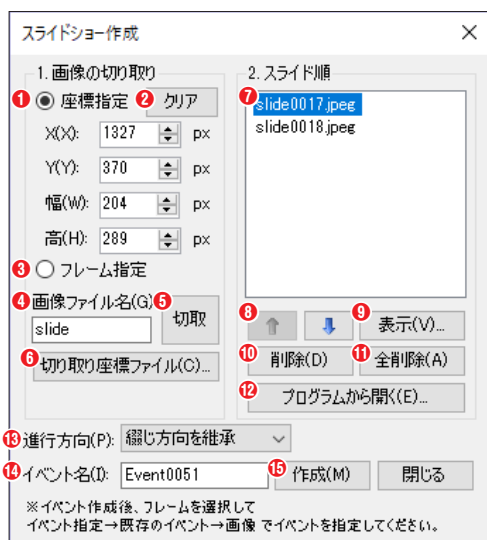
Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上の1つのウィンドウをタップすることで複数の画像を順番に表示するスライドショー表示の設定を行います。

■スライドショー作成

- 1  をクリックするか、『編集』メニューの『スライドショー作成』を選択します。
- 2 『スライドショー作成』ダイアログが表示され、ページ編集パネルがグレーで塗りつぶされます。



- 3 スライド画像を作成したい範囲を指定し、画像の切り取りを行います。切り抜いたスライドショー用画像の並び替えなどの設定を行い、『作成』をクリックしてスライドショーイベントを作成します。



1. 画像の切り取り

①座標指定

ページ編集パネル内のグレーで塗りつぶされた画面上で表示された+でドラッグし、スライドショー用画像を作成したい範囲を指定するか、直接範囲の座標『X』『Y』と『幅』『高』を指定します。単位はpxが指定可能です。

②クリア

『座標指定』の『X』『Y』『幅』『高』の値を削除します。

③フレーム指定

ページ編集パネル内でスライドショー用画像を作成したいフレームを選択して指定します。

④画像ファイル名

『座標指定』『フレーム指定』で指定したスライドショー用画像のファイル名を任意の文字列で指定します。『画像ファイル名』に指定がない場合はファイル名に『slide + (4桁の数字) .jpeg』が自動的に付けられます。

⑤切取

指定された内容でスライドショー用画像の切り取りを行います。

※ページ編集パネル上で指定した範囲をダブルクリックして切り取りを行うことも可能です。

⑥ 切り取り座標ファイル

ページ編集パネル内でスライドショー用画像にしたい座標を記載した CSV ファイル (*.csv) を指定します。CSV ファイル内に記載された範囲を一括で切り取ります。

2. スライド順**⑦ スライド画像一覧**

切り取りされたスライドショー用画像の一覧を表示します。

⑧

『スライド画像一覧』で選択した画像の順序を変更します。

⑨ 表示

『スライド画像一覧』で選択した画像をプレビュー表示します。

⑩ 削除

『スライド画像一覧』で選択している画像を削除します。

⑪ 全削除

『スライド画像一覧』に表示されている画像をすべて削除します。

⑫ プログラムから開く

『スライド画像一覧』で選択している画像を指定したプログラムから開きます。
指定したプログラムから画像を編集することもできます。

⑬ 進行方向

スライドショーの表示の進行方向を『縦じ方向を継承』『左』『右』から選択します。

⑭ イベント名

スライドショーイベントのイベント名を入力します。イベント名には、デフォルトで通し番号が設定されますが、変更可能です。

⑮ 作成

スライドショーイベントを作成します。

切り取り座標ファイルの書式

スライドショー用画像として作成したい座標を設定するカンマ区切りの CSV ファイルの書式は以下となります。

書式：X 座標,Y 座標, 幅, 高さ

※単位は px

⑨ 表示**4 『スライドショー作成』ダイアログを閉じます。****注意**

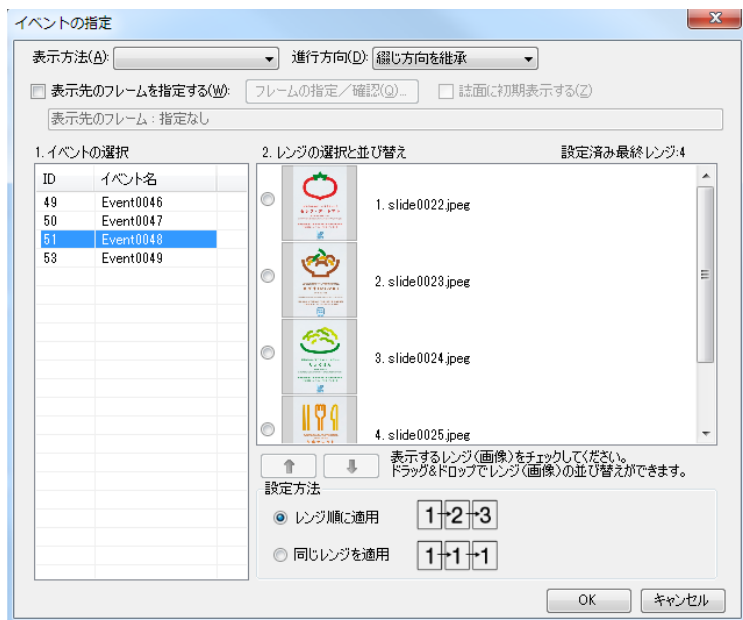
スライドショー作成機能で生成されたイベントは、全言語で同じ画像が使用されます。

- 5 作成したスライドショーイベントを設定するフレームをすべて選択し、選択したフレームを右クリックし、『イベント』の『イベントの種類』の『画像表示』を選択します。



- 6 『イベントの指定』ダイアログが表示されますので、イベントの選択と画像の表示順の設定を行います。

※『イベントの指定』ダイアログの詳細については p.94 「登録済みのテキスト表示、画像表示イベントの指定」を参照してください。



- 7** スライドショーイベントを指定したフレームにアイコン表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。
※フレームの枠線の色は画像表示イベントが設定されたフレームと同じになります。



動画再生イベントの指定

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上でフレームをタップすると動画を再生するように設定します。

■使用可能なファイルのフォーマット

MP4 ファイル (*.mp4; *.m4v)

注意

.m4v ファイルは Android では、再生されません。

注意

ブラウザ版で再生可能なフォーマットは、ブラウザに依存します。MP4 の動画圧縮規格は、H.264 を推奨します。

■指定方法

- 1** フレームに『動画再生』のイベントを指定する場合は、指定したいフレームを右クリックし、動画ファイルを指定します。
※ p.93「イベントの指定」の手順で指定します。

- 2** 動画再生イベントを指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



音声再生イベントの指定

デバイス上でフレームをタップすると音声を再生するように設定します。

■使用可能なファイルのフォーマット

MP3 ファイル (*.mp3)

M4A ファイル (*.m4a)

WAV ファイル (*.wav)

■指定方法

- 1 フレームに『音声再生』のイベントを指定する場合は、指定したいフレームを右クリックし、音声ファイルを指定します。

※ p.93「イベントの指定」の手順で指定します。

- 2 音声再生イベントを指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



HTML 表示イベントの指定

デバイス上でフレームをタップすると HTML を表示するように設定します。

■使用可能なファイルのフォーマット

HTML パッケージファイル (*.pkg)

注意

html ファイル (*.html : *.htm) の指定はできません。『ツール』メニューの『HTML パッケージ作成』で HTML パッケージファイルを作成してから、指定してください。

■指定方法

- 1 フレームに『HTML 表示』のイベントを指定する場合は、指定したいフレームに直接、HTML パッケージファイルをドラッグ&ドロップします。

※ p.93「イベントの指定」の手順でも指定できます。

- 2 HTML 表示イベントを指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。

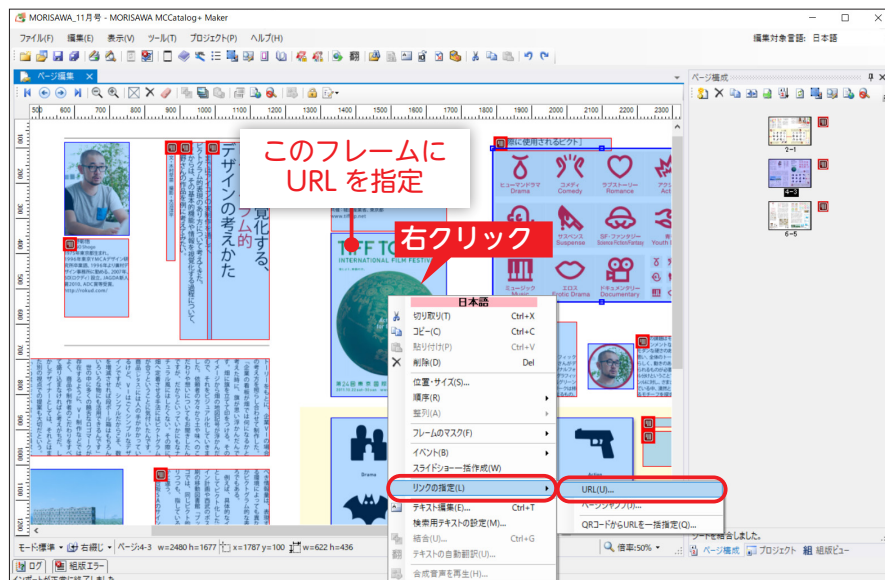


URL を指定する

デバイス上でフレームをタップすると、指定した外部サイトへジャンプするように設定します。

■指定方法

- 1 フレームを右クリックし、『リンクの指定』の『URL』を選択します。

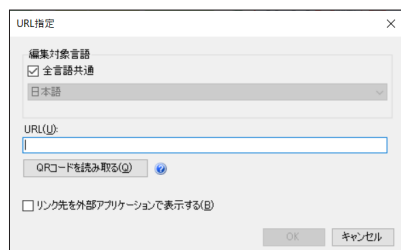


重要!

右クリックで表示されるコンテキストメニューの上に「日本語」や「英語」などの編集対象言語が表示されます。表示されている言語に対する設定ができる場合にのみ表示されます。編集対象言語は、メイン画面右上のコンボボックスで指定できます。

- 2 『URL 指定』ダイアログが表示されますので、指定したい URL を入力します。

言語ごとに異なる URL を指定する場合は、『全言語共通』を ☐ にして、言語ごとに URL を指定します。



注意

QR コードを読み取る

『QR コードを読み取る』ボタンをクリックすると、フレーム内にある QR コードを自動的に読み取り、読み取り内容を『全言語共通』の URL として設定します。すでに URL が設定されている状態で、QR コードを自動的に読み取った場合、既存の設定（言語ごとの設定も含む）はすべて解除されますので、ご注意ください。また、フレーム内に QR コードが複数含まれている場合は、その内のいずれか 1 つのみ読み取られます。QR コードや、フレームの作成位置によっては、読み取りに失敗する場合があります。その場合には、『URL 指定』ダイアログより URL を直接入力してください。

注意

リンク先を外部アプリケーションで表示する

『リンク先を外部アプリケーションで表示する』の設定は、iOS 版ビューアにのみ反映されます。Android 版ビューア、ブラウザ版ビューアについては、チェックのあり/なしに関わらず、リンク先は外部アプリケーションで表示されます。MCCatalog+ で配信しているコンテンツの URL (<https://www.catapoke.com/> ～) を指定する場合は、『リンク先を外部アプリケーションで表示する』にチェックを入れてください。

iOS 版ビューアは 2018 年 6 月以降にリリースしたバージョン (model version 4.1.0) から、YouTube の URL (<https://www.youtube.com/> ～) を外部アプリケーションで表示することができます。未対応ビューアの利用者がいる可能性がある場合は、『リンク先を外部アプリケーションで表示する』のチェックを外してください。

3 URL を指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



注意

イベントのビューア上の挙動

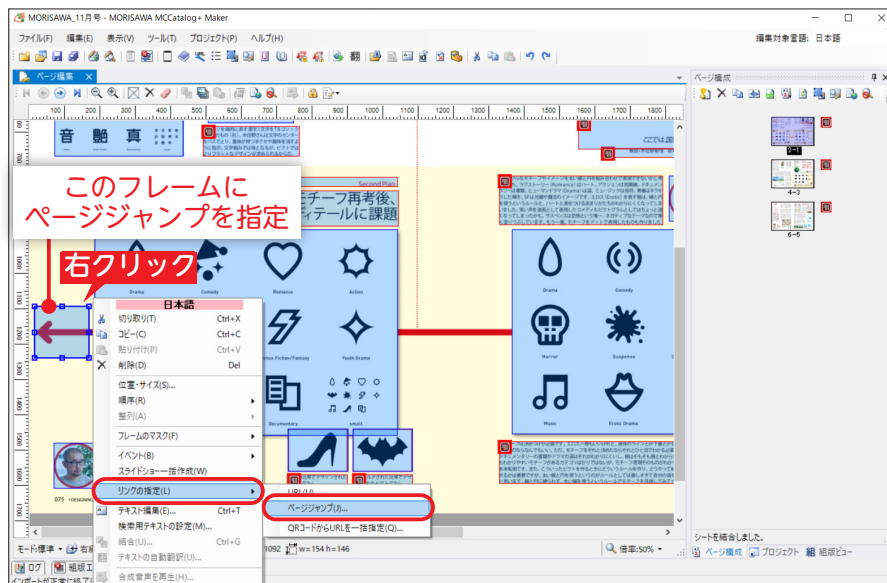
ビューアは、入力された文字列を『URL、メール、電話番号、その他』の内のいずれかだと認識します。
タップすると、URL の場合はブラウザが起動、メールの場合はメールクライアントが起動、電話番号の場合は電話が発信されるようになります。
メールや電話番号の URL スキームを指定した場合は、デバイスの設定や対応状況により動作しないことがあります。

ページジャンプを指定する

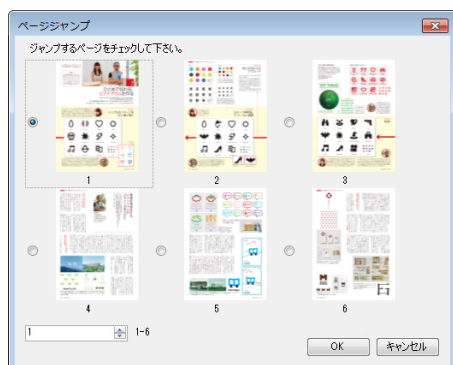
デバイス上でフレームをタップすると、指定したページにジャンプするように設定します。

■指定方法

1 フレームを右クリックし、『リンクの指定』の『ページジャンプ』を選択します。



2 『ページジャンプ』ダイアログが表示されますので、ジャンプするページを選択します。



3 ページジャンプを指定したフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。

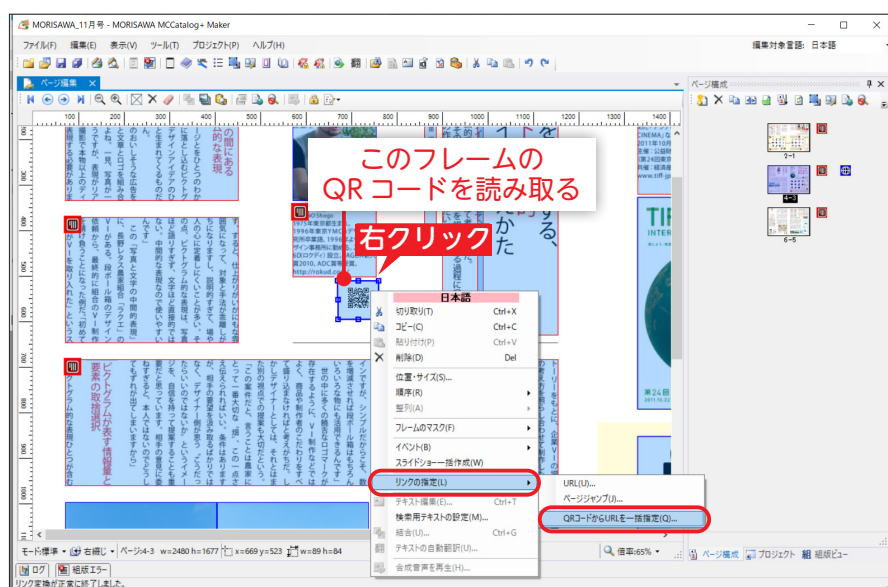


QR コードから URL を一括指定

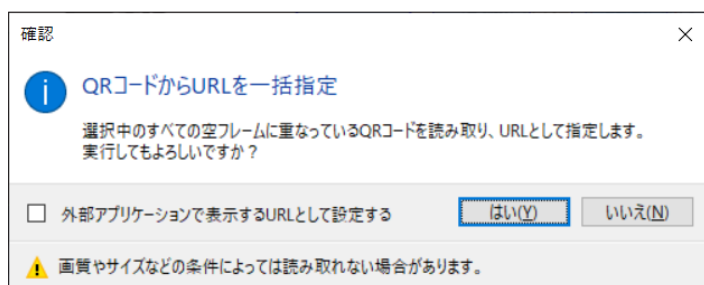
QR コードを囲ったフレームから自動的に QR コードを読み取り、URL を設定します。『URL 指定』ダイアログに読み取った URL が設定されます。

■指定方法

1 QR コードを囲ったフレームを右クリックし、『リンクの指定』の『QR コードから URL を一括指定』を選択します。



2 確認メッセージが表示されますので、『はい』を選択します。



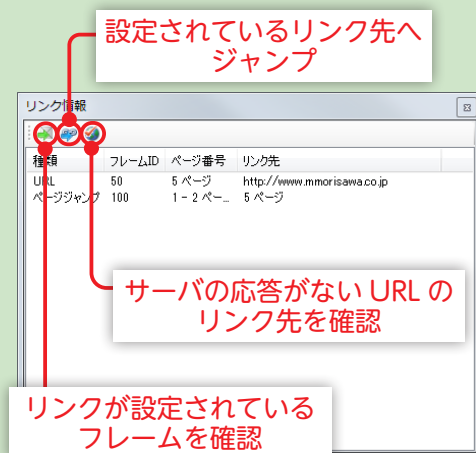
3 QR コードを囲ったフレームにアイコンが表示され、枠線の色が変更されたことを確認します。



注意

『QRコードからURLを一括指定』から読み取られた内容は、『全言語共通』のURLとして設定されます。
選択しているフレームにすでにイベントが設定されている場合は、『QRコードからURLを一括指定』を選択しても、QRコードは読み取られませんので、ご注意ください。

リンク情報パネルでのリンク確認



『URL』『ページジャンプ』の設定内容の確認はリンク情報パネルで行うことができます。

■リンクが設定されているフレームを確認したい場合

『リンク情報』の一覧から項目を選択し、🔍をクリックします。リンクが設定されているフレームが選択された状態でページ編集パネルに表示されます。

■リンク先へジャンプしたい場合

『リンク情報』の一覧から項目を選択し、🔗をクリックします。選択した項目の『種類』が『URL』の場合はブラウザでリンク先を表示し、『ページジャンプ』の場合はページ編集パネルでリンク先のページを表示します。

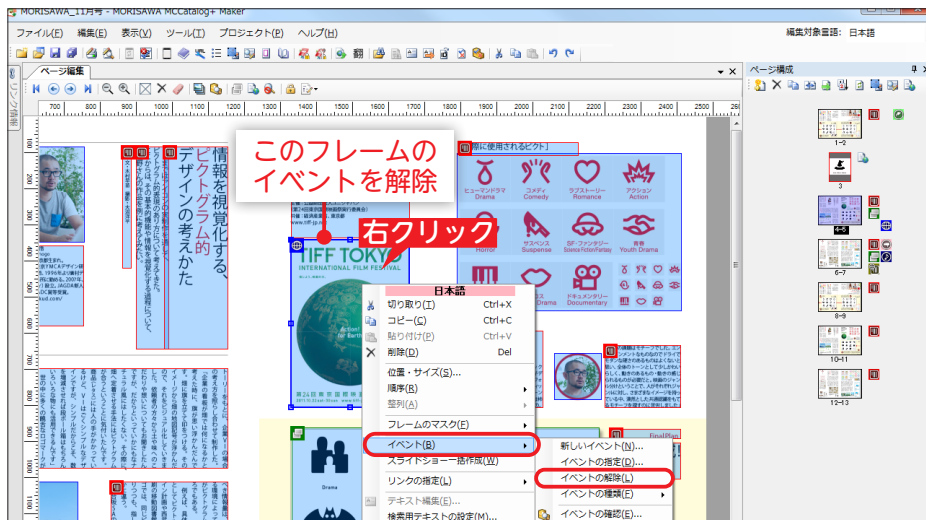
■URLのリンク先を確認したい場合

🔍をクリックすると、サーバの応答がない項目が赤い文字になり、アラートを表示します。

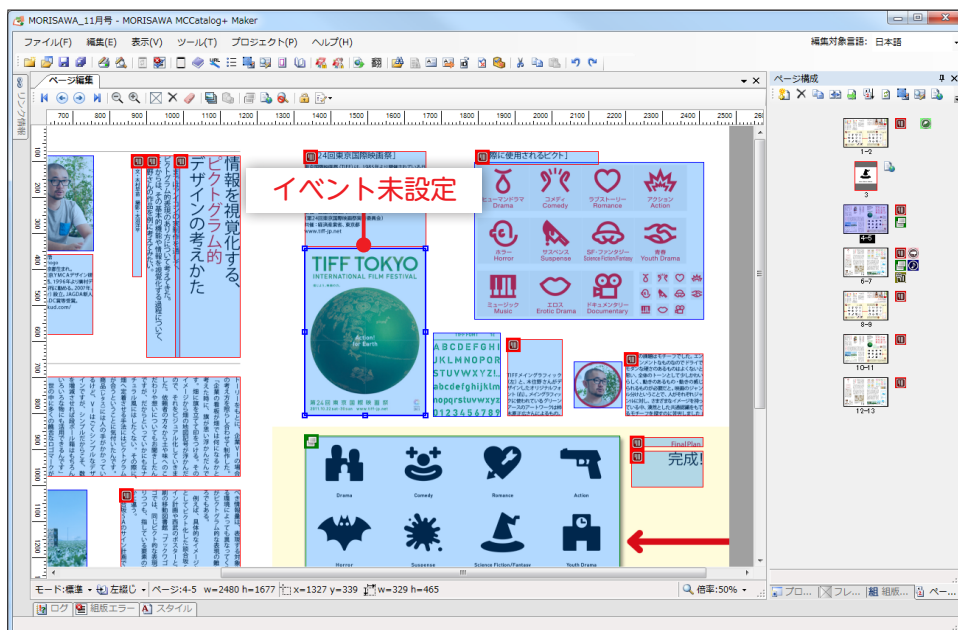
イベントの解除

フレームに設定されたイベントを解除します。

- 1 フレームを右クリックし、『イベント』の『イベントの解除』を選択します。



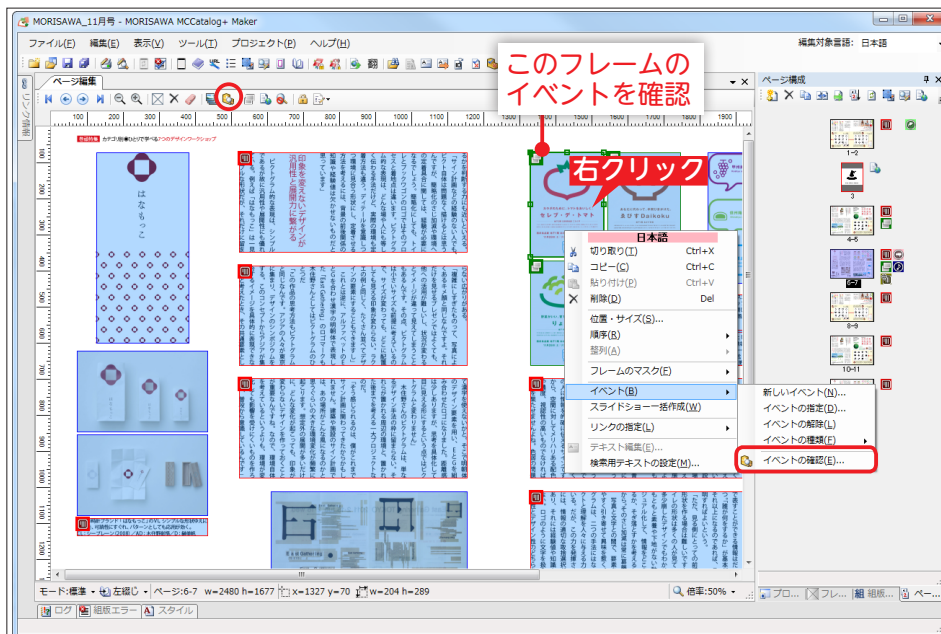
- 2 フレームに指定されていたイベントが解除され、フレームがイベント未設定の状態となります。



イベント内容の確認

フレームのイベントの内容を確認します。

- 1 フレームを右クリックして『イベント』の『イベントの確認』を選択、またはをクリック、またはフレームをダブルクリックします。



- 2 フレームに指定されているイベントに応じたイベント内容の表示、再生が行われます。

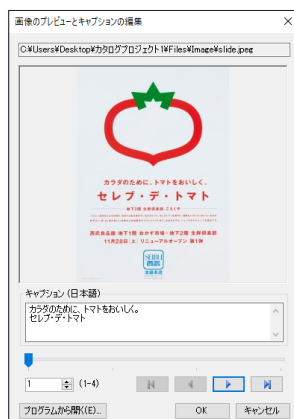
※組版ビューパネルを表示した状態で、テキストフレームをクリックした場合、組版ビューパネルの表示を更新します。

画像表示イベントの場合

画像のプレビューとキャプションの編集が行えます。

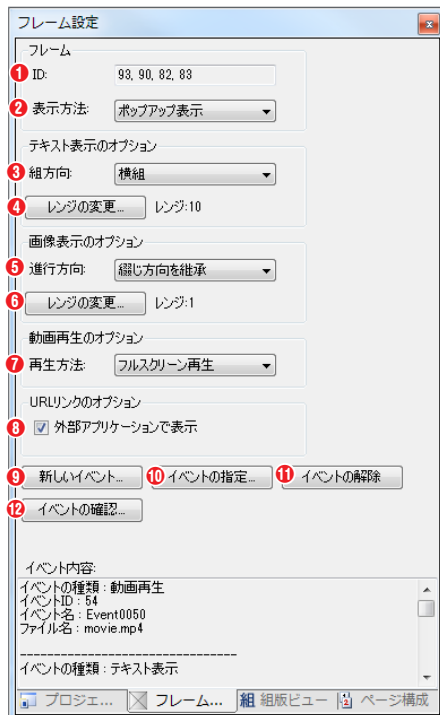
キャプションは、画像ごとおよび、言語ごとに設定が可能です。キャプション項目の名称には『編集対象言語』で表示されている言語が表示され、キャプション内容にはその言語のテキストが表示されます。

※キャプションに設定できる最大文字数は 300 文字となります。



フレーム設定パネルでのイベント確認、設定

ページ編集パネルで選択しているフレームのイベントの設定を確認することができます。
また、設定を行うことも可能です。



フレーム

① ID

ページ編集パネルで選択しているフレームの ID を表示します。

②表示方法

デバイス上での表示方法を『ポップアップ表示』『領域内に表示』『画面中央に表示』『画面左に表示』『画面右に表示』『画面上に表示』『画面下に表示』の中から指定します。

テキスト表示のオプション

③組方向

テキストの組方向を『横組』『縦組』から指定します。

④レンジの変更（テキスト表示）

テキストフレーム内で参照する範囲の番号を表示します。

テキスト表示イベントで複数のレンジが指定されている場合は、表示するレンジを指定します。

画像表示のオプション

⑤進行方向

画像表示の進行方向を『縦じ方向を継承』『左』『右』から指定します。

⑥レンジの変更（画像表示）

画像表示フレーム内で参照する範囲の番号を表示します。画像表示イベントで複数の画像ファイルが指定されている場合は初期表示する画像を指定します。

動画再生のオプション

⑦再生方法

動画の再生方法を『フルスクリーン再生』『誌面内再生』から指定します。

URL リンクのオプション

⑧外部アプリケーションで表示

☒の場合、外部アプリケーションを利用してリンク先を表示します。

※詳細については p.104 「リンク先を外部アプリケーションで表示する」を参照してください。

⑨新しいイベント

新しいイベントダイアログが開き、新しいイベントの設定をします。

⑩イベントの指定

イベントの一覧より、イベントに利用するファイルを指定します。

⑪イベントの解除

現在設定されている、イベントを解除します。

⑫イベントの確認

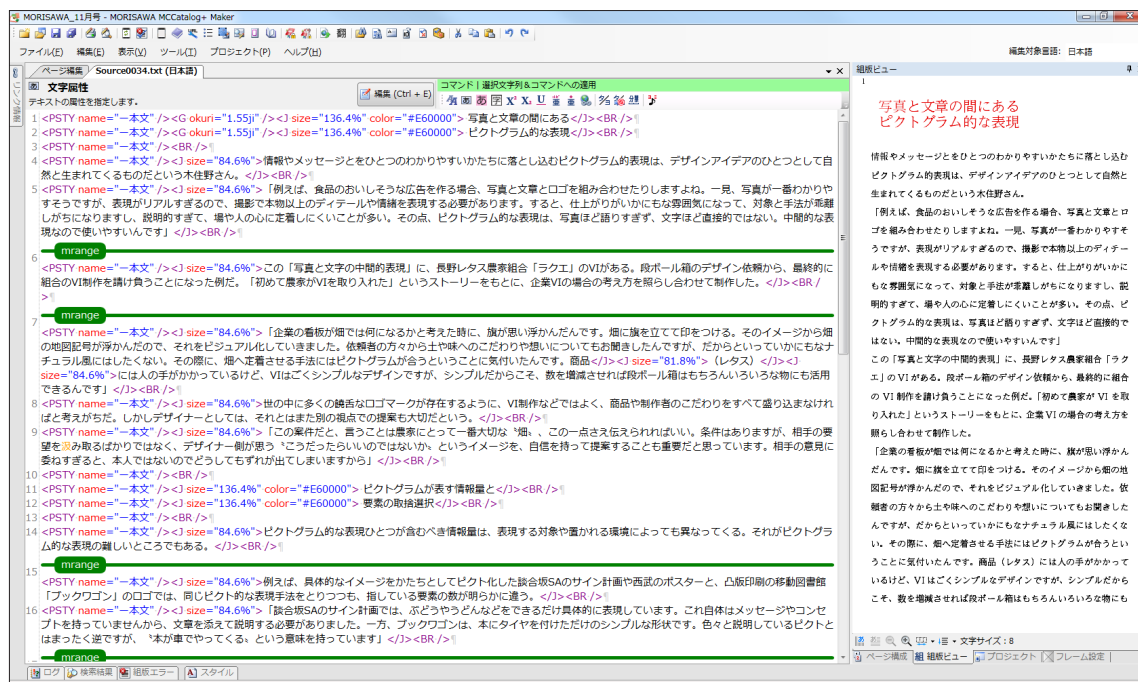
現在設定されているイベントの内容を確認します。

文字の編集

MCCatalog+ Maker でテキストフレーム内の文字を編集するにはテキストエディタパネルを使用します。

編集内容の確認表示

ページ編集パネル上でテキストフレームを選択し、をクリックしてテキストエディタパネルにテキストファイルの内容を表示し、組版ビューパネルで表示内容を確認しながら修正することができます。



重要!

テキストエディタパネルの名称には、編集対象言語で表示されている言語が表示され、テキスト内容にはその言語のテキストが表示されます。

文字の入力、削除、コピー、移動

文字の入力

テキストエディタパネルで文字を入力したい場所をクリックして、キーボードで入力します。

文字の削除

テキストエディタパネルで削除したい文字を選択して『Delete』キーまたは『Back Space』キーを押します。

カーソルの移動

・『編集』メニューから『指定行へのジャンプ』を選んで、指定した行に移動します。

文字の選択

テキストエディタパネルで文字を選択するには、下記のいずれかを行います。

- ・マウスドラッグで範囲選択
- ・3回クリックで段落選択
- ・『Shift』 + 『←』 『→』 キーでカーソル位置から1文字ずつ選択
- ・『Shift』 + 『Ctrl』 + 『Home』 または 『End』 キーでカーソル位置からテキストエディタパネル先頭または末尾までを選択
- ・『Ctrl』 + 『A』 キーまたは『編集』メニューから『すべて選択』で全文選択

文字のコピー

テキストエディタパネルでコピーしたい文字を選択してをクリック、または『編集』メニューから『コピー』を選びます。次に、コピーした文字列を挿入したい箇所にカーソルを置いてをクリック、または『編集』メニューから『貼り付け』を選びます。

文字の切り取り

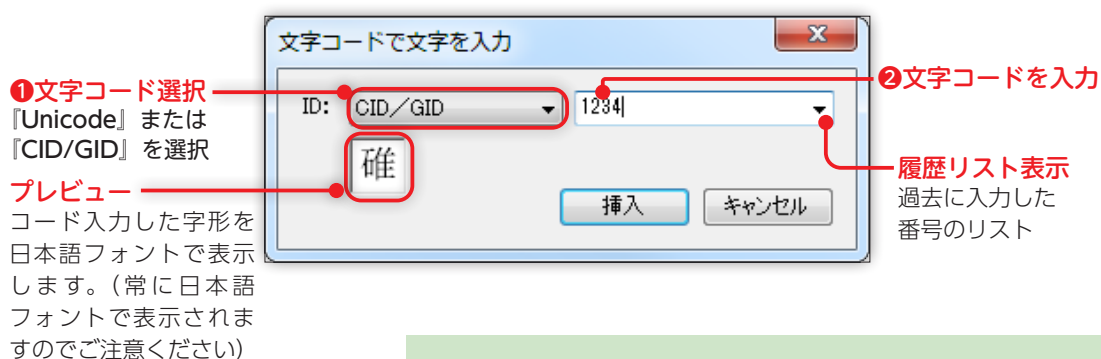
テキストエディタパネルで移動したい文字を選択してをクリック、または『編集』メニューから『切り取り』を選びます。次に、挿入したい箇所にカーソルを置いてをクリック、または『編集』メニューから『貼り付け』を選びます。

編集の取り消しとやり直し

テキストエディタパネルでの編集で、直前の作業を取り消して元に戻すには、をクリック、または『編集』メニューから『元に戻す』を選びます。また、『元に戻す』メニューの実行を取り消したい場合には、をクリック、または『編集』メニューから『やり直し』を選びます。

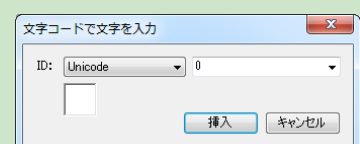
CID/GID 参照 日本語

- 1 テキストエディタパネルで文字を入力したい場所をクリックします。
- 2 ツールバーのをクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『CID/GID 参照』を選びます。
- 3 『ID』で『Unicode』か『CID/GID』を選んで文字コードを入力し、[挿入] をクリックします。



ID の初期値

テキストエディタパネルで、文字を入力したい箇所にカーソルを置き、右クリックし、『Unicode から文字を挿入』を選べると、表示されるダイアログのIDの初期値は『Unicode』になります。



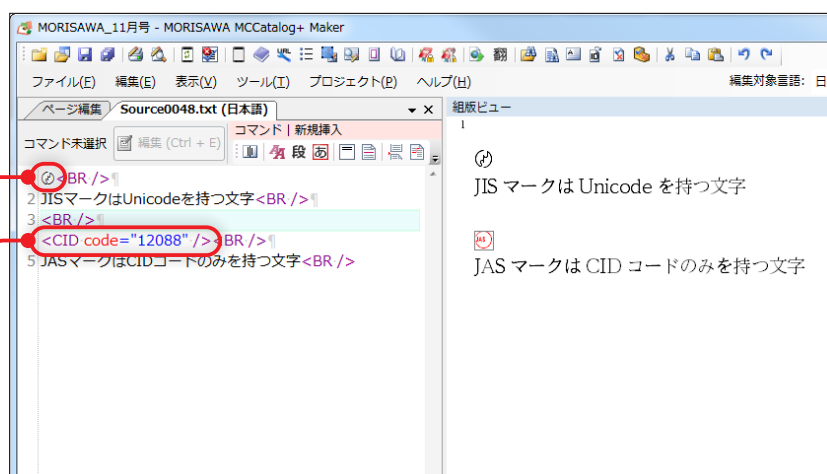
- 4 『Unicode』 で入力した場合、テキストエディタパネルに文字が挿入されます。
- 『CID/GID』 で入力した場合、テキストエディタパネルに <CID code="コード番号" /> が挿入されます。
- ※『ツール』→『組版ビュー設定』で『色表示』の『CIDコード』にチェックを入れている場合は、『ページ編集設定』の『校正』タブにある『CIDコード』に指定している文字色で表示します。

ID	入力例	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
Unicode	3004 (00003004) ※ 8桁になるように0は自動認識します。	㊦	㊦
CID	12088 ※ 5桁になるように自動認識します。	<CID code="12088" />	JAS

Unicode 入力例



CID/GID コード入力例



注意

「文字コードで文字を入力」画面の文字のプレビュー表示は、常に日本語フォントで表示されます。テキストエディタパネルの名称に表示されている言語のフォントでは表示されませんので、ご注意ください。

注意

異体字入力した文字のエディタでの表示

テキストエディタパネルで使用している書体が入力した Unicode の文字を持っていない場合には『□』の表示になります。

CID コード入力文字の対応

CID コード入力した縦組用字形、横組用字形はそれぞれその組方向のみに対応しています。ただし、日本語以外の言語は常に横組で表示されます。

文字パレットを利用した文字入力 日本語

『文字パレット』では、読みのわからない漢字や、異体字、記号をすばやく検索することができます。文字パレットを表示するには『表示』メニューから『文字パレット』を選びます。

字形表示エリア

検索結果を表示します
目的の文字をダブルクリックしてテキストエディタパネルに文字を挿入します

コード番号

字形表示エリアで選択した字形の CID コード、Unicode を表示します

検索文字数

検索結果の文字数を表示します



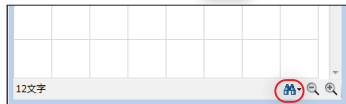
検索

『漢字検索』または『異体字検索』、『記号検索』をします

縮小／拡大

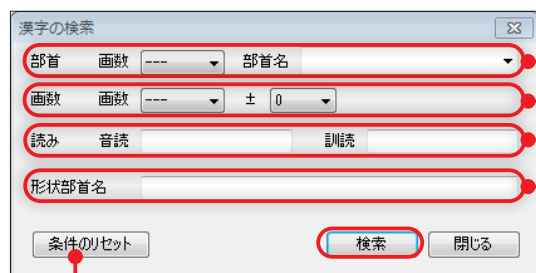
字形表示エリアの文字を縮小／拡大します

- 1 テキストエディタパネルで文字を入力したい場所をクリックします。
- 2 『表示』メニューで『文字パレット』を選びます。
- 3 文字パレットの  をクリックし、『漢字検索』または『異体字検索』、『記号検索』を選びます。



- 4 『漢字検索』の場合は検索項目を1つ以上入力、『異体字検索』の場合は漢字を入力、『記号検索』の場合は『分類』を選択し、[検索]をクリックします。

漢字検索



部首検索

『部首画数』を選択し、『部首名』を選択

画数検索

漢字の総画数となる『画数』を選択し、『±』から検索画数の拡張数を指定

読み検索

『音読』または『訓読』にひらがなまたはカタカナで入力

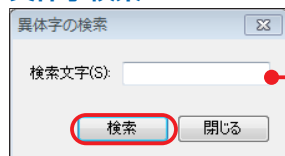
形状部首を入力

検索する漢字に含まれる形状文字をスペース区切りで入力

条件のリセット

すべての入力された条件を消去します

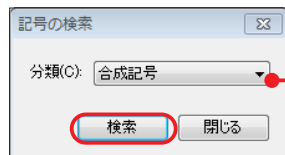
異体字検索



検索文字

漢字1字を入力

記号検索

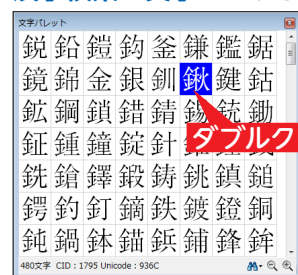


分類

記号の分類を選択

- 5 字形表示エリアに表示された検索結果から、目的の字形をダブルクリックし、テキストエディタパネルに挿入します。

漢字検索の文字パレット

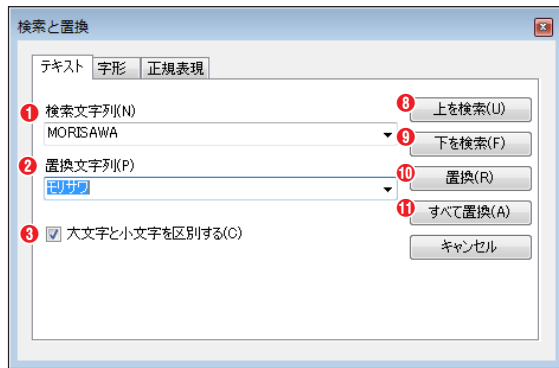


記号検索の文字パレット



検索と置換

『検索と置換』では、現在表示しているドキュメントのテキストエディタパネル内で文字列を検索したり、検索した文字列を他の文字列に置換する場合に利用します。検索と置換を表示するにはツールバーのをクリックするか、『編集』メニューから『検索と置換』を選びます。



テキストタブ

通常の文字列を検索・置換するときに利用します。

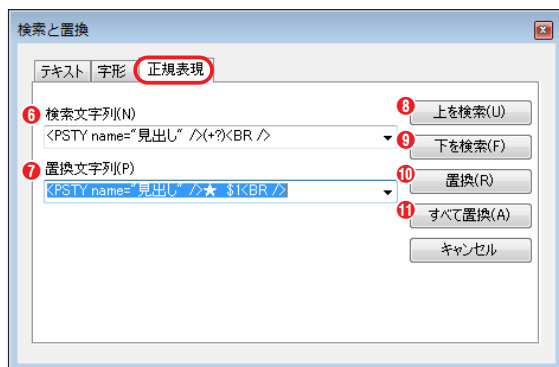
- ① **検索文字列**：検索する文字列を入力します。
- ② **置換文字列**：置換する文字列を入力します。
- ③ **大文字と小文字を区別する**：欧文文字列の場合、☒にすると大文字と小文字の区別をして検索します。



字形タブ 日本語

文字字形を文字コードで指定して検索・置換するときに利用します。

- ④ **字形の検索**：『ID』で『Unicode』と『CID/GID』から選択し、検索したい文字コードを入力します。
- ⑤ **字形の置換**：『ID』で『Unicode』と『CID/GID』から選択し、置換したい文字コードを入力します。



正規表現タブ

正規表現による検索・置換するときに利用します。

- ⑥ **検索文字列**：正規表現を利用した文字列を入力します。
- ⑦ **置換文字列**：正規表現を利用した文字列を入力します。

※正規表現については一般的な資料をご参照ください。

なお、改行コード（テキストエディタパネル上で↓で示されたコード）を指定する場合は、「**¥r¥n**」を指定します。

《左図例》段落スタイル『見出し』が設定された段落の文字列先頭に「★」を付加
全角スペース

- ⑧ **[上を検索]**：検索文字列を上に向かって検索します。
- ⑨ **[下を検索]**：検索文字列を下に向かって検索します。
- ⑩ **[置換]**：検索した文字を置換文字列で置換します。
- ⑪ **[すべて置換]**：検索文字列をテキストエディタパネル内のすべての箇所を検索し置換します。

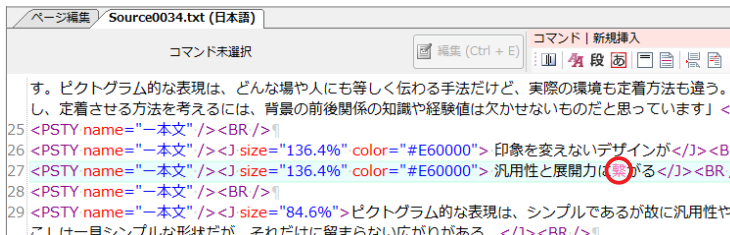
- 1 テキストエディタパネルで検索を開始したい箇所をクリックします。
- 2 ツールバーのをクリックするか、『編集』メニューから『検索と置換』を選びます。
- 3 『検索文字列』（『字形の検索』）、および置換したい場合には『置換文字列』（『字形の置換』）に入力し、[上を検索]または[下を検索]、あるいは[置換]または[すべて置換]をクリックします。

4 検索、置換が終了したら [キャンセル] をクリックしてダイアログを閉じます。

字形変換 日本語

『字形変換』では、字形変換対象文字を一括で変換することができます。対象文字は『ツール』メニューの『テキストエディタ設定』で『字形変換対象文字』としてカラー表示される文字です。『字形変換』は『編集』メニューの『字形変換』から表示します。

1 字形変換をしたいテキストフレームをテキストエディタパネルに表示します。



2 『編集』メニューから『字形変換』を選びます。

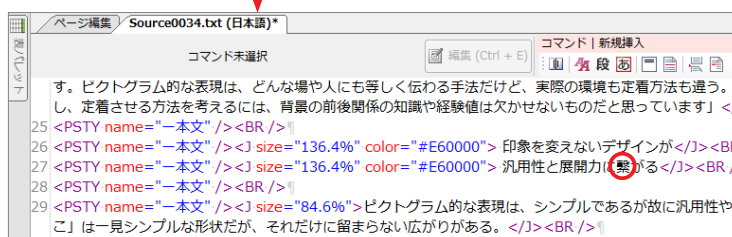
3 変換する字形のリストを ☒ にして、[変換] をクリックします。



- ① 変換元字形：変換対象文字の現在の字形を表示しています。
- ② 変換先字形：変換対象文字の置換する字形を表示しています。
- ③ [全選択]：リストのチェックボックスをすべて ☒ にします。
- ④ [全解除]：リストのチェックボックスをすべて ☐ にします。

字形変換対象文字とは

JIS83 で第1と第2水準を入れ替えた文字、簡易慣用文字など。

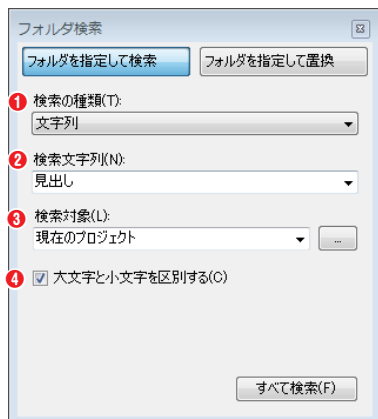


フォルダを指定して検索

『フォルダを指定して検索』では、プロジェクト全体に含まれるドキュメントのテキスト検索が可能です。確認には検索結果パネルを利用します。

1 ツールバーの  をクリックするか、『編集』メニューの『フォルダを指定して検索』を選びます。

- 2 「フォルダを指定して検索」をクリック、『検索の種類』、『検索文字列』、『検索対象』を設定し、『すべて検索』をクリックします。



① 検索の種類：『文字列』『すべての CID』『すべての JIS2004 字形』『CID』『UNICODE』『正規表現』『すべての親文字に変換された文字』『すべてのインライン画像コメント』『すべての表組コメント』『すべての表組コマンド』『すべてのリンクコマンド』『すべてのインライングラフィックコメント』から選択します。

② 検索文字列：『検索の種類』で『文字列』または『正規表現』を選択した場合には、検索する文字列を入力します。

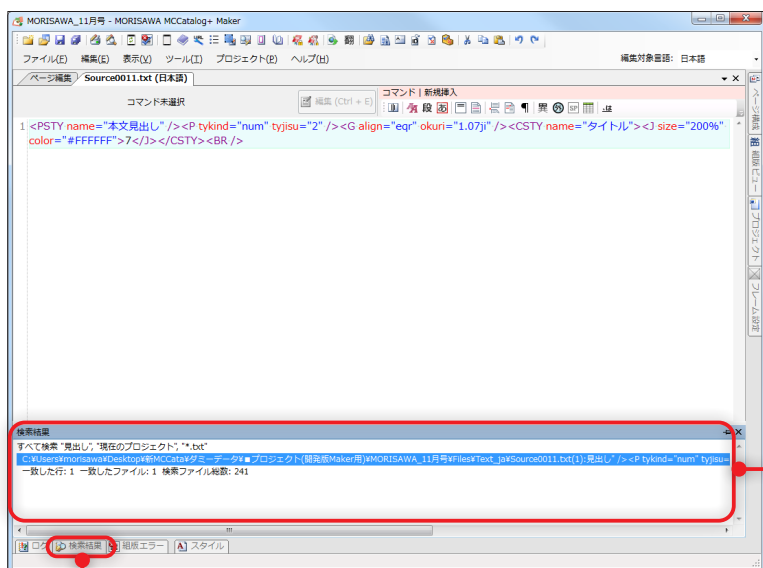
『検索の種類』で『CID』または『UNICODE』を選択した場合には、検索する文字（字形）のコード番号を入力します。

③ 検索対象：『現在のプロジェクト』『現在のテキスト』『すべての開かれているテキスト』から選択するか、[...] をクリックして検索するフォルダを指定します。

④ 大文字と小文字を区別する：欧文文字列の場合、[☒] にすると大文字と小文字の区別をして検索します。

- 3 「表示」メニューより、『検索結果』を選択するか、検索結果パネルタブにマウスポインタを重ねて検索結果パネルを表示します。

- 4 「検索結果」パネルのリスト項目をダブルクリックして、テキストエディタパネルで表示します。

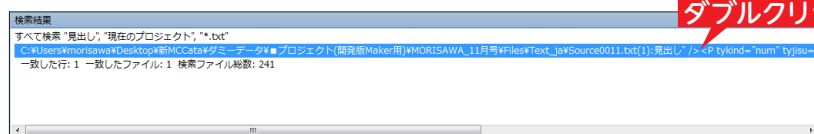


検索結果パネルタブ

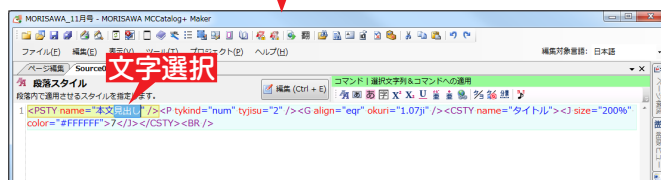
検索結果パネル

「フォルダを指定して検索」の実行結果をリスト表示します。

検索された文字を含むテキストファイルの保存パス名と、検索結果文字以降の段落文字列を表示します。



文字選択



フォルダを指定して置換

『フォルダを指定して置換』では、プロジェクト全体に含まれるドキュメントのテキストの置換が可能です。確認には検索結果パネルを利用します。

- 1 ツールバーの をクリックするか、『編集』メニューの『フォルダを指定して置換』を選びます。
- 2 [フォルダを指定して置換] をクリック、『検索の種類』、『検索文字列』、『置換文字列』、『検索対象』を設定し、『すべて置換』をクリックします。

フォルダ検索

フォルダを指定して検索 フォルダを指定して置換

1 検索の種類(T): 文字列

2 検索文字列(N): デザイン

3 置換文字列(P): Design

4 検索対象(L): 現在のプロジェクト

5 ☐ 大文字と小文字を区別する(C)

すべて置換(A) ...

- 1 検索の種類：『文字列』『CID』『UNICODE』『正規表現』から選択します。
- 2 検索文字列：『検索の種類』で『文字列』または『正規表現』を選択した場合には、検索する文字列を入力します。
『検索の種類』で『CID』または『UNICODE』を選択した場合には、検索する文字（字形）のコード番号を入力します。
※『CID』『UNICODE』は、編集対象言語が『日本語』または『英語』の場合のみ対応しています。
- 3 置換文字列：置換する文字列を入力します。
- 4 検索対象：『現在のプロジェクト』『現在のテキスト』『すべての開かれているテキスト』から選択するか、 をクリックして検索するフォルダを指定します。
- 5 大文字と小文字を区別する：欧文文字列の場合、☒ にすると大文字と小文字の区別をして検索します。

- 3 [すべて置換] をクリックすると、『置換のプレビュー』ダイアログが表示されます。

置換のプレビュー

1 検索文字列: デザイン 2 一致した箇所: 1528

3 一致したテキスト 4 置換後のテキスト 5 言語 6 ファイル名

一致したテキスト	置換後のテキスト	言語	ファイル名
☒ 広告などのデザインを手がける6Dの木住野郎さんく右...	広告などのDesignを手がける6Dの木住野郎さんく右...	日本語	Source0020.txt
☒ れた比率でデザインされたビクトグラム(BR />	れた比率でDesignされたビクトグラム(BR />	日本語	Source0081.txt
☒ 際の比率でデザインされたビクトグラム(BR />	際の比率でDesignされたビクトグラム(BR />	日本語	Source0082.txt
☒ フラットなデザインが求められるからだ。 	フラットなDesignが求められるからだ。 	日本語	Source0088.txt
☒ べる7つのデザインワークショップ	べる7つのDesignワークショップ	日本語	Source0109.txt
☒ 結果、よいデザインに繋がったのだと思います。ただ、あえ...	結果、よいDesignに繋がったのだと思います。ただ、あえ...	日本語	Source0121.txt
☒ 住野さんがデザインしたオリジナルフォント(右)。メイ...	住野さんがDesignしたオリジナルフォント(右)。メイ...	日本語	Source0123.txt
☒ 的表現は、デザインアイデアのひととして自然と生...	的表現は、Designアイデアのひととして自然と生まれ...	日本語	Source0131.txt
☒ シンプルなデザインですが、シンプルだからこそ、数を...	シンプルなDesignですが、シンプルだからこそ、数を増減...	日本語	Source0132.txt
☒ ボール箱のデザイン依頼から、最終的に組合のVI制...	ボール箱のDesign依頼から、最終的に組合のVI制作...	日本語	Source0139.txt
☒ 格ボールのデザイン依頼されたのをきっかけに、株...	格ボールのDesign依頼されたのをきっかけに、株式会...	日本語	Source0140.txt
☒ た個性的なデザイン展開ができるのもシンプルなの...	た個性的なDesign展開ができるのもシンプルなビクト...	日本語	Source0140.txt

ページ: 1/1

8 登録情報 カテゴリ別検索などで学べる7つのデザインワークショップ

9 全選択(S) 10 全解除(D) 11 実行(O) 12 キャンセル

- 4 置換後のテキスト
置換後のテキストと、その前後のテキストを表示します。
- 5 言語
『一致したテキスト』が含まれている、テキストファイルの言語を表示します。
- 6 ファイル名
『一致したテキスト』が含まれている、テキストファイル名を表示します。
- 7 << < > >>
表示中の『置換対象一覧』のページを変更することができます。

⑧ 選択箇所のテキスト表示

『置換対象一覧』で選択した行のテキストを表示します。また、検索文字列はハイライト表示されます。

⑨ 全選択

『一致したテキスト』のリストをすべて ☒ にします。

⑩ 全解除

『一致したテキスト』のリストをすべて ☐ にします。

⑪ 変換

『置換対象一覧』で ☒ にしているリストをすべて置換します。

⑫ キャンセル

『置換のプレビュー』ダイアログを閉じて、『フォルダ検索』ダイアログを表示します。

4 置換したいリストを ☒ にし、[変換] をクリックします。

5 テキストエディタパネルで開かれているテキストファイルに対象の文字列があった場合、文字列が置換されて表示されていることを確認します。

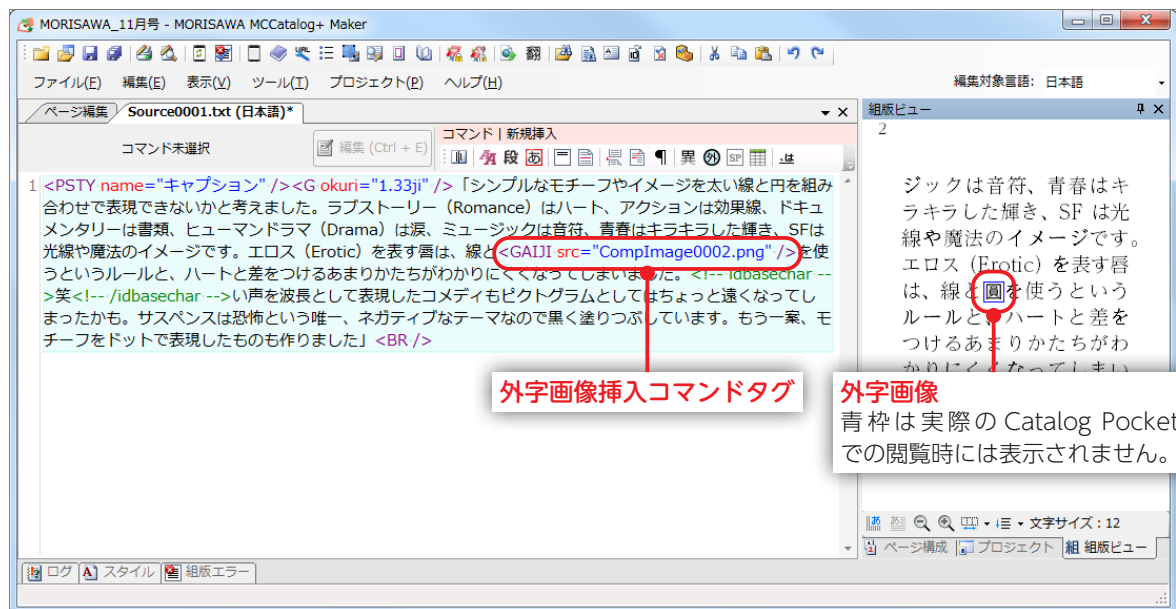
※開かれていないテキストファイルに対象文字列があった場合、置換して保存します。



外字画像の利用

テキストフレーム内で外字画像を利用するには『テキスト内画像』フォルダに画像ファイルを追加し、外字画像の挿入コマンドタグで外字画像を挿入します。

※画像ファイルの追加の方法については p.89「イベントの指定」の「ファイルの追加」を参照してください。



■使用可能なファイルのフォーマット

ビットマップ (*.bmp)

JPEG ファイル (*.jpg; *.jpeg; *.jpe)

PNG ファイル (*.png)

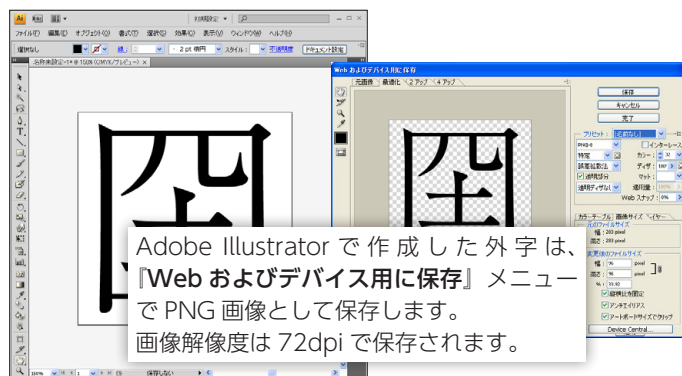
※背景を透明にした PNG 画像の利用を推奨します。

■画像のカラー

- ・ RGB
- ・ インデックスカラー
- ・ グレースケール

■画像のピクセル数

96 × 96pixel (推奨)



注意

外字画像の大きさ

外字画像は縦横同サイズで作成してください。縦横異なるサイズで作成すると、挿入時に正方形に自動変形します。

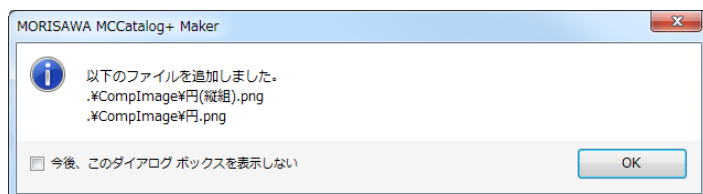
外字画像ファイルの追加

ファイルをコンテキストメニューから追加する

- 1 プロジェクトパネルで『ファイル』フォルダを右クリックし『追加』の『テキスト内画像』から選択するか、『テキスト内画像』フォルダを右クリックし『追加』を選択して表示される『ファイルを開く』ダイアログから追加したいファイルを選択します。

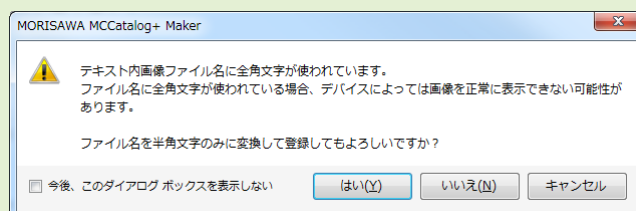
ファイルをドラッグ&ドロップで追加する

- 『テキスト内画像』フォルダに直接、追加するファイルをドラッグ&ドロップします。
- ファイルをフォルダに追加した確認メッセージが表示されます。



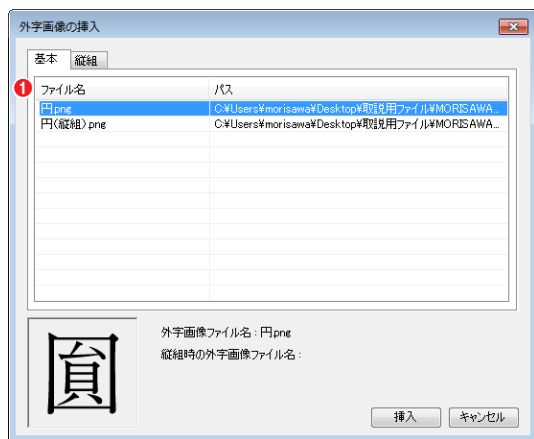
注意

画像ファイル名に全角文字が使われている場合、確認メッセージが表示されます。



外字画像コマンドタグの挿入

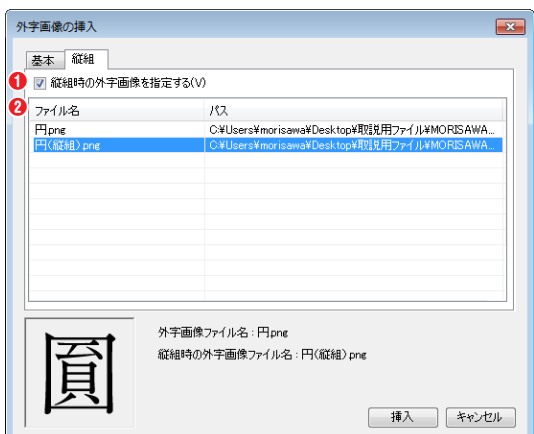
- テキストエディタパネルで、外字画像を挿入したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『外字』を選びます。
- 外字画像のリストから、挿入したい外字画像を選択し、『挿入』をクリックします。



基本タブ

①外字画像リスト

外字画像を選択します。



縦組タブ

①縦組時の外字画像を指定する

縦組時に表示する画像を選択する場合、 にし、外字画像リストから外字画像を選択します。

※縦組時の外字画像を指定しない場合は基本タブで設定した外字画像が縦組時にも使用されます。

②外字画像リスト

縦組時に表示する外字画像を選択します。

- 3 テキストエディタパネルで、カーソル位置に外字画像コマンドタグが挿入されます。組版ビューパネルでは文字サイズ指定に従って外字画像が自動でサイズ調整され、青枠付きで表示されます。

※青枠は実際の電子配信コンテンツ上では表示されません。

外字画像 <GAIJI src="外字画像名" vsrc = "縦組時表示外字画像名" />	
テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
<GAIJI src="国.png" vsrc="国(縦組).png" />	彼は国へ帰りました。 彼は国へ帰りました。

注意

1つの電子配信コンテンツ内に挿入できる外字画像数には制限はありませんが、画像数の多い場合はメモリ不足等により動作不安定になる場合があります。必ず実機で確認を行ってください。

組版指定コマンド

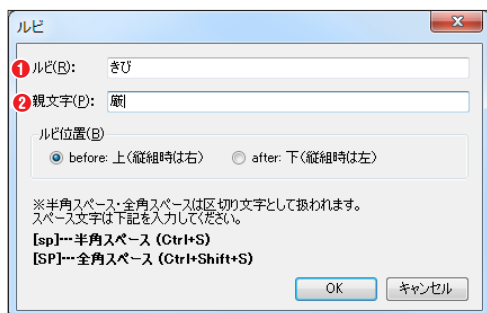
MCCatalog+ Maker でテキストフレーム内の組版体裁の指定を行うには、コマンドを挿入します。

●ルビ設定

ルビコマンドタグ入力

1 テキストエディタパネルで、ルビを付けたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『ルビ』を選びます。

2 『ルビ』にルビ文字を入力し、[OK] をクリックします。



① **ルビ**：ルビ文字を入力します。ルビの文字間にスペース（全角または半角）を入力して読みを区切ることができます。

② **親文字**：選択した文字（親文字）を表示します。

※半角／全角スペースは区切り文字として使用します。スペース文字として利用する場合は、[sp] 半角スペース、[SP] 全角スペースとしてください。

3 テキストエディタパネルにルビコマンドタグが挿入されます。

ルビ <JRUBY> 親文字 <RT> ルビ文字 </RT></JRUBY>			
選択文字	ルビ	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
承知	しょうち	<JRUBY> 承知 <RT> しょうち </RT></JRUBY>	ご承知ですか

ルビについて

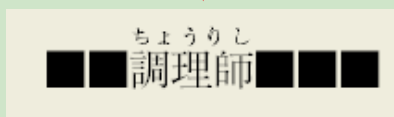
MCCatalog+ ではルビに熟語ルビを採用しています。

熟語ルビ…ルビが親文字より短い場合（1文字か2文字）は「モノルビ」として、長い場合は「グループルビ」として処理します。指定は親文字1文字ごとに対してルビ文字を指定します。

例) **テキストエディタパネル**

<JRUBY> 調 <RT> ちょう </RT> 理 <RT> り </RT> 師 <RT> し </RT></JRUBY>

組版ビューパネル表示



※『ファイル』→『表示／組版設定』の『組版設定』タブ内『ルビ』の『肩つき』が  の場合の例となります。

半角／全角スペースについて

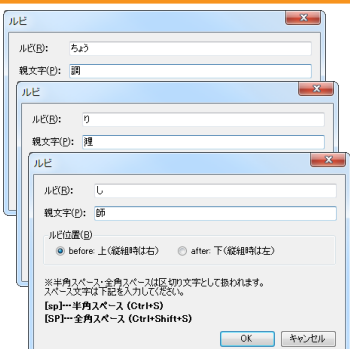
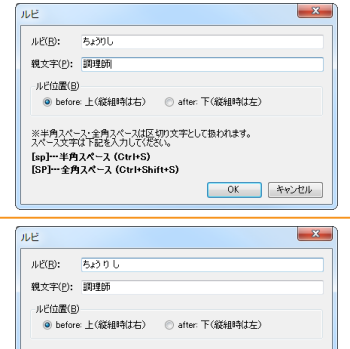
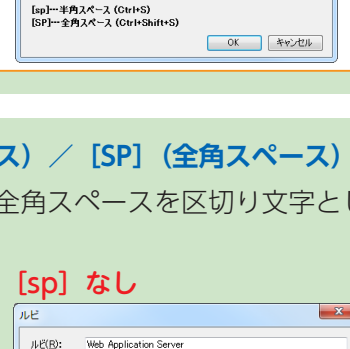
ルビ設定で半角／全角スペースは親文字とルビ文字の区切り文字として使用します。
行末にルビを設定した文字が収まらないなど、分割したい場合に利用します。

処理方法：親文字 1 文字 → モノルビ

親文字 2 文字以上（スペースなし） → グループルビ

親文字 2 文字以上（スペースあり） → 熟語ルビ

例)

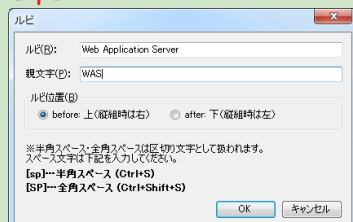
ルビの種類	入力	行中	行末
モノルビ		あああああああ調理師	あああああああああ調 理師
グループルビ		あああああああ調理師	あああああああああ ちょうりし 調理師
熟語ルビ		あああああああ調理師	あああああああああ調 理師

[sp]（半角スペース）／[SP]（全角スペース）について

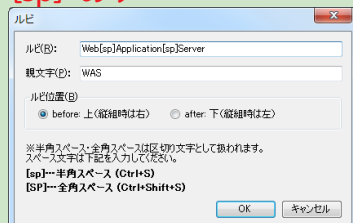
ルビ設定で半角／全角スペースを区切り文字としてではなく、実際のスペースとして表示するため
に使用します。

例)

[sp] なし



[sp] あり



Web Application Server
WAS

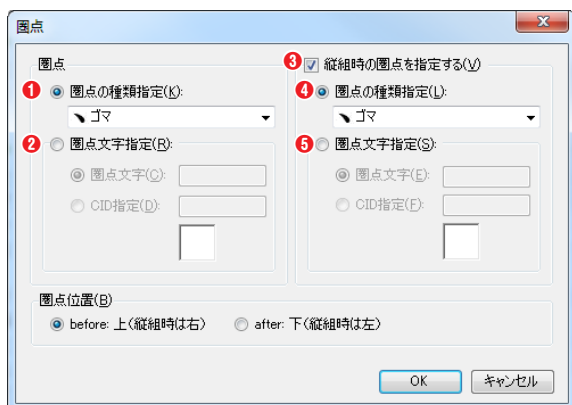
Web Application Server
WAS

● 圏点設定 日本語

圏点コマンドタグ入力

1 テキストエディタパネルで、圏点を付けたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『圏点』を選びます。

2 変更したい項目を選択して設定を行い、[OK] をクリックします。



圏点

① 圏点の種類指定: 圏点文字を『ゴマ』、『白ゴマ』、『黒丸』、『白丸』、『二重丸』、『蛇の目』、『黒三角』、『白三角』、『小さい黒丸』、『小さい白丸』、『アスタリスク』、『※印』から選択します。

② 圏点文字指定: 圏点としたい文字が『圏点の種類指定』の中にない場合、『圏点文字』を選択し、直接、圏点としたい文字を1文字入力するか、『CID指定』を選択し、CIDコードを入力して指定することができます。

③ 縦組時の圏点を指定する

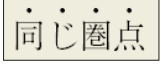
Catalog Pocket 上で縦組と横組表示を自由に切り替えられるようにした場合、縦組と横組で表示する圏点文字を別々に設定することができます。『縦組時の圏点を指定する』を  にして設定を行ってください。

④ 圏点の種類指定: 縦組時に使用する圏点文字を『ゴマ』、『白ゴマ』、『黒丸』、『白丸』、『二重丸』、『蛇の目』、『黒三角』、『白三角』、『小さい黒丸』、『小さい白丸』、『アスタリスク』、『※印』から選択します。

⑤ 圏点文字指定: 縦組時に圏点としたい文字が『圏点の種類指定』の中にない場合、『圏点文字』を選択し、直接、圏点としたい文字を1文字入力するか、『CID指定』を選択し、CIDコードを入力して指定することができます。

3 テキストエディタパネルに圏点コマンドタグが挿入されます。

圏点	<KENTEN kind="圏点番号" vkind="圏点番号"> 圏点付加文字 </KENTEN>
	<KENTEN char="圏点文字またはCIDコード" vchar="圏点文字またはCIDコード"> 圏点付加文字 </KENTEN>

圏点指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
3 黒丸	<KENTEN kind=3> 圏点付加文字 </KENTEN>	
① 横組: アスタリスク ④ 縦組: ゴマ	<KENTEN kind=11 vkind=1> 圏点付加文字 </KENTEN>	

圏点番号

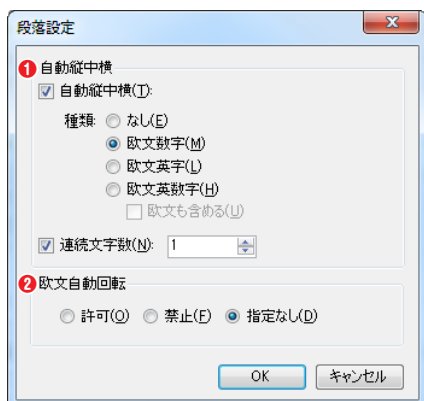
選択した圏点の種類は圏点番号でタグに表示されます。

1: \ ゴマ 2: \ 白ゴマ 3: ● 黒丸 4: ○ 白丸 5: ◎ 二重丸 6: ◎ 蛇の目 7: ▲ 黒三角
8: △ 白三角 9: 。 小さい黒丸 10: 。 小さい白丸 11: * アスタリスク 12: ※ ※印

図点指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
② 33 (CID コード)	<KENTEN char="#33"> 圏点付加文字 </KENTEN>	
⑤ 横組： 12267 (CID コード) 縦組： 12257 (CID コード)	<KENTEN char="#12267" vchar="#12257"> 圏点付加文字 </KENTEN>	

●段落設定 日本語

- 1 テキストエディタパネルで、個別で自動縦中横／欧文自動回転の設定を行いたい段落内にカーソルを置き、ツールバーの **段** をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『段落設定』を選びます。
- 2 変更したい項目を選択して設定を行い、[OK] をクリックします。



①自動縦中横

種類：自動で縦中横にする文字の種類を『なし』『欧文数字』『欧文英字』『欧文英数字』から選択します。

連続文字数：自動で縦中横にする文字数を設定します。

②欧文自動回転

欧文の自動回転を『許可』『禁止』『指定なし』から選択します。

- 3 段落の先頭に段落設定コマンドタグが挿入されます。

※ p.220「表示／組版設定」で『自動縦中横』を『なし』、『欧文自動回転』を『禁止』としている例となります。

段落設定	<P tykind="種類" tyjis="文字数" romturn="欧文自動回転" /> 段落	
① 自動縦中横	<P tykind="none/num/alphabet/alphabet-num" tyjis="文字数"> 段落	
自動縦中横	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
none: なし	<P tykind="none" /> 自動縦中横変更段落 	
num: 欧文数字	<P tykind="num" tyjis="1" /> 自動縦中横変更段落 	
alphabet: 欧文英字	<P tykind="alphabet" tyjis="2" /> 自動縦中横変更段落 	
alphabet-num: 欧文英数字	<P tykind="alphabet-num" tyjis="3" /> 自動縦中横変更段落 	

② 欧文自動回転 <P romturn="true/false"> 欧文自動回転変更段落

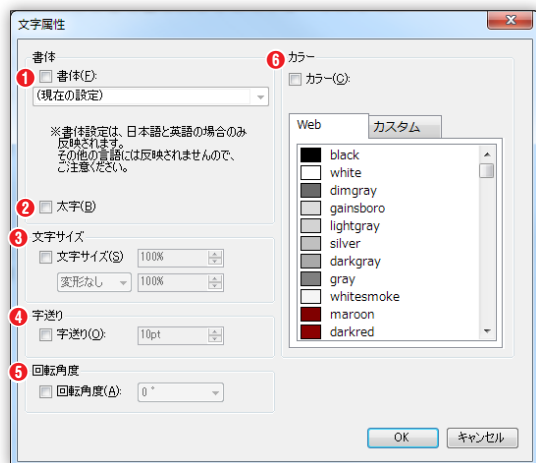
欧文自動回転	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
許可	<P romturn="true" /> 欧文自動回転変更段落 	C S S

● 文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定

文字属性コマンドタグ入力

1 テキストエディタパネルで、書体／サイズ／色を指定したい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『文字属性』を選びます。

2 変更したい項目を  にして設定を行い、[OK] をクリックします。



書体

① 書体：書体（フォント）を選択します。

② 太字：太字にする場合は、 を  にします。

③ 文字サイズ

『文字サイズ』の  を  にすると、『変形なし』がアクティブになり、『文字幅』を選択できるようになります。

※ [文字幅] を選択すると『文字サイズ』が『文字高』に切り替わります。

文字サイズ：基準文字サイズとの比率『%』（または固定値『pt』『q』）で指定します。

文字高：文字の高さを基準文字サイズとの比率『%』（または固定値『pt』『q』）で指定します。

文字幅：文字の幅を基準文字サイズとの比率『%』（または固定値『pt』『q』）で指定します。

※ 比率指定の場合は、1%～1000%の設定が可能です。

④ 字送り

字送り：文字間の間隔を『pt』（または『q』『mm』『ji』）で指定します。

※ 『ji』とは基準文字サイズを1jiとする単位です。

⑤ 回転角度

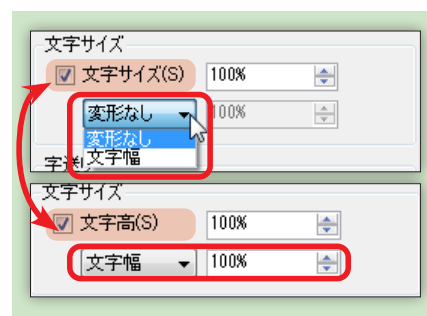
回転角度：文字の回転角度を指定します。

※ 90°単位でのみ指定できます。

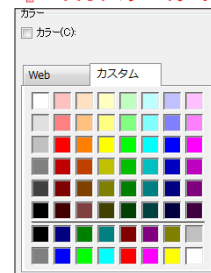
⑥ カラー

カラー：『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

③ 文字サイズ



⑥ 『カラー』のカスタムタブ



3 選択した文字の前後に文字属性コマンドの開始タグおよび終了タグが挿入されます。

文字属性	文字 サイズ	<J f="書体番号" size=サイズ okuri="字送り" color="カラー名" fweight="太さ" rotate="文字回転"> 文字属性変更文字列 </J>
	文字高・ 文字幅	<J f="書体番号" height="文字高" width="文字幅" okuri="字送り" color="カラー名" fweight="太さ" rotate="文字回転"> 文字属性変更文字列 </J>
① 書体 <J f="書体番号"> 書体変更文字列 </J>		
書体指定	エディタ	組版ビュー表示
① (日本語フォントの場合) 1 UD 黎ミン L	<J f="1"> 文字属性コマンド </J>	文字属性コマンド
① (英語フォントの場合) 2 UD 新ゴ L	<J f="2">The character attribute command</J>	The character attribute command
① (韓国語フォントの場合) 1 UD 新ゴハングル L	<J f="1"> 문자속성 커맨드 </J>	문자속성 커맨드
① (中国語繁体字の場合) 1 AR UD Shuyuanhei M	<J f="1"> 文字属性指令 </J>	文字属性指令
① (中国語簡体字の場合) 1 UD 新ゴ 簡体字 R	<J f="1"> 文字属性指令 </J>	文字属性指令
① (タイ語の場合) 1 AR Hebe Sans Th	<J f="1">คำสั่งแอตทริบิวต์ของอักขระ</J>	คำสั่งแอตทริบิวต์ของอักขระ
① (ポルトガル語の場合) 1 UD 黎ミン L	<J f="1">Comando de atributos de caractere</J>	Comando de atributos de caractere
① (スペイン語の場合) 1 UD 黎ミン L	<J f="1">Comando de atributo de caracteres</J>	Comando de atributo de caracteres
① (インドネシア語の場合) 1 UD 黎ミン L	<J f="1">Perintah atribut karakter</J>	Perintah atribut karakter
① (ベトナム語の場合) 1 Clarimo UD PE Light	<J f="1">Lệnh thuộc tính ký tự</J>	Lệnh thuộc tính ký tự

書体番号

選択した書体は書体番号でタグに表示されます。

日本語	ポルトガル語
1 UD 黎ミン L	1 UD 黎ミン L
2 UD 新ゴ L	2 UD 新ゴ L
3 UD デジタル教科書体 R	スペイン語
英語	1 UD 黎ミン L
1 UD 黎ミン L	2 UD 新ゴ L
2 UD 新ゴ L	インドネシア語
韓国語	1 UD 黎ミン L
1 UD 新ゴハングル L	2 UD 新ゴ L
中国語繁体字	ベトナム語
1 AR UD Shuyuanhei M	1 Clarimo UD PE Light
中国語簡体字	
1 UD 新ゴ 簡体字 R	
タイ語	
1 AR Hebe Sans Th	

注意

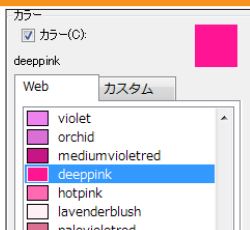
言語ごとのフォントは変更できません。

重要!

日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。
また、ブラウザ版ビューアで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

注意

「UD デジタル教科書体 R」を指定した場合、文字によって表示できない場合がありますので、ご注意ください。
表示できない文字については、「UD 黎ミン L」や「UD 新ゴ L」で表示できるか確認の上、書体の変更をご検討ください。
※「UD デジタル教科書体 R」: 収録文字数「15,444」(規格: Adobe-Japan1-4)
「UD 黎ミン L」「UD 新ゴ L」: 収録文字数「23,058」(規格: Adobe-Japan1-6)

② 太字 <J fweight="太さ"> 太さ変更文字列 </J>		
サイズ指定	エディタ	組版ビュー表示
太字	<J fweight="bold"> 太字 </J>	文字を太字にしてみ ましょう。
③ 文字サイズ 文字サイズ <J size="サイズ"> サイズ変更文字列 </J> 文字高・文字幅 <J height="高さ" width="幅"> サイズ変更文字列 </J>		
サイズ指定	エディタ	組版ビュー表示
70%	<J size="70%">70%</J>	文字サイズを 70 % に てみましょう。
高さ 200%、幅 50%	<J height="200%" width="50%"> 高さを 200% 幅を 50% </J>	文字の高さを 200% 幅を 50% に てみましょう。
④ 字送り <J okuri="サイズ"> 字送り変更文字列 </J>		
サイズ指定	エディタ	組版ビュー表示
1.5ji	<J okuri="1.5ji"> 変更 </J>	字送りを変 更 する
⑤ 文字回転 <J rotate="回転"> 文字回転文字列 </J>		
サイズ指定	エディタ	組版ビュー表示
180°	<J rotate="180deg">180 度回転 </J>	文字を 180 度回 転 し てみましょう。
⑥ カラー <J color="カラー名"> カラー変更文字列 </J>		
カラー指定	エディタ	組版ビュー表示
	<J color="deeppink"> カラー </J>	文字のカラーを設定し てみましょう。

注意**文字色の輝度補正**

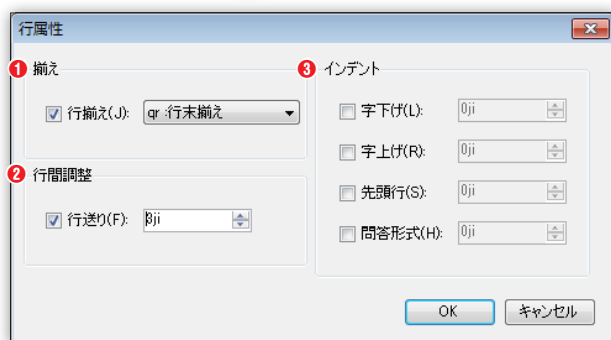
視認性を上げるため、白色に近い文字色を指定した場合は輝度の下がった色で表示されます。

●行属性（揃え／行間調整／インデント）の設定

- 1 テキストエディタパネルで、行の揃え、行送り、インデントを指定したい段落の先頭にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『行属性』を選びます。

※「段落」とは、改行コマンドタグ
、改段タグ <KD /> または改ページコマンドタグ <KP /> に挟まれた部分を指します。

2 変更したい項目を にして設定を行い、[OK] をクリックします。



1 揃え

行揃え：行内の文字揃えを『行頭揃え』『行末揃え』『中央揃え』『最終行行頭揃え』『最終行行末揃え』『最終行中央揃え』『最終行均等揃え』から選択します。

2 行間調整

行送り：文字の中心から、次の行の文字の中心までの送り量を『ji』（または『pt』『q』『mm』）で指定します。
※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

3 インデント

字下げ：段落全体の左（横組）または上（縦組）の空き量を『ji』（または『pt』『q』『mm』）で指定します。

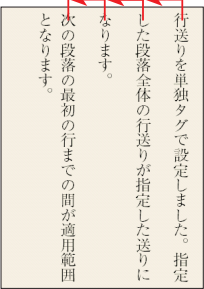
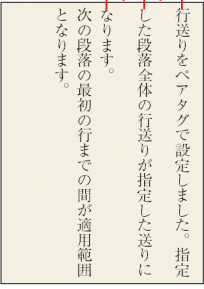
字上げ：段落全体の右（横組）または下（縦組）の空き量を『ji』（または『pt』『q』『mm』）で指定します。

先頭行：段落先頭行の左（横組）または上（縦組）の空き量を『ji』（または『pt』『q』『mm』）で指定します。

問答形式：段落 2 行目以降の左（横組）または上（縦組）の空き量を『ji』（または『pt』『q』『mm』）で指定します。

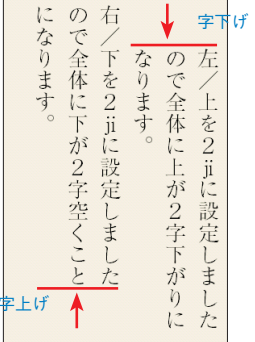
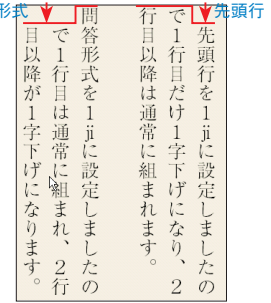
3 カーソル位置に行属性コマンドタグが挿入されます。

行属性	<G align=揃え okuri=行送り indインデント種類="インデント" /> 行属性変更段落 <G align=揃え okuri=行送り indインデント種類="インデント"> 行属性変更段落 </G>	
1 行揃え	<G align=ql/qr/qc/eql/eqr/eqc/ert /> 揃え変更段落 </G>	
揃え指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
ql: 行頭揃え	<G align=ql /> 揃え変更段落 	行頭揃え 中央揃え 行末揃え
qr: 行末揃え	<G align=qr /> 揃え変更段落 	
qc: 中央揃え	<G align=qc /> 揃え変更段落 	
eql: 最終行行頭揃え	<G align=eql /> 揃え変更段落 	均等 最終行行頭揃えあいうえおかきくけこさし 最終行行末揃えあいうえおかきくけこさし 最終行中央揃えあいうえおかきくけこさし 最終行均等揃えあいうえおかきくけこさし
eqr: 最終行行末揃え	<G align=eqr /> 揃え変更段落 	
eqc: 最終行中央揃え	<G align=eqc /> 揃え変更段落 	
ert: 最終行均等揃え	<G align=ert /> 揃え変更段落 	

② 行間調整		
<G okuri=行送り値 /> 行送り変更段落		
<G okuri=行送り値> 行送り変更段落 </G>		
揃え指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
2.5ji	<G okuri=2.5ji /> 行送り変更段落 	
2.5ji	<G okuri=2.5ji> 行送り変更段落 </G> 	

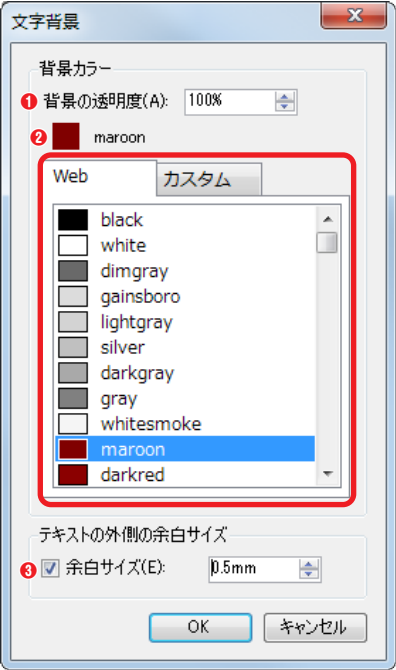
注意

単独タグとペアタグの場合で最終行の後ろアキが変わります。InDesign ドキュメントのインポート、および MCCatalog+ Maker にて行属性コマンドの挿入を行うと、単独タグとなります。

③ インデント		
<G indhead=字下げ indend=字上げ indfirst=先頭行 indhang=問答形式 /> インデント変更段落		
揃え指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
字下げ 2ji	<G indhead=2ji /> 字下げインデント変更段落 	
字上げ 2ji	<G indend=2ji /> 字上げインデント変更段落 	
先頭行 1ji	<G indfirst=2ji /> 先頭行インデント変更段落 	
問答形式 1ji	<G indhang=2ji /> 問答形式インデント変更段落 	

●文字背景

- 1 テキストエディタパネルで、背景に色を付けたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『文字背景』を選びます。
- 2 変更したい項目を選択して設定を行い、[OK] をクリックします。



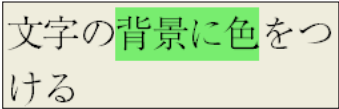
背景カラー

- ① 背景の透明度：背景色の透明度を指定します。
- ② 『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

テキストの外側の余白サイズ

- ③ 余白サイズ: テキストの外側にはみ出る距離を『mm』（または『pt』『q』『ji』）で設定します。

- 3 選択した文字の前後に文字背景の開始タグおよび終了タグが挿入されます。

文字背景		
<TBG bgcolor="カラー" bgamma="透明度" space="テキストの外側の余白"> 文字背景 </TBG>		
指定	エディタ	組版ビュー表示
① 透明度：50% ② カラー：#00FF00 ③ テキストの外側の余白：1mm	<TBG bgcolor="#00FF00" bgamma="50%" space="1mm"> 背景に色 </TBG>	

● 字形指定

1 テキストエディタパネルで、字形を指定したい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『字形指定』を選びます。

2 変更したい項目をクリックします。



① 字形属性の選択

『半角字形 hwid』もしくは『イタリック字形 ital』を選択します。

注意

半角もしくはイタリックの字形を持っていない文字には反映されません。

3 指定した文字の前後に字形指定の開始タグおよび終了タグが挿入されます。

字形指定 <GSUB attr="hwid"> 半角 </GSUB>		
指定	エディタ	組版ビュー表示
半角字形	<GSUB attr="hwid"> 1 A </GSUB>	文字の字形（半角） を指定 1A する
字形指定 <GSUB attr="ital"> イタリック </GSUB>		
指定	エディタ	組版ビュー表示
イタリック字形	<GSUB attr="ital">1A</GSUB>	文字の字形（イタリック）を指定 1A する

●改行

任意の箇所に改行コマンドタグを挿入

- 1 テキストエディタパネルで、改行したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『改行』を選びます。
- 2 カーソル位置に改行コマンドタグが挿入されます。

改行 段落 1 段落 2	
テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
ここで 改行します	改行 します こ こ で

テキストエディタでの改行位置に改行コマンドタグを挿入

- 1 『編集』メニューまたは、右クリックし、『改行コマンドの自動挿入』を選びます。
- 2 テキストエディタパネルのすべての改行位置に改行コマンドタグが挿入されます。

テキストエディタパネル (自動改行実行前)	テキストエディタパネル (自動改行実行後)	組版ビューパネル表示
りんご↓ オレンジ↓ バナナ↓ パイナップル↓	りんご ↓ オレンジ ↓ バナナ ↓ パイナップル ↓	りんご パイ ナ ッ プ ル オ レ ン ジ バ ナ ナ

●改ページ

任意の箇所に改ページコマンドタグを挿入

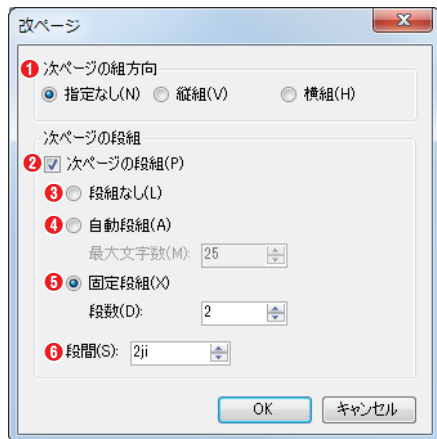
- 1 テキストエディタパネルで、改ページしたい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『改ページ』を選びます。
- 2 カーソル位置に改ページコマンドタグが挿入されます。

改ページ 前ページ段落<KP />後ページ段落		
改ページ挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
七、北十字とプリオシン海岸 八、鳥を捕る人 九、ジョバンニの切符 一、午後の授業 「ではみなさんは、そういうふう に川だと云われたり、乳の流れた あとだと云われたりしていたこの ぼんやりと白いものがほんとうは 何かご承知ですか。」先生は、黒 板に吊した大きな黒い星座の図の、	九、ジョバンニの切符 <KP /> 一、午後の授業	七、北十字とプリオシン海岸 八、鳥を捕る人 九、ジョバンニの切符 一、午後の授業 「ではみなさんは、そういうふう に川だと云われたり、乳の流れた あとだと云われたりしていたこの ぼんやりと白いものがほんとうは 何かご承知ですか。」先生は、黒 板に吊した大きな黒い星座の図の、 次ページへ移動

改ページコマンド挿入後のページ設定の変更

1 テキストエディタパネルで改ページコマンドタグ `<KP />` のタグ内にカーソルを置き、 をクリックするか、右クリックし、『選択中コマンドの編集』を選びます。

2 『改ページ』ダイアログが表示されます。項目を選択し、[OK] をクリックします。



① 次ページの組方向

改ページコマンド挿入後のページの組方向を選択します。

指定なし: 改ページコマンド挿入前のページと同じ組方向となります。

※『指定なし』の場合、組方向のタブは省略されます。

縦組: 改ページコマンド挿入後のページを縦組にします。

横組: 改ページコマンド挿入後のページを横組にします。

重要!

日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。
また、ブラウザ版ビューで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

次ページの段組

② 次ページの段組

次ページから段組を指定する場合は、 を  にします。

③ 段組なし

段組をしない場合は、 を  にします。

④ 自動段組

1 ~ 100 文字の間で最大文字数を指定して、その範囲で自動で段組をさせる場合は、 を  にします。

⑤ 固定段組

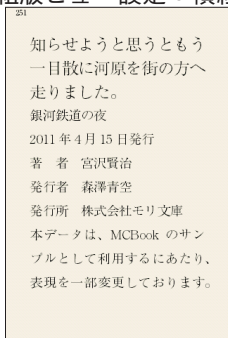
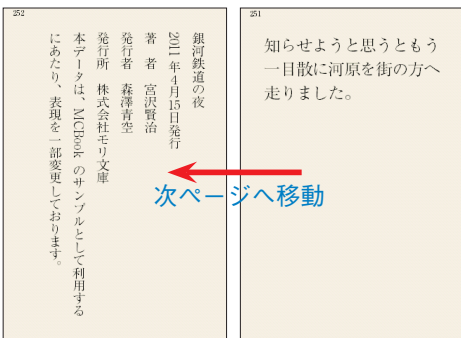
段組を固定させる場合は、 を  にします。段数を指定します。

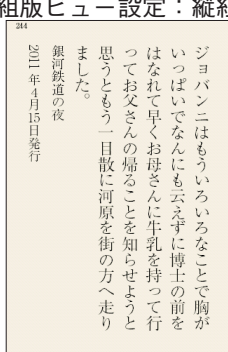
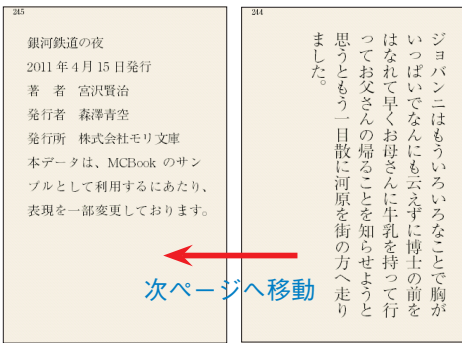
⑥ 段間

段間を『ji』で指定します。

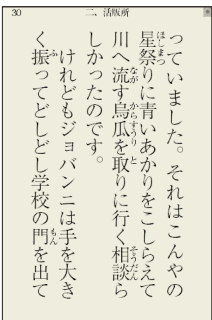
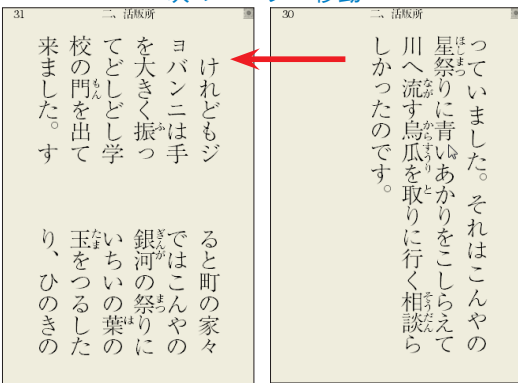
改ページ	④ 自動段組	前ページ段落 <code><KP textdir="組方向" column="auto" columncount="最大文字数" columngap="段間" /></code> 後ページ段落
	⑤ 固定段組	前ページ段落 <code><KP textdir="組方向" column="fixed" columncount="段数" columngap="段間" /></code> 後ページ段落

① 次ページの組方向	前ページ段落 <code><KP textdir="組方向" /></code> 後ページ段落
------------	---

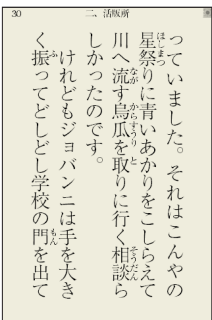
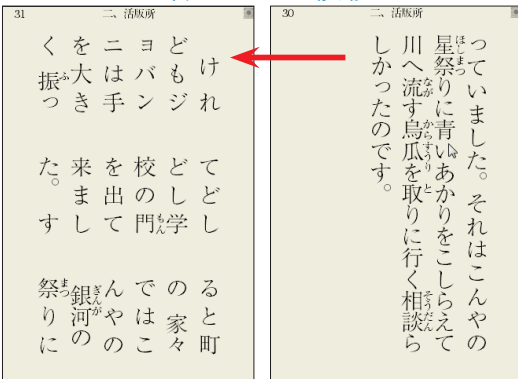
改ページ挿入前 組版ビュー表示	ページの組方 向指定	エディタ	組版ビュー表示
組版ビュー設定：横組 	縦組	…走りました。 <code><KP textdir="v" /></code> 銀河鉄道の夜	

改ページ挿入前 組版ビュー表示	ページの組方 向指定	エディタ	組版ビュー表示
組版ビュー設定：縦組 	横組	…走りました。 <code><KP textdir="h" /></code> 銀河鉄道の夜	 次ページへ移動

②次ページの段組	④自動段組	前ページ段落 <code><KP column="次ページの段組"</code> <code>columncount="最大文字数" columngap="段間" /></code> 後ページ段落
-----------------	--------------	---

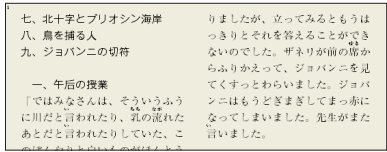
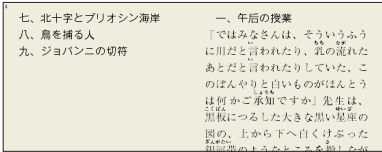
改ページ挿入前 組版ビュー表示	自動段組	エディタ	組版ビュー表示
	最大文字数： 10 文字 ⑥段間：2ji	…しかったのです。 <code><KP column="auto"</code> <code>columncount="10"</code> <code>columngap="2ji" /></code> けれども	次のページへ移動 

②次ページの段組	⑤固定段組	前ページ段落 <code><KP column="次ページの段組"</code> <code>columncount="最大文字数" columngap="段間" /></code> 後ページ段落
-----------------	--------------	---

改ページ挿入前 組版ビュー表示	固定段組	エディタ	組版ビュー表示
	段数：3 段 ⑥段間：2ji	…しかったのです。 <code><KP column="fixed"</code> <code>columncount="3"</code> <code>columngap="2ji" /></code> けれども	次のページへ移動 

●改段

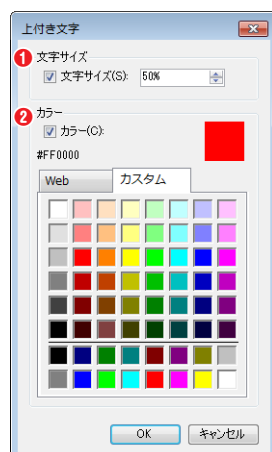
- 1 テキストエディタパネルで、改段したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『改段』を選びます。
- 2 カーソル位置に改段コマンドタグが挿入されます。

改段 前段落 <KD /> 後段落		
改段挿入前 組版ビューパネル表示	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
	九、ジョバンニの切符 <KD /> 一、午後の授業	

●上付き文字

上付き文字コマンドタグ入力

- 1 テキストエディタパネルで、上付き文字にしたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『上付き文字』を選びます。
- 2 変更したい項目を  にして設定を行い、[OK] をクリックします。



①文字サイズ

文字サイズ：基準文字サイズとの比率『%』で指定します。

※指定がない場合、文字サイズは基本文字サイズの50%となります。

②カラー

カラー：『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

3 選択した文字の前後に上付き文字の開始タグおよび終了タグが挿入されます。

上付き文字	<SUPS> 上付き文字 </SUPS>		
	<SUPS size="サイズ" color="カラー名"> 上付き文字 </SUPS>		
① 文字サイズ	<SUPS size=サイズ> 上付き文字サイズ指定文字 </SUPS>		
サイズ指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示	
50%	<SUPS size="50%">50%</SUPS>	上付き文字^{50%}	
② カラー	<SUPS color="カラー名"> 上付き文字カラー指定文字 </SUPS>		
カラー指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示	
カラー ☒ カラー(C): deeppink Webカスタム darkmagenta thistle magenta plum violet orchid	<SUPS color="deeppink"> カラー </SUPS>	上付き文字^{カラー}	

●下付き文字

下付き文字コマンドタグ入力

- 1 テキストエディタパネルで、下付き文字にしたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『下付き文字』を選びます。
- 2 変更したい項目を  にして設定を行い、[OK] をクリックします。



① 文字サイズ

文字サイズ：基準文字サイズとの比率『%』で指定します。

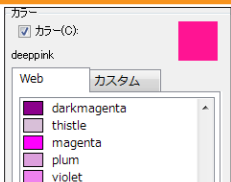
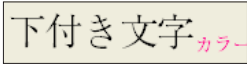
※指定がない場合、文字サイズは基本文字サイズの 50% となります。

② カラー

カラー：『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

3 選択した文字の前後に下付き文字の開始タグおよび終了タグが挿入されます。

下付き文字	<SUBS> 下付き文字列 </SUBS>		
	<SUBS size="サイズ" color="カラー名"> 下付き文字列 </SUBS>		
① 文字サイズ	<SUBS size=サイズ> サイズ変更文字 </SUBS>		
サイズ指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示	
50%	<SUBS size="50%">50%</SUBS>	下付き文字 _{50%}	

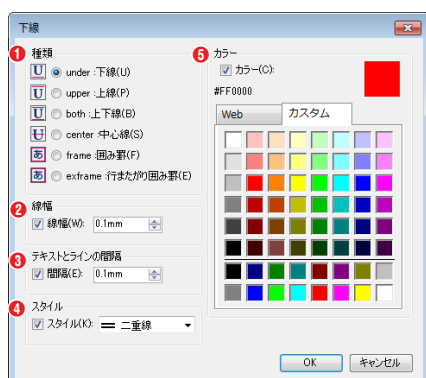
② カラー		
<SUBS color="カラー名"> カラー変更文字 </SUBS>		
カラー指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
	<pre><SUBS color="deeppink"> カラー </SUBS></pre>	

● 下線

下線コマンドの入力

1 テキストエディタパネルで、下線を引きたい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』 → 『下線』 を選びます。

2 線の種類を選択し、変更したい項目を  にして設定を行い、『OK』 をクリックします。



① 種類

『under：下線』…横組では下、縦組では右に表示します。

『upper：上線』…横組では上、縦組では左に表示します。

『both：上下線』…横組では上下、縦組では左右に表示します。

『center：中心線』…文字列の中心に表示します。

『frame：囲み罫』…文字列を囲んで表示します。指定された文字列が次の行にまたがる場合、行末と行頭でそれぞれ罫を閉じます。

『exframe：行またがり囲み罫』…文字列を囲んで表示します。指定された文字列が次の行にまたがる場合、行末と行頭の罫は開かれた状態になります。

② 線幅

線幅：線の幅を『mm』（または『pt』『q』）で設定します。

※線幅未設定の場合は 0.1mm を設定します。

③ テキストとラインの間隔

間隔：文字と線の中心までの間隔を『mm』（または『pt』『q』『ji』）で設定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

※間隔未設定の場合は線幅と同じ値を設定します。（線幅：0.1mm → 間隔：0.1mm）

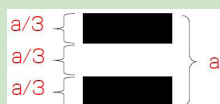
※『種類』で『center：中心線』を選択した場合、テキストとラインの間隔を大きくすると縦組では左側へ、横組では下側に移動します。

④ スタイル

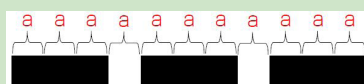
スタイル：『実線』『二重線』『破線』『点線』をクリックし、スタイルを選択します。『二重線』を選択した場合には、0.5mm 以上の線幅が必要となります。

スタイルが二重線、破線、点線の場合の線幅とラインの間隔

線幅を a とした場合、二重線、破線、点線では以下のような設定となります。行間罫でも同じ設定となります。



二重線



破線

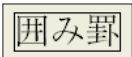
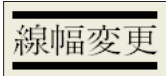
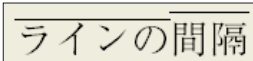
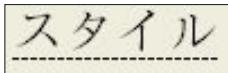
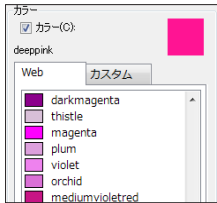
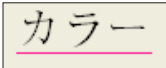


点線

⑤ カラー

カラー：『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

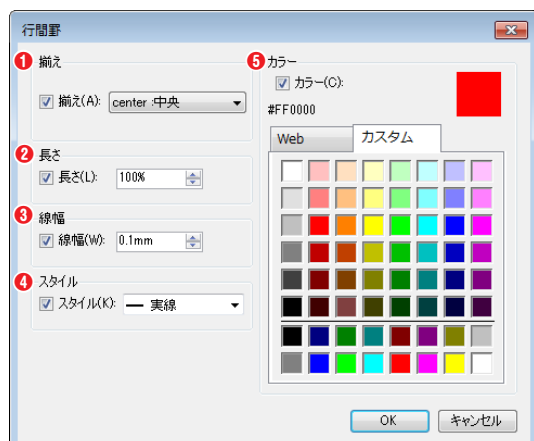
3 選択した文字の前後に下線の開始タグおよび終了タグが挿入されます。

下線	<UL kind="種類" width="線幅" color="カラー名"> 下線付加対象文字列 	
① 種類	<UL kind="種類"> 下線付加対象文字列 	
種類指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
frame：囲み罫	<UL kind="frame"> 囲み罫 	
② 線幅	<UL kind="種類" width="線幅"> 線幅変更 	
線幅指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
種類：both：上下線 線幅：1mm	<UL kind="both" width="1mm"> 線幅変更 	
③ テキストと ラインの間隔	<UL kind="種類" space="間隔"> 間隔変更 	
テキストとラインの間隔指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
種類：upper：上線 テキストとラインの間隔： 1mm	<UL kind="upper" space="0.1mm"> ラインの <UL kind="upper" space="1mm"> 間隔 	
④ スタイルの 設定	<UL kind="種類" width="線幅" style="スタイル"> スタイル 	
スタイルの指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
3：破線	<UL kind="under" style="3"> スタイル 	
⑤ カラー	<UL kind="種類" color="カラー名"> カラー変更 	
カラー指定	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
種類：under：下線 カラー： 	<UL kind="under" color="deeppink"> カラー 	

●行間罫

行間罫コマンドタグを挿入

- 1 テキストエディタパネルで、行間罫を挿入したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『行間罫』を選びます。
- 2 変更したい項目を  にして設定を行い、[OK] をクリックします。



① 揃え

揃え：揃えを『center：中央』『head：行頭』『end：行末』から選択します。

※長さが行長よりも短い場合に有効となります。

② 長さ

長さ：線の長さを行長との比率『%』（または『mm』『pt』『q』『ji』）で設定します。

※長さ未設定の場合は 100% を設定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

③ 線幅

線幅：線幅を『mm』（または『pt』『q』）で設定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

※線幅未設定の場合は 0.1mm を設定します。

④ スタイル

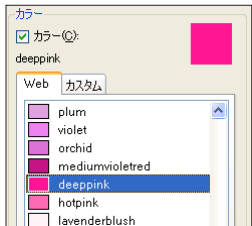
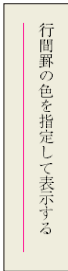
スタイル：『実線』『二重線』『破線』『点線』をクリックし、スタイルを選択します。『二重線』を選択した場合には、0.5mm 以上の線幅が必要となります。

⑤ カラー

カラー：『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

3 選択した箇所に行間罫のタブが挿入されます。

行間罫	<HR />	
	<HR align="揃え" length="長さ" width="線幅" color="カラー名" style="番号" />	
① 揃え	<HR align="揃え" />	
揃え指定	エディタ	組版ビュー表示
head：行頭	<HR align="head" length="50%" />	
center：中央	<HR align="center" length="50%" />	
end：行末	<HR align="end" length="50%" />	
② 長さ	<HR length="長さ" />	
長さ指定	エディタ	組版ビュー表示
50%	<HR length="50%" />	
③ 線幅	<HR width="線幅" />	
線幅指定	エディタ	組版ビュー表示
0.5mm	<HR width="0.5mm" />	
④ スタイル	<HR style="スタイル" />	
スタイル指定	エディタ	組版ビュー表示
2：二重線	<HR width="2mm" style="2" />	

⑤ カラー		
<HR color="カラー名" />		
カラー指定	エディタ	組版ビュー表示
	<pre><HR color="deeppink" /></pre>	

● 囲み罫

囲み罫コマンドタグを挿入

- 1 テキストエディタパネルで、囲み罫をつけたい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『囲み罫』を選びます。

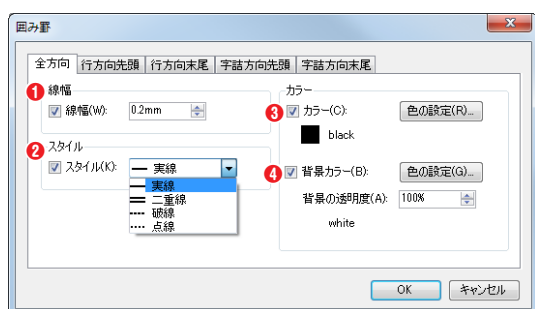
注意

選択した箇所を含む 1 段落に囲み罫がつけます。(段落の先頭と末尾にタグが自動的に入ります) 段落をまたいで囲み罫を設定する場合は、囲み罫開始コマンド (<BOX ~ />) は段落の先頭に、囲み罫終了コマンド (<BOXEND />) は改段落 (
、<KP />、<KD />) の直前に入れる必要があります。

注意

囲み罫の設定によっては、囲み罫とテキストが重なる場合があります。

- 2 『全方向』『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』のタブの設定を行い、[OK] をクリックします。各方向の設定を組み合わせることができます。



全方向

① 線幅

線幅：線幅を『mm』（または『pt』『q』）で設定します。

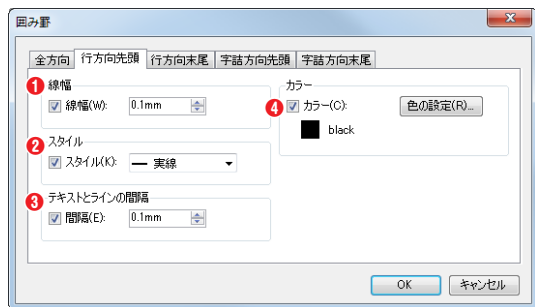
② スタイル

スタイル：『実線』『二重線』『破線』『点線』をクリックし、スタイルを選択します。『二重線』を選択した場合には、0.5mm 以上の線幅が必要となります。

カラー

- ③ カラー：[色の設定] をクリックし、『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。

- ④ 背景カラー：[色の設定] をクリックし、『Web』または『カスタム』をクリックし、カラーを選択します。



行方向先頭、行方向末尾

①線幅

線幅：線幅を『mm』（または『pt』『q』）で設定します。

②スタイル

スタイル：『実線』『二重線』『破線』『点線』をクリックし、スタイルを選択します。『二重線』を選択した場合には、0.5mm以上の線幅が必要となります。

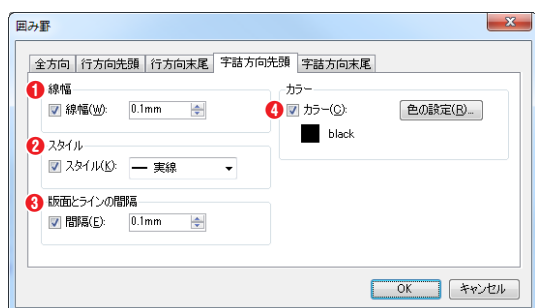
③テキストとラインの間隔

間隔：間隔を『mm』（または『ji』『pt』『q』）で設定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

カラー

④カラー：[色の設定] をクリックし、『Web』または『カスタム』 をクリックし、カラーを選択します。



字詰方向先頭、字詰方向末尾

①線幅

線幅：線幅を『mm』（または『pt』『q』）で設定します。

②スタイル

スタイル：『実線』『二重線』『破線』『点線』をクリックし、スタイルを選択します。『二重線』を選択した場合には、0.5mm以上の線幅が必要となります。

③版面とラインの間隔

間隔：間隔を『mm』（または『ji』『pt』『q』）で設定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

カラー

④カラー：[色の設定] をクリックし、『Web』または『カスタム』 をクリックし、カラーを選択します。

注意

『全方向』『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』のすべてに設定した場合、『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』の各設定が優先されます。

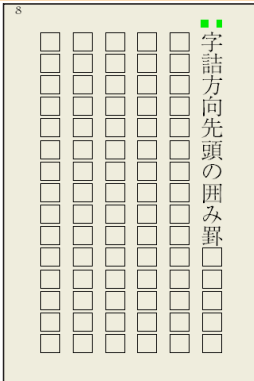
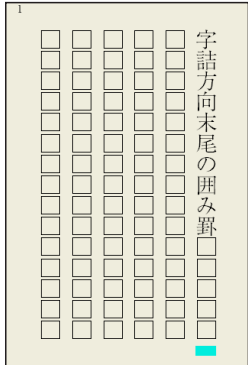
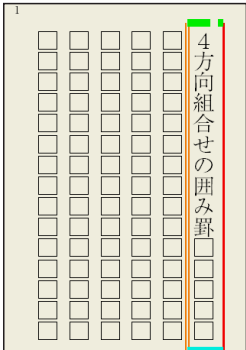
注意

囲み野の線種を二重線として使用した場合、各辺の二重線が不連続になります。



3 選択した箇所に囲み罫のタグが挿入されます。

囲み位置： 全方向		<BOX width="線幅" color="線のカラー" style="罫線スタイル" bgcolor="背景カラー" bgalpha="背景カラーの透明度" />全方向の囲み罫<BOXEND />
囲み位置指定	エディタ	組版ビュー表示
全方向	<BOX width="0.2mm" color="black" style="1" bgcolor="white" bgalpha="100%" /> 全方向の囲み罫<BOXEND />	2 <

囲み位置： 字詰方向先頭		<BOX widthstart="線幅" colorstart="線のカラー" stylestart="線のスタイル" jhspacestart="テキストとラインの間隔" />字詰方向先頭の囲み罫<BOXEND />
囲み位置指定	エディタ	組版ビュー表示
字詰方向先頭	<BOX widthstart="1.5mm" colorstart="#00FF00" stylestart="4" jhspacestart="1.5mm" />字詰方向先頭の囲み罫<BOXEND />	
囲み位置： 字詰方向末尾		<BOX widthend="線幅" coloremend="線のカラー" styleend="線のスタイル" jhspaceend="テキストとラインの間隔" />字詰方向末尾の囲み罫<BOXEND />
囲み位置指定	エディタ	組版ビュー表示
字詰方向末尾	<BOX widthend="2mm" coloremend="#00FFFF" styleend="1" jhspaceend="2mm" />字詰方向末尾の囲み罫<BOXEND />	
囲み位置指定	エディタ	組版ビュー表示
行方向先頭 行方向末尾 字詰方向先頭 字詰方向末尾	<BOX widthstart="1.5mm" colorstart="#00FF00" stylestart="3" jhspacestart="1.5mm" widthend="2mm" coloremend="#00FFFF" styleend="1" jhspaceend="2mm" widthbefore="0.5mm" colorbefore="#FF0000" stylebefore="1" gtspacbefore="2mm" widthafter="1mm" colorafter="#FF8000" styleafter="2" gtspacafter="1mm" />4方向組合せの囲み罫<BOXEND />	

● 縦中横 日本語

縦組み中で欧文の文字列を横回転して表示することを「縦中横」といいます。MCCatalog+ では、『ファイル』メニューの『表示／組版設定』で自動で縦中横に設定する文字の種類と文字数を設定することができます。自動での縦中横表示を禁止したい場合は任意の文字列を指定して自動縦中横を禁止することができます。また、任意の文字列を縦中横に指定する方法があります。

任意の箇所に縦中横コマンドタグを挿入

1 テキストエディタパネルで、縦中横にしたい文字列を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『縦中横』を選びます。

2 テキストエディタパネルに縦中横コマンドタグが挿入されます。

縦中横 <TAYO> 縦中横文字 </TAYO>		
改ページ挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
行送りを2.5jiに設定しました。	<TAYO>2.5ji</TAYO>	行送りを2.5jiに設定しました。

任意箇所の自動縦中横を禁止する

1 特定の文字列に対して縦中横をやめたい場合、テキストエディタパネルで、自動縦中横を禁止したい文字列を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『自動縦中横禁止』を選びます。

※「自動縦中横」は、『ファイル』メニューの『表示／組版設定』または『段落スタイル』で指定することができます。

詳細は p.220 の「表示／組版設定」の「組版設定」タブの項、または p.180 の「段落スタイルの新規作成」の項をご参照ください。

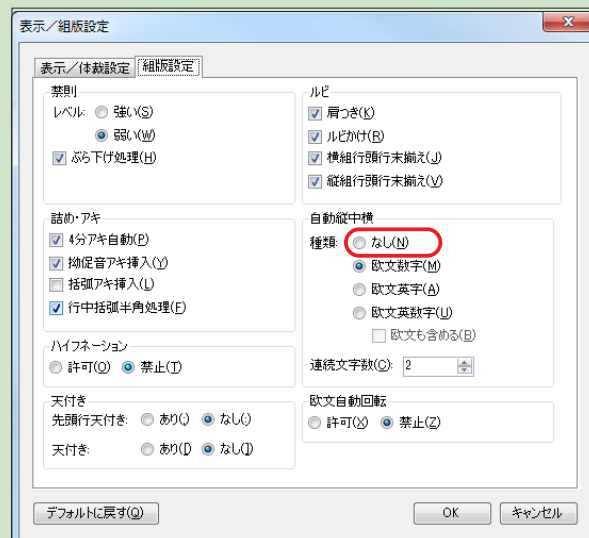
2 テキストエディタパネルに自動縦中横禁止コマンドタグが挿入されます。

自動縦中横禁止 <TAYOATOFF> 自動縦中横禁止文字列 </TAYOATOFF>

自動縦中横禁止挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
12月	<TAYOATOFF>12</TAYOATOFF> 月	12月

自動縦中横をすべて禁止にする場合

すべての自動縦中横を禁止する場合は、『ファイル』メニューの『表示／組版設定』の『組版設定』タブの中にある、自動縦中横の『種類』を『なし』に指定します。



● 禁則解除

行末または行頭の分割禁止の処理を解除したい場合に使用します。

禁則解除コマンドタグを挿入

1 テキストエディタパネルで、禁則を解除したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの **は** をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『禁則解除』を選びます。

2 テキストエディタパネルに禁則解除コマンドタグが挿入されます。

禁則解除 禁止 <KINKAI /> 文字列

禁則解除挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
行末禁則処理の 禁則解除を行う (始め括弧)	行末禁則処理の禁則解除を行う (<KINKAI /> 始め括弧)	行末禁則処理の 禁則解除を行う (始め括弧)

●分離禁止

任意の文字列に分離禁止コマンドタグを設定すると、その文字列が行末から次の行頭にかかる場合、分割されず、文字列全体が前の行に押し込まれるか、または次の行に送られるようになります。

分離禁止コマンドタグを挿入

1 テキストエディタパネルで、分離禁止を設定したい文字列を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『分離禁止』を選びます。

2 テキストエディタパネルに分離禁止コマンドタグが挿入されます。

分離禁止 <BUNKIN> 分離禁止文字列 </BUNKIN>		
分離禁止挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
行末から行頭にかかる場合に分離禁止にする。	<BUNKIN> 分離禁止 </BUNKIN>	行末から行頭にかかる場合に分離禁止にする。

●ページ内配置（行方向の揃え）

扉や目次など、改ページにより行数が少ないページでは、ページ領域内での文字位置を設定することができます。

ページ内配置コマンドタグの挿入

1 テキストエディタパネルで、改ページコマンド <KP /> により行数が少ないページ内の文字列にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『ページ内配置』を選びます。

2 変更したい項目をクリックします。



①配置の選択

ページ領域内での文字の行方向位置を指定します。

『段頭 head』…横組では上、縦組では右に表示します。

『段末 end』…横組では下、縦組では左に表示します。

『中央 center』…ページの中央に表示されます。

3 テキストエディタパネルにページ内配置コマンドタグが挿入されます。

※ページ内配置コマンドタグは、カーソル位置の直前にある改ページコマンドタグの直後（改ページコマンドタグがない場合には文頭）に挿入されます。

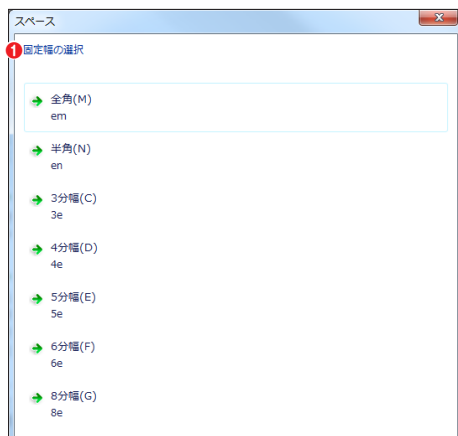
ページ内配置 <PAGEPOS align="配置" />			
改ページ挿入前 組版ビュー表示	配置	エディタ	組版ビュー表示
	center : 中央	<pre><KP /> <PAGEPOS align="center" /> ページ領域内適用文 <KP /></pre>	

●スペース

スペースコマンドタグを挿入

1 テキストエディタパネルで、スペースを挿入したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『スペース』を選びます。

2 変更したい項目をクリックします。



①固定幅の選択

指定した場所に、『全角 em』『半角 en』『3分幅 3e』『4分幅 4e』『5分幅 5e』『6分幅 6e』『8分幅 8e』の中から選択したスペースを挿入します。

3 テキストエディタパネルにスペースコマンドタグが挿入されます。

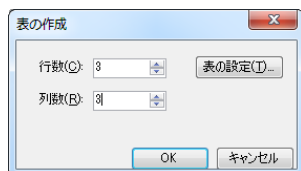
スペース 前文字列<SP width="種類" />後文字列		
スペース挿入前 組版ビューパネル表示	テキストエディタパネル	組版ビューパネル表示
	前文字列<SP width="3e" />後文字列	

●表

表コマンドタグの挿入

1 テキストエディタパネルで、表を挿入したい箇所にカーソルを置き、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『表』を選びます。

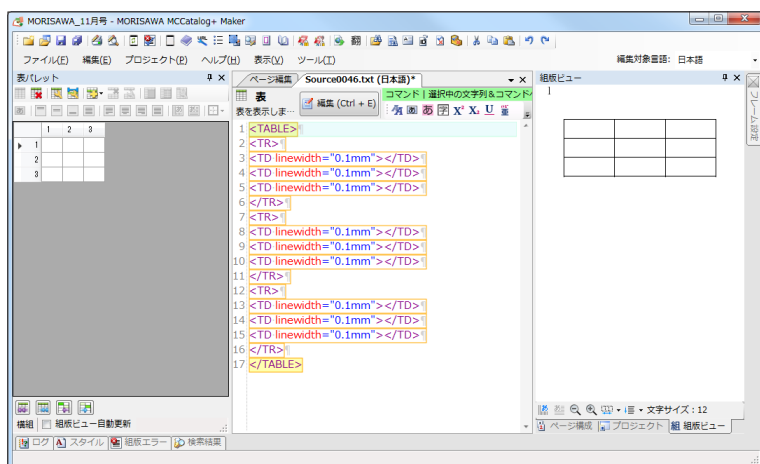
2 『表の作成』ダイアログが表示されます。設定項目の詳細は p.154「表組」を参照ください。



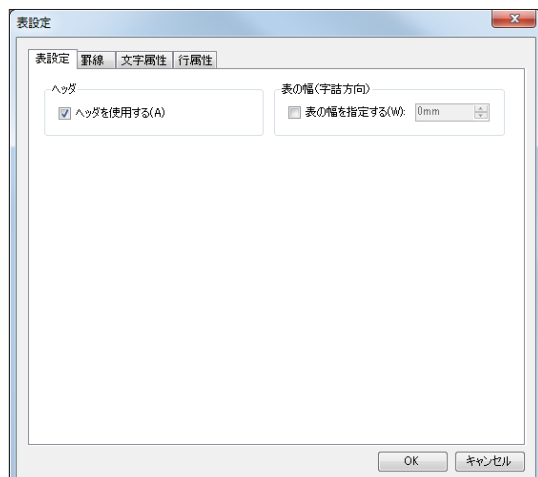
3 [OK] をクリックします。

表コマンドタグの編集

1 テキストエディタパネルで表コマンドタグ `<TABLE>` のタグ内にカーソルを置き、 編集 (Ctrl + E) をクリックするか、右クリックし、『選択中コマンドの編集』を選びます。



2 『表設定』ダイアログが表示されます。設定項目の詳細は p.154「表組」を参照ください。



●コマンドの編集

テキストエディタパネルで単独タグ **<タグ名 />**、またはペアコマンド **<タグ名>...</タグ名>** のタグ内にカーソルを置き、 **編集 (Ctrl + E)** をクリックするか、右クリックし、『**選択中コマンドの編集**』を選びます。または、スタイルパネルで、編集したいスタイル名をクリックし、 をクリックするかまたは右クリックで『**編集**』を選択します。

●コマンドの解除

テキストエディタパネル上でコマンドタグにカーソルを挿入、またはコマンドタグを含む文字列を選択し、右クリックし、『**選択中コマンドをすべて解除**』を選択するか、『**Ctrl**』 + 『**T**』でコマンドタグを解除することができます。

コマンドを1つ解除する場合

解除したいコマンド内にカーソルを挿入し、『**Ctrl**』 + 『**T**』を選択します。



複数のコマンドを一度に解除する場合

解除したいコマンドを含む文字列を選択し、『**Ctrl**』 + 『**T**』を選択します。



●コマンドの削除

テキストエディタパネル上でコマンドタグにカーソルを挿入、またはコマンドタグを含む文字列を選択し、右クリックし、『**選択中コマンドをすべて削除**』を選択するか、『**Ctrl**』 + 『**U**』でコマンドタグもしくは、コマンドタグを含む文字列を削除することができます。

コマンドを含む文字列を1つ削除する場合

削除したいコマンド内にカーソルを挿入し、『**Ctrl**』 + 『**U**』を選択します。



複数のコマンドを含む文字列を一度に削除する場合

削除したいコマンドを含む文字列を選択し、『**Ctrl**』 + 『**U**』を選択します。

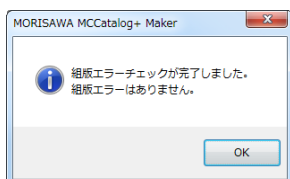


●組版エラーチェック

ドキュメントのコマンド指示にエラーがないかをチェックすることができます。また、エラー発生箇所の情報を表示し、表示されたエラー箇所へ移動して修正をすることが可能です。確認には組版エラーパネルを利用します。

1 ツールバーのをクリックするか『編集』メニューの『組版エラーチェック』を選びます。開かれているドキュメントの組版エラーチェックを行います。

2 エラーチェックが終了するとメッセージが表示されます。



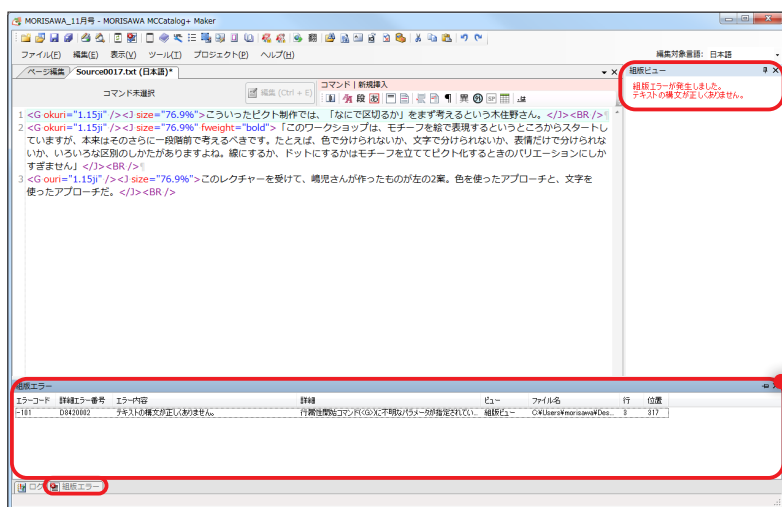
注意

組版エラー

組版エラーとは、コマンド指定の不正により組版が正常に行われないことを指します。

3 エラーがあった場合、『組版エラー』パネルが自動的に表示されます。また、『表示』メニューより、『組版エラー』を選択するか、『組版エラー』パネルタブにマウスポインタを重ねて『組版エラー』パネルを表示することもできます。

4 『組版エラー』パネルのリスト項目をダブルクリックして、テキストエディタパネル上で表示し、修正します。



注意

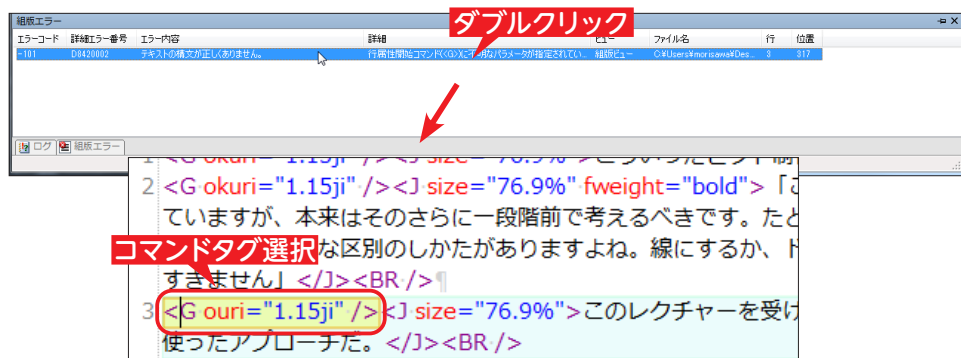
組版エラーパネル

組版エラーパネルでは、そのドキュメントで複数のエラーが発生していても、1つめのエラーのみを表示します。

組版エラーパネル

組版エラーが発生した場合、エラー発生箇所を表示します。

エラーコード、エラー内容、エラー内容の詳細、エラーが発生しているビュー、エラーが発生しているドキュメントの保存パス名、ドキュメント内の行番号と位置を表示します。



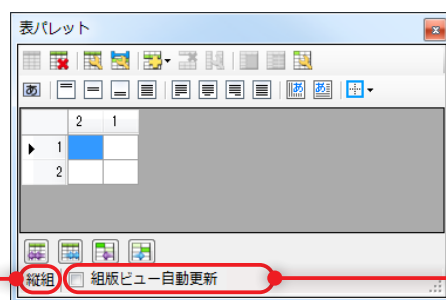
表組

MCCatalog+ Maker では、表を作成することができます。

表パレットのツールバー

『表示』メニューから『表パレット』を選びます。

表組の組方向を
表示します。



組版ビュー自動更新

☒にすると、表パレットのダイアログ上で変更した場合、組版ビューを自動的に更新します。

■表パレットのツールバーの項目

	表の新規作成
	表の削除
	表の設定
	キャプション設定

	上に挿入
	下に挿入
	左に挿入
	右に挿入

	行 / 列の削除
	行設定
	セルの結合
	セル結合の解除
	セル設定

	文字属性
	セル内頭揃え
	セル内中央揃え
	セル内末揃え
	セル内均等揃え
	セル内最終行行頭揃え

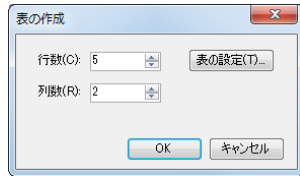
	セル内最終行中央揃え
	セル内最終行行末揃え
	セル内最終行均等揃え
	セル内縦組
	セル内横組

	外枠
	行方向先頭
	行方向末尾
	字詰方向先頭
	字詰方向末尾
	格子
	罫線なし
	罫線カラー
	罫線のスタイル
	罫線の設定

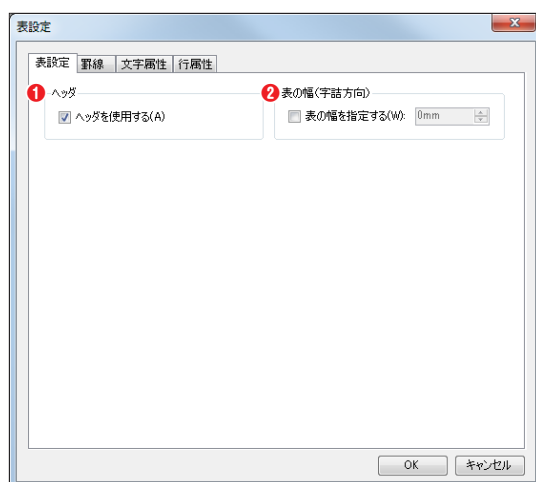
	前の表に移動
	後の表に移動
	前のセルに移動
	後のセルに移動

表の新規作成

- 1 テキストエディタパネルで、表を挿入したい箇所にカーソルを置き、表パレットの  をクリックします。または、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの新規挿入』→『表』を選びます。『表の作成』ダイアログが表示されますので、『行数』と『列数』を指定します。



- 2 『表の作成』ダイアログの『表の設定(T)...』をクリックすると、『表設定』ダイアログが表示されます。『表設定』タブを設定します。



表設定

①ヘッダ

ヘッダを使用する場合は、☒ にします。

※ヘッダについては、p.178『ヘッダ』を参照してください。

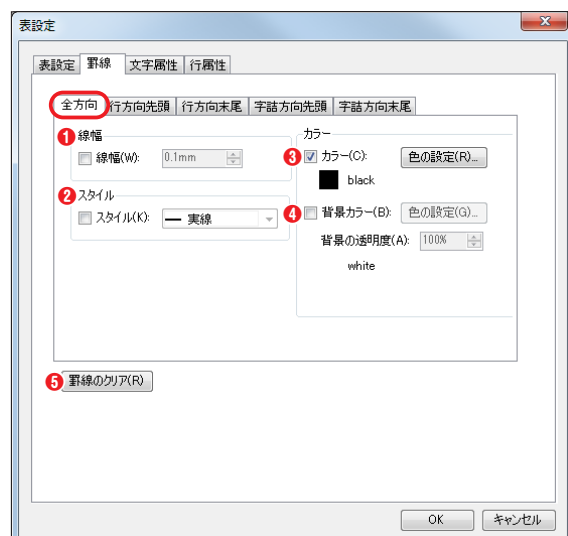
②表の幅（字詰方向）

表の幅を指定する場合は、☒ にして『mm』（または『pt』『q』『ji』『%』）で指定します。

※表の幅を指定しない場合、デバイスの天地の高さいっぽいに表示されます。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

- 3 『罫線』タブを設定します。罫線を『全方向』（四方の罫線が同じ）か、『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』（各方向、異なる罫線が設定可能）から選択し、設定します。



全方向

①線幅

罫線の線幅を『mm』（または『pt』『q』）で指定します。

②スタイル

罫線のスタイルを『実線』『二重線』『破線』『点線』から選びます。

カラー

③カラー

線の色を設定する場合は、☒ にします。『色の設定(R)...』をクリックすると、『カラー』ダイアログが表示されます。色を選んで [OK] をクリックします。

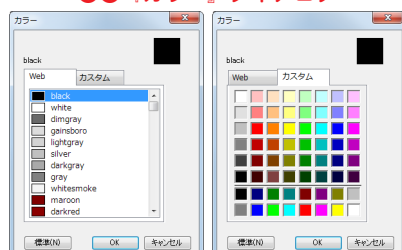
④背景カラー

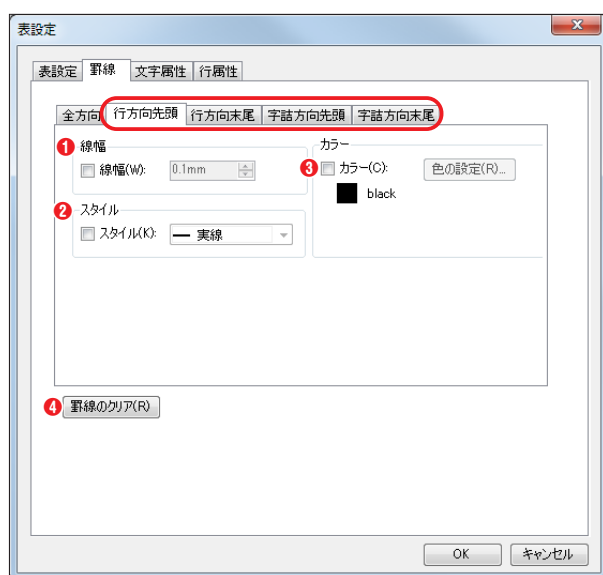
背景の色を設定する場合は、☒ にします。『色の設定(G)...』をクリックすると、『カラー』ダイアログが表示されます。色を選んで [OK] をクリックします。

⑤罫線のクリア(R)

罫線の設定をデフォルトに戻す場合は『罫線のクリア』をクリックします。

③④『カラー』ダイアログ





行方向先頭、行方向末尾、字詰方向先頭、字詰方向末尾

①線幅

罫線の線幅を『mm』（または『pt』『q』）で指定します。

②スタイル

罫線のスタイルを『実線』『二重線』『破線』『点線』から選びます。

カラー

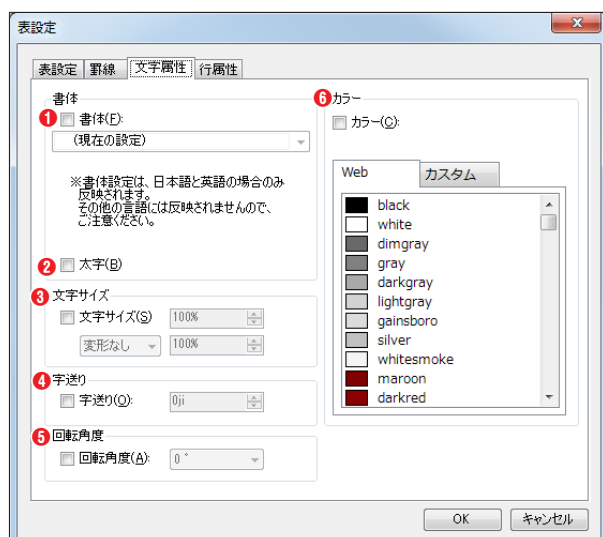
③カラー

線の色を設定する場合は、☒にします。色を設定(R)...をクリックすると、『カラー』ダイアログが表示されます。色を選んで[OK]をクリックします。

④罫線のクリア(R)

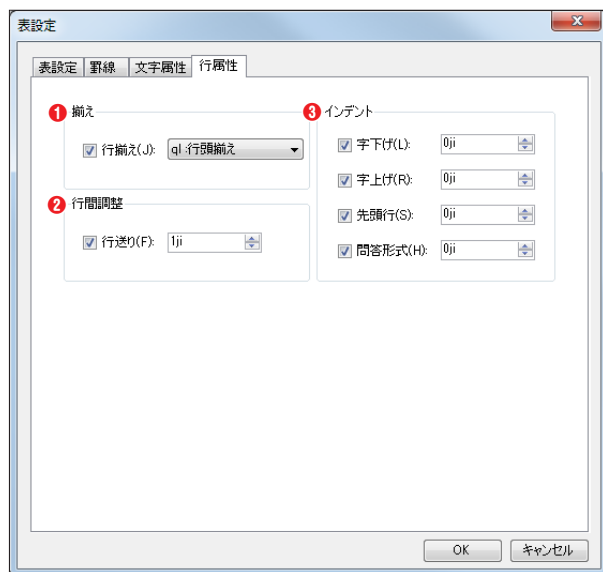
罫線の設定をデフォルトに戻す場合は[罫線のクリア]をクリックします。

4 『文字属性』タブを設定します。



①～⑥の操作方法是、p.127「文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定」をご参照ください。

5 『行属性』タブを設定します。



①～③の操作方法は、p.129「行属性（揃え／行間調整／インデント）の設定」をご参照ください。

6 [OK] をクリックします。

注意

表組の中に表組は指定できません。

注意

段組を指定して、表組を表示した場合、意図しない表示になる場合があります。

表組の文字属性について

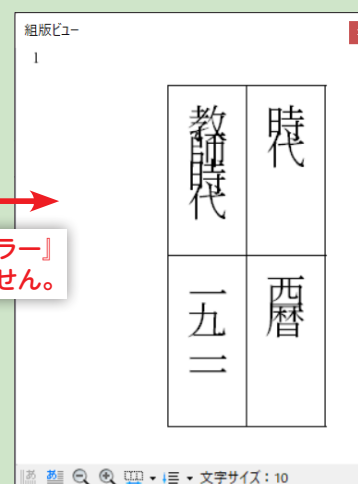
表組内のテキストに文字属性を設定する場合には、表の設定やセルの設定から設定してください。表組を囲むように文字属性を設定すると、表組内の文字サイズは反映されますが、その他の設定は反映されません。

以下のような文字属性コマンドの使い方では、一部設定が反映されないため、ご注意ください。

例) テキストエディタパネル

```
<J size="150%" okuri="2ji" color="red">
<TABLE>
<TR>
<TD linewidth="0.1mm"> 時代 </TD>
<TD linewidth="0.1mm"> 西暦 </TD>
</TR>
<TR>
<TD linewidth="0.1mm"> 教師時代 </TD>
<TD linewidth="0.1mm"> 一九二 </TD>
</TR>
</TABLE>
</J>
```

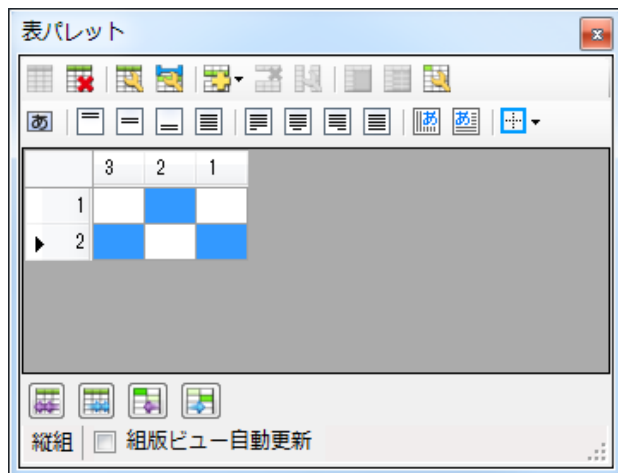
組版ビューパネル表示



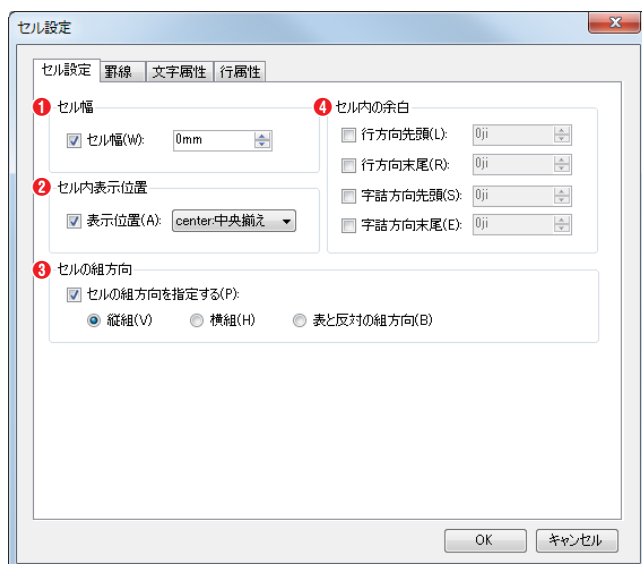
『字送り』『カラー』
は反映されません。

セルの設定

- 1 設定したいセルを選択します。『Ctrl』＋クリックで任意に複数のセルを選択できます。



- 2 表パレットのをクリックすると、『セル設定』ダイアログが表示されます。『セル設定』タブを設定します。



セル設定

①セル幅

セル幅を指定する場合、をにし、『mm』（または『pt』『q』『ji』『%』）で指定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

②セル内表示位置

セル内の文字の表示位置を指定する場合、をにし、『center: 中央揃え』『head: 頭揃え』『end: 末揃え』『even: 均等揃え』から選択します。

③セルの組方向

セルの組方向を指定する場合、をにし、『縦組』『横組』『表と反対の組方向』から選択します。

④セル内の余白

セルの余白を指定する場合、四方の余白を設定することができます。『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』のをにし、『ji』（または『pt』『q』『mm』『g』）で指定します。

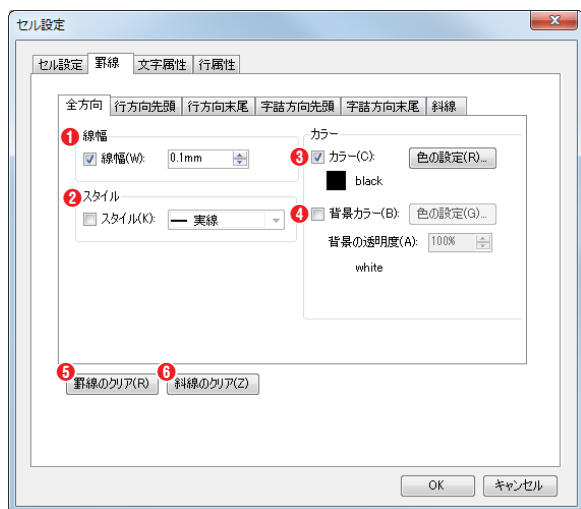
※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

※『g』とは基準行送りサイズを 1g とする単位です。

重要!

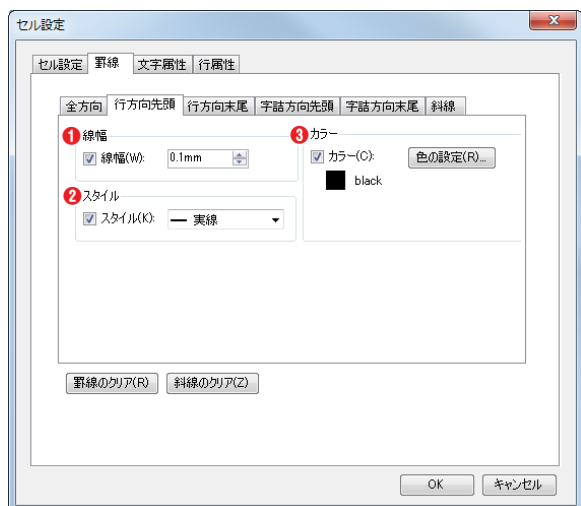
日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。また、ブラウザ版ビューアで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

3 『罫線』タブを設定します。『全方向』または『行方向先頭』『行方向末尾』『字詰方向先頭』『字詰方向末尾』をそれぞれ指定します。



全方向

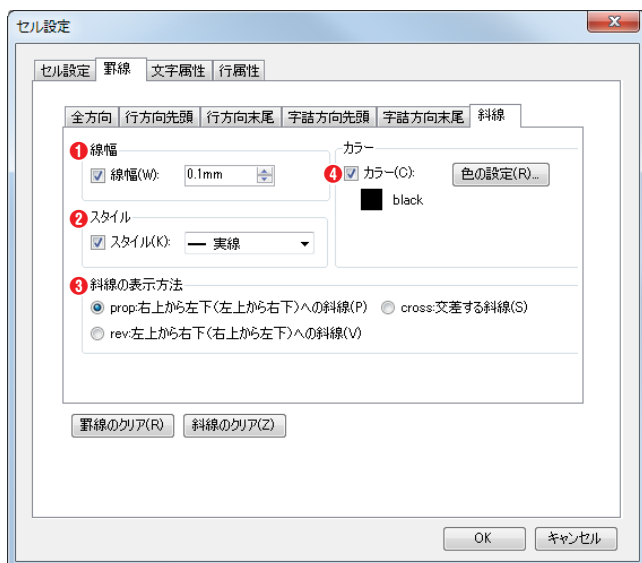
- ①～⑤は p.155「表の新規作成」をご参照ください。
⑥ 斜線のクリア(Z) をクリックすると、『斜線』タブの設定がクリアされます。



行方向先頭、行方向末尾、字詰方向先頭、字詰方向末尾

- ①～③は p.155「表の新規作成」をご参照ください。

4 『斜線』タブを設定します。



①線幅

線幅を指定する場合、☐を☒にし、『mm』（または『pt』『q』）で指定します。

②スタイル

線のスタイルを指定する場合、☐を☒にし、『実線』『二重線』『破線』『点線』から選択します。

③斜線の表示方法

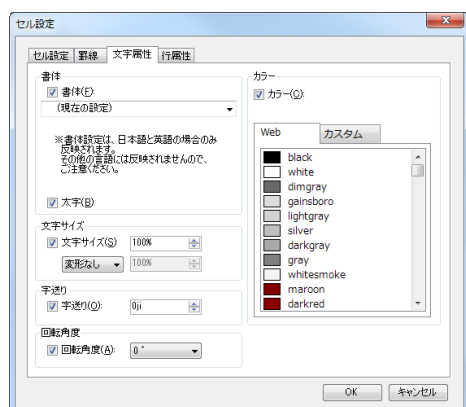
斜線の向きを指定する場合、『prop: 右上から左下(左上から右下) への斜線』『cross: 交差する斜線』『rev: 左上から右下(右上から左下) への斜線』から選択します。

④カラー

線の色を設定する場合は、☒にします。
色の設定(R) をクリックすると、『カラー』ダイアログが表示されます。色を選んで [OK] をクリックします。

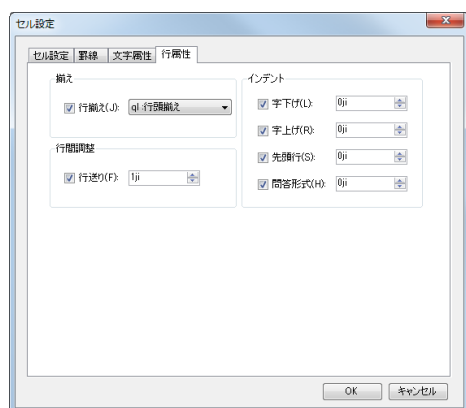
5 セルの中の文字の詳細を設定したい場合、『文字属性』タブを設定します。

※操作方法は p.155「表の新規作成」をご参照ください。



6 セルの中の文字の行の詳細を設定したい場合、『行属性』タブを設定します。

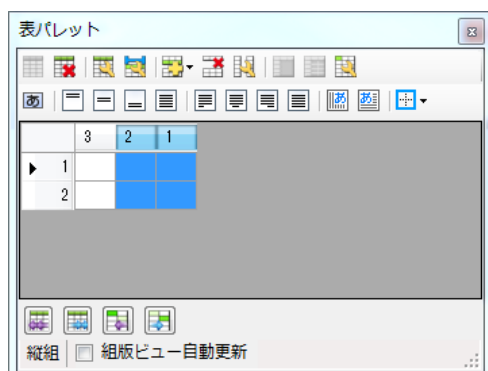
※操作方法は p.155「表の新規作成」をご参照ください。



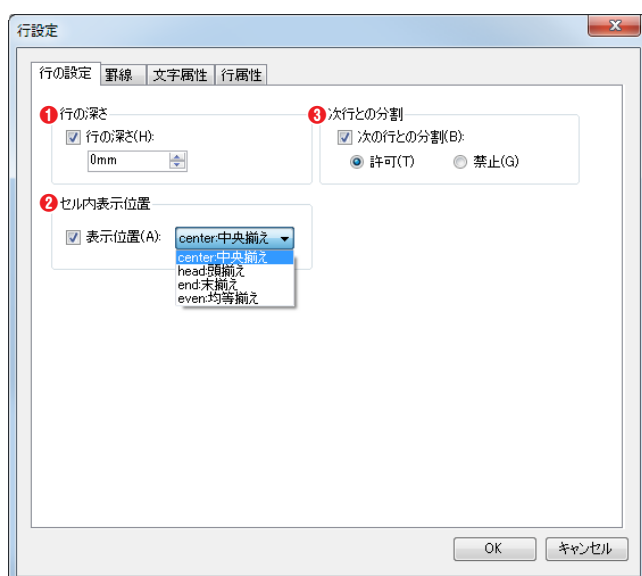
7 [OK] をクリックします。

行の設定

- 1 設定したい行を選択します。



- 2 表パレットの  (縦組時)  (横組時) をクリックすると、『行設定』ダイアログが表示されます。『行の設定』タブを設定します。



行の設定

① 行の深さ

行の深さを指定する場合、☐を☒にし、『mm』（または『pt』『q』『ji』『g』）で指定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

※『g』とは基準行送りサイズを 1g とする単位です。

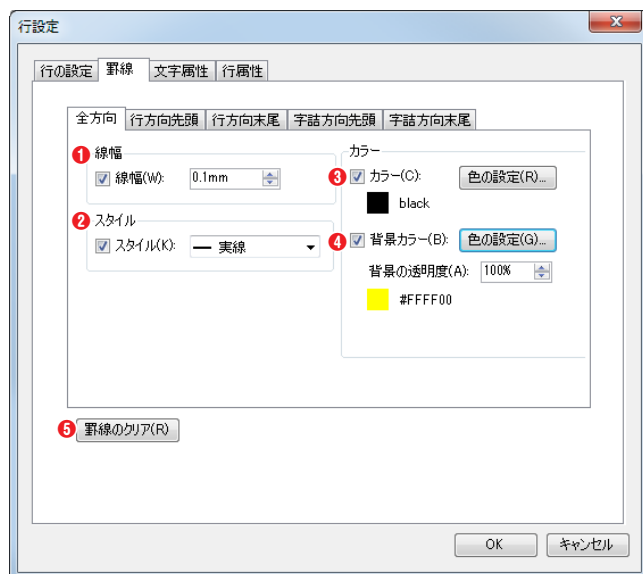
② セル内表示位置

セル内の文字の表示位置を指定する場合、☐を☒にし、『center: 中央揃え』『head: 頭揃え』『end: 末揃え』『even: 均等揃え』から選択します。

③ 次行との分割

次の行が別ページにまたいで表示されることの可否を指定します。指定する場合、☐を☒にし、『許可』か『禁止』を選択します。

3 『罫線』タブを設定します。

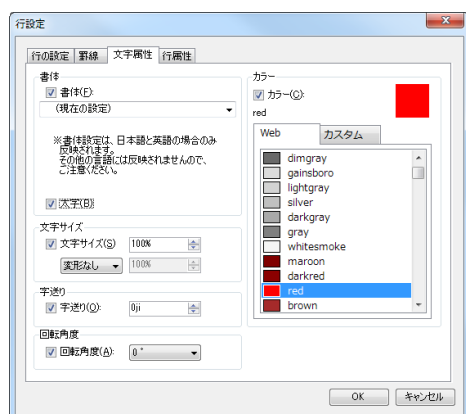


罫線

①～⑤および、各タブの操作方法は、p.155「表の新規作成」をご参照ください。

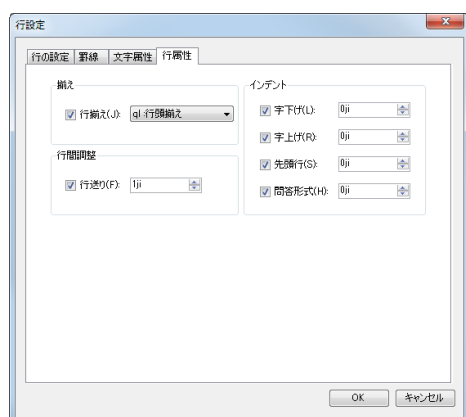
4 セルの中の文字の詳細を設定したい場合、『文字属性』タブを設定します。

※操作方法は p.155「表の新規作成」をご参照ください。



5 セルの中の文字の行の詳細を設定したい場合、『行属性』タブを設定します。

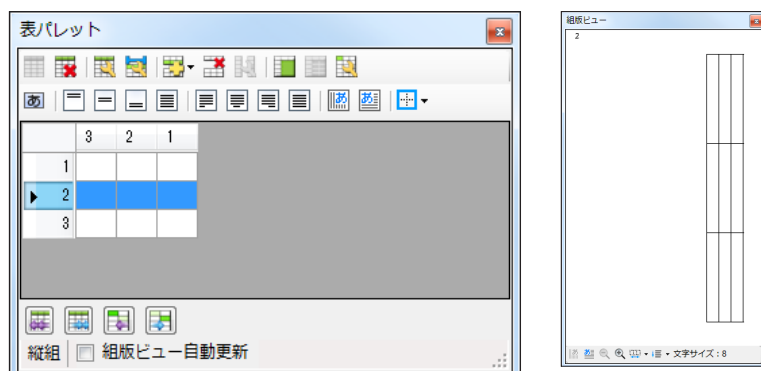
※操作方法は p.155「表の新規作成」をご参照ください。



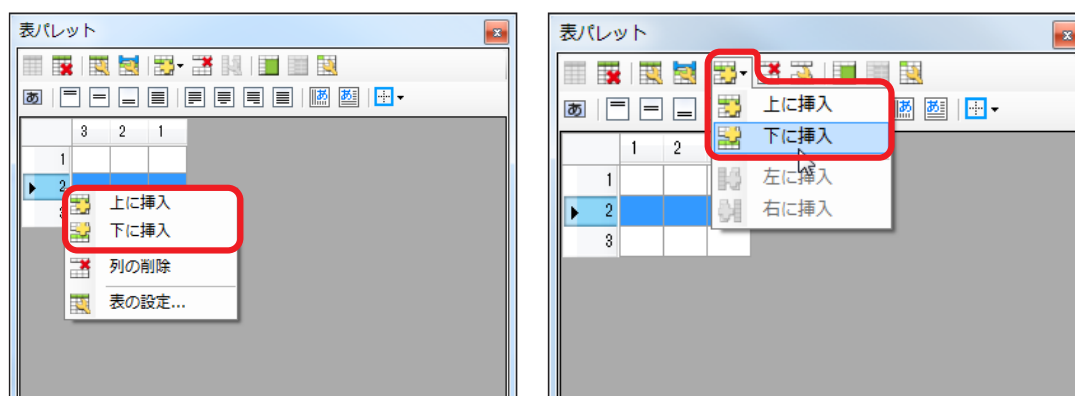
6 [OK] をクリックします。

行・列の挿入

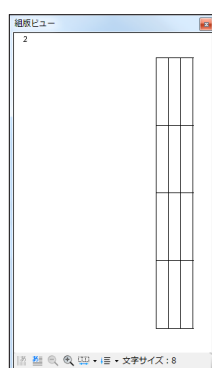
- 1 行または列を挿入する位置の直前もしくは直後の行を選択します。(ここでは『行の挿入』を設定します)



- 2 右クリックで『上に挿入』もしくは『下に挿入』を選択するか、をクリックして挿入する位置を設定します。

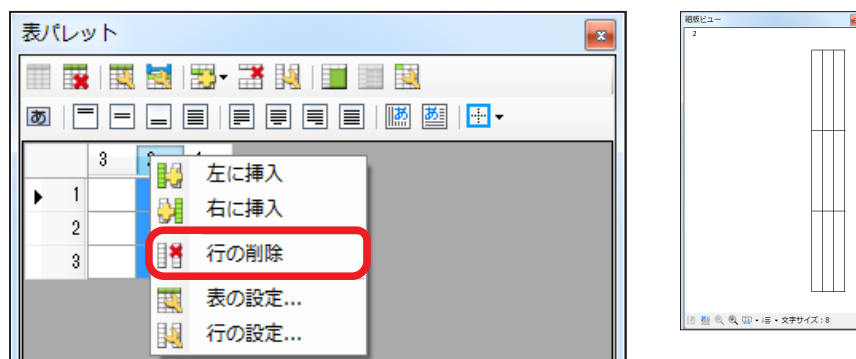


- 3 行が挿入されました。

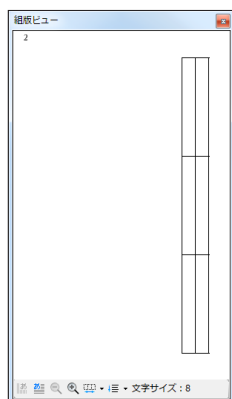


行・列の削除

- 1 不要な行または列を選択し、右クリックで『行の削除』または『列の削除』をクリックするか、をクリックします。(ここでは『行の削除』を設定します)



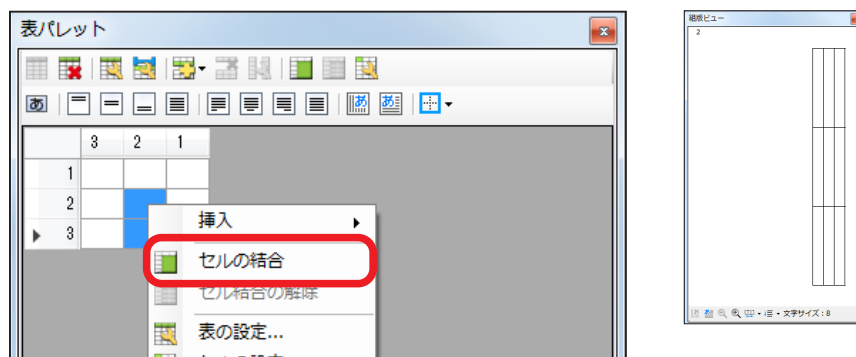
- 2 削除されました。



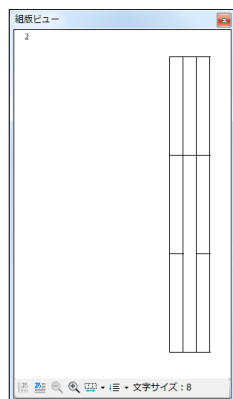
セルの結合と解除

セルの結合

- 1 結合したい複数のセルを選択し、右クリックで『セルの結合』をクリックするか、をクリックします。

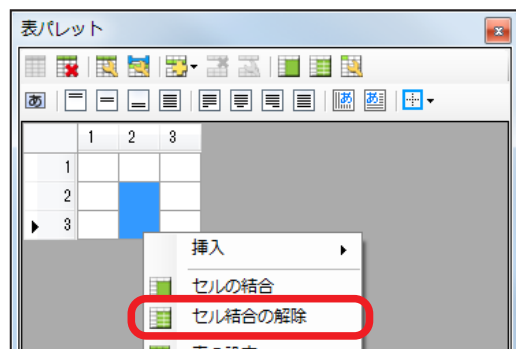


2 結合されました。

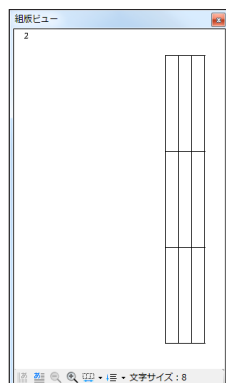


セル結合の解除

1 結合したセルを選択し、右クリックで『セル結合の解除』をクリックするか、をクリックします。

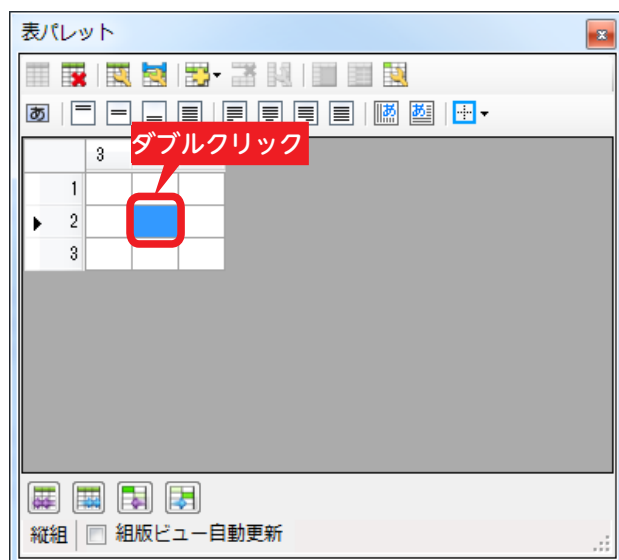


2 解除されました。

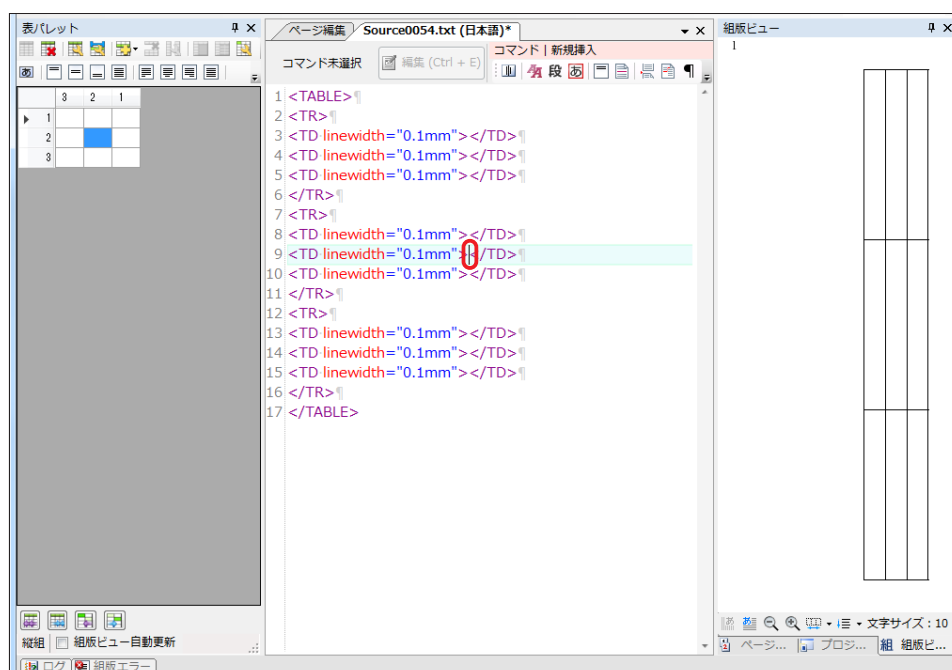


セルへの文字入力

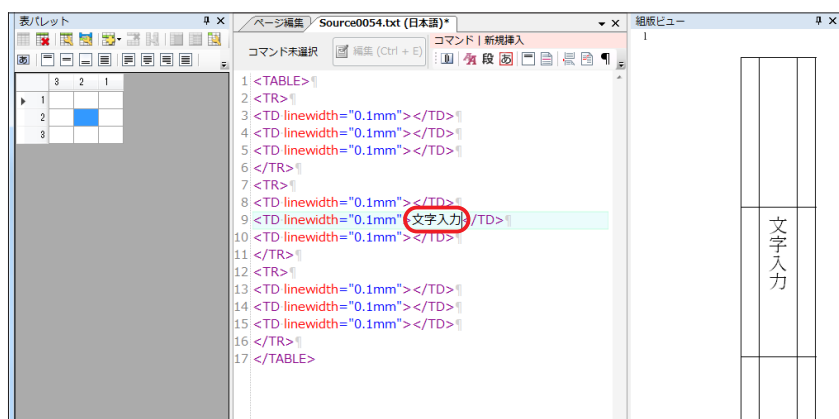
- 1 表パレットのプレビュー画面で、文字を入力したいセルをダブルクリックします。



- 2 テキストエディタパネルの該当セルの文字入力位置にカーソルが移動します。



3 文字を入力します。



注意

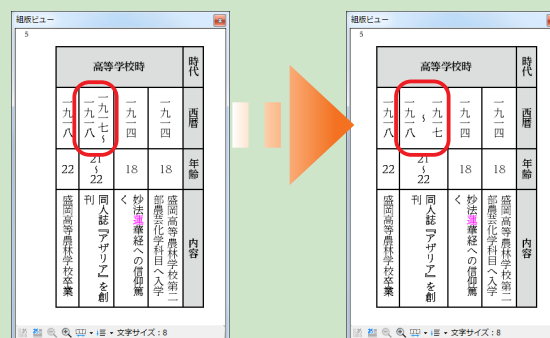
文字入力は組版ビュー自動更新にチェックを入れていても反映されません。をクリックしてください。

セル内の文字の改行

セル内の文字を任意の位置で改行させることができます。エディタ上で改行したい文字の後ろにカーソルを置き、をクリックします。

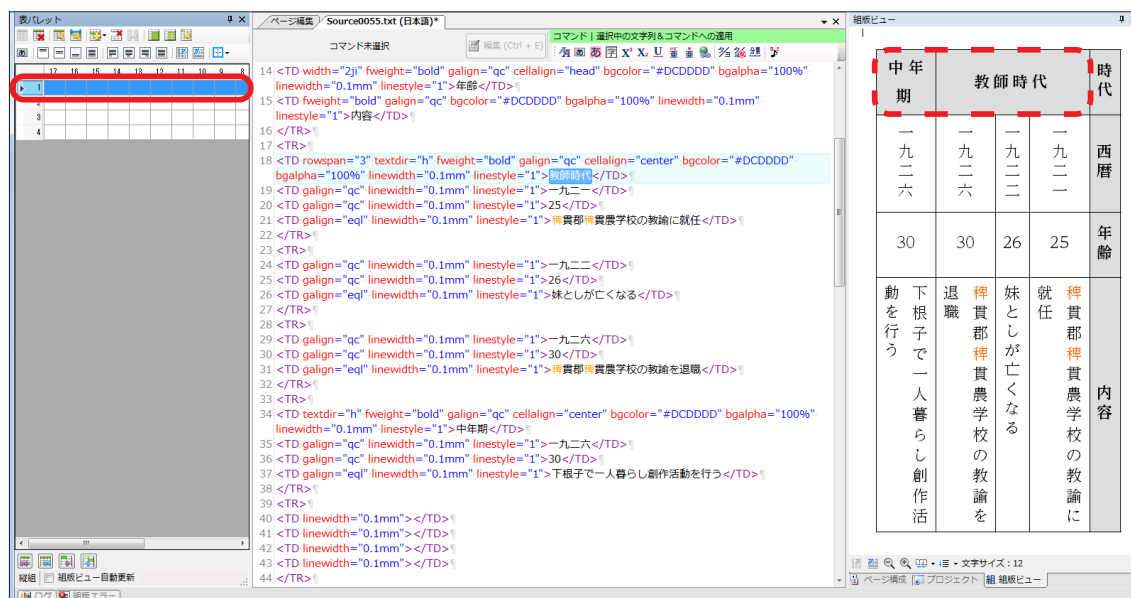
エディタ

一九一四 <LBR /> ~ <LBR /> 一九一八

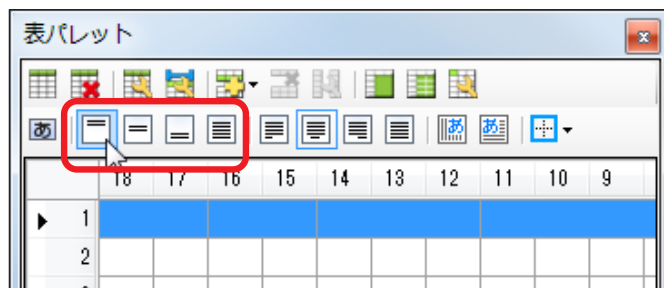


テキストの行方向の配置設定

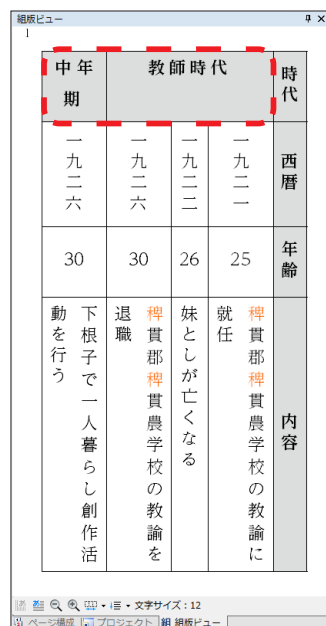
- 1 表パレットのプレビュー画面で、テキストの行方向の配置位置を設定したいセルを選択します。



- 2 セル内の行方向の揃えを選択します。

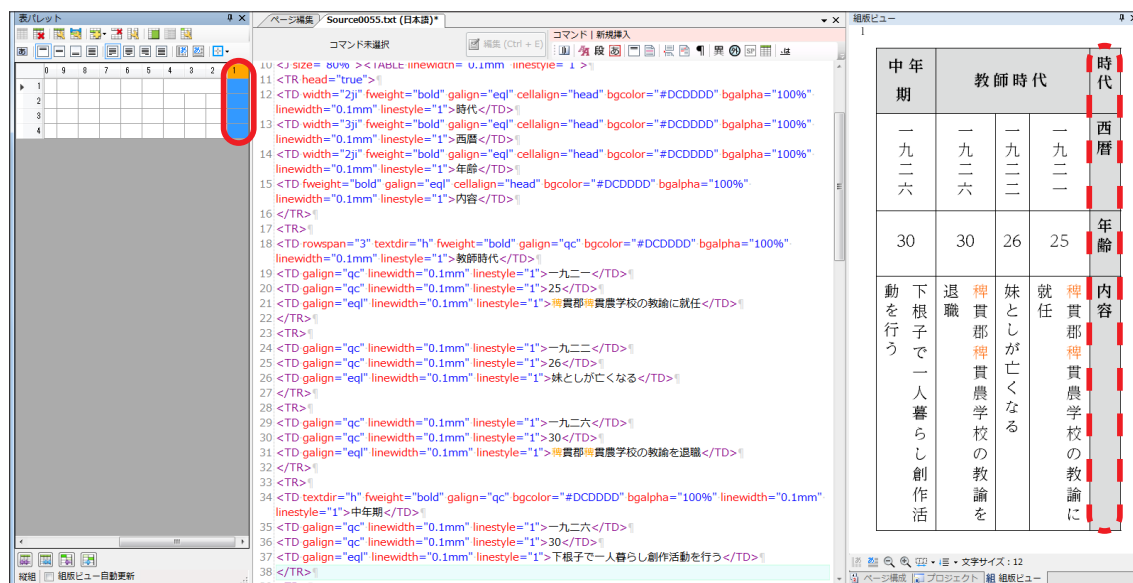


- 3 セル内の表示位置が変わりました。ここでは「セル内頭揃え」に設定しました。

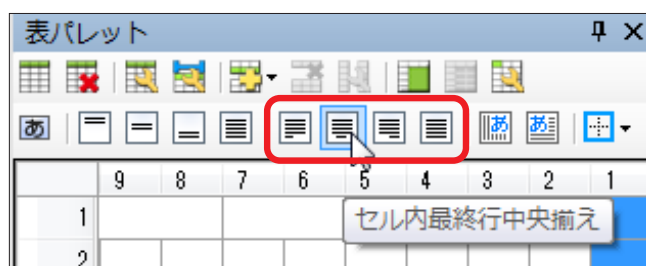


行揃えの設定

- 1 表パレットのプレビュー画面で、行揃えを設定したいセルを選択します。



- 2 セル内の行揃えを選択します。

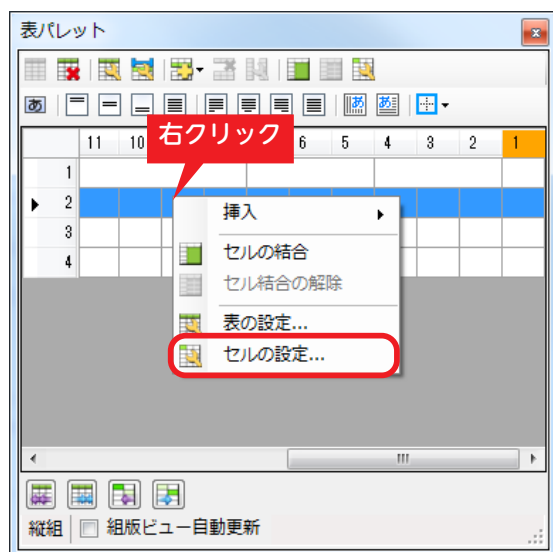


- 3 セル内の表示位置が変わりました。ここでは「セル内最終行中央揃え」に設定しました。



余白の設定

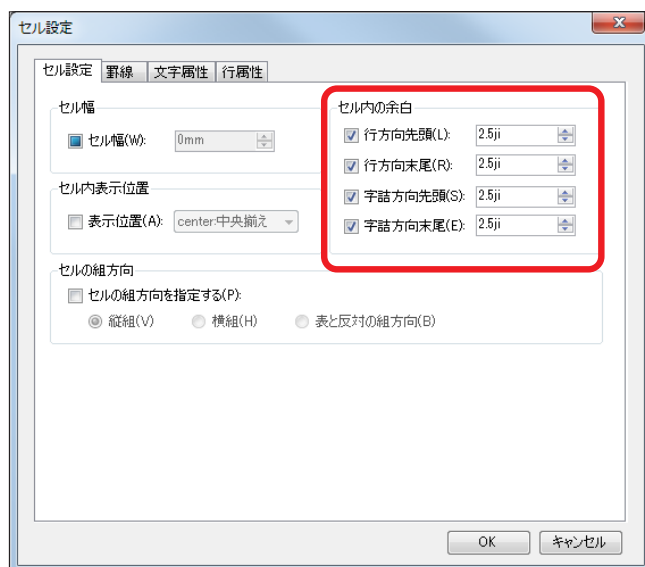
- 1 表パレットのプレビュー画面で、セル内に入力した文字とセルの境界線との間の余白の設定をしたいセルを選択します。右クリックで『セルの設定』をクリックします。



- 2 『セル設定』ダイアログの『セル設定』タブの「セル内の余白」の頁を『ji』（または『pt』『q』『mm』『g』）で指定します。

※『ji』とは基準文字サイズを 1ji とする単位です。

※『g』とは基準行送りサイズを 1g とする単位です。



組方向の設定

- 1 表パレットのプレビュー画面で、セル内に入力した文字の組方向の設定をしたいセルを選択します。右クリックで『セルの設定』を選択するか、 をクリックします。または   をクリックします。
- 2 『セル設定』ダイアログの『セル設定』タブの「セルの組方向」を設定します。「セルの組方向を指定する」を ☒ にして、『縦組』『横組』『表と反対の組方向』から選択します。

重要!

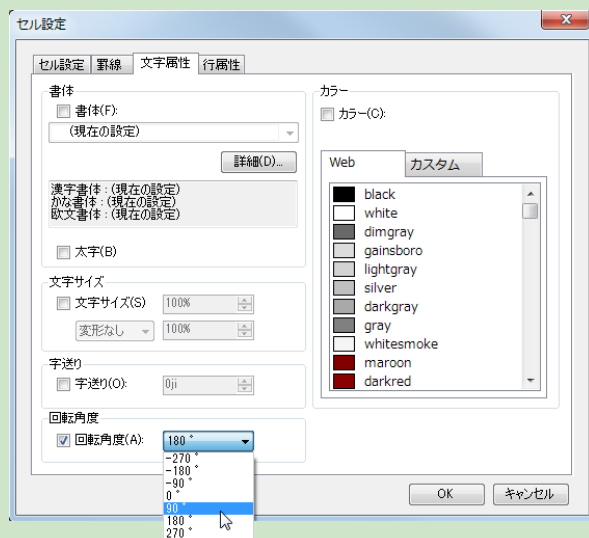
日本語以外の言語は、必ず「横組」での表示となります。
また、ブラウザ版ビューアで閲覧した場合は、すべて「横組」での表示となります。

テキストの回転

セルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択し、『文字属性』タブの「回転角度」を設定すると、テキストを回転することもできます。

組版ビュー

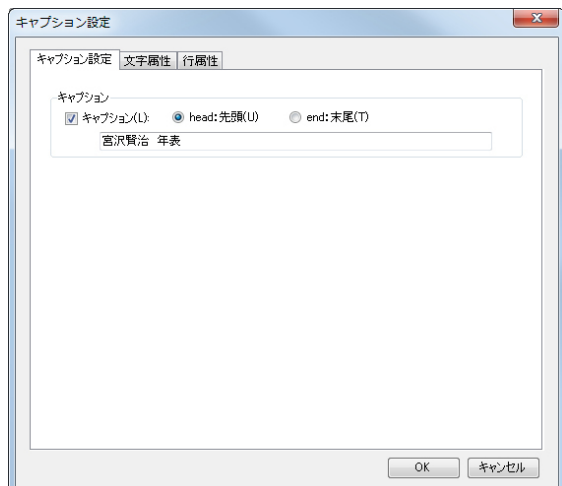
幼児期			宮沢賢治 年譜
一九〇九	一九〇三	一八九六	
13	7	0	西暦 年齢



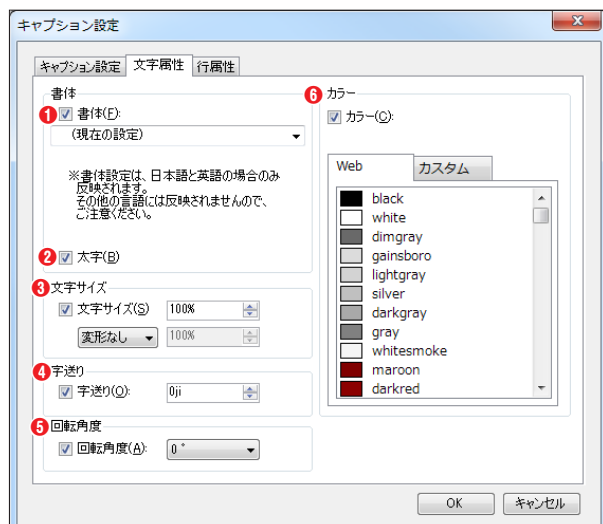
キャプション設定

表にキャプションを付けることができます。

- 1 表パレットの  『キャプション設定』をクリックします。
- 2 『キャプション設定』ダイアログが表示されます。☒ を ☒ にしてボックスにキャプションの文字を入力します。『head: 先頭』『end: 末尾』から、キャプションの配置位置を設定します。

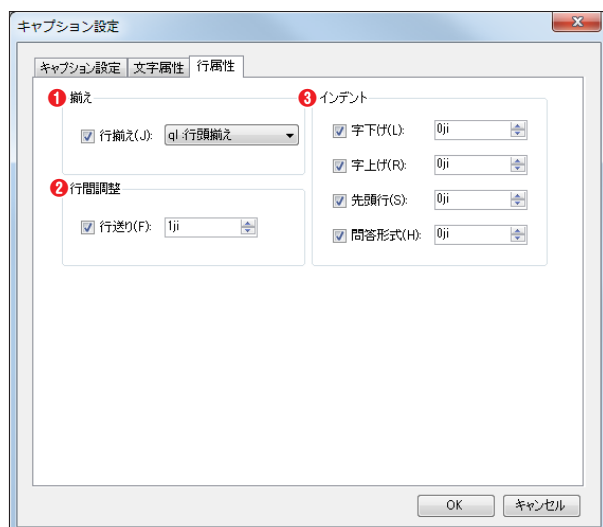


3 『文字属性』タブを設定します。



①～⑥の操作方法は、p.127「文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定」をご参照ください。

4 『行属性』タブを設定します。



①～③の操作方法は、p.129「行属性（揃え／行間調整／インデント）の設定」をご参照ください。

5 [OK] をクリックします。

head: 先頭 <TR caption="true" captionside="先頭">

エディタ

<TR caption="true" captionside="head">

組版ビュー表示

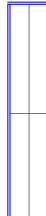
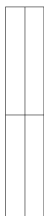
時代	年齢	内容
一九〇九	一三	東京府立第一小学校
一九一三	七	東京府立第二小学校
一九一七	〇	東京府立第三小学校
一九二一	〇	東京府立第四小学校

end: 末尾	<TR caption="true" captionside="末尾">
エディタ	組版ビュー表示
<pre><TR caption="true" captionside="end"></pre>	

表の境界線（表の外枠）

表全体の外枠に対して、線幅や色、線のスタイルを指定できます。

- 1 表パレットの  『表の設定』 をクリックします。
- 2 『表設定』 ダイアログの『罫線』 タブを設定します。四方それぞれ罫線を指定することもできます。
※操作方法は、p.155「表の新規作成」をご参照ください。

外枠の罫線 (全方向)			<TABLE linewidth="線幅" linecolor="線のカラー" linestyle="線のスタイル">
設定前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示	
	<TABLE linewidth="1mm" linecolor="#0000FF" linestyle="2"> </TABLE>		
外枠の罫線 (行方向先頭)			<TABLE linewidthbefore="行方向先頭の線幅" linecolorbefore="行方向先頭の線のカラー" linestylebefore="行方向先頭の線のスタイル">
設定前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示	
	<TABLE linewidthbefore="0.5mm" linecolorbefore="#FF8000" linestylebefore="3"> </TABLE>		

外枠の罫線 (行方向末尾)		
<TABLE linewidthafter="行方向末尾の線幅" linecolorafter="行方向末尾の線のカラー" linestyleafter="行方向末尾の線のスタイル">		
設定前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
	<pre><TABLE linewidthafter="0.5mm" linecolorafter="#00FF00" linestyleafter="4"> </TABLE></pre>	
外枠の罫線 (字詰方向先頭)		
<TABLE linewidthstart="字詰方向先頭の線幅" linecolorstart="字詰方向先頭の線のカラー" linestylestart="字詰方向先頭の線のスタイル">		
設定前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
	<pre><TABLE linewidthstart="1.5mm" linecolorstart="#C0C000" linestylestart="1"> </TABLE></pre>	
罫線 (字詰方向末尾)		
<TABLE linewidthend="字詰方向末尾の線幅" linecolorend="字詰方向末尾の線のカラー" linestyleend="字詰方向末尾の線のスタイル">		
設定前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
	<pre><TABLE linewidthend="1.2mm" linecolorend="#804000" linestyleend="1"> </TABLE></pre>	

セルの罫線

選択したセルに対して罫線を設定できます。

- 罫線を引きたいセルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択するか、表パレットのツールバーの から選択します。『セルの設定』ダイアログの『罫線』タブでの操作方法は、p.155「表の新規作成」をご参照ください。

※表を新規作成すると、すべてのセルに罫線がつけます。

設定		組版ビュー表示
	外枠	

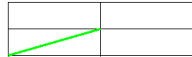
設定		組版ビュー表示
	行方向先頭	
	行方向末尾	
	字詰方向先頭	
	字詰方向末尾	
	格子	
	罫線なし	

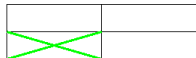
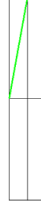
セルに斜線を設定する

選択したセルに対して斜線を引くことができます。

- 1 斜線を引きたいセルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択し、『セル設定』ダイアログの『罫線』タブの中にある『斜線』タブを設定します。

※操作方法は、p.158「セルの設定」をご参照ください。

設定前 組版ビュー表示	斜線の表示方法	組版ビュー表示	
		縦組	横組
	prop:右上から左下(左上から右下)への斜線		

設定前 組版ビュー表示	斜線の表示方法	組版ビュー表示	
		縦組	横組
	cross:交差する斜線		
	rev:左上から右下(右上から左下)への斜線		

注意**斜線の設定**

斜線は、外枠やセルの枠線よりも上に表示されます。
また、連続して斜線を設定した場合、縦組の場合は左下から右上、横組の場合は右下から左上の順番で野線がつきます。

野線のカラーとスタイル

選択したセルの野線に対して色と線種を設定できます。

野線のカラー

- 野線の色を設定したいセルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択し、『セル設定』ダイアログの『野線』タブを設定します。または、 から『野線カラー』で設定します。

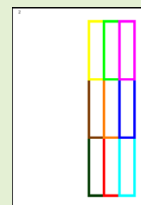
野線のスタイル

- 野線の種類を設定したいセルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択し、『セル設定』ダイアログの『野線』タブを設定します。または、 から『野線のスタイル』で設定します。

注意**野線のカラーとスタイルの設定**

野線のカラーとスタイルの設定方法は、HTML の考え方と同様です。

縦組の場合は、右上から左下、横組の場合は、左上から右下の順番で野線がつくため、線幅が同じで異なるカラーや線種を隣同士のセルにそれぞれ設定する時は、上下関係に注意する必要があります。
ただし、線幅が異なる場合は、太い線が上に表示されます。

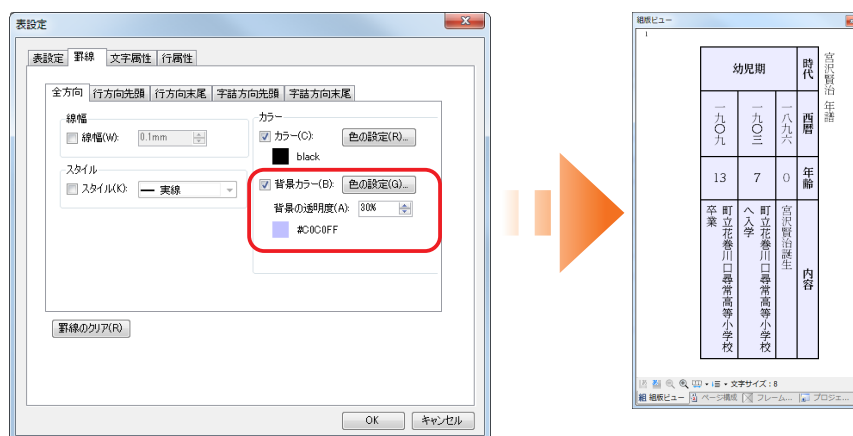


表とセルの塗り

表の塗り

表全体の背景に色を付けることができます。

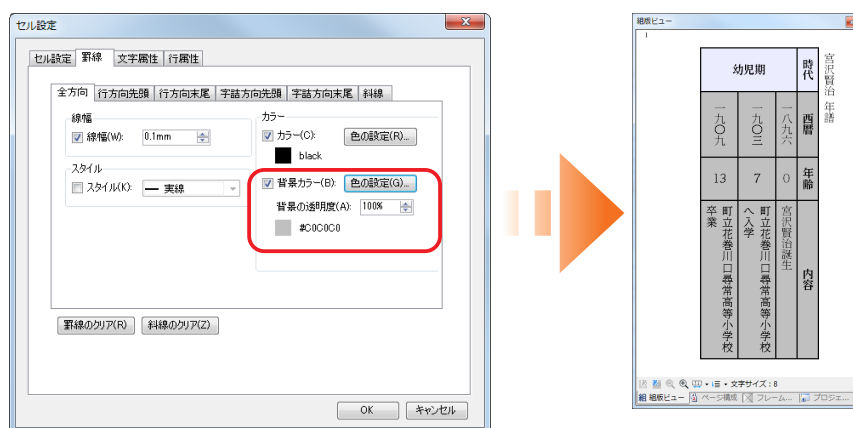
- 1 表パレットの  『表の設定』 をクリックします。
- 2 『表設定』 ダイアログの『罫線』 タブ内の『全方向』 タブの「カラー」の「背景カラー」を設定します。



特定のセルの塗り

任意のセルの背景に色を付けることができます。

- 1 表パレットのプレビュー画面上で、色を付けたいセルを選択し、右クリックして『セルの設定』を選択するか、 をクリックします。
- 2 『セル設定』 ダイアログの『罫線』 タブ内の『全方向』 タブの「カラー」の「背景カラー」を設定します。

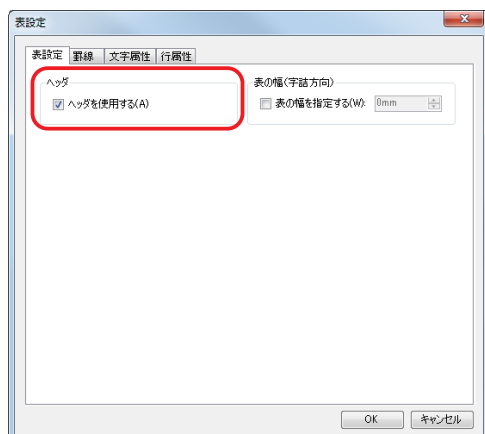


ヘッダ

表の内容が多いと、1 ページに収まらない場合があります。複数ページにまたがった場合、ヘッダ行を設定することで、繰り返し表示することができます。

1 表パレットの  『表の設定』 をクリックします。

2 『表設定』 ダイアログの『表設定』 タブの「ヘッダ」の「ヘッダを使用する」を ☒ にします。



2 ページ目

中学校時			時代
一九一四	一九一三	一九〇九	西暦
18	18	13	年齢
若千県立鹿間中学校卒業	宿舎退寮臨時市北山の仏寺清養院に下宿	若千県立鹿間中学校へ入学	内容

1 ページ目

幼児期			時代
一九〇九	一九〇三	一八九七	西暦
13	7	0	年齢
卒業	町立花巻川口尋常高等小学校	町立花巻川口尋常高等小学校へ入学	内容

段落スタイル、文字スタイル

MCCatalog+ Maker では、『スタイル』によりプロジェクト全体の段落や文字の体裁を一括で管理することができます。段落スタイルは文字属性と行属性と体裁を設定できます。文字スタイルは文字属性のみ設定が可能です。

段落スタイルタグ

段落に段落スタイルを適用します

文字スタイルタグ

文字に文字スタイルを適用します

段落スタイルパネル

段落スタイルの管理を行います

段落スタイルリスト

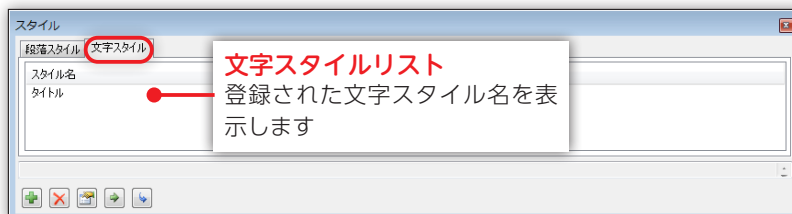
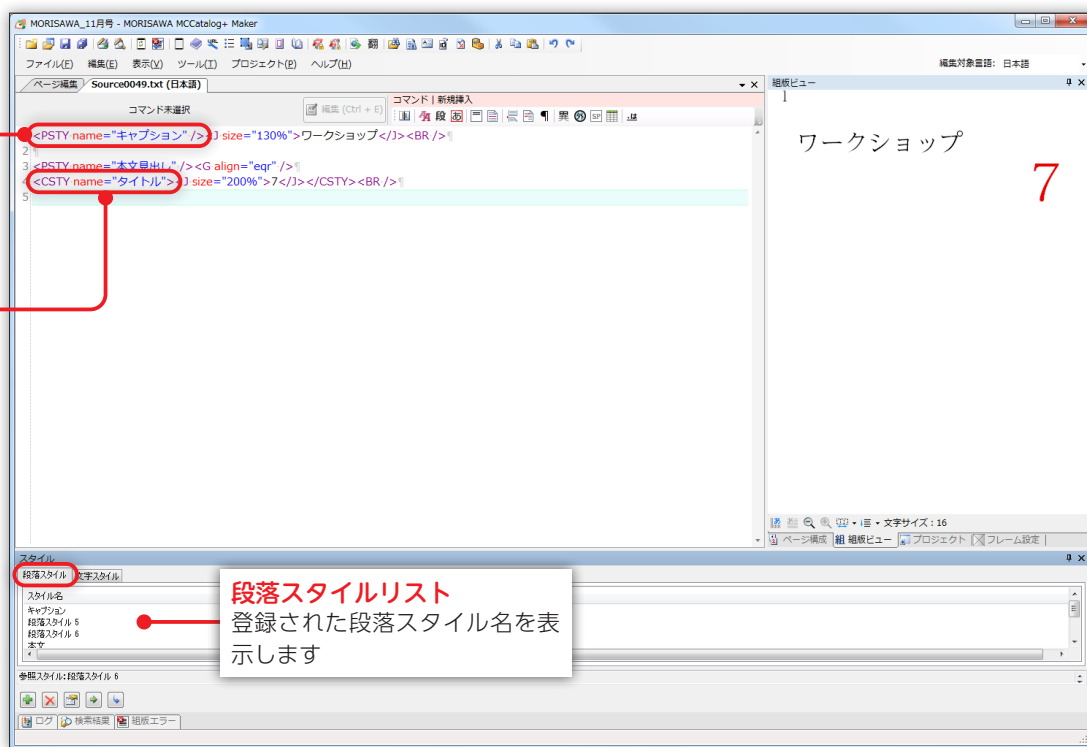
登録された段落スタイル名を表示します

文字スタイルパネル

文字スタイルの管理を行います

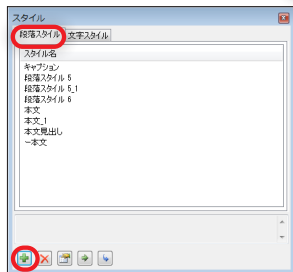
文字スタイルリスト

登録された文字スタイル名を表示します

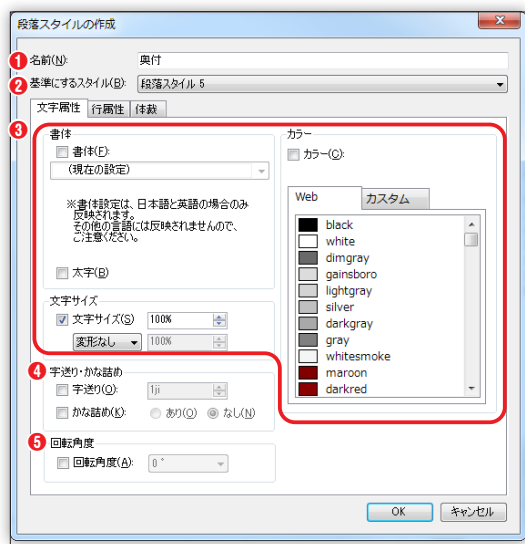


段落スタイルの新規作成

- 1 『表示』メニューより『スタイル』を選択するか、ツールバーの  をクリックします。
- 2 段落スタイルパネルの、 をクリックするか、スタイルパネル内で右クリックし、『新規作成』を選びます。



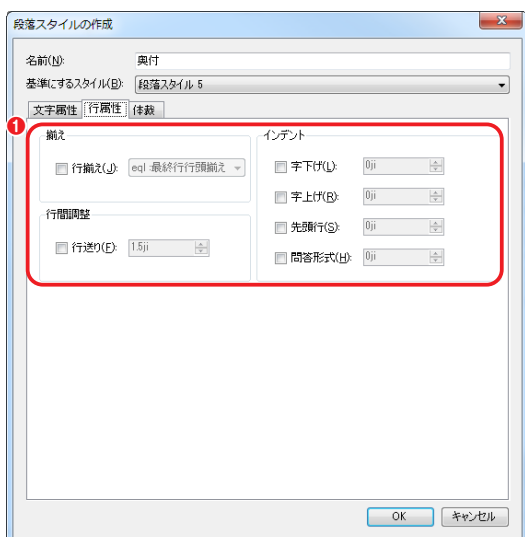
- 3 『名前』、『基準にするスタイル』を設定し、文字属性タブ、行属性タブおよび体裁タブの設定したい項目を  にし、設定を行い [OK] をクリックします。



- 1 名前：スタイル名を入力します。
- 2 基準にするスタイル：すでに登録されたスタイルの中から、基準としたいスタイルを選択します。チェックをオフにしている項目は、『基準にするスタイル』の設定が適用されます。

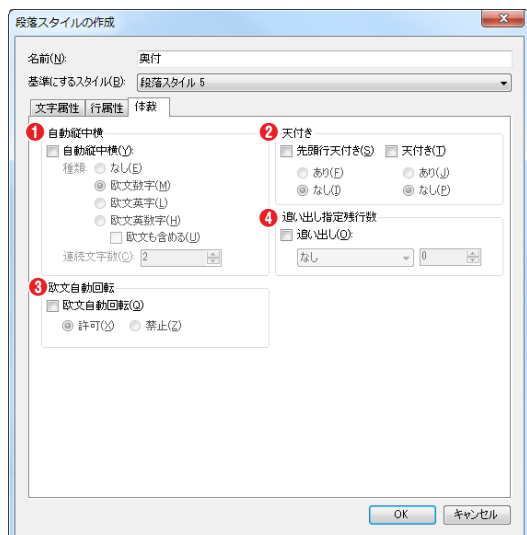
文字属性タブ

- 3 書体・文字サイズ・カラー
設定項目の詳細は p.127 「組版指定コマンド」の「文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定」を参照ください。
- 4 字送り・かな詰め
字送り：詳細は p.127 「組版指定コマンド」の「文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定」を参照ください。
かな詰め **日本語**：OpenType フォントの詰め情報を使用して、かな文字の詰め処理を行います。
- 5 回転角度
回転角度：文字の角度を指定します。



行属性タブ

- 1 揃え・行間調整・インデント
設定項目の詳細は p.129 「組版指定コマンド」の「行属性（揃え／行間調整／インデント）の設定」を参照ください。



体裁タブ

①自動縦中横 日本語

自動縦中横：プロジェクト全体で指定している自動縦中横の設定と異なる設定にする場合に ☒ にします。

※プロジェクト全体での自動縦中横の指定については、p.220 の「表示／組版設定」の「組版設定」タブの項を参照ください。

種類：自動縦中横を行う文字種を『なし』『欧文数字』『欧文英字』『欧文英数字』から選択します。

連続文字数：自動縦中横を行う文字数を指定します。

※設定項目の詳細は、p.220 の「表示／組版設定」の「組版設定」タブの項を参照ください。

②天付き

先頭行天付き：先頭行の全角始め括弧類の半角アキを取ります。

天付き：先頭行以外の行で全角始め括弧類が行の先頭にある場合、半角アキを取ります。

先頭行天付き				天付き	
あり	なし	あり	なし	あり	なし

③欧文自動回転 日本語

許可：縦組中の英数字を自動的に1文字ずつ、縦中横にします。

禁止：欧文自動回転を禁止します。

注意

欧文自動回転

縦中横と同時に設定されていた場合は、縦中横で設定されている文字数より多い場合に適用されます。

④追い出し指定残行数

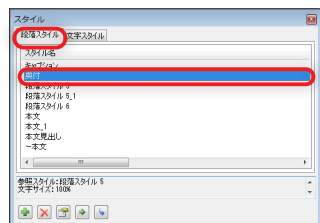
追い出し：段落の追い出しの条件を『なし』『指定行数』『改段』『改ページ』から選択します。『指定行数』は段落の終了位置から版面終端までが設定した残行数未満の場合、指定した段が次段先頭に追い出されます。『改段』または『改ページ』を選択した場合は指定された段落がそれぞれ、段落またはページの先頭に追い出されます。

注意

追い出し指定残行数

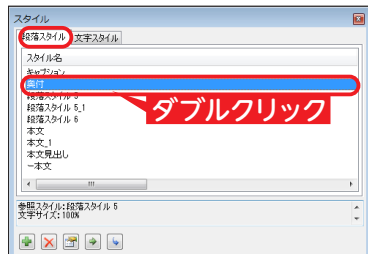
1ページに収まらない段落に『追い出し』を指定した場合、正しく組版されません。

4 段落スタイルパネルに作成したスタイル名が表示されます。



段落スタイルの適用

- 1 テキストエディタパネルで、段落スタイルを適用したい段落の文字を選択するか、カーソルを挿入します。連続した複数の段落に適用させたい場合には、複数の段落にまたがるように文字を選択します。
- 2 段落スタイルパネルで適用したいスタイル名をダブルクリックします。



- 3 段落の先頭に段落スタイルタブが挿入され、適用されます。複数の段落を選択した場合には、選択したすべての段落の先頭に段落スタイルタブが挿入されます。

段落スタイル <PSTY name="段落スタイル名" /> 段落スタイル適用段落		
段落スタイルタブ挿入前 組版ビュー表示	テキストエディタパネル	組版ビュー表示
	<pre><PSTY name="奥付の日付" /> 段落スタイル適用段落
</pre>	

段落スタイルの適用変更

- 1 テキストエディタパネルで段落スタイルの適用を変更したい段落の文字を選択するか、カーソルを挿入します。連続した複数の段落に適用させた段落スタイルを変更したい場合には、複数の段落にまたがるように文字を選択します。
- 2 段落スタイルパネルで適用を変更したいスタイル名をダブルクリックします。
- 3 テキストエディタパネルの段落スタイルタブが変更されます。

```
<PSTY name="奥付の日付" />平成20年12月12日 発行<BR />
<PSTY name="奥付の日付" />平成22年7月5日 15刷<BR />
```

→

```
<PSTY name="奥付3字下げ" />平成20年12月12日 発行<BR />
<PSTY name="奥付3字下げ" />平成22年7月5日 15刷<BR />
```

段落スタイルを『奥付3字下げ』に適用を変更

注意

段落スタイルの挿入位置

段落スタイルタグは必ず、段落先頭（
 や <KP /> の直後）となるようにしてください。他のコマンドタグが段落スタイルより前にある場合、エラーとなる場合があります。

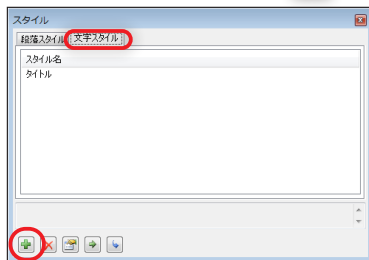
注意

段落スタイルの適用範囲

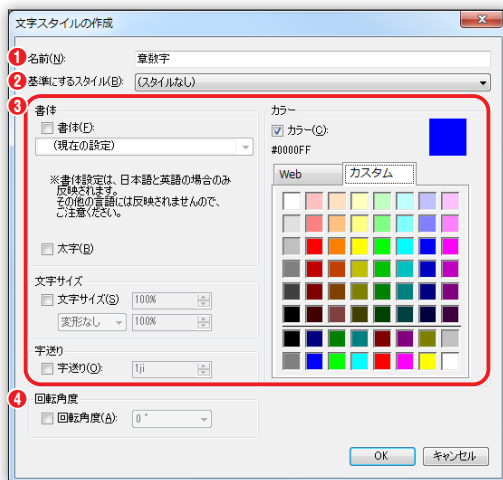
段落スタイルは改行コマンド
、改段コマンド <KD />、改ページコマンド <KP /> ままで適用範囲となります。段落の終了位置には必ず改行コマンド
 または改段コマンド <KD /> または改ページコマンド <KP /> を挿入してください。

文字スタイルの新規作成

- 1 『表示』メニューより『スタイル』を選択するか、ツールバーの  をクリックします。
- 2 文字スタイルパネルの、 をクリックするか、スタイルパネル内で右クリックし、『新規作成』を選びます。

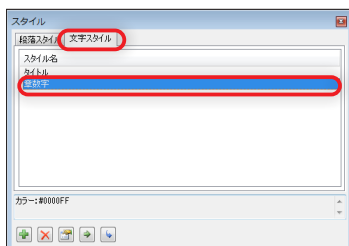


- 3 『名前』、『基準にするスタイル』を設定し、設定したい項目に  をし、[OK] をクリックします。



- 1 名前：スタイル名を入力します。
- 2 基準にするスタイル：すでに登録されたスタイルの中から、基準としたいスタイルを選択します。チェックをオフにしている項目は、『基準にするスタイル』の設定が適用されます。
- 3 書体・文字サイズ・カラー・字送り
設定項目の詳細は p.127 「組版指定コマンド」の「文字属性（文字の書体／サイズ／字送り／回転／色）の設定」を参照ください。
- 4 回転角度
文字の回転角度を指定します。

- 4 文字スタイルパネルに、作成したスタイル名が表示されます。

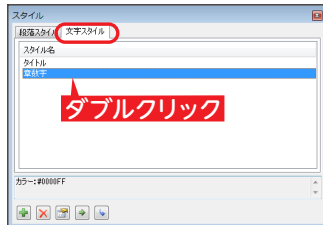


文字スタイルの適用

1 テキストエディタパネルで、文字スタイルを適用したい文字を選択します。

※段落をまたいで文字を選択した場合、各段落ごとに文字スタイルタグが挿入されます。

2 文字スタイルパネルで適用したいスタイル名をダブルクリックします。



3 選択した文字の前後に文字スタイルタグが挿入され、適用されます。

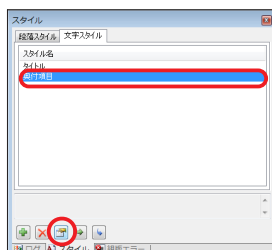
文字スタイル <CSTY name="文字スタイル名"> 文字スタイル適用文字列 </CSTY>		
文字スタイルタグ挿入前 組版ビュー表示	エディタ	組版ビュー表示
	<CSTY name="奥付項目"> 文字スタイル適用文字列 </CSTY>	

文字スタイルの適用変更

文字列に適用されている文字スタイルを他の文字スタイルに置き換えることはできません。不要な文字スタイルタグを削除してから、文字スタイルを適用しなおしてください。

段落スタイル、文字スタイルの編集

1 テキストエディタパネルで段落スタイルタグ <PSTY ... /> もしくは文字スタイルタグ <CSTY ...></CSTY> のタグ内にカーソルを置き、 編集 (Ctrl + E) をクリックするか、右クリックし、『選択中コマンドの編集』を選びます。または、スタイルパネルで、編集したいスタイル名を選択し、 をクリックするか、右クリックで『編集』を選択します。

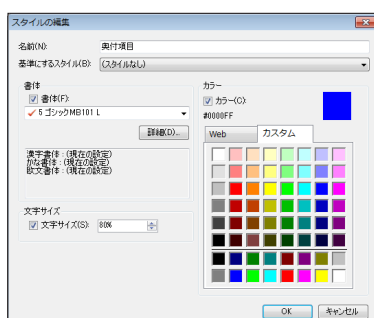


注意

スタイル名の変更

適用したスタイルのスタイル名を変更した場合、適用スタイル名は自動修正されません。再度新しいスタイル名のスタイルを適用しなおしてください。

2 項目を編集します。



- 3  をクリックするか、『F5』キーを押すと、適用されている箇所の組版（組版ビューでの表示）が変更されます。

```
<CSTY name="奥付項目">著 者:</CSTY>松村 康<BR />
<CSTY name="奥付項目">発行者:</CSTY>辻浦 裕倫<BR />
<CSTY name="奥付項目">発行所:</CSTY>株式会社モリサワ文庫<BR />
```

著 者…松村 康
発行者…辻浦 裕倫
発行所…株式会社モリサワ文庫

『奥付項目』文字スタイルの書体とカラーを変更

著 者…松村 康
発行者…辻浦 裕倫
発行所…株式会社モリサワ文庫

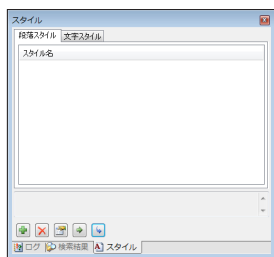
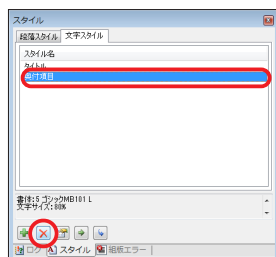
注意

スタイルの編集

スタイルはプロジェクト全体で共通となります。同じスタイルを同じプロジェクトの他のテキストで利用している場合、スタイルの編集を行うとすべてのテキストの設定が変更されます。

段落スタイル、文字スタイルの削除

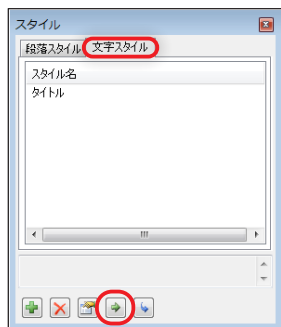
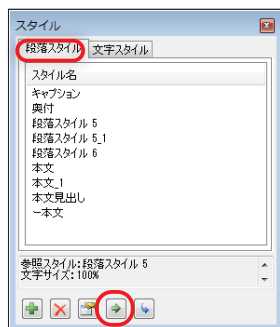
スタイルパネルで、削除したいスタイル名を選択し、 をクリックするかまたは右クリックで『削除』を選びます。



他のプロジェクトの段落、文字スタイルを利用（エクスポート、インポート）

他のプロジェクトで作成した段落および文字スタイルを利用するには、作成元のプロジェクトで段落、または文字スタイルファイル(.txt)をエクスポートし、利用したいプロジェクトでインポートします。

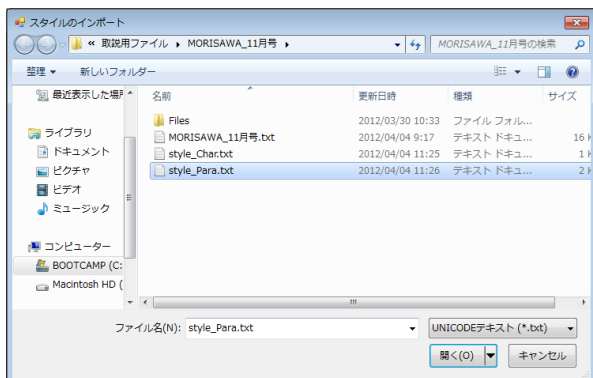
- 1 作成元のプロジェクトを開き、段落または文字スタイルパネルの、 をクリックするかまたは右クリックで『エクスポート』を選択します。



2 スタイルファイルの保存先とファイル名を指定します。

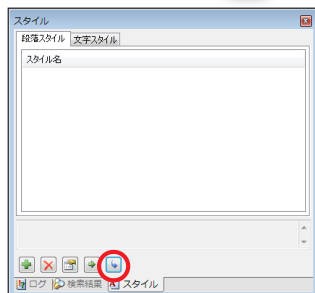
※スタイルファイルはタブ区切りテキスト（UNICODE）で保存されます。

※段落スタイルと文字スタイルは一緒に保存されません。別々にファイル名を決めてエクスポートしてください。ファイル名を指定しない場合、段落スタイルは「style_Para.txt」、文字スタイルは「style_Char.txt」の名前で保存されます。

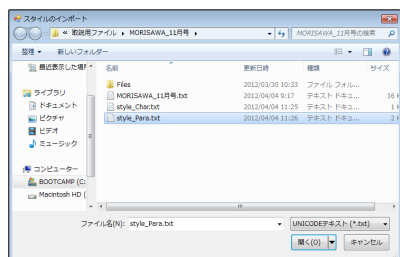


3 作成元のプロジェクトを閉じ、スタイルをインポートしたいプロジェクトを をクリックして開きます。

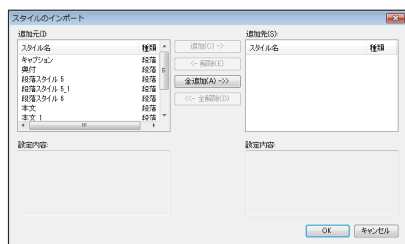
4 スタイルパネルの をクリックするかまたは右クリックで『インポート』を選びます。



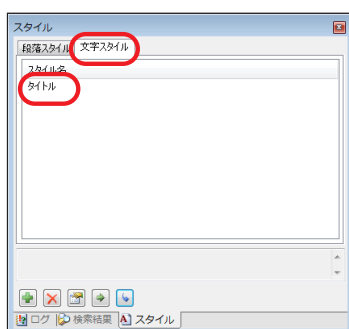
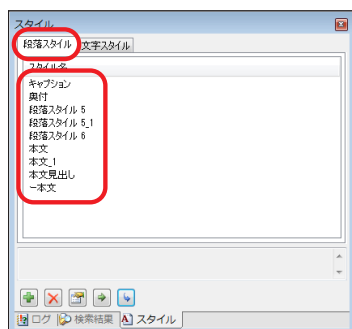
5 2 でエクスポートしたスタイルファイルを選択し、[開く] をクリックします。



6 スタイルのインポートダイアログが表示されますので、インポートしたいスタイルを追加して、[OK] をクリックします。



7 スタイルパネルの段落スタイルタブ、文字スタイルタブにインポートされたスタイル名が取り込まれます。



リンクの設定

プロジェクト内のすべてのテキストフレーム内にある『住所』、『URL』、『電話番号』、『メールアドレス』の文字列を自動的に検索し、リンクを設定することができます。

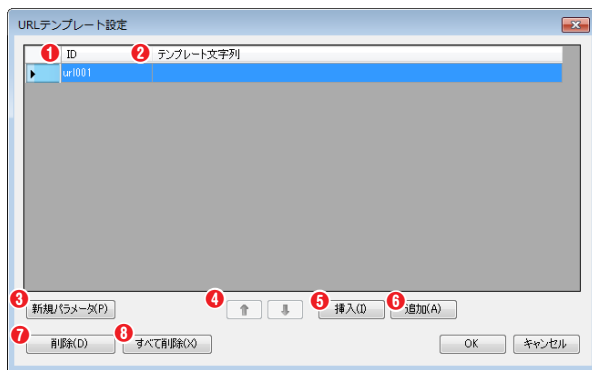
また、あらかじめリンク先の URL のテンプレートを作成し、指定することが可能です。

『住所』『URL』『電話番号』については『ツール』メニューの『リンク変換設定』で検索の条件の設定を行うことができます。詳細については p.31 「リンク変換設定」を参照してください。

URL テンプレート設定

『リンク変換』で使用する URL のテンプレートを設定します。地図検索サイトの URL テンプレートを作成することで、テキスト内にある複数の住所名からのリンクを、同じ地図検索サイトにジャンプするように一括で設定することができます。また、地図検索サイトを変更したい場合もテンプレートの変更のみでテキスト内に設定されたリンクをすべて変更することができます。

1  をクリックするか『ファイル』メニューの『URL テンプレート設定』を選択します。



テンプレート一覧

① ID

テンプレートの ID を設定します。

※ ID の重複不可。半角英数字のみ。

②テンプレート文字列

テンプレートとして利用するテンプレートの文字列を設定します

③新規パラメータ

『リンク変換』で『一致したテキスト』が入力される『@@ (param n)@@』を『テンプレート文字列』に追加します。

※ n は 1 から始まる数値



テンプレート一覧の項目を並べ替えます。

⑤挿入

テンプレート一覧で選択している項目の下に新たな行を追加します。

⑥追加

テンプレート一覧の項目の一番下に新たな行を追加します。

⑦削除

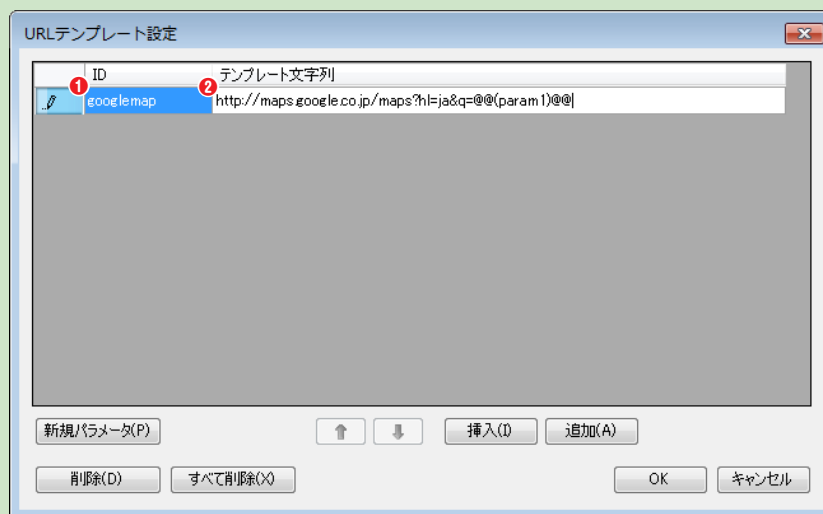
選択しているテンプレートを削除します。

⑧すべて削除

登録されているテンプレートをすべて削除します。

Google マップの URL テンプレート作成方法

『住所』のリンク先を Google マップに設定する場合はテンプレートを以下のように作成します。



① ID：半角英数字で任意の文字列を設定します。

② テンプレート文字列：Google マップの URL (<http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&q=>) を入力し、検索ワードを指定する場所に「新規パラメータ」をクリックしてパラメータ『@@(param1)@@』を指定します。

※ URL および検索文字列の指定の方法は各サイトでご確認ください。

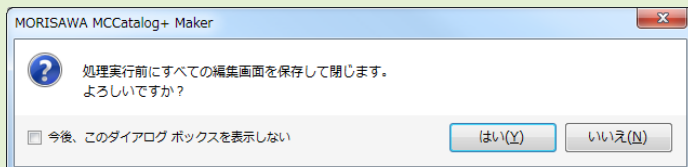
リンクの自動設定

プロジェクト内の『住所』『URL』『電話番号』『メールアドレス』と判断される文字列にリンクを設定します。

- 『編集』メニュー『リンク変換』から、リンクの自動設定を実行する項目を選択します。『すべて』『住所』『URL』『電話番号』『メールアドレス』のいずれかを選択します。

注意

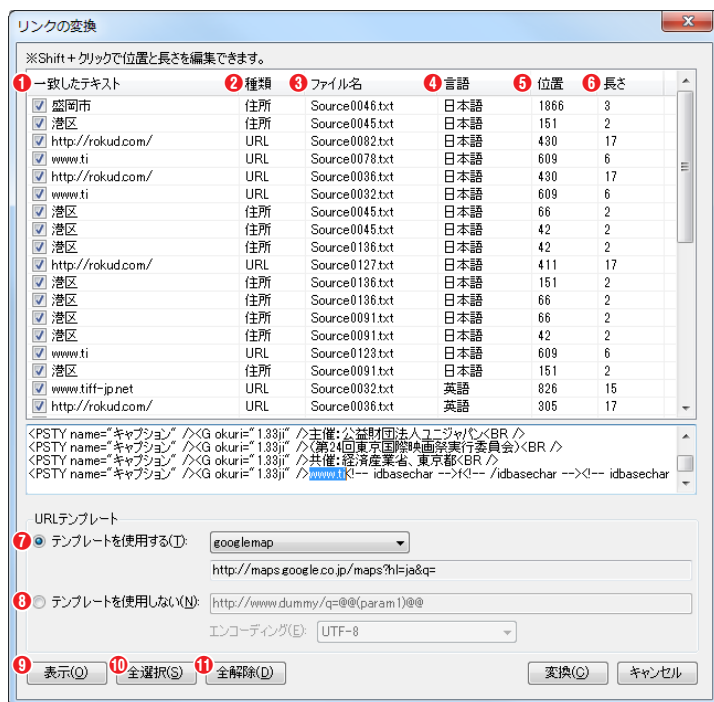
選択した項目に当てはまる文字列を自動的に取得する前に、確認メッセージが表示されます。



注意

『住所』『電話番号』は、日本語のテキストのみ対応しています。

- 選択した項目に当てはまる文字列を自動的に取得し、『リンクの変換』ダイアログの『一致したテキスト』に表示します。リンクを設定する文字列を編集し、変換を行います。



リンク対象文字一覧

① 一致したテキスト

リンクの対象文字と判断された文字列を表示します。☑の場合、変換対象となり、☐にした場合は変換の対象とはなりません。

② 種類

『一致したテキスト』の種類を表示します。

③ ファイル名

『一致したテキスト』が含まれている、テキストファイル名を表示します。

④ 言語

テキストファイル内での『一致したテキスト』の言語を表示します。

⑤ 位置

テキストファイル内での『一致したテキスト』の位置を表示します。選択したセルを『Shift』+『マウスクリック』で編集することができます。

⑥ 長さ

『一致したテキスト』の長さを表示します。選択したセルを『Shift』+『マウスクリック』で編集することができます。

URL テンプレート

⑦ テンプレートを使用する

リンク変換を行う際に使用するテンプレートを指定します。『URL テンプレート設定』で設定したテンプレートから選択することができます。

⑧ テンプレートを使用しない

リンク変換にテンプレートを使用しない場合はこちらを選択し、リンクの href 属性の文字列を設定します。

9 表示

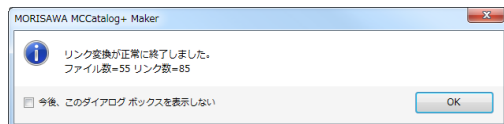
リンク対象文字一覧の下テキストボックスに、一覧で選択した項目の『一致したテキスト』が含まれる箇所を表示します。

10 全選択

『一致したテキスト』のリストをすべて  にします。

11 全解除

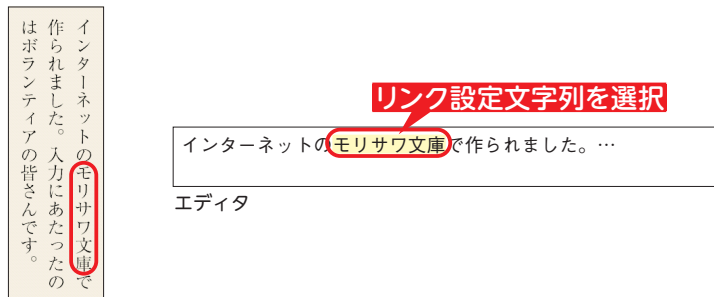
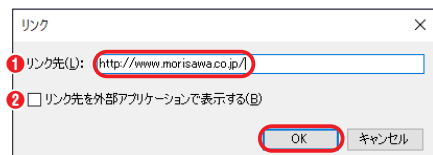
『一致したテキスト』のリストをすべて  にします。

3 変換が終了したメッセージが表示されます。**注意**

リンクの対象文字と判断する文字列は、意図しない箇所が取得されている場合があります。特に住所や電話番号は、日本語を想定した処理となっているため、日本語以外の言語のテキストの場合は、特にご注意ください。

リンクの編集

自動でリンクコマンドタグを付加したリンクの編集、また、手動で文字列にリンクコマンドタグを付加します。

1 テキストエディタパネルで、リンク設定文字列を選択し、ツールバーの をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『リンク』を選びます。**2** 『リンク先』にリンク先としたいURL やメールアドレス、電話番号を入力し、[OK] をクリックします。**① リンク先**

- ・ URL : URL を直接入力します。
- ・ メールアドレス : 『mailto:』 を頭に付加してメールアドレスを入力します。
- ・ 電話番号 : 『tel:』 を頭に付加して電話番号を入力します。

② リンク先を外部アプリケーションで表示する

☒ の場合、外部アプリケーションを利用してリンク先を表示します。

※詳細については p.104 「リンク先を外部アプリケーションで表示する」を参照してください。

3 テキストエディタパネルにリンクコマンドタグが挿入されます。組版ビューパネルでの表示を更新すると、リンク設定した文字列にリンクカラーが適用されます。

※リンクカラーは、『ファイル』→『表示／組版設定』の『色』で『ハイパーリンク (URL)』または『ハイパーリンク (その他)』で設定します。

リンク先	
 リンク指定文字列 	
テキストエディタパネル	組版ビュー表示
 モリサワ文庫 	インターネットのモリサワ文庫で作られました。入力にあたったのはボランティアの皆さんです。

リンクの確認

テキストエディタパネルでのリンクの設定が完了したら、『Ctrl』+『マウスクリック』を行うことで、確認することが可能です。

また、組版ビューパネルからもリンクを設定した文字列を『Ctrl』+『マウスクリック』することで確認することが可能です。



『住所』の自動リンク設定の確認

リンク変換を行って自動で付加されたタグ内のパラメータは UTF-8 で URL エンコードされており、テキストエディタパネル上では内容が確認できません。確認を行うにはタグ内にカーソルを置き、編集 (Ctrl + E) または、をクリックするか、右クリックし『選択中コマンドの編集』または、『コマンドの適用』→『リンク』を選択して確認します。

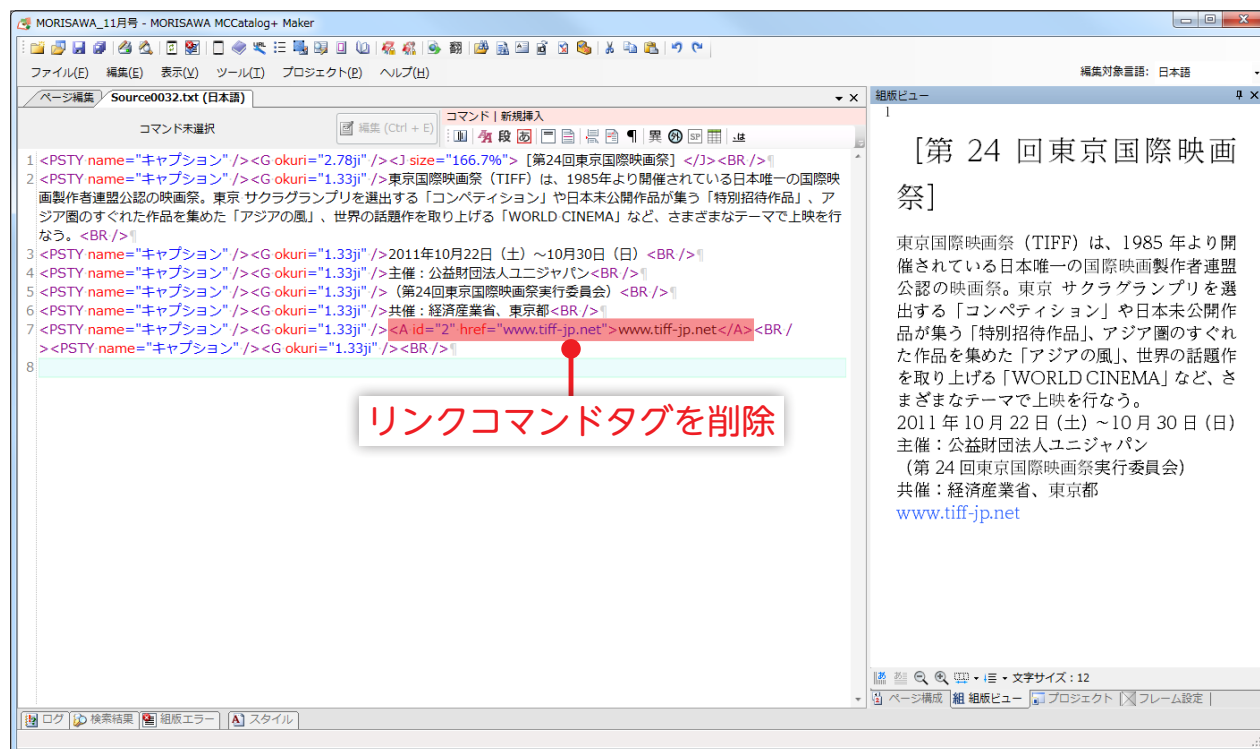
msvar スキームについて

リンク変換で URL テンプレートが適用されたリンクには、「msvar://」から始まる文字列が挿入されます。
この文字列は、ビューア上で URL リンクの形式に展開されます。

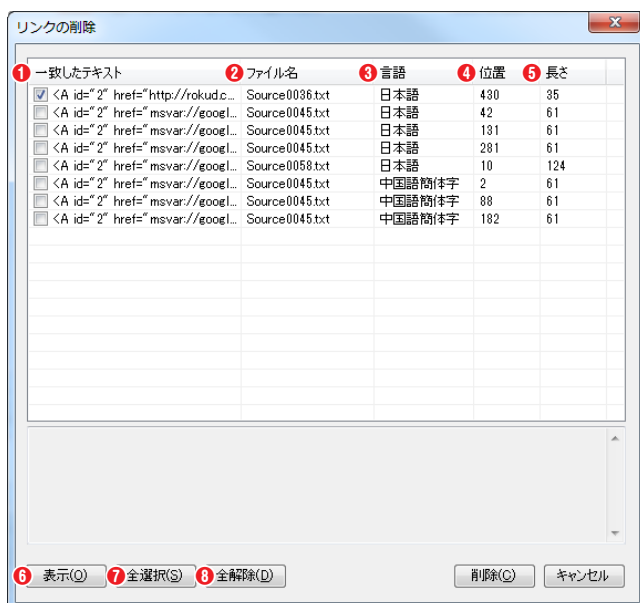
リンクコマンドの削除

プロジェクト内のリンクコマンドタグを削除します。

- 『編集』メニューの『リンク変換』の『リンクコマンドの削除』を選択します。



- 『リンクの削除』ダイアログにプロジェクト内にあるリンクコマンドタグの一覧が表示されますので、削除するリンクコマンドタグを ☒ にして [削除] をクリックします。



6 表示

『リンクコマンドタグ一覧』で項目を選択するとテキストボックス内にリンクコマンドを含む前後の文字列を表示します。

リンクコマンドタグ一覧

1 一致したテキスト

リンクコマンドタグを表示します。

2 ファイル名

リンクコマンドタグがあるテキストファイル名を表示します。

3 言語

リンクコマンドタグがあるテキストファイルの言語を表示します。

4 位置

リンクコマンドタグのテキストファイル内での位置を表示します。

5 長さ

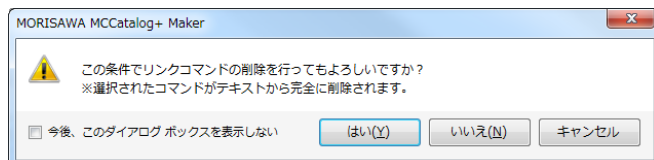
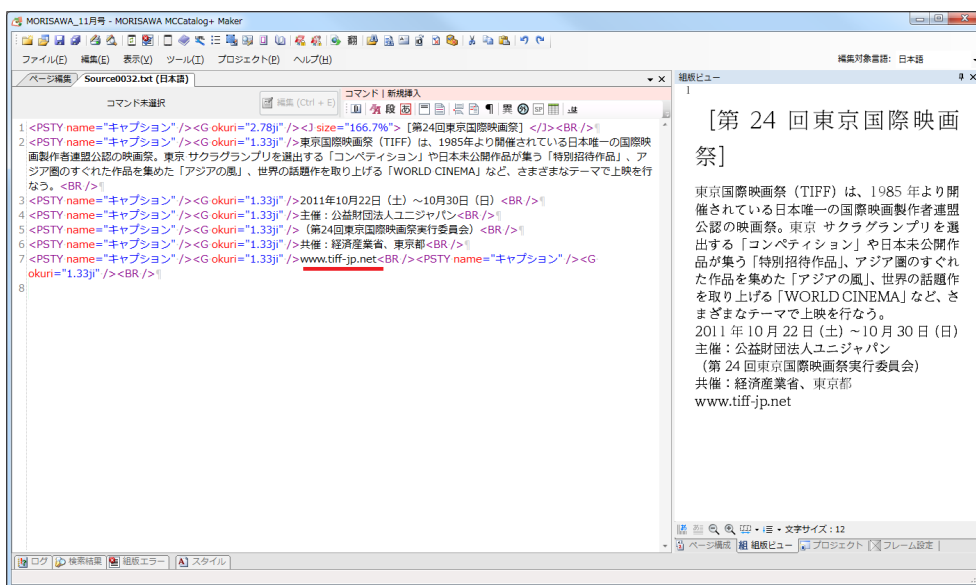
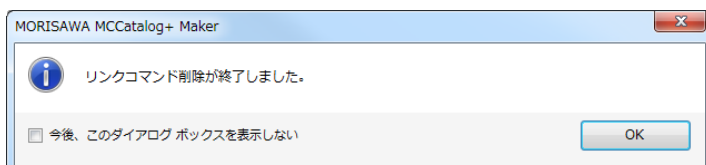
リンクコマンドタグの長さを表示します。

7 全選択

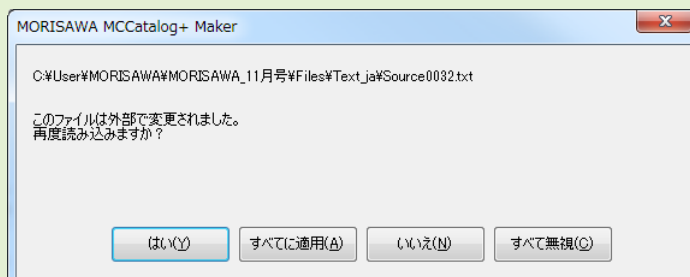
〔全選択〕をクリックすると『リンクコマンドタブ一覧』に表示されている項目すべてを選択します。

8 全解除

〔全解除〕をクリックすると『リンクコマンドタブ一覧』で選択されている項目の選択を解除します。

3 確認メッセージが表示されますので、〔はい〕を選択します。**4 終了メッセージが表示され、選択したリンクコマンドタブが削除されます。****注意**

開いているテキストのリンクコマンドが削除された場合、次のようなメッセージが表示されます。リンクコマンドの削除後のテキストを表示させる場合は、再度読み込みをしてください。



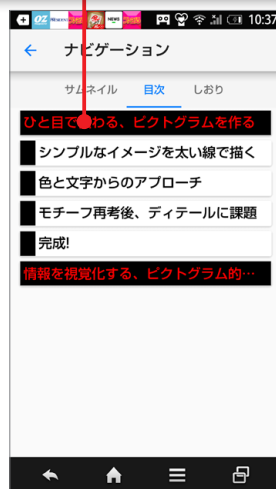
目次設定

目次の設定を行います。

iOS 版ビューアでの表示



Android 版ビューアでの表示



ブラウザ版ビューアでの表示



1 をクリックするか『プロジェクト』メニューの『目次設定』を選択します。



目次設定一覧

① 編集対象言語 (タイトル文字のみ)

編集対象の言語を指定します。

② ページビュー

『目次設定一覧』で選択しているページを別のウィンドウで表示します。

『常に手前に表示』を ☒ にすると、ページビューで表示されたウィンドウを常に最前面に表示します。

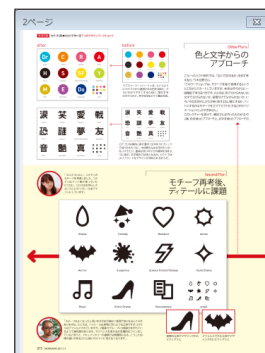
③ タイトル

目次文字列を入力します。

重要!

タイトル文字以外は全言語共通の設定となります。

ページビュー



4 ページ

目次を設定するページ番号を指定します。

5 終了ページ

目次の終了ページ番号を指定します。

6 レベル

目次のレベルを 0 ～ 2 の間で設定します。

7 文字色

「文字色」列のボタンをクリックすると『カラー』ダイアログが表示されます。Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上で表示される目次の文字色を設定します。

8 背景色

「背景色」列のボタンをクリックすると『カラー』ダイアログが表示されます。Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上で表示される目次の背景色を設定します。

9

『目次設定一覧』で選択している項目を  をクリックすると上に  をクリックすると下に移動します。

10 選択解除

設定している行の選択を解除します。

11 追加

「追加」をクリックすると『目次設定一覧』の最後に新しい行を追加します。

12 挿入

「挿入」をクリックすると『目次設定一覧』で選択している項目の上に新しい行を挿入します。

13 削除

『目次設定一覧』で選択している項目を削除します。

14 すべて削除

『目次設定一覧』にある項目をすべて削除します。

15 色をタイトルに反映

選択した色を『目次設定一覧』のタイトルに反映します。

16 文字色一括設定

「文字色一括設定」をクリックすると『カラー』ダイアログが表示され、選択した色がすべての目次の文字色に設定されます。

17 背景色一括設定

「背景色一括設定」をクリックすると『カラー』ダイアログが表示され、選択した色がすべての目次の背景色に設定されます。

18 本文からコピー

選択しているページの本文の内容を『テキストのコピー』ダイアログに表示します。

19

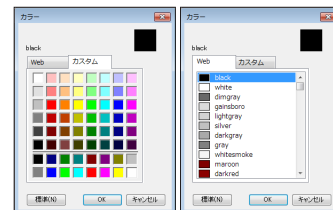
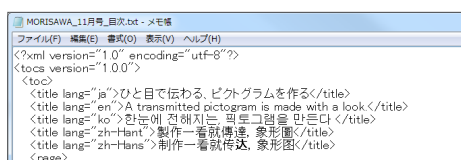
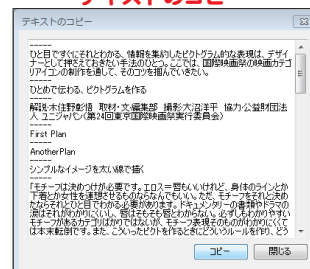
『目次設定一覧』に表示されている内容を XML 形式のテキストとしてエクスポートします。

20

XML 形式のテキストを目次データとしてインポートします。

複数項目の選択

複数項目を選択し、設定を変更する場合は、『Ctrl』 + 『マウスクリック』、またはドラッグで選択したい項目をすべて選択ください。

カラー**テキストのコピー****目次データのインポート／エクスポート**

目次データ (テキストファイル) はインポートまたはエクスポートすると外部ファイルで編集することや、別のプロジェクトで利用することができます。

音声合成の利用

人工的に合成した音声で、本文の読み上げを行うための設定を行います。

注意

MCCatalog+ Maker 上での再生確認と辞書登録は、日本語のみが可能です。

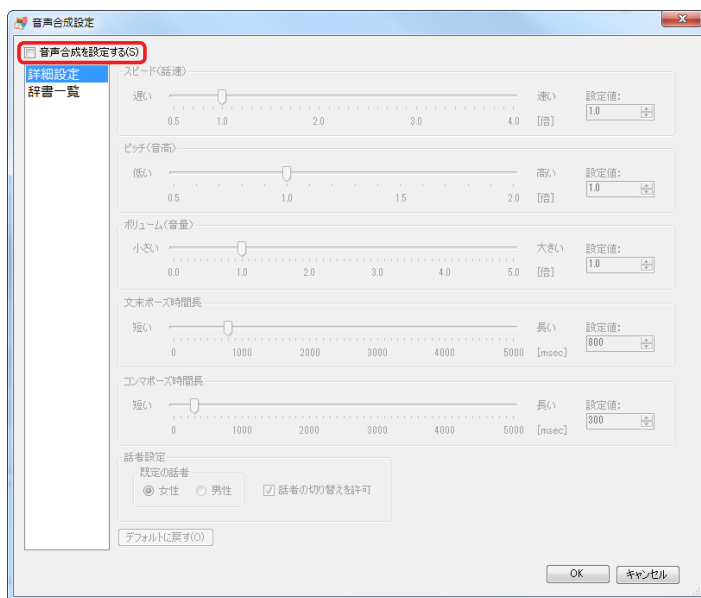
ビューア上では、各言語ごとの音声合成の再生が可能です。

ただし、MCCatalog+ Maker 上で設定した読み上げルビ、および、音声合成の各種設定（スピードや辞書設定など）は、iOS/Android 版ビューアの日本語のコンテンツのみに反映されます。

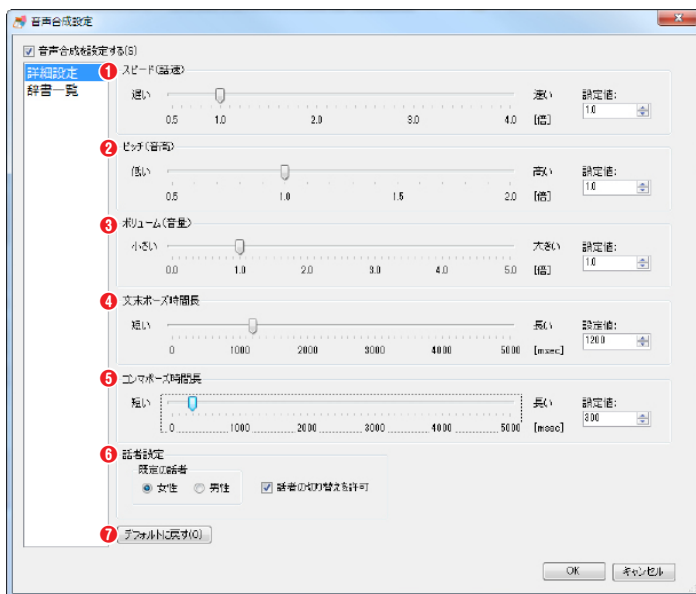
iOS/Android 版ビューアの日本語以外のコンテンツおよび、ブラウザ版ビューアには反映されませんのでご注意ください。

音声合成の設定

- 1 音声合成を行いたいプロジェクトファイルを開き、『プロジェクト』メニューの『音声合成設定』を選択します。
- 2 『音声合成設定』ダイアログが表示されますので、『音声合成を設定する』を選択します。



3 設定を変更できるようになりますので、各種設定を行います。



① スピード（話速）

話す速さを 0.5 ～ 4.0（倍）の中で設定します。

② ピッチ（音高）

音の高さを 0.5 ～ 2.0（倍）の中で設定します。

③ ボリューム（音量）

音量を 0.0 ～ 5.0（倍）の中で設定します。

④ 文末ポーズ時間長

句点（。）の後ろ、または段落と段落の間に挿入する無音区間の時間の長さを 0 ～ 5000（ミリ秒）の中で設定します。

⑤ コンマポーズ時間長

コンマ（,）または読点（、）の後ろに挿入する無音区間の時間の長さを 0 ～ 5000（ミリ秒）の中で設定します。

⑥ 話者設定

既定の話者を、『女性』と『男性』から選択します。

話者の切り替えを許可： ☒ にした場合、デバイスの設定から話者を切り替えることができます。

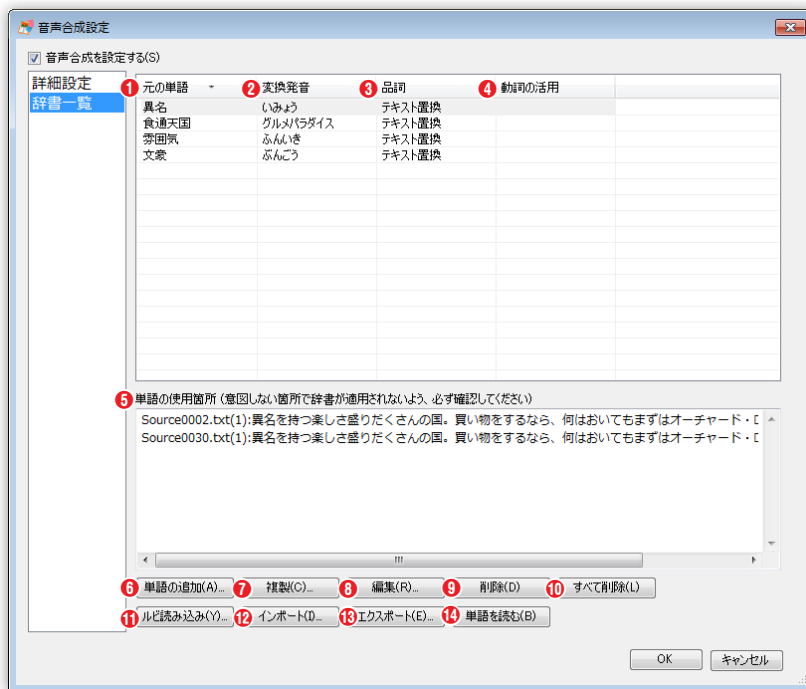
⑦ デフォルトに戻す

設定を初期値に戻します。

辞書の作成

辞書に単語の読みとアクセントを登録することで、自動的に読み上げられる単語や熟語の読みとは異なる読み方を設定することができます。

『プロジェクト』メニューの『音声合成設定』で『音声合成を設定する』を選択し、『辞書一覧』をクリックすると辞書の内容が一覧表示されます。



①元の単語

辞書に登録した単語が一覧表示されます。

②変換発音

辞書に登録した単語の読みが一覧表示されます。

③品詞

辞書に登録した単語の品詞が一覧表示されます。

※「テキスト置換」形式で登録した単語の場合、この項目には品詞名の代わりに「テキスト置換」という文字列が表示されます。

④動詞の活用

辞書に登録した動詞の活用が一覧表示されます。

※「発音記号」形式で、品詞を動詞に設定した単語にのみ表示されます。

⑤単語の使用箇所

辞書一覧で選択している単語が、ドキュメントのどこで使用されているかを表示します。

⑥単語の追加

新しく登録する単語を追加します。

⑦複製

辞書一覧で選択している単語を複製し、『単語の追加』ダイアログを表示します。

⑧編集

辞書一覧で選択している単語の編集を行います。

⑨削除

辞書一覧で選択している単語を削除します。

⑩すべて削除

辞書一覧に登録されている単語をすべて削除します。

⑪ ルビ読み込み

日本語のテキスト内にあるルビが付加されている単語とルビを自動的に収集し、辞書に追加します。

⑫ インポート

辞書ファイルをインポートし、辞書に追加します。

⑬ エクスポート

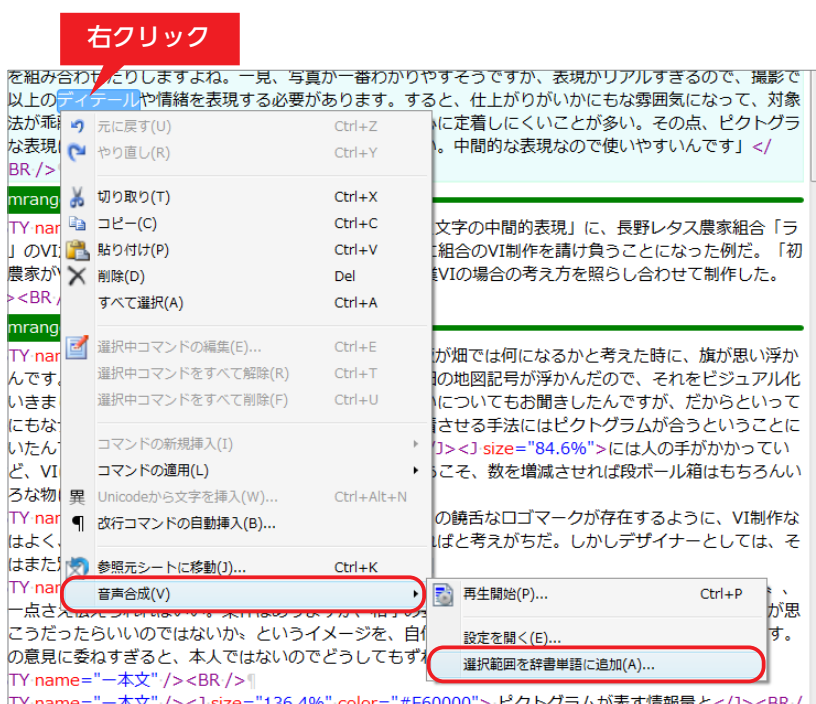
辞書一覧を CSV 形式でエクスポートします。

⑭ 単語を読む

選択されている単語を、登録されている変換発音で再生します。

■ 単語の追加

- 1 『辞書一覧』表示の『単語の追加』をクリックするか、テキストエディタパネル上で辞書に登録したい文字列を選択後、右クリックし、『音声合成』の『選択範囲を辞書単語に追加』を選択します。



2 『単語の追加』 ダイアログが表示されますので『元の単語』と『変換発音』を入力します。

『テキスト置換』形式

『発音記号』形式

①形式

辞書の形式を『テキスト置換』と『発音記号』から選択します。

※テキスト置換 … 変換発音にアクセント記号を使用できない代わりに、全角カタカナ以外も使用することができます。

※発音記号 … 変換発音に全角カタカナしか使用できない代わりに、アクセント記号も使用することができます。

②元の単語

辞書に登録する単語を全角文字で入力します。

③変換発音

『テキスト置換』形式の場合：『元の単語』の読みを全角文字で入力します。

『発音記号』形式の場合：『元の単語』の読みを全角カタカナで入力します。

・「^」：アクセントをつける位置（強く発音する音）を表します。この記号は、1 か所のみ指定できます。

・「/」：アクセント区境の境界（合成語などの単語と単語の境界）を表します。

※『発音記号』形式の場合、アクセント記号を使用することができます。

④単語を読む

現在入力している単語と変換発音で、合成音声の再生を行います。

⑤品詞（『発音記号』形式のみ）

『元の単語』の品詞を入力します。

⑥動詞の活用（『発音記号』形式のみ）

『品詞』に『動詞』を選択しているとき、『元の単語』の動詞の活用を設定します。

辞書に登録できない条件

以下の条件の文字列は辞書に登録できません。

単語・変換発音**● Shift-JIS(*1) で表現できない文字**

※ 1. 第1水準、第2水準とそれ以外の異体字の一部、記号の一部

※ 登録できない漢字は、「？」に自動変換されます。

※ 異体字によっては、「？」に自動変換されずに登録できた場合でも、読み上げの動作に反映されないことがあります。読み上げの動作に反映されない場合は、読み上げルビコマンド（<VTML_SUB alias="xxx">～</VTML_SUB>）で読みを指定してください。

● ドキュメント内の組版指定コマンド

※ CID コード（<CID code="コード" />）は、コマンドのまま、もしくは、文字に変換されて読み上げられる場合があります。CID コードに読みを設定する場合は、読み上げルビコマンド（<VTML_SUB alias="xxx">～</VTML_SUB>）で読みを指定してください。

『発音記号』形式の時の変換発音**● アクセント記号しか存在しないとき**

※ 全角カタカナを入力してください。

● アクセント記号「^」が2つ以上存在するとき

※ 「^」は1か所のみ使用するようにしてください。

● 有効ではない文字列が含まれているとき

※ 全角カタカナとアクセント記号以外の文字を削除してください。

重要!

読み上げたくない文字列がある場合は、その文字列を辞書の『形式：テキスト置換』の『元の単語』に設定し、『変換発音』を空白にして、登録します。

辞書登録で意図した動作にならない場合は、該当箇所に読み上げルビコマンドの読みを空白にして、設定してください。

重要!

いくつかの文字は、入力後に自動変換されます。

『発音記号』形式のときの『変換発音』：

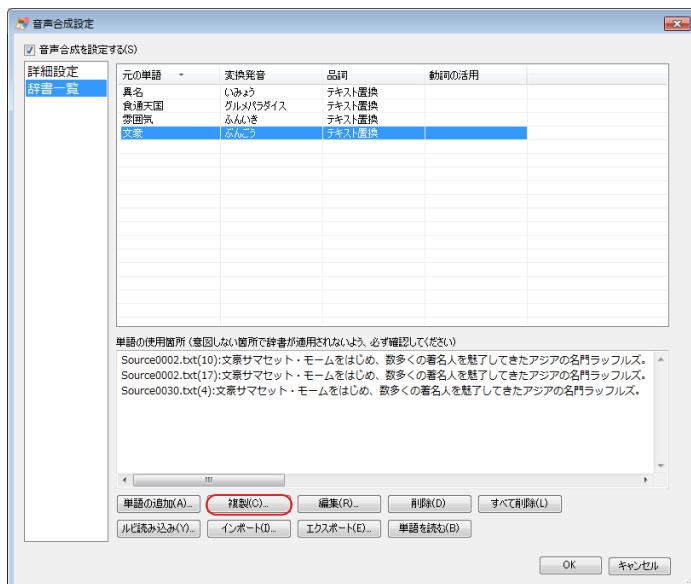
ひらがなをカタカナ、半角アクセント記号を全角に変換

それ以外：

半角文字を全角文字に変換

■ 単語の複製

1 辞書一覧で複製したい項目を選択し、[複製] をクリックします。



2 『単語の追加』 ダイアログに選択した項目の内容が表示されますので、内容を編集します。

単語の追加

形式
☒ テキスト置換(R) ☐ 発音記号(H)

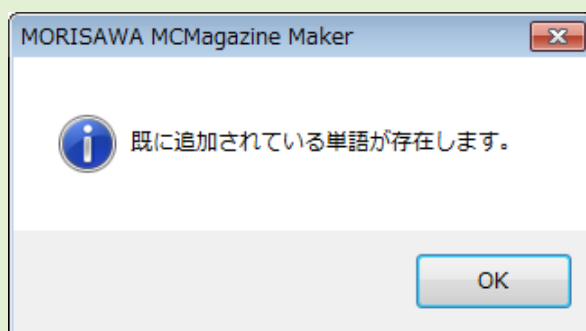
元の単語(W): 文豪
 全角の漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット・数字・記号が使用可能で、50文字まで入力可能です。

変換発音(P): ぶんこう
 全角の漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット・数字・記号が使用可能で、300文字まで入力可能です。

単語を読む(E) OK キャンセル

注意

すでに同じ「単語」が『辞書一覧』に登録されている場合、エラーメッセージが表示され、登録することはできません。



■単語の編集

1 辞書一覧で編集したい項目を選択し、[編集] をクリックするか、ダブルクリックをします。

音声合成設定

☒ 音声合成を設定する(S)

詳細設定
 辞書一覧

元の単語	変換発音	品詞	動詞の活用
異名	いみょう	テキスト置換	
食通天国	グルメパラダイス	テキスト置換	
雰囲気	ふんいき	テキスト置換	
文豪	ぶんこう	テキスト置換	

ダブルクリック

単語の使用箇所 (意図しない箇所で辞書が適用されないよう、必ず確認してください)
 Source0002.txt(10):文豪サマセット・モームをはじめ、数多くの著名人を魅了してきたアジアの名門ラッフルズ。
 Source0002.txt(17):文豪サマセット・モームをはじめ、数多くの著名人を魅了してきたアジアの名門ラッフルズ。
 Source0030.txt(4):文豪サマセット・モームをはじめ、数多くの著名人を魅了してきたアジアの名門ラッフルズ。

単語の追加(A)... 複製(C)... 編集(R)... 削除(D)... すべて削除(L)
 ルビ読み込み(Y)... インポート(I)... エクスポート(E)... 単語を読む(B)

OK キャンセル

2 『単語の追加』 ダイアログに選択した項目の内容が表示されますので、内容を編集します。

■単語の削除

- 1 辞書一覧で削除したい項目を選択し、[削除] をクリックします。
また、登録した単語をすべて削除する場合は、[すべて削除] をクリックします。

■ルビが付加されている単語を読み込む

- 1 辞書一覧で [ルビ読み込み] をクリックします。
- 2 『辞書のインポート』 ダイアログに、日本語のテキスト内にあるルビ指定されている単語とルビが自動的に収集されて表示されます。

①追加元

日本語のテキストから取得した単語と読みの一覧を表示します。

②追加先

ユーザー辞書に登録する単語と読みの一覧を表示します。

③追加

『追加元』で選択した項目を『追加先』に追加します。

④解除

『追加先』で追加した項目のユーザー辞書への追加を解除し『追加元』に戻します。

⑤全追加

『追加元』にあるすべての項目を『追加先』に追加します。

⑥全解除

『追加先』にあるすべての項目のユーザー辞書への追加を解除し『追加元』に戻します。

注意

熟語の一部分のみの読みを辞書として登録すると、音声合成の誤再生の原因となる可能性があります。

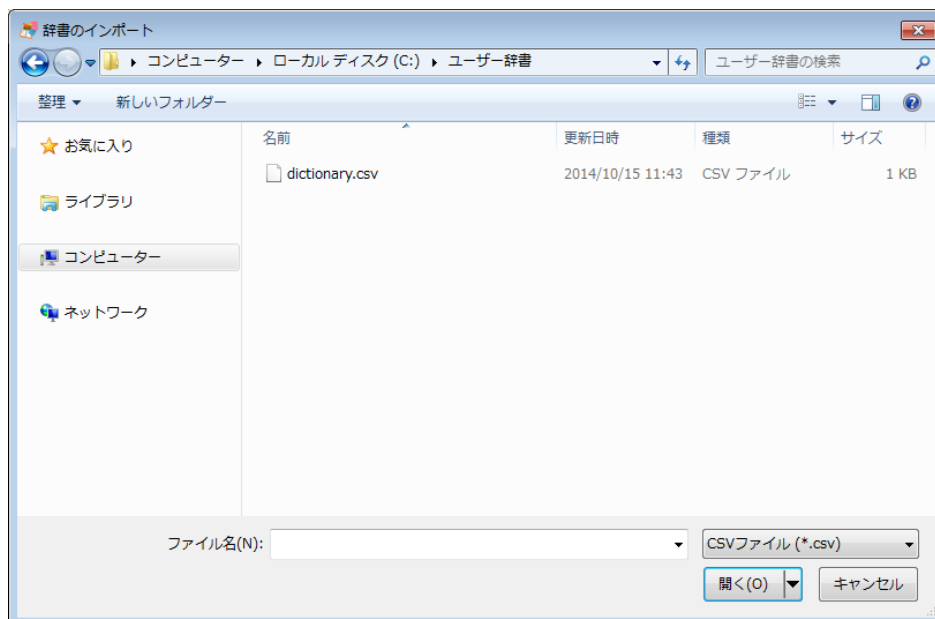
例えば「後輩(はい)」という熟語から「輩(はい)」の部分を登録すると、他の箇所でも「先輩」という熟語があった場合、「さきはい」と読み上げられてしまいます。

できるだけ熟語の一部分のみの登録を避け、辞書一覧画面の「単語の使用箇所」を確認することをお勧めします。

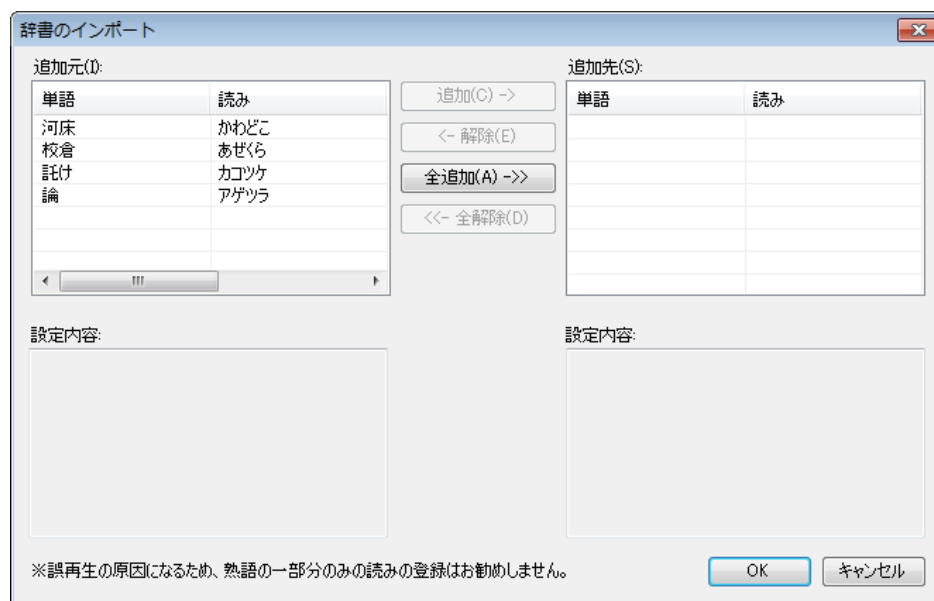
■単語のインポート

他のコンテンツで利用されている辞書の内容をエクスポートしたファイルから、単語単位で辞書一覧にインポートし、利用することができます。

- 1 辞書一覧で『インポート』を選択します。
- 2 ファイル選択ダイアログが表示されますので、辞書に登録する「単語」と「読み」の保存された CSV ファイルを選択します。

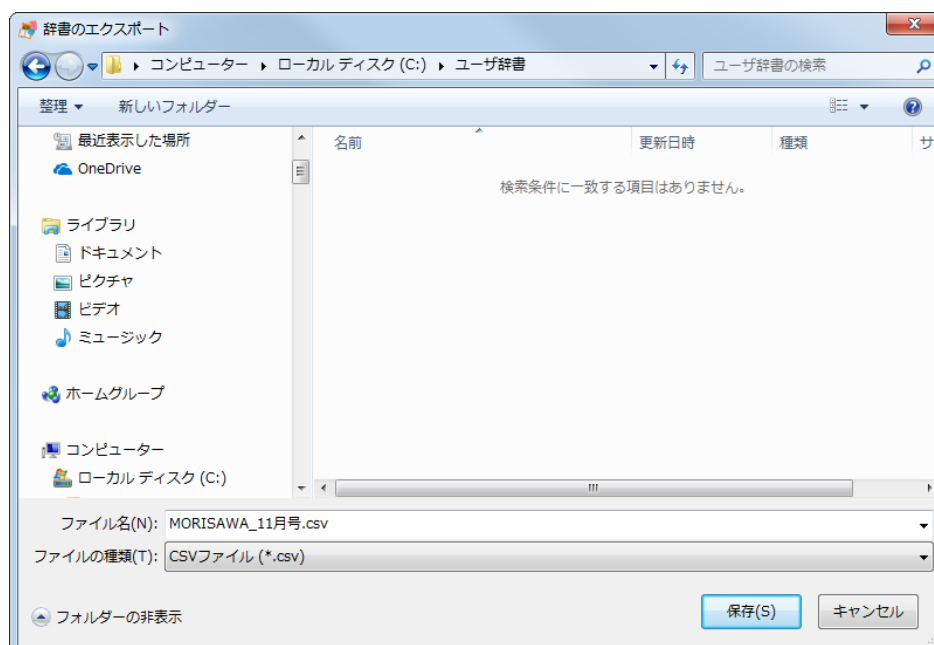


3 『辞書のインポート』ダイアログが表示されますので、インポートしたい項目を選択し、インポートします。

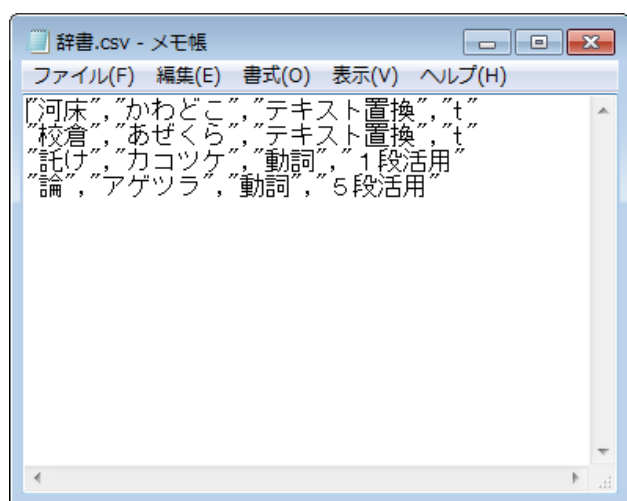
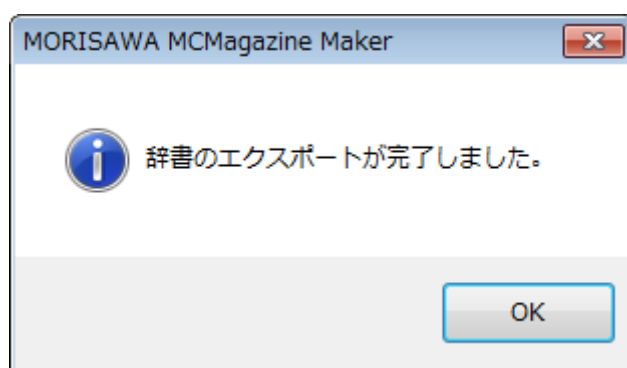


■単語のエクスポート

- 1 辞書一覧で『エクスポート』を選択します。
- 2 『辞書のエクスポート』ダイアログが表示されますので、保存する場所とファイル名を指定して [保存] をクリックします。



3 エクスポート終了のメッセージが表示され、ファイルが保存されます。



読み上げルビ

音声合成時に、読み上げるテキストを個別に設定することができます。

※辞書登録している単語にも設定することができます。

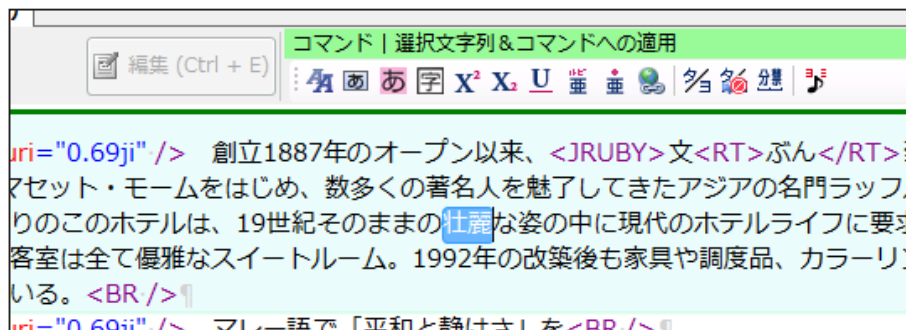
読み上げの優先度は、「コマンド指定の読み」＞辞書登録している単語」となります。

※アクセント記号は設定することができません。

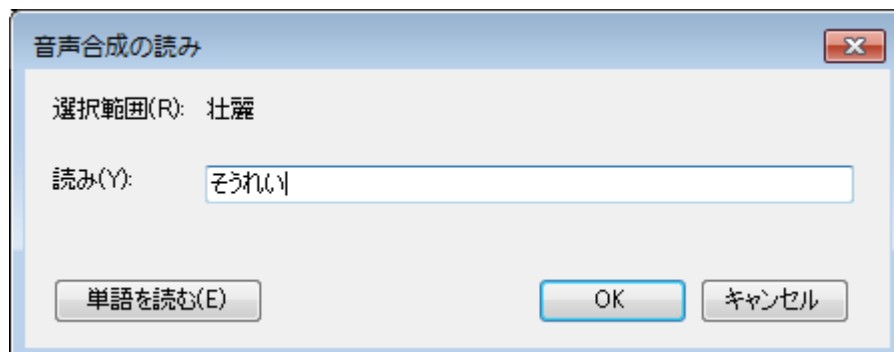
注意

読み上げルビの設定は、iOS/Android 版ビューアの日本語のコンテンツのみに反映されます。iOS/Android 版ビューアの日本語以外のコンテンツおよび、ブラウザ版ビューアには反映されませんのでご注意ください。

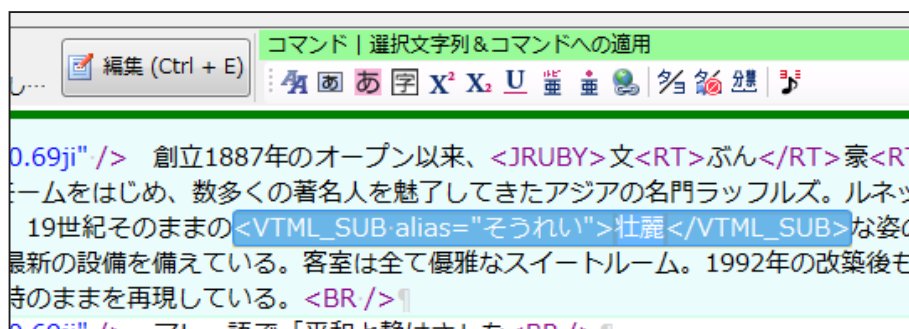
- 1 テキストエディタパネルで、読み上げルビを指定したい文字を選択し、ツールバーの  をクリックするか、右クリックし、『コマンドの適用』→『読み上げルビ』を選びます。



- 2 『音声合成の読み』ダイアログが表示されますので、読みを入力して [OK] をクリックします。



- 3 テキストエディタパネルに読み上げルビコマンド（<VTML_SUB alias="XXX">～</VTML_SUB>）が挿入されます。



音声合成の再生

音声合成を設定したコンテンツを MCCatalog+ Maker 上で再生し、確認することができます。

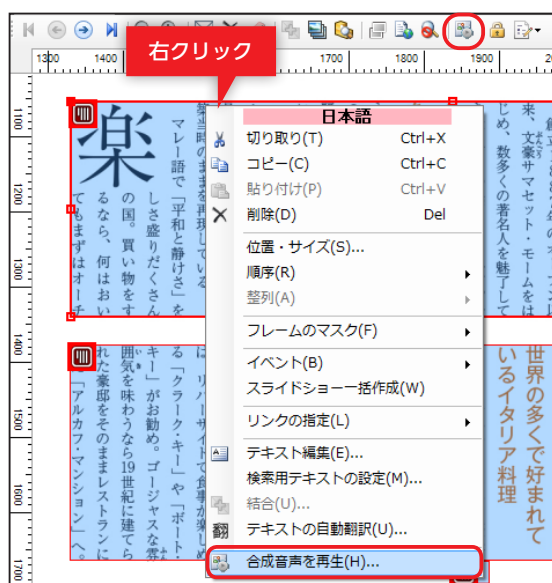
重要!

音声合成の再生では、単語の読みが意図しない読み方になる場合があります。必ず、再生して読み上げをご確認ください。

1 音声合成が設定されている状態で、下記のいずれかの操作を行います。

■ページ編集パネルから再生する場合

- ・テキストフレームを選択して、ツールバーの  をクリックします。
- ・テキストフレームを選択後右クリックし、『合成音声を再生』を選択します。



■テキストエディタから再生する場合

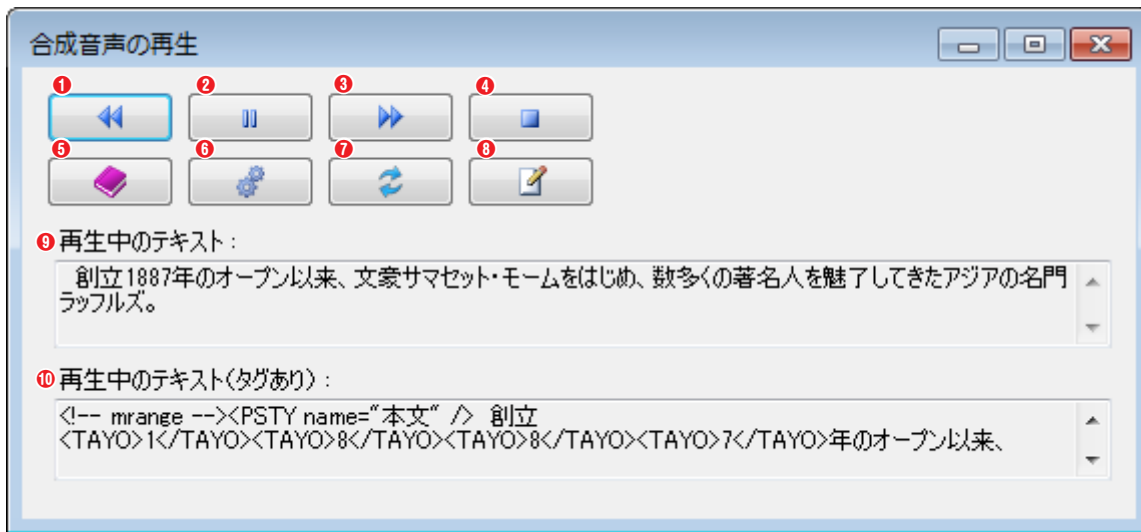
- ・再生したいテキストのある位置にカーソルを置いて右クリックし、『音声合成』の『再生開始』を選択します。



注意

ページ編集パネルからの再生は、選択中のテキストフレームにある先頭のレンジから再生されます。
テキストエディタからの再生は、カーソル位置にある文章の先頭から再生されます。

2 『合成音声の再生』 ダイアログが表示され、再生が開始されます。



①戻る

再生位置を文単位（句点「。」、改行コマンド **
、改ページコマンド **<KP /> 改段コマンド **<KD />**）の区切りで1つ前へ移動します。

②再生 / 一時停止

一時停止中にクリックすると、合成音声の再生が再開されます。再生中にクリックすると、合成音声の再生が一時停止されます。

③進む

再生位置を文単位（句点「。」、改行コマンド **
、改ページコマンド **<KP /> 改段コマンド **<KD />**）の区切りで1つ先へ移動します。

④停止

合成音声の再生を停止します。

⑤辞書設定

『音声合成設定』ダイアログの『辞書一覧』項目を表示します。

※クリックした際に合成音声の再生が一時停止され、『音声合成設定』ダイアログ終了後、設定を反映させた状態で再生し直します。

⑥詳細設定

『音声合成設定』ダイアログの『詳細設定』項目を表示します。

※クリックした際に合成音声の再生が一時停止され、『音声合成設定』ダイアログ終了後、設定を反映させた状態で再生し直します。

⑦更新

再生を行っているテキストの更新を行います。テキスト内容を変更した場合、このボタンをクリックすることで変更後のテキストを再生させることができます。

⑧テキスト編集

再生位置のテキストが存在する位置にカーソルを選択した状態で、テキストエディタパネルを開きます。

※クリックした際、『合成音声の再生』ダイアログが最小化されます。

⑨再生中のテキスト

現在再生しているテキストが、再生に不要なタグを取り除いた状態で表示されます。

⑩再生中のテキスト（タグあり）

現在再生しているテキストが、再生に不要なタグも含めた状態で表示されます。

3 合成音声の単語の読み上げに問題がなければ、ダイアログを終了します。

校正

現在編集中のプロジェクトを校正要素に含まれる『重なっているテキストフレーム』や『CID コード』、『JIS2004 字形』が使用されているフレームなど、注意が必要な箇所のフレームを塗りつぶすことで、容易に校正を行うことができます。

校正機能で検出可能な項目

- ・親文字に変換された文字…異体字を持つフォントを使用している InDesign ドキュメントを変換する PC に、当該フォントがインストールされていない場合、変換時に、親文字（異体字の元になる標準の文字）に変換されます。その親文字を検出します。
- ・CID コード…CID コマンドを検出します。
- ・JIS2004 字形…JIS2004 字形の文字を検出します。
- ・重なっているテキストフレーム…テキストフレーム同士が重なっている箇所を検出します。
- ・インライン画像…InDesign ドキュメント上でインライン画像が存在した箇所を検出します。
- ・表組…InDesign ドキュメント上で表組（または表組が存在した箇所）を検出します。
- ・リンク…リンクコマンドを検出します。
- ・インライングラフィックス…InDesign ドキュメント上でインライングラフィックス（例：アウトライン文字）が存在した箇所を検出します。

重要!

インポートを実行する PC にはメイリオフォントをインストールしてください。
InDesign ドキュメントに使用されているフォントがインポートを実行する PC にインストールされておらず、メイリオフォントもインストールされていない状態で校正機能を利用した場合、正常に校正要素を検出できないことがありますのでご注意ください。

注意

『CID コード』『JIS2004 字形』は、「日本語」のテキストのみ対応しています。

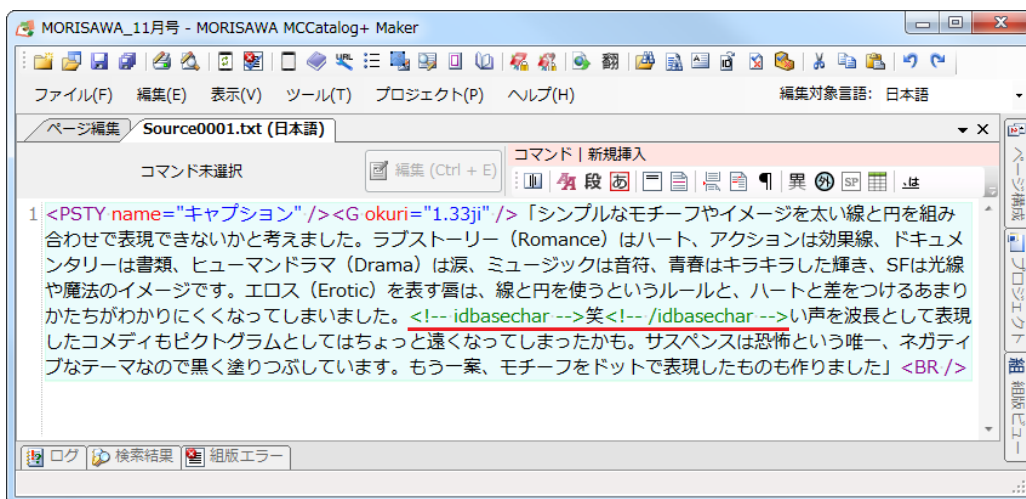
校正箇所のマークアップ

『親文字に変換された文字』『インライン画像』『表組』『インライングラフィックス』に関しては InDesign ドキュメントを変換する際に、存在する箇所にコメントが埋め込まれます。

校正箇所の検索時にはこれらのコメントが検索されます。

親文字に変換
された文字

<!-- idbasechar --> 親文字 </!-- idbasechar -->



インライン画像 <!-- idimage -->

表組 <!-- idtable -->

インライン
グラフィックス <!-- idgraphics -->

注意

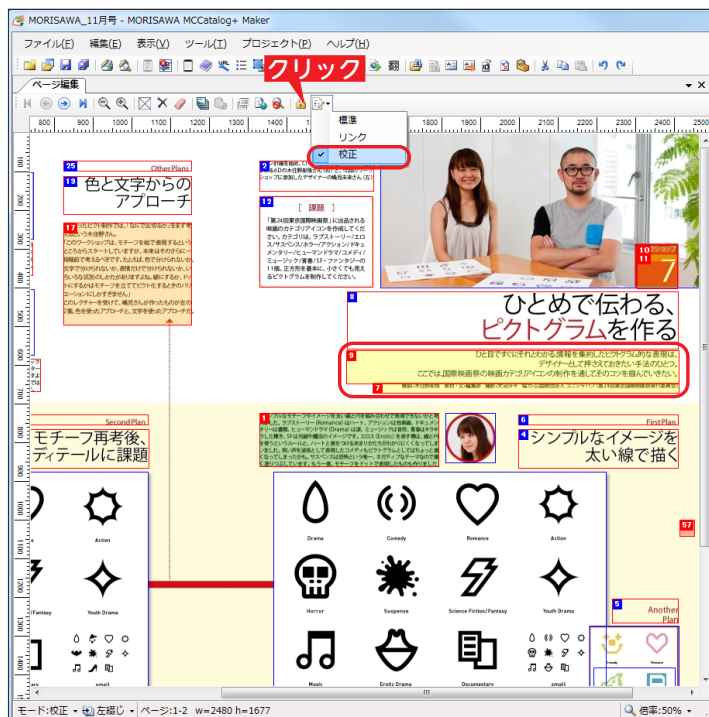
<!-- idtable --> の表示について

表組のみのテキストフレームは、『ドキュメント変換設定』の『機能』タブで表組の変換が指定されておらず、『フレーム』タブで『指定の文字数以下のテキストフレームを除外する』が ☒ に設定されている場合は、フレーム内の文字数が「0」になるため、コメントは表示されません。

校正モードの表示

検出された校正要素が含まれるフレームを『ツール』の『ページ編集設定』で指定した色で塗りつぶして表示します。

- 1 ページ編集パネルのツールバーの  をクリックして、『校正』を選択します。



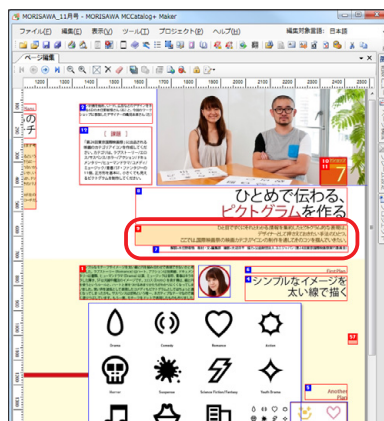
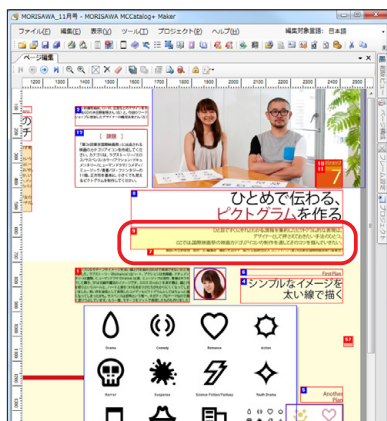
校正要素の塗りつぶしの色や優先順位などを
変更することができます。

→ p.30「ページ編集設定」の「校正タブ」
参照

校正と編集の方法

重なっているテキストフレームの校正と編集

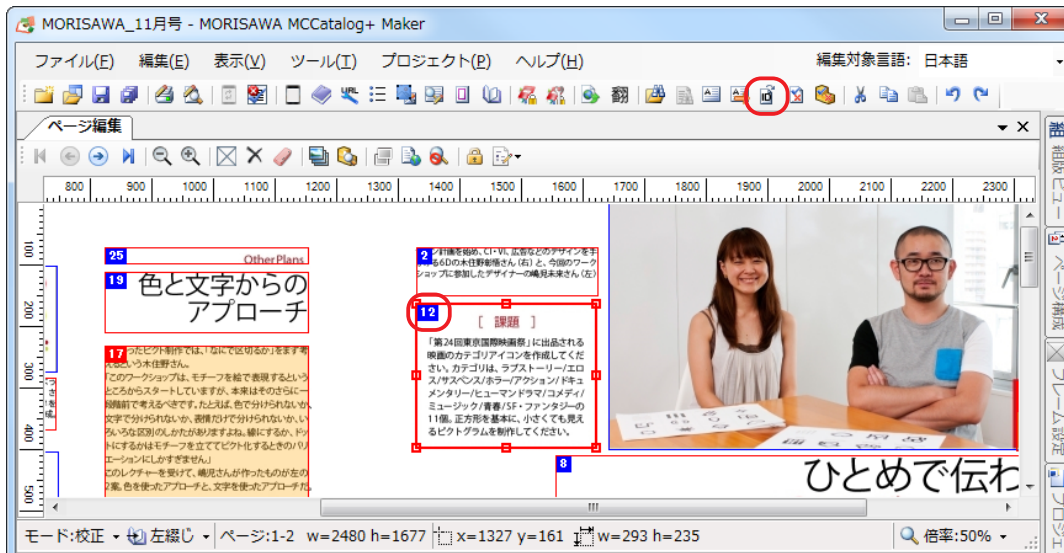
ページ編集パネル（校正モード）で重なっているフレームをクリックして、重ならない位置に移動します。修正を行うと、フレームの塗りが消えます。



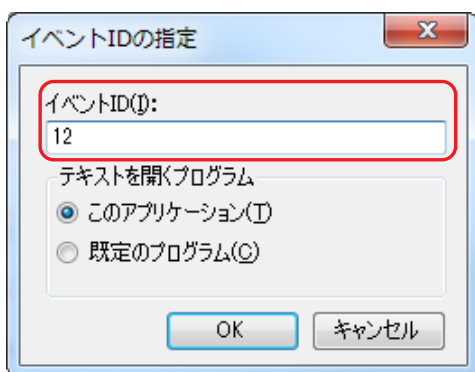
ID 番号によるテキストの編集

ページ編集画面で表示されているテキストを編集したい場合、該当のテキストをテキストエディタパネルに呼び出し、編集することができます。

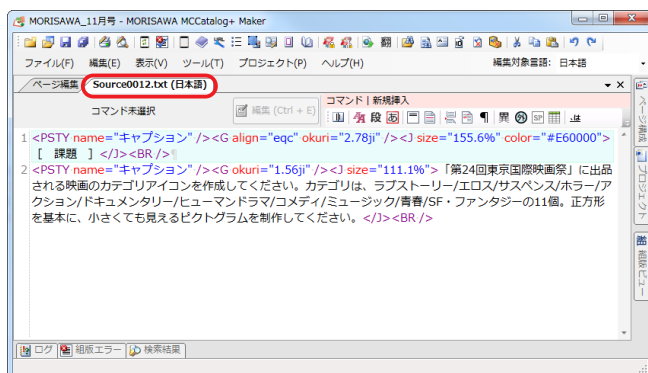
- 1 ページ編集パネルのツールバーの  をクリックします。



- 2 『イベント ID の指定』ダイアログが表示されます。『イベント ID』に編集したい ID 番号を入力して、[OK] をクリックします。



- 3 テキストエディタパネルが表示されます。

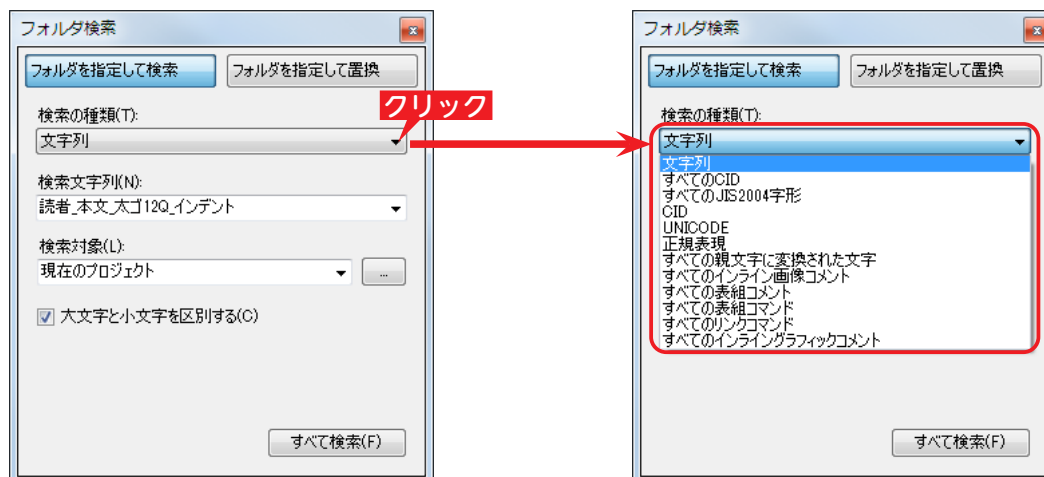


- 4 テキストを編集します。✕をクリックし「はい」をクリックするか、『ファイル』から『〇〇〇.txt の保存』を選択して、編集したテキストを保存します。

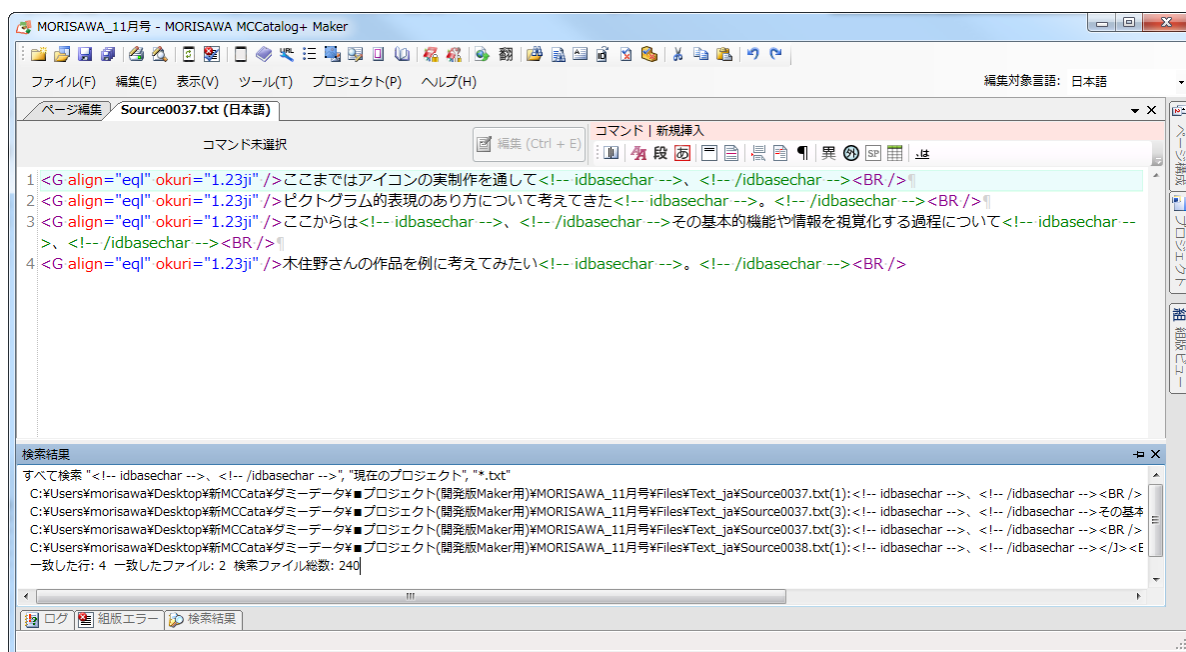
校正要素の検索

校正要素を検索します。

- 1 ツールバーの  をクリックするか、もしくは『編集』メニューの『フォルダを指定して検索』を選びます。
- 2 『フォルダ検索』ダイアログが表示されます。『検索の種類』で校正要素を選択して『すべて検索』をクリックします。



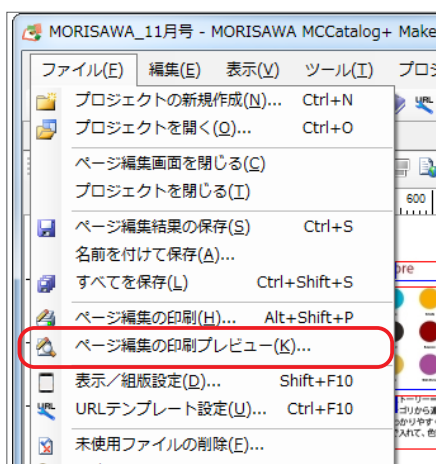
- 3 『検索結果』パネルに該当ファイルが表示されます。詳細は、p.116「フォルダを指定して検索」をご参照ください。



校正画面の印刷プレビュー

校正画面の印刷プレビューを表示します。

- 1 校正モードで、ツールバーのをクリックするか、もしくは『ファイル』メニューの『ページ編集の印刷プレビュー』を選びます。



- 2 『印刷プレビュー』ダイアログが表示されます。



校正画面の印刷

校正画面の印刷をします。

- 1 『印刷プレビュー』ダイアログのをクリックするか、もしくは『ファイル』メニューの『ページ編集の印刷』を選ぶ、または、ツールバーのをクリックします。
- 2 『印刷』ダイアログが表示されます。
→ p.218「印刷」を参照

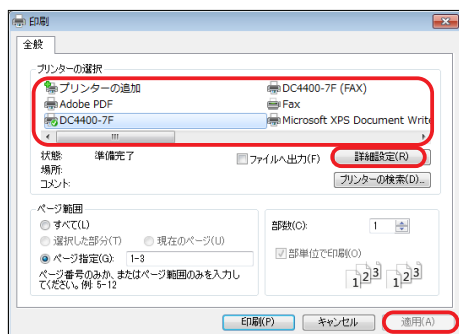
印刷

現在編集中のプロジェクトを印刷します。

ページ編集の印刷プレビュー

ページ編集パネルの印刷を開始する前にプレビューで確認します。

- 1 印刷したいプロジェクトを開き、ツールバーの をクリックするか、『ファイル』メニューの『ページ編集の印刷』を選びます。または、印刷プレビューを表示し、 をクリックします。
- 2 『プリンターの選択』から、印刷に使用するプリンターを選択し、[詳細設定] をクリックして印刷する用紙のサイズを設定します。
※『詳細設定』での設定項目は各プリンタードライバに依存します。
- 3 [適用] をクリックした後、[キャンセル] で印刷ダイアログを閉じます。



- 4 をクリックするか、『ファイル』メニューの『ページ編集の印刷プレビュー』を選択します。



印刷プレビューのツールバー

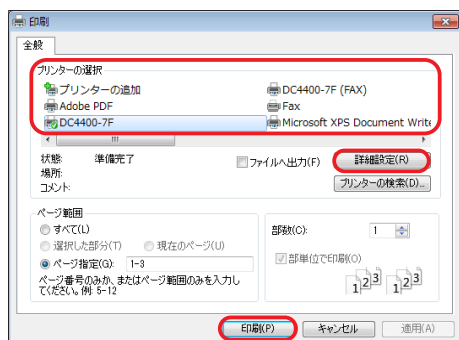
をクリックして、印刷を開始します。
 をクリックして、プレビュー画面の表示倍率を指定します。
閉じる(C) をクリックして、印刷プレビューを閉じます。

表示ページ

印刷プレビューページを選択します。

印刷

- 1 印刷したいプロジェクトを開き、『ファイル』メニューの『ページ編集の印刷』を選びます。
- 2 『プリンターの選択』から、印刷に使用するプリンターを選択し、[詳細設定] をクリックして印刷する用紙のサイズを設定します。



- 3 『ページ範囲』『部数』を指定して、[印刷] をクリックします。

電子配信コンテンツのエクスポート

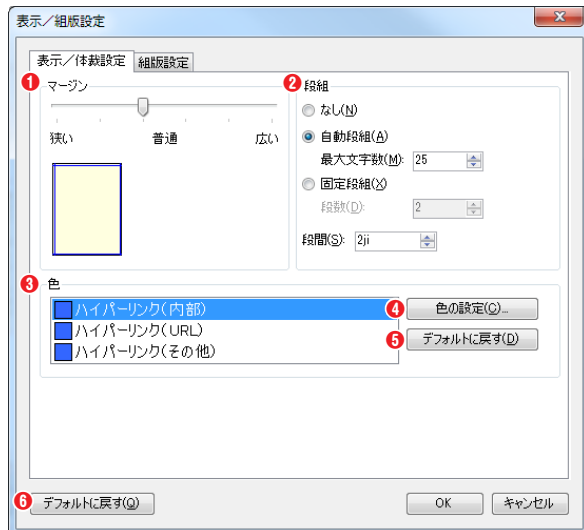
MCCatalog+ Maker での編集が完成したら、MCG ファイルをエクスポートします。エクスポートする前に電子配信コンテンツとして Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) 上に表示する際の機能情報などを入力します。

表示／組版設定

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) のテキスト表示の設定を行います。

- 1  をクリックするか、『ファイル』メニューの『表示／組版設定』を選択します。

表示／体裁タブ



1 マージン

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) のテキストボックスの上下左右の余白を6段階の中から選択します。

2 段組

なし：段組表示をしません。

自動段組：1行が指定した最大文字数より多くなる場合、自動的に2段組以上にします。

固定段組：常に指定した段数で表示します。

段間：『自動段組』『固定段組』を選択した場合に段と段の間のアキを指定します。

※単位は ji (ji は基本文字サイズを 1ji とする単位です。)

3 色

『ハイパーリンク (内部)』『ハイパーリンク (URL)』『ハイパーリンク (その他)』の色の指定を『色の設定』をクリックして表示される『カラー』ダイアログで設定します。

4 色の設定

『カラー』ダイアログを表示します。

5 デフォルトに戻す

色の指定をアプリケーションの初期値に戻します。

6 デフォルトに戻す

『表示／組版設定』ダイアログの設定をアプリケーションの初期値に戻します。

組版設定タブ



① 禁則

レベル：禁則処理のレベルを『強い』か『弱い』から選択し、設定します。

ぶら下げ処理：ぶら下げ処理を行うか設定を行います。

② ルビ

肩つき：ルビを肩つきで揃えます。

ルビかけ：ルビ文字が親文字よりも長い場合、前文字に最大限のルビをかけます。

横組行頭行末揃え：横組で行頭、行末に来たルビが親文字より長い場合、親文字を行頭、行末に揃える処理をします。

縦組行頭行末揃え：縦組で行頭、行末に来たルビが親文字より長い場合、親文字を行頭、行末に揃える処理をします。

③ 詰め・アキ

4 分アキ自動：和文と欧文の前後に 4 スペースを自動的に挿入します。

拗促音アキ挿入：1 行を均等などの揃えにする際、拗促音の前にスペースを割り振ります。

括弧アキ挿入：1 行を均等などの揃えにする際、始め括弧の後、終わり括弧の前にスペースを割り振ります。

行中括弧半角処理：全角の括弧や句読点が連続する場合に、片方の半角のアキを取って組版します。

④ 自動縦中横 **日本語**

自動で縦中横にする文字の設定をします。

種類：『なし』『欧文数字』『欧文英字』『欧文英数字』から選択します。

※『欧文も含める』を ☐ にした場合、数字の前後に半角欧文があると回転しません。

連続文字数：縦中横にする文字数を設定します。

⑤ ハイフネーション

ハイフネーション処理を行うかを『許可』『禁止』から選択します。

⑥ 天付き

先頭行天付き：『あり』『なし』を選択します。

天付き：『あり』『なし』を選択します。

⑦ 欧文自動回転 **日本語**

自動で縦組中の欧文を回転させるかを『許可』『禁止』から選択します。

種類	連続文字数	縦中横処理例			
なし		123 → 123	abc → abc	12a → 12a	
欧文数字		123 → 123	abc → abc	12a → 12a	
欧文英字	3	123 → 123	abc → abc	12a → 12a	
欧文英数字 (欧文も含める)		123 → 123	abc → abc	12a → 12a	12ab → 12ab
欧文英数字		123 → 123	abc → abc	12a → 12a	

書誌情報設定

電子配信コンテンツの情報を登録します。Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) で、ユーザが電子配信コンテンツを検索する場合などに使用されます。



- 1 をクリックするか、『プロジェクト』メニューの『書誌情報設定』を選択します。

書籍情報タブ

① 編集対象言語

編集する書誌情報の言語を指定します。

※表紙画像は、全言語共通の設定となります。

② 書誌名 (最大文字数／100文字、日本語以外の言語:500文字)

電子配信コンテンツの名称を入力します。

※「ふりがな」は、日本語以外には設定できません。

③ キーワード (最大文字数／80文字、日本語以外の言語:400文字)

検索した場合に検索にかかるキーワードを入力します。

④ 概要 1 (最大文字数／400文字、日本語以外の言語:2,000文字)

書誌の内容説明を入力します。

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) の一覧画面や電子配信コンテンツの詳細情報として表示されます。

⑤ 概要 2 (最大文字数／300文字、日本語以外の言語:1,500文字)

ビューア内で表示される「この書籍について」の内容を入力します。

Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) の をタップ、もしくは「書籍情報」をクリックすると表示されます。

表紙画像タブ



①表紙画像

電子配信コンテンツの表紙となる画像ファイルを表示します。

②インポート

「インポート」をクリックし画像ファイルを指定するか、または画像ファイルを画面内にドラッグ&ドロップして指定します。

※最大 4096 × 4096、最小 256 × 256 ピクセルサイズの PNG または、JPEG 画像ファイルを指定してください。

③クリア

表紙画像に指定されている画像ファイルを削除します。

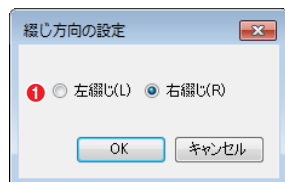
④プレビュー

表紙画像に指定されている画像をプレビュー表示します。

綴じ方向の設定

電子配信コンテンツの綴じ方向を設定します。

- 1 をクリックするか、『プロジェクト』メニューの『綴じ方向の設定』を選択します。

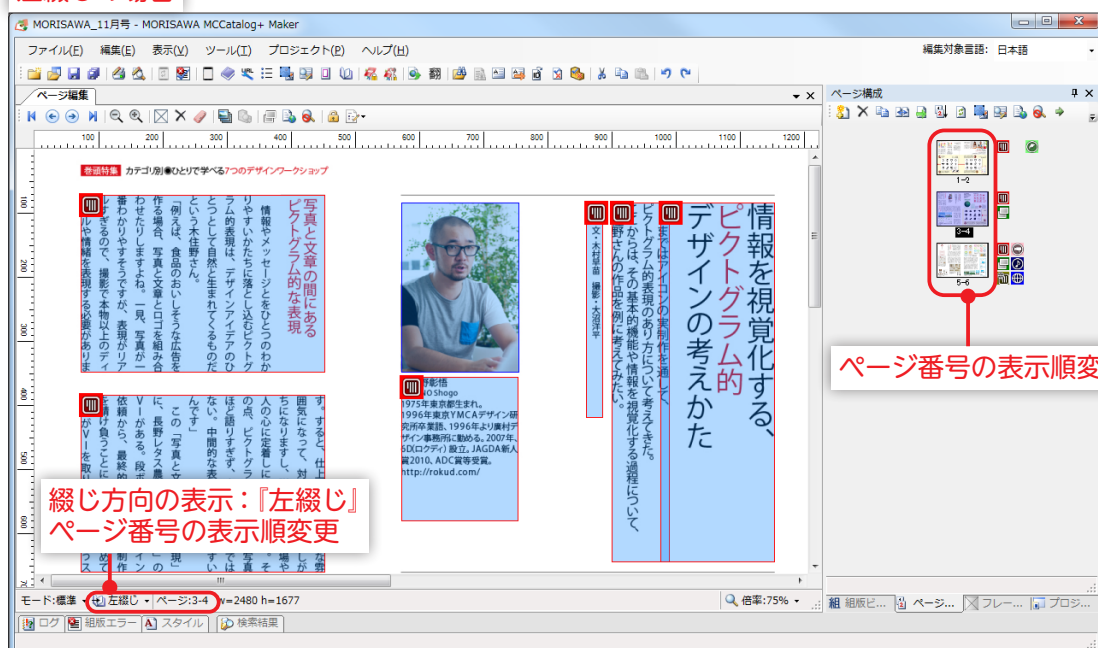


①左綴じ、右綴じ

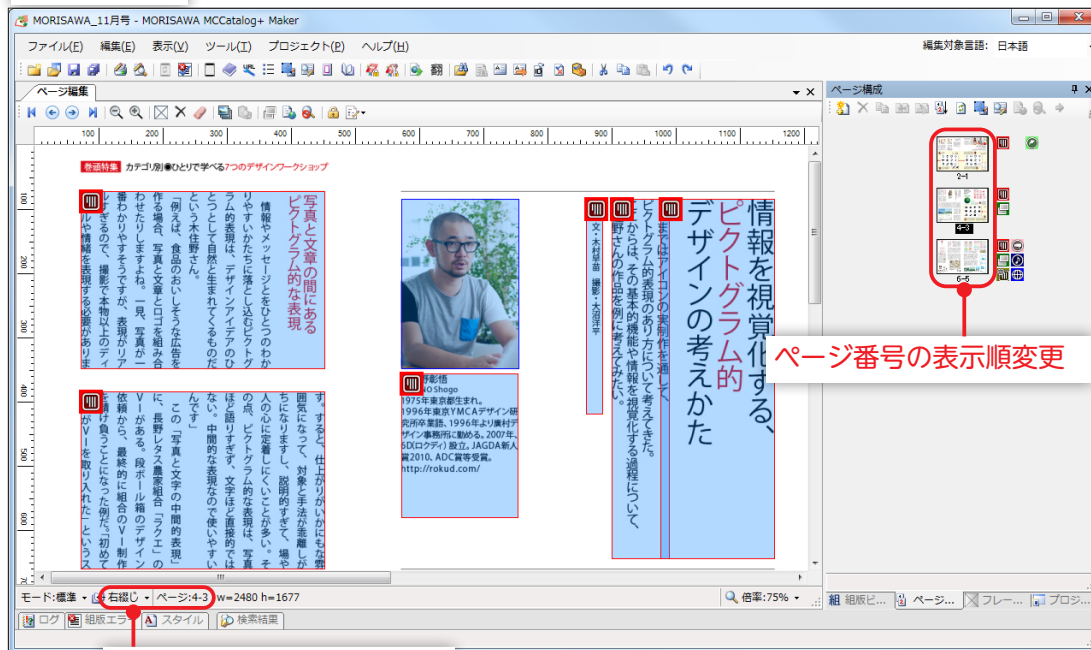
綴じ方向を『左綴じ』『右綴じ』から選択します。

- 2 [OK] をクリックします。

左綴じの場合



右綴じの場合

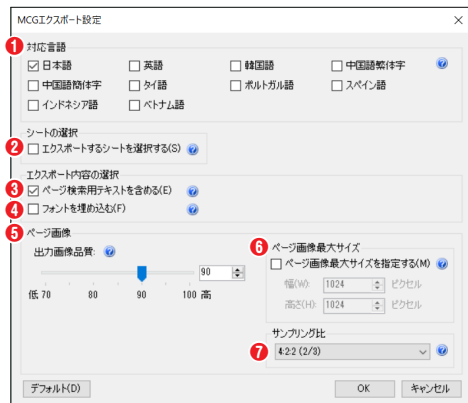


綴じ方向の表示：『右綴じ』
ページ番号の表示順変更

MCG エクスポート設定

エクスポートする MCG ファイルの設定を行います。

1  をクリックするか、『ファイル』メニューの『エクスポート設定』の『MCG エクスポート設定』を選択します。



『エクスポートシートの選択』ダイアログ



1 対応言語

MCG ファイルの対応言語情報を設定します。☑にした言語のコンテンツが MCG ファイルに含まれます。

シートの選択

2 エクスポートするシートを選択する

エクスポートする際に、シートを選択したい場合は☑にします。☑の場合、『MCG ファイルにエクスポート』する際、『エクスポートシートの選択』ダイアログが表示されます。

エクスポート内容の選択

3 ページ検索用テキストを含める

☑の場合、Catalog Pocket (MCCatalog+ 専用ビューア) でのページ検索機能で利用されるテキストのエクスポートを行います。☐の場合、Catalog Pocket でのページ検索機能は利用できません。

注意

『ページ検索用テキストを含める』が□の場合でも、ポップアップ用テキストがある場合は、検索できます。



④ フォントを埋め込む

フォントの埋め込みを行うかを指定します。□の場合、ファイルサイズは小さくなりますが、古いバージョンのビューアで正常に表示されない可能性があります。

⑤ ページ画像

画像の出力画像品質を設定します。

⑥ ページ画像最大サイズ

ページ画像の一边のサイズを 2048pixel 以下に指定する場合、『ページ画像最大サイズを指定する』を☒にします。

☒の場合、『幅』と『高さ』の最大値をピクセル数で指定します。

※最大 2048pixel まで指定可能です。※ページ画像の縦横比は維持されます。

⑦ サンプルング比

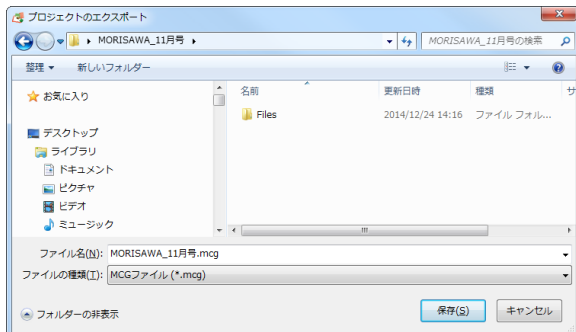
画像の色差成分の間引き率を指定します。

間引き率が低いほど画像品質は高くなりますが、サイズは大きくなります。

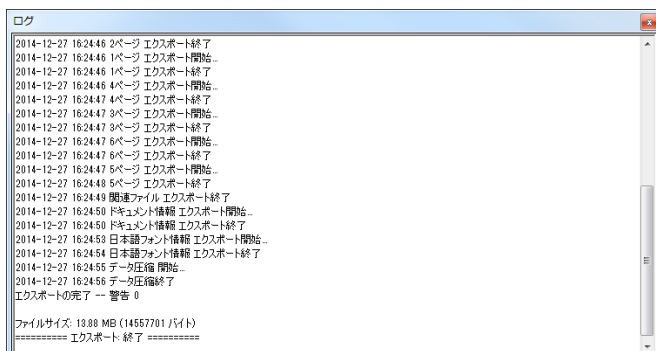
間引き率	品質	サイズ
4:4:4 (間引きなし)	高	大
4:2:2 (2/3)	中	中
4:2:0 (1/2)	低	小

MCG ファイルにエクスポート

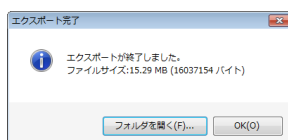
- 1  をクリックするか、『ファイル』メニューの『エクスポート』の『MCG ファイル』を選択します。
- 2 MCG ファイルの出力先とファイル名を指定して、[保存] をクリックします。



- 3 ログパネルにエクスポートの経過が表示され MCG ファイルを生成します。



- 4 終了メッセージが表示されますので [OK] をクリックします。



- 5 生成した MCG ファイル（拡張子は「.mcgs」）は、クラウド型 ASP サービス「MCCatalog+」でコンテンツを登録し配信してください。

ブラウザ版 Catalog Pocket が対応している組版コマンド

ブラウザ版 Catalog Pocket では以下の組版コマンドのみ対応しています。その他のコマンドは反映されないため、ご注意ください。

書体指定	<J f="xxx"> ~ </J>
文字サイズ	<J size="xxx%"> ~
文字色サイズ	<J color="xxx"> ~
太字指定	<J fweight="xxx">
下線	 ~
ルビ指定	<JRUBY>xxx<RT>yyy</RT></JRUBY>
行揃え	<G align="xxx" />
改行	

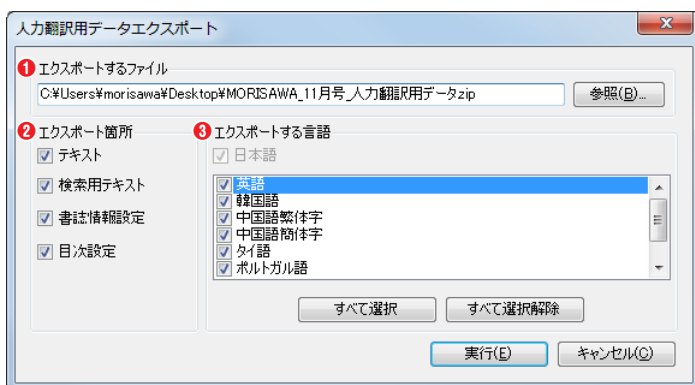
人力翻訳用データのエクスポート、インポート

多言語対応の際、翻訳が必要なテキストデータ(テキスト、検索用テキスト、書誌情報設定、目次設定)をテキストファイルとしてエクスポート、および、インポートができます。

各言語のテキストをテキストファイル上で編集できますので、他の翻訳エンジンや翻訳会社などを利用する場合にご使用ください。

人力翻訳用データのエクスポート

- 1 『ファイル』メニューの『エクスポート』の『人力翻訳用データ』を選択します。



① エクスポートするファイル

人力翻訳用データを出力するファイル名を指定します。

※ zip ファイルで出力されますので、拡張子には「zip」を指定します。

② エクスポート箇所

出力するデータを ☒ にします。

※日本語データが指定されていない項目は、☒ にできません。

③ エクスポートする言語

出力する言語を ☒ にします。

※日本語は必ず出力されます。

- 2 翻訳テキストの出力先と出力箇所、出力する言語を指定して、[実行] をクリックします。

- 3 ログパネルにエクスポートの経過が表示され、zip ファイルが出力されます。

- 4 終了メッセージが表示されますので [OK] をクリックします。

- 5 生成した zip ファイル（拡張子は「.zip」）は、解凍してご利用ください。

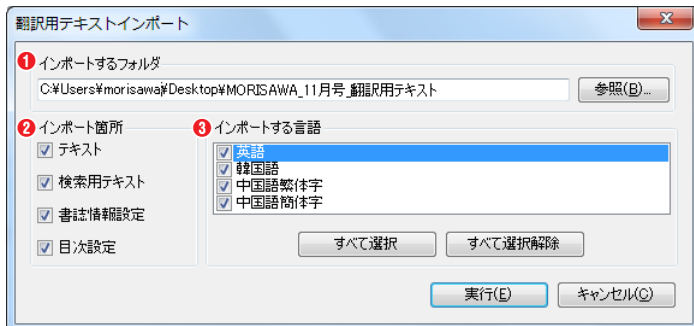
重要!

zip ファイルの内容について

zip ファイル内に含まれる各種ファイルについては、同梱されている『readme.txt』を参照してください。

人力翻訳用データのインポート

- 1 『ファイル』メニューの『インポート』の『人力翻訳用データ』を選択します。



1 インポートするフォルダ

インポートする人力翻訳用データが入っているフォルダ名を指定します。

※ zip ファイルの場合は、解凍してから指定してください。

2 インポート箇所

インポートするデータを ☒ にします。

※ インポートするフォルダにデータが含まれていない項目は、☒ にできません。

3 インポートする言語

インポートする言語を ☒ にします。

※ インポートするフォルダにデータが含まれていない言語は、☒ にしても取り込まれません。

注意

ファイル名について

インポートするフォルダ内のファイル名は、人力翻訳用データをエクスポートした時と同じ次のようなファイル名である必要があります。

テキスト_(言語名).xml

検索用テキスト_(言語名).xml

書誌情報_(言語名).xml

目次_(言語名).xml

- 2 翻訳テキストが含まれているフォルダとインポートする箇所、インポートする言語を指定して、[実行] をクリックします。

- 3 ログパネルにインポートの経過が表示され、インポート処理が実行されます。

- 4 終了メッセージが表示されますので [OK] をクリックします。

注意

人力翻訳用データをインポートすると、日本語のテキストも含めて、すべてインポートしたデータに上書きされます。

また、インポートする際、目次の数や、テキスト内に指定されているタグ (
、<!-- mrange -->) の数が、プロジェクト側とインポートするデータで合っていない場合、インポートできないことがあります。意図しない結果となる場合がありますので、人力翻訳用データをエクスポートした後、プロジェクトの目次やテキストを修正する際は、特にご注意ください。

【補足】『Catalog Pocket』が対応している表示とイベント

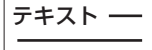
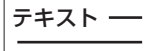
MCCatalog+ 専用ビューア『Catalog Pocket』での表示とイベントについて説明します。

『Catalog Pocket』では、MCCatalog+ Maker でテキスト表示や画像表示などのイベントが設定されたフレームをタップするとコンテンツを別ウィンドウで表示したり、外部アプリケーションで表示することができます。

iOS/Android 版ビューアの場合は、ページをフリックした時にテキスト表示、画像表示などのイベントが設定されたフレームが表示されます。

ブラウザの PC 版の場合は、 でピンク色のイベントマークの表示 / 非表示を切り替えることができます。ブラウザのスマホ版の場合は、ページをめくったとき、または、メニューの「イベント領域確認」をタップした際に水色のイベントマークが 3 回点滅して表示されます。

フレームで囲まれた中をタップまたは、クリックすると、設定されたイベントが実行されます。

	Maker 上の アイコン		iOS/Android 版ビューア		ブラウザ版ビューア
レイアウトイメージ表示			縦置き / 横置き		PC 版表示：横置きのみ スマホ版表示：縦置き / 横置き
テキストイベント (ポップアップ)			○		○ (* 1)
テキストイベント (音声読み上げ)			○		○ (* 5)
スライドショー (複数画像表示イベント)			○		○ (* 6)
動画			○ (* 2)		○ (* 3)
音声			○		○
外部リンク (表示にはインターネット 環境が必要です)			○		○
HTML (表示にインターネット環 境は必要ありません)			○	表示なし	×
電話			○ (* 4)		○
メール			○ (* 4)		○
ページジャンプ			○		○

* 1：ブラウザ版ビューアでは、ポップアップテキストは横組での表示となります。

* 2：Android 版ビューアは、誌面内再生には対応していません。

* 3：表示するブラウザによっては動画が再生できないことがあります。

* 4：利用している端末が対応している場合のみ動作します。

* 5：表示するブラウザによっては音声読み上げができない場合があります。MCCatalog+ Maker で指定した読み上げルビ (<VTML_SUB> タグ) および、音声合成の辞書設定で登録したものは、iOS/Android 版ビューアの日本語のコンテンツのみに反映されます。iOS/Android 版ビューアの日本語以外のコンテンツおよび、ブラウザ版ビューアには反映されませんのでご注意ください。

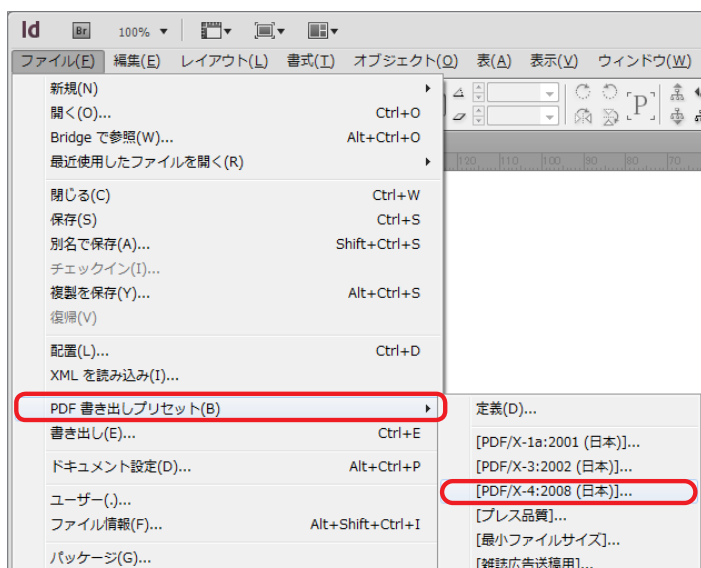
* 6：ブラウザ版ビューアでは、スライドショーはすべて画面中央にポップアップで表示されます。

【補足】PDF の書き出し設定

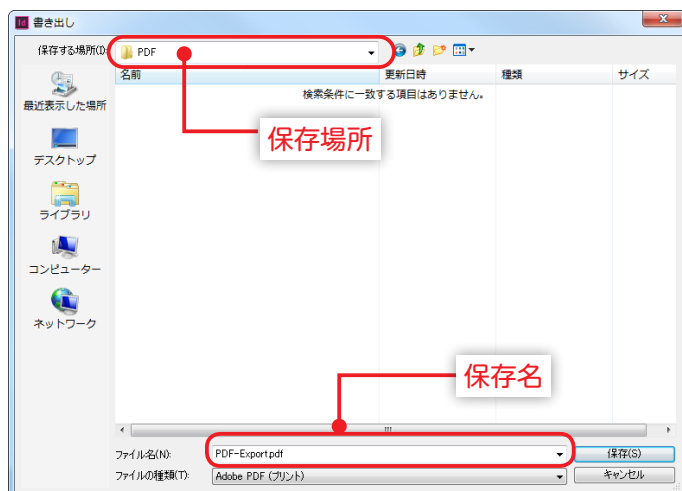
MCCatalog+ Maker を使用するパソコンに InDesign ドキュメントで利用しているフォントがインストールされていない場合、フォント環境が整ったパソコンで InDesign から PDF ファイルを書き出し、その PDF ファイルをインポートすることができます。

MCCatalog+ Maker に PDF ファイルを入力ファイルとしてインポートする場合、InDesign で以下の PDF の設定を行い、書き出ししていただくことを推奨します。

- 1 InDesign を起動し、PDF ファイルを書き出したい InDesign ドキュメントを開きます。
- 2 『ファイル』メニューの『PDF 書き出しプリセット』の『PDF/X-4:2008 (日本)』を選択します。



- 3 書き出しする PDF ファイルの保存場所と保存名を指定します。



4 『Adobe PDF を書き出し』のダイアログが表示されますので、『一般』『圧縮』『トンボと裁ち落とし』の設定を行います。

■一般

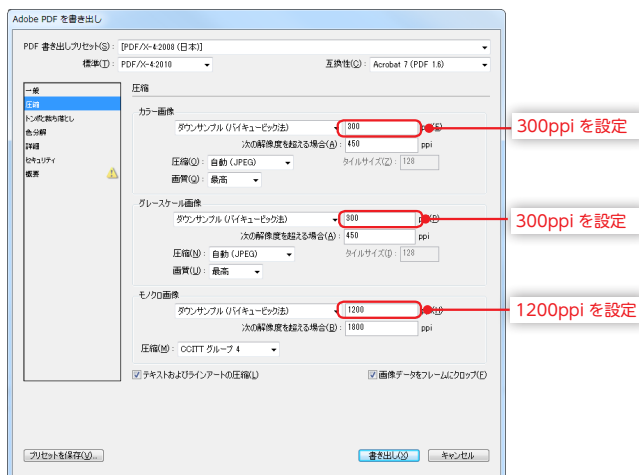
見開きページの場合は「見開き印刷」にチェックを入れて下さい。



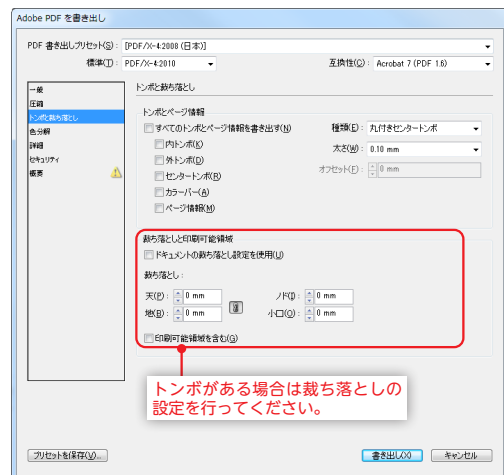
注意

- ・必ず使用されているフォントがすべて揃っている PC 環境で書き出しを行ってください。
- ・書き出す PDF にはトンボを付けしないでください。
- ・PDF の文字情報を MCCatalog+ で利用する場合は、テキストのアウトライン化を行わないでください。

■圧縮



■トンボと裁ち落とし



5 「書き出し」をクリックすると設定した内容で指定した保存場所に PDF ファイルが書き出されます。

